

第③回

大学院生生活実態調査報告書

CAMPUS LIFE

キャンパスライフ



徳島大学

The University of Tokushima

ま え が き

第3回大学院生生活実態調査報告書をお届けします。この調査は、本学大学院生の生活の実態や要望を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得る目的で、平成22年11月に、7教育部の修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程の学生全員にアンケートを実施しました。今年度は3回目を実施し、その結果が纏まりましたので報告します。

本報告書には、①基本的事項、②家族・住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤学生生活上の問題点、⑥修学状況、⑦進路選択・就職などについて、全部で80問の質問により調査された日本語と英語によるアンケート結果に加えて、その結果から得られた各教育部の現状と課題、これらをまとめた総括と提言が報告されています。各教育部のみならず、各専攻で、学生へのオリエンテーションの折りにこのデータをご活用いただけると幸いです。

大学院教育と人材育成は学部と同様に、「21世紀知識基盤社会」を招来した現在、その担い手養成機関としての質的変革期を迎えています。中央教育審議会は、「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて—」の答申の中で、「国際的に魅力ある大学院教育に向けて」、「新時代の大学院教育の展開方策」、「大学院教育の改革を推進するための計画と社会的環境の醸成」について述べています。本学もこの答申に沿って鋭意努力していますが、大学院への進学率を高めるための魅力ある取り組み、すなわち教育内容、それを支える教育体制、そして奨学金給付など学生生活支援等の創出が必要です。本報告書に見られる大学院生の意見を真摯に受け取り、大学院生が勉強しやすい教育環境づくりを推進していただければ幸いです。今後も教職員の皆さんのきめ細かな教育と学生生活支援を一体化させた大学院教育の推進をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、徳島大学学生支援センター学生生活支援室運営会議の委員の先生方および学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきましたことに対し、石村和敬委員長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた大学院生の皆さんにもこの場を借りて感謝いたします。

平成23年3月

徳島大学理事（教育担当）

和田 眞

目 次

まえがき	1
序 章 大学院生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 回答票の回収状況	5
7 図中の％表示	5
8 前期課程・後期課程	5
9 教育部（研究科）の略語表示	5
附表 「平成22年度学生生活実態調査票」（日本人学生用）	8
附表 「2010 STUDENT LIFE SURVEY」（外国人留学生用）	20
第1章 本調査の対象者について	36
1-1 出身地	36
1-2 最終学歴	37
1-3 社会人大学院生と留学生	38
第2章 家族・住居・通学について	40
2-1 家庭の年間所得	40
2-2 住居区分	41
2-3 住居費	42
2-4 配偶者や子供の有無	43
2-5 通学方法	44
2-6 通学時間	45
第3章 収入・支出について	46
3-1 1ヶ月の平均収入額	46
3-2 親等からの援助額	47
3-3 1ヶ月の平均支出額（授業料支出は除く）	48
3-4 奨学金	49
3-5 アルバイトの有無	50
3-6 アルバイト従事時間数	51
3-7 アルバイトの目的	52
3-8 アルバイト収入金額	53
3-9 アルバイトにおけるトラブル	54
第4章 健康状態について	56
4-1 睡眠時間	56
4-2 気になる症状	57
4-3 症状の内容	58

4-4	主な悩みと不安	58
4-5	相談相手	59
4-6	現在の精神状態	60
4-7	喫煙	61
4-8	飲酒	62
4-9	保健管理センターの認識	62
第5章	学生生活上の問題点について	64
5-1	迷惑行為	64
5-2	学生相談室の利用	67
5-3	犯罪被害・交通事故・違法薬物使用	68
5-4	大学事務室の対応	71
第6章	修学状況について	73
6-1	教育理念・方針と教育に対する満足度	73
6-2	本学を選んだ理由と目的	77
6-3	研究活動と研究指導	80
6-4	研究環境と所属大学院に対する満足度	86
6-5	図書館の利用状況	89
6-6	海外渡航の経験と英会話	91
6-7	日本語会話	95
6-8	学習への取り組みと本学の教育への期待	97
第7章	進路・就職について	101
7-1	博士後期課程への進学意思	101
7-2	進学希望先	102
7-3	就職希望職種	102
7-4	進路選択の要件	104
7-5	進路選択の情報入手手段	106
7-6	就職支援室の利用状況	107
7-7	就職に関する大学への要望	109
第8章	教育部（研究科）の現状と課題	112
8-1	総合科学教育部（人間・自然環境研究科）	112
8-2	医科学教育部（医学研究科）	114
8-3	口腔科学教育部（歯学研究科）	118
8-4	薬科学教育部	120
8-5	栄養生命科学教育部	123
8-6	保健科学教育部	127
8-7	先端技術科学教育部（工学研究科）	130
特記	留学生の現状と課題	133
第9章	総括と提言	136
	あとがき	138

序章 大学院生生活実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学大学院生の生活の実態や要望を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学学生支援センター学生生活支援室運営会議の次の委員が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委 員 長	石 村 和 敬	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	川 西 千 恵 美	”	教 授
委 員	田 中 栄 二	”	教 授
委 員	佐 野 茂 樹	”	教 授
委 員	田 島 俊 郎	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教 授
委 員	山 本 真 由 美	”	教 授
委 員	横 井 川 久 己 男	”	教 授
委 員	中 野 晋	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授
委 員	井 崎 ゆ み 子	保 健 管 理 セ ン タ ー	准 教 授
委 員	金 成 海	国 際 セ ン タ ー	教 授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する学生全員1,621人（平成22年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各教育部（研究科）の学務（教務）係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークカード）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成22年11月4日から11月17日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月24日までとした。

5. 調査の内容

調査項目は、大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 1,621 人のうち回答数は 959 人で、回収率は 59.2%であった。教育部（研究科）・専攻別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が 100%にならない場合がある。

8. 前期課程・後期課程

報告書中では、修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程、博士後期課程と 4 年生博士課程（医・歯）を合わせて後期課程と表現した。

9. 教育部（研究科）の略語表示

本報告書中、教育部（研究科）名を以下のとおり略語で記載する。

総合科学教育部（人間・自然環境研究科）	→	総合科学
医科学教育部（医学研究科）	→	医科学
口腔科学教育部（歯学研究科）	→	口腔科学
薬科学教育部	→	薬科学
栄養生命科学教育部	→	栄養生命科学
保健科学教育部	→	保健科学
先端技術科学教育部（工学研究科）	→	先端技術科学

〈学年別〉

課 程	学 年	全 体		回 收 率 全 体 (%)
		対象者数 (人)	回 収 数 (人)	
修士・博士前期課程	1 年	508	366	72.0
	2 年	561	361	64.3
	小 計	1,069	727	68.0
博士・博士後期課程	1 年	151	77	51.0
	2 年	131	57	43.5
	3 年	174	71	40.8
	4 年	96	27	28.1
	小 計	552	232	42.0
	合 計	1,621	959	59.2

〈男女別〉

課 程	教 育 部 (研 究 科) 名	回 収 率		
		男	女	計
修士・博士前期課程	総合科学教育部(人間・自然環境研究科)	41.2	23.3	33.0
	医科学教育部(医学研究科)	36.4	75	52.6
	薬 科 学 教 育 部	84.8	90.9	87.3
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	78.9	62.5	68.6
	保 健 科 学 教 育 部	57.1	27.8	36.0
	先端技術科学教育部(工学研究科)	73.2	63.6	72.1
	小 計	71.5	56.6	68.0
博士・博士後期課程	総 合 科 学 教 育 部	25	27.3	26.7
	医科学教育部(医学研究科)	21.3	38.1	26.3
	口腔科学教育部(歯学研究科)	47.7	63.3	54.1
	薬 科 学 教 育 部	84.6	41.7	71.1
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	77.8	56	61.8
	保 健 科 学 教 育 部	50	21.4	25.0
	先端技術科学教育部(工学研究科)	46.9	58.8	49.4
小 計	39.7	46.6	42.0	
	合 計	61.7	52.3	59.2

平成22年度 学生生活実態調査

平成22年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成22年11月1日現在、本学に在学する大学院学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

〔調査実施期間 11月4日(木)～11月17日(水)〕

回答用紙（マークカード）の提出期限は、11月24日(水)です。

所属教育部（研究科）の学務（教務）係または学務部学生生活支援課生活支援係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成22年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号をHBの黒鉛筆で塗りつぶして回答してください。
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けています。質問中、回答用紙（マークカード）の裏面に記入する必要がある場合は、質問番号とその内容を記入してください。
また、大学内における学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A. 基本的事項について

1 【全員】所属研究科・教育部はどこですか。

1. 総合科学教育部（人間・自然環境研究科）
2. 医科学教育部（医学研究科）
3. 口腔科学教育部（歯学研究科）
4. 薬科学教育部
5. 栄養生命科学教育部
6. 保健科学教育部
7. 先端技術科学教育部（工学研究科）

2 【全員】専攻はどこですか。

総合科学教育部

- [1. 地域科学専攻 2. 臨床心理学専攻 3. 人間・自然環境研究科（旧課程）]

医科学教育部（医学研究科）

- [1. 医科学専攻 2. 医学専攻 3. プロテオミクス医科学専攻]

口腔科学教育部（歯学研究科）

- [1. 口腔科学専攻（歯学専攻）]

薬科学教育部

- [1. 創薬科学専攻 2. 医療生命薬学専攻]

栄養生命科学教育部

- [1. 人間栄養科学専攻]

保健科学教育部

- [1. 保健学専攻]

先端技術科学教育部（工学研究科）

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1. 知的力学システム工学専攻 | 2. 環境創生工学専攻 | 3. システム創生工学専攻 |
| 4. 物質材料工学専攻 | 5. 機能システム工学専攻 | 6. 情報システム工学専攻 |
| 7. エコシステム工学専攻 | | |

3 【全員】何年生ですか。

1. 修士・博士前期課程 1 年生
2. 修士・博士前期課程 2 年生
3. 博士後期課程 1 年生
4. 博士後期課程 2 年生
5. 博士後期課程 3 年生
6. 博士課程 1 年生
7. 博士課程 2 年生
8. 博士課程 3 年生
9. 博士課程 4 年生

4 【全員】性別はどちらですか。

1. 男
2. 女

5 【全員】出身地はどこですか。

1. 徳島県
2. 四国（徳島県以外）
3. 九州
4. 中国
5. 近畿
6. 中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
7. 関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
8. 東北
9. 北海道

6 【全員】 現在所属している教育部・研究科に進学する前の最終学歴はどこですか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 徳島大学 | 2. 徳島大学以外の国内の大学 |
| 3. 高等専門学校の特攻科 | 4. 外国の大学 |
| 5. 徳島大学大学院修士・博士前期課程 | 6. 徳島大学大学院以外の国内の大学院 |
| 7. 外国の大学院 | |

7 【全員】 社会人または留学生ですか。

1. 社会人大学院生
2. 留学生
3. どちらでもない

B. 家族・住居・通学について

8 【全員】 あなたの家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 250万円未満 | 2. 250～500万円未満 |
| 3. 500～750万円未満 | 4. 750～1,000万円未満 |
| 5. 1,000～1,500万円未満 | 6. 1,500万円以上 |

9 【全員】 あなたの住居区分はどれですか。

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 自宅（家族と同居） | 2. アパート・マンション（家族と別居） |
| 3. 国際交流会館 | 4. 間借り |
| 5. 親戚・知人宅 | 6. その他 |

10 【国際交流会館入居者を除く自宅外通学者】 1か月の家賃（電気代、ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3万円～4万円未満 |
| 3. 4万円～5万円未満 | 4. 5万円～6万円未満 |
| 5. 6万円～7万円未満 | 6. 7万円～8万円未満 |
| 7. 8万円～9万円未満 | 8. 9万円～10万円未満 |
| 9. 10万円以上 | |

11 【全員】 あなたには現在、生計を共にしている配偶者・子供がいますか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 配偶者なし、子供なし | 2. 配偶者なし、子供あり |
| 3. 配偶者あり、子供なし | 4. 配偶者あり、子供あり |

12 【問11で「2」「4」を選んだ方】 授業や研究をしているとき、子供の世話は誰がみていますか。（複数回答可）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親や親戚 |
| 3. 保育施設にあずける | 4. 小学校等の学校に通っている |
| 5. その他 | |

（注：要望事項があれば、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号12とともに書いてください）

13 【全員】 あなたの主な通学方法は何ですか。

- | | | |
|--------|----------|--------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 | 3. バイク（原付自転車・自動二輪） |
| 4. 自動車 | 5. バス・JR | |

14 【全員】 通学時間はどれですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 15分未満 | 2. 15分～30分未満 |
| 3. 30分～1時間未満 | 4. 1時間～2時間未満 |
| 5. 2時間以上 | |

C. 収入・支出について

15 【全員】 あなたの1か月の平均収入額（親等からの援助を除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15～20万円未満 |
| 7. 20～25万円未満 | 8. 25～30万円未満 |
| 9. 30万円以上 | |

16 【全員】 親等からの援助はいくらありますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 全くない | 2. 3万円未満 |
| 3. 3～5万円未満 | 4. 5～7万円未満 |
| 5. 7～10万円未満 | 6. 10～15万円未満 |
| 7. 15～20万円未満 | 8. 20万円以上 |

17 【全員】 あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15～20万円未満 |
| 7. 20～25万円未満 | 8. 25～30万円未満 |
| 9. 30万円以上 | |

18 【全員】 奨学金を受けることを希望しますか。

1. 現在受給中であるが、更に希望する
2. 現在受給していないが、希望する
3. 現在受給していないし、希望もしない

19 【全員】 現在、アルバイトをしていますか。

1. はい
2. いいえ

20 【問19で「1」を選んだ方】①1週間の従事時間は平均何時間ですか。
(移動に要する時間も含む)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 5時間未満 | 2. 5～10時間未満 |
| 3. 10～15時間未満 | 4. 15～20時間未満 |
| 5. 20～25時間未満 | 6. 25時間以上 |

21 【問19で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 生活費や学費のため | 2. 学会参加のため |
| 3. レジャー・旅行費のため | 4. 日常の娯楽・嗜好品等購入のため |
| 5. 高額商品(パソコン、バイク、自動車等)購入のため | |
| 6. 社会体験のため | 7. その他 |

22 【問 19 で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15万円以上 |

23 【問 19 で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。（複数回答可）

- | | | |
|---|-----------|----------------|
| 1. ない | 2. 給料の不払い | 3. 給料が契約より低かった |
| 4. 客とのトラブル | 5. 解雇 | 6. 雇用者との意見の不一致 |
| 7. 事故・ケガ | | |
| 8. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 23 とその内容を書いてください） | | |

D. 健康状態について

24 【全員】1日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。（休日を除く）

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 4時間未満 | 2. 4～6時間未満 |
| 3. 6～8時間未満 | 4. 8～10時間未満 |
| 5. 10時間以上 | |

25 【全員】現在気になる症状はありますか。

1. ない
2. 時々ある
3. 常にある

26 【問 25 で「3」を選んだ方】気になる症状は何ですか。（複数回答可）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 頭痛 | 2. 腹痛・嘔気 |
| 3. めまい・立ちくらみ | 4. 動悸・不整脈 |
| 5. 下痢・便秘 | 6. 咳・痰 |
| 7. 生理痛・生理不順 | 8. その他 |

27 【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。（複数回答可）

- | | |
|------------|------------|
| 1. ない | 2. 経済状態 |
| 3. 勉強 | 4. 交友・異性関係 |
| 5. 身体的不調 | 6. 家族関係 |
| 7. 自分の性格 | 8. 就職や進路 |
| 9. 生き甲斐や目標 | 10. その他 |

28 【全員】悩み事は誰に相談しますか。（複数回答可）

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 友人 | 2. 家族 |
| 3. 教員 | 4. 学生相談室 |
| 5. 保健管理センター | 6. 学務（教務）係 |
| 7. 1～6以外の人 | 8. 誰にもしない |

29 【全員】現在の精神状態はどうですか。

- | | |
|------------|------------|
| 1. 充実している | 2. 気分は普通 |
| 3. いろいろする | 4. なんとなく不安 |
| 5. 落ち込みやすい | 6. やる気がでない |
| 7. その他 | |

30 【全員】喫煙しますか。

1. 喫煙したことはない
2. ときどき喫煙している
3. 毎日喫煙している
4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない
5. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 30 とその内容を書いてください）

31 【全員】飲酒をしますか。

1. 飲酒はしない
2. たまに飲酒する
3. 1週間に1～2日飲酒している
4. 1週間に3～4日飲酒している
5. 1週間に5日以上飲酒している

32 【全員】保健管理センターを利用したことがありますか。（複数回答可）

1. 健康診断のために行ったことがある
2. 健康診断以外（診療，相談，健康機器の利用，証明書作成など）で利用したことがある
3. 保健管理センターがあることを知らなかった
4. 保健管理センターは知っているが、行ったことがない

E. 学生生活上の問題点

33 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、迷惑行為を受けたことがありますか。（複数回答可）

1. 受けたことはない
2. 悪徳商法に引っかかった
3. いたずら電話を受けた
4. ストーカーにあった
5. 大学内でセクハラを受けた
6. 大学内でアカハラを受けた
7. 飲酒を強要された
8. インターネットによる誹謗・中傷を受けた
9. カルトのような集団への勧誘を受けた
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 33 とその内容を書いてください）

セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）とは
相手を不快にさせる性的な言動を行い、それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり、精神的な苦痛などを与えること

アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは
大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

34 【問 33 で「5」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

35 【問 33 で「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

36 【全員】 学生相談室を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことがない
3. 学生相談室を知らない

37 【問 36 で「1」を選んだ方】 学生相談室を利用して対応はどうでしたか。

1. 満足である
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 37 とその理由を書いてください)

38 【全員】 あなたは、現在所属の大学院入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。（複数回答可）

1. 被害に遭ったことがない
2. 盗難（盗み）に遭ったことがある
3. 強盗に遭ったことがある
4. 傷害に遭ったことがある
5. 痴漢に遭ったことがある
6. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 38 とその内容を書いてください）

39 【全員】 あなたは、交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。

1. 被害者・加害者の両方になったことがある
2. 被害者になったことがある
3. 加害者になったことがある
4. 被害者・加害者両方ともなかったことがない

40 【全員】 大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。

1. ある
2. ない

41 【全員】 大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 41 とその理由を書いてください)

F. 修学状況

42 【全員】 所属する教育部・研究科の教育理念や教育方針を知っていますか。

1. 良く知っている
2. だいたい知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

43 【問 42 で「1」「2」を選んだ方】 上記の教育部・研究科の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1. 思う
2. 思わない

44 【全員】 あなたは学位の授与（修了）に至るまでの教育課程について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 44 とその理由を書いてください)

45 【徳島大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 現在所属する大学院が第一志望だった
2. 現在所属する大学院は第二志望だった
3. 現在所属する大学院は第三志望だった
4. その他

46 【他大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 現在所属する大学院が第一志望だった
2. 現在所属する大学院は第二志望だった
3. 現在所属する大学院は第三志望だった
4. その他

47 【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. 出身大学だから
2. 希望する研究分野があるから
3. 指導教員に勧められたから
4. 地元の大学だから
5. 就職等将来を考慮して
6. 国立大学だから
7. 希望する就職先がなかったから
8. 継続して修学するため
9. 先輩や友人に勧められて
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号47とその内容を書いてください)

48 【全員】大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか。

1. 高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人
2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者
3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員
4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
5. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号48とその内容を書いてください)

49 【全員】あなたは、あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号49とその理由を書いてください)

50 【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。

1. 30分未満
2. 30分～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10～20時間未満
6. 20～40時間未満
7. 40～60時間未満
8. 60時間以上

51 【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。

1. 教授
2. 准教授
3. 講師
4. 助教
5. その他

52 【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。

1. 30分未満
2. 30～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10時間以上

53 【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号53とその理由を書いてください)

54 【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 54 とその理由を書いてください)

55 【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。

1. 充分とれている
2. ある程度とれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない

56 【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。

1. 充分に行われている
2. ある程度行われている
3. あまり行われていない
4. 全く行われていない

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 56 とその理由を書いてください)

57 【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

58 【問 57 で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。(複数回答可)

1. 施設・設備
2. 研究費用
3. 研究時間
4. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 58 とその内容を書いてください)

59 【全員】あなたは所属している教育部（研究科）・専攻に全体として満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 59 とその理由を書いてください)

60 【全員】図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。

1. ほぼ毎日利用している
2. 1週間に2～3回くらい利用する
3. 1週間に1回程度利用する
4. 2週間に1回程度利用する
5. 1か月に1回程度利用する
6. 半年に1回程度利用する
7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

61 【全員】図書館ウェブサイトによる文献検索（SciFinder など）をどのくらいの頻度で利用しますか。

1. ほぼ毎日利用している
2. 1週間に2～3回くらい利用する
3. 1週間に1回程度利用する
4. 2週間に1回程度利用する
5. 1か月に1回程度利用する
6. 半年に1回程度利用する
7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

62 【全員】図書館ウェブサイトに対する満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号62とその理由を書いてください)

63 【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。

1. よく学習している
2. かなりしている
3. あまりしていない
4. 全然していない

64 【全員】入学後、海外渡航をしたことがありますか。

1. ない
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. 4回以上

65 【問64で「1」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。(複数回答可)

1. 留学
2. 語学研修
3. 学会参加
4. 学術調査
5. 社会活動
6. 観光
7. 一時帰国
8. その他

66 【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。

1. 海外の国際学会で口頭発表したことがある
2. 海外の国際学会でポスター発表したことがある
3. 国内の国際学会で口頭発表したことがある
4. 国内の国際学会でポスター発表したことがある
5. 国際学会で研究発表をしたことはない

67 【日本人の方】英語の会話はどの程度できますか。

1. 専門用語を使った会話ができる
2. 日常会話ができる
3. なんとか日常会話ができる
4. あまりできない
5. できない

68 【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。(複数回答可)

1. 英会話等の学校に通っている
2. ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
3. TOEIC TOEFL 等を受験する
4. 外国語の新聞、雑誌を購読している
5. 外国のラジオ、テレビを視聴している
6. つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
7. 何もしていない

69 【留学生の方】日本語の会話はどの程度できますか。

1. 専門用語を使った会話ができる
2. 日常会話ができる
3. なんとか日常会話ができる
4. あまりできない
5. できない

70 【留学生の方】 徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。

1. 受講している
2. 以前受講したことがある
3. 今後受講する予定である
4. 受講の予定はない

71 【問 70 で「1」「2」を選んだ方】 日本語コースの満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 71 とその理由を書いてください)

72 【全員】 あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか。(複数回答可)

1. 統合的な学習課題を体系的に履修するコース
2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ
4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究
6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上
7. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 7 2 とその内容を書いてください)
8. 特になし

73 【全員】 本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。

1. 非常に積極的であると思う
2. どちらかといえば積極的であると思う
3. どちらかといえば積極的とは思わない
4. 積極的とは思わない

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 73 とその理由を書いてください)

G. 進路選択・就職について

74 【修士・博士前期課程の方】 博士(後期)課程への進学を考えていますか。

1. 進学したい(進学予定者を含む)
2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3. 未定
4. 進学しない

75 【問 74 で「1」「2」を選んだ方】 それは本学ですか、他大学ですか。

1. 本学
2. 他大学
3. 未定

76 【問 74 で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】 希望職種は何ですか。

(複数回答可)

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 事務職
5. 企業等の研究職
6. 教育職
7. マスコミ関係
8. 専門職(医師等)
9. 既に就職している
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 76 とその内容を書いてください)

77 【全員】進路選択で重視するものは何ですか。(3個以内で回答)

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 先端技術を駆使しているところ
7. 経営方針
8. 企業規模
9. 転勤・異動の有無
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号77とその内容を書いてください)

78 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。(複数回答可)

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. 先輩・知人
4. 直接会社に照会
5. 就職情報誌・新聞・マスコミ
6. 家族等
7. 大学内資料
8. Web・インターネット
9. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号78とその内容を書いてください)

79 【全員】本学の就職支援室を利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

80 【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。(複数回答可)

1. 就職情報誌など就職関係書籍の充実
2. 面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
3. 公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4. 企業説明会の内容充実
5. 就職支援室の一層の強化
6. 求人企業の開拓
7. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号80とその内容を書いてください)

〔 その他ご意見・ご要望等があれば回答用紙の裏面の自由記入欄に「意見・要望等」と記し具体的に
記載してください 〕

ご協力ありがとうございました

2010 STUDENT LIFE SURVEY

November 2010

The University of Tokushima

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in UT. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.

This is an anonymous survey administered to all students enrolled at The University of Tokushima as of November 1, 2010. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.

It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: November 4 - 17]

Answer sheets (computer-scored answer sheets) must be submitted no later than November 24 (Wed.) at the School Affairs Section (Educational Affairs Section) of the graduate school you belong to.

NOTES

1. Please answer questions as of November 1, 2010.
2. Optical answer sheet (computer-scored answer sheet) is used for this survey. Please choose one answer for each question and fill out the numbered blanks using HB pencils.
Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. For the questions that require written answers, use the back of the answer sheet with the number of the question and the specifics.
You may also write comments or requests regarding school life on the back of the answer sheet (if any).

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

A. BASIC INFORMATION

1. 【Subject: ALL】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Integrated Arts and Sciences (Graduate School of Human and Natural Environment Sciences)
2. Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)
3. Graduate School of Oral Sciences (Graduate School of Dentistry)
4. Graduate School of Pharmaceutical Sciences
5. Graduate School of Nutrition and Bioscience
6. Graduate School of Health Sciences
7. Graduate School of Advanced Technology and Science (Graduate School of Engineering)

2. 【Subject: ALL】

What do you major in?

Graduate School of Integrated Arts and Sciences

1. Regional Sciences
2. Clinical Psychology
3. Human and Natural Environment Sciences

Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)

1. Medical Science
2. Medicine
3. Proteomics Medical Sciences

Graduate School of Oral Sciences (Graduate School of Dentistry)

1. Oral Science

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

1. Pharmaceutical Chemistry
2. Pharmaceutical Life Sciences

Graduate School of Nutrition and Bioscience

1. Human Nutrition

Graduate School of Health Sciences

1. Health Sciences

Graduate School of Advanced Technology and Science (Graduate School of Engineering)

1. Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering
2. Earth and Life Environmental Engineering
3. Systems Innovation Engineering
4. Materials Science and Technology
5. Functional Systems Engineering
6. Information System Engineering
7. Ecosystem Engineering

3. 【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

4. 【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male
2. Female

5. 【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country on the back of your answer sheet)

6. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. The University of Tokushima
2. University in Japan other than The University of Tokushima
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of The University of Tokushima
6. Graduate School in Japan other than The University of Tokushima
7. Graduate School abroad

7. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus
2. Foreign student
3. Neither

B. FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

8. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. Less than ¥2,500,000 | 2. ¥2,500,000 – 4,999,999 |
| 3. ¥5,000,000 – 7,499,999 | 4. ¥7,500,000 – 9,999,999 |
| 5. ¥10,000,000 – 14,999,999 | 6. More than ¥15,000,000 |

9. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. International House of The University of Tokushima
4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance
6. Others

10. 【Subject: All excluding International House residents】

How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities)?

- | | | |
|----------------------|---------------------|-----------------------|
| 1. Less than ¥30,000 | 2. ¥30,000 – 39,999 | 3. ¥40,000 – 49,999 |
| 4. ¥50,000 – 59,999 | 5. ¥60,000 – 69,999 | 6. ¥70,000 – 79,999 |
| 7. 80,000 – 89,999 | 8. ¥90,000 – 99,999 | 9. More than ¥100,000 |

11. 【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child(ren) living with you?

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. No spouse or child | 2. No spouse, but have child(ren) |
| 3. Have a spouse, but no child | 4. Have a spouse and child(ren) |

12. 【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q11】

Who takes care of your child(ren) while you are attending a class or doing research? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---------------------|---|
| 1. Spouse | 2. Your or spouse's parent(s)/relative(s) |
| 3. Daycare facility | 4. School (elementary school, etc.) |
| 5. Others | |

(Note: If you have any requests for the University, use the back of the answer sheet to write the number of this question (12) and the specifics.)

13. 【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

- | | | |
|---------------|---------------|---|
| 1. By walking | 2. By bicycle | 3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle) |
| 4. By car | 5. By bus/JR | |

14. 【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

1. Less than 15 minutes 2. 15 – less than 30 minutes 3. 30 minutes – less than 1 hour
4. 1 – less than 2 hours 5. More than 2 hours

C. INCOME / EXPENDITURE

15. 【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000 – 49,999 3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999 5. ¥100,000 – 149,999 6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999 8. ¥250,000 – 299,999 9. More than ¥300,000

16. 【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None 2. Less than ¥30,000 3. ¥30,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 69,999 5. ¥70,000 – 99,999 6. ¥100,000 – 149,999
7. ¥150,000 – 199,999 8. More than ¥200,000

17. 【Subject: ALL】

How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000 – 49,999 3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999 5. ¥100,000 – 149,999 6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999 8. ¥250,000 – 299,999 9. More than ¥300,000

18. 【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

19. 【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

1. Yes 2. No

20. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time)?

1. Less than 5 hours 2. 5 – less than 10 hours 3. 10 – less than 15 hours
4. 15 – less than 20 hours 5. 20 – less than 25 hours 6. More than 25 hours

21. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions
2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel
4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences
7. Others

22. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. More than ¥150,000

23. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

1. No
2. Unpaid salary
3. Paid less than agreed in contract
4. Trouble with customer(s)
5. Termination of employment
6. Disagreement with employer
7. Accident/injury
8. Others (use the back of the answer sheet to write the number of this question (23) and the specifics)

D. HEALTH CONDITIONS

24. 【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays)?

1. Less than 4 hours
2. 4 – less than 6 hours
3. 6 – less than 8 hours
4. 8 – less than 10 hours
5. More than 10 hours

25. 【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

1. Yes
2. Sometimes
3. Constantly

26. 【Subject: Those who chose (3) for Q25】

What is/are the symptom(s)? (Multiple answers allowed)

1. Headache
2. Stomachache/ nausea
3. Dizziness/ light headedness
4. Palpitation/irregular heartbeat
5. Diarrhea/ constipation
6. Coughs/sputum
7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities
8. Others

27. **【Subject: ALL】**

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern(s)?

(Multiple answers allowed)

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 1. No | 2. Financial concerns | 3. Research and Study |
| 4. Friends/relationships | 5. Poor physical condition | 6. Family relation |
| 7. Own personality | 8. Future career | 9. Motivation or purpose in life |
| 10. Others | | |

28. **【Subject: ALL】**

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. Friend(s) | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. School counselor |
| 5. Health Service Center | 6. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty |
| 7. Those other than 1 – 6 | 8. Nobody |

29. **【Subject: ALL】**

What is your current emotional state?

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------|---------------|
| 1. Fulfilled | 2. Normal | 3. Irritated |
| 4. Anxious for no apparent reason | 5. Easily depressed | 6. Low energy |
| 7. Others | | |

30. **【Subject: ALL】**

Do you smoke?

- | | | | |
|--|--------------|-------------|---------------------------------------|
| 1. Never | 2. Sometimes | 3. Everyday | 4. Smoked in the past but not anymore |
| 5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (30) and the specifics.) | | | |

31. **【Subject: ALL】**

Do you drink alcoholic beverages?

- | | | |
|-----------------------|-----------------------------|-----------------------|
| 1. No | 2. Sometimes | 3. 1 – 2 times a week |
| 4. 3 – 4 times a week | 5. More than 5 times a week | |

32. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited the Health Service Center? (Multiple answers allowed)

1. Yes, I have visited there for health check-ups
2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

E. ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

33. **【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school?
(Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
3. Yes, I have received an obscene phone call.
4. Yes, I have been a stalking victim.
5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
8. Yes, I have been defamed on the internet.
9. Cult-like group recruitment
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (33) and the specifics.)

SEXUAL HARASSMENT:

It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.

ACADEMIC HARASSMENT:

It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.

34. **【Subject: Those who chose (5) for Q33】**

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------|
| 1. Friend | 2. Family | 3. Teacher/professor |
| 4. School counselor | 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | |
| 6. Those other than 1 – 5 | 7. Nobody | |

35. **【Subject: Those who chose (6) for Q33】**

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------|
| 1. Friend | 2. Family | 3. Teacher/professor |
| 4. School counselor | 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | |
| 6. Those other than 1 – 5 | 7. Nobody | |

36. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited School Counseling Room?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

37. **【Subject: Those who chose (1) for Q36】**

How was the service at the School Counseling Room?

1. Excellent 2. Satisfactory 3. Slightly unsatisfying 4. Unsatisfying

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (37) and the specific reasons.)

38. **【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes. I have been a victim of theft.
3. Yes. I have been a victim of burglary.
4. Yes. I have been a victim of assault.
5. Yes. I have been a victim of sexual molestation.
6. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (38) and the specifics.)

39. **【Subject: All】**

Have you ever been a victim or a cause of a road accident?

1. I have been both a victim and a cause. 2. I have been a victim.
3. I have been a cause. 4. I have never been either a victim or a cause.

40. **【Subject: ALL】**

Have you ever used any illegal drug(s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes 2. No

41. **【Subject: ALL】**

How would you rate the service of the administration office of The University of Tokushima?

1. Excellent 2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory 4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (41) and the specific reasons.)

F. EDUCATION ENVIRONMENT

42. **【Subject: ALL】**

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1. Very familiar 2. Moderately familiar
3. Slightly unfamiliar 4. Unfamiliar

43. **【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q42】**

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1. Yes 2. No

44. **【Subject: ALL】**

How would you rate the curriculums of your graduate school?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (44) and the specific reasons.)

45. **【Subject: Graduates of The University of Tokushima】**

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

46. **【Subject: Graduates of universities other than The University of Tokushima】**

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

47. **【Subject: ALL】**

What is (are) the reason(s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed)

Because:

1. I am a graduate of The University of Tokushima.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it is a national university.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (47) and the specifics.)

48. **【Subject: ALL】**

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (48) and the specifics.)

49. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (49) and the specific reasons.)

50. **【Subject: ALL】**

What is the average amount of hours spent for self research per week?

1. Less than 30 minutes
2. 30 — less than 90 minutes
3. 90 minutes — less than 5 hours
4. 5 — less than 10 hours
5. 10 — less than 20 hours
6. 20 — less than 40 hours
7. 40 — less than 60 hours
8. More than 60 hours

51. **【Subject: ALL】**

Who provides guidance to you throughout your research?

1. Professor
2. Associate Professor
3. Lecturer
4. Assistant Professor
5. Others

52. **【Subject: ALL】**

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 51?

1. Less than 30 minutes per week
2. 30 — less than 90 minutes per week
3. 90 minutes — less than 5 hours per week
4. 5 — less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

53. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (53) and the specific reasons.)

54. **【Subject: ALL】**

Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (54) and the specific reasons.)

55. **【Subject: ALL】**

How is the communication between you and your instructor?

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 2. Slightly unsatisfactory | 4. Unsatisfactory |

56. **【Subject: ALL】**

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. Highly appropriate | 2. Moderately appropriate |
| 3. Minimally appropriate | 4. Not appropriate |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (56) and the specific reasons.)

57. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the research environment?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

58. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q57】**

What is (are) the reason(s)? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|-----------------------|---------------------|------------------|
| 1. Facility/equipment | 2. Research funding | 3. Research time |
|-----------------------|---------------------|------------------|

4. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (58) and the specific reasons.)

59. **【Subject: ALL】**

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (59) and the specific reasons.)

60. **【Subject: ALL】**

How often do you visit the library?

- | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------|
| 1. Almost everyday | 2. 2 – 3 times a week | 3. Once a week |
| 4. Once in two weeks | 5. Once a month | 6. Once in six month |
| 7. Once a year or less | | |

61. 【Subject: ALL】

How often do you use the bibliographic search systems (SciFinder, etc.) of the library website?

1. Almost everyday
2. 2 – 3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six month
7. Once a year or less

62. 【Subject: ALL】

How would you rate your satisfaction with the library?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (62) and the specific reasons.)

63. 【Subject: ALL】

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

1. Very high
2. High
3. Low
4. No effort

64. 【Subject: ALL】

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

1. No
2. Once
3. Twice
4. Three times
5. More than four times

65. 【Those who chose (2), (3), (4), or (5) for Q64】

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

1. To study
2. To learn language
3. To attend academic conference
4. For academic research
5. For social activities
6. Sightseeing
7. Returning home temporarily
8. Others

66. 【Subject: JAPANESE students】

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

67. 【Subject: JAPANESE students】

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

68. 【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

69. 【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

70. 【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by The University of Tokushima?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

71. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q70】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of The University of Tokushima?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively Satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (71) and the specific reasons.)

72. 【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of The University of Tokushima?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (72) and the specifics.)
8. No particular expectations

73. **【Subject: ALL】**

How would you rate the efforts of The University of Tokushima in responding to the trend of internationalization?

1. Very high
2. Relatively high
3. Relatively low
4. Very low

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (73) and the specific reasons.)

G. FUTURE CAREER

74. **【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course】**

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. Not decided yet.
4. No.

75. **【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q74】**

Where are you planning to receive the education?

1. The University of Tokushima
2. Other university
3. Not decided yet.

76. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q74 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/ second program of the Doctoral Course】**

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than answer (1)
3. Technical career
4. Administrative career
5. Corporate researcher
6. Educator
7. Media
8. Professional career (medical practitioner, etc.)
9. Currently employed
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (76) and the specifics.)

77. 【Subject: ALL】

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income
2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation
4. That I can demonstrate my full potential and skills
5. Geographic condition
6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Managerial policies
8. Business size
9. Possibility of transfer or relocation
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (77) and the specifics.)

78. 【Subject: ALL】

What is (are) the method(s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational counselor
3. Older students/friends
4. Direct inquiry to the companies/schools
5. Job information magazine/newspapers/media
6. Family
7. Information available at the university
8. Web/Internet
9. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (78) and the specifics.)

79. 【Subject: ALL】

Have you ever used the Career Support Room (*shushoku shien-shitsu*) of The University of Tokushima?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

80. 【Subject: ALL】

Do you have any requests for The University of Tokushima regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Further strengthening of the Career Support Room (*shushoku shien-shitsu*)
6. Identifying companies with job openings
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (80) and the specifics.)

[If you have any other comment or request, use the back of the answer sheet to write "COMMENTS/REQUESTS" and the specifics.]

Thank you for your cooperation.

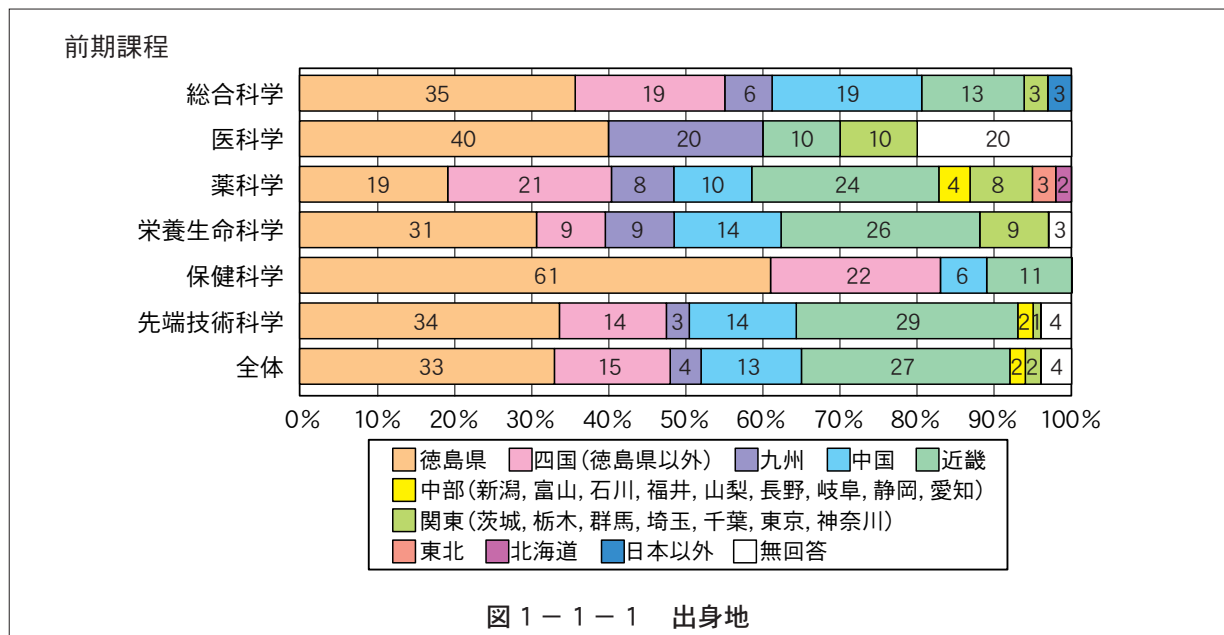
第1章 本調査の対象者について

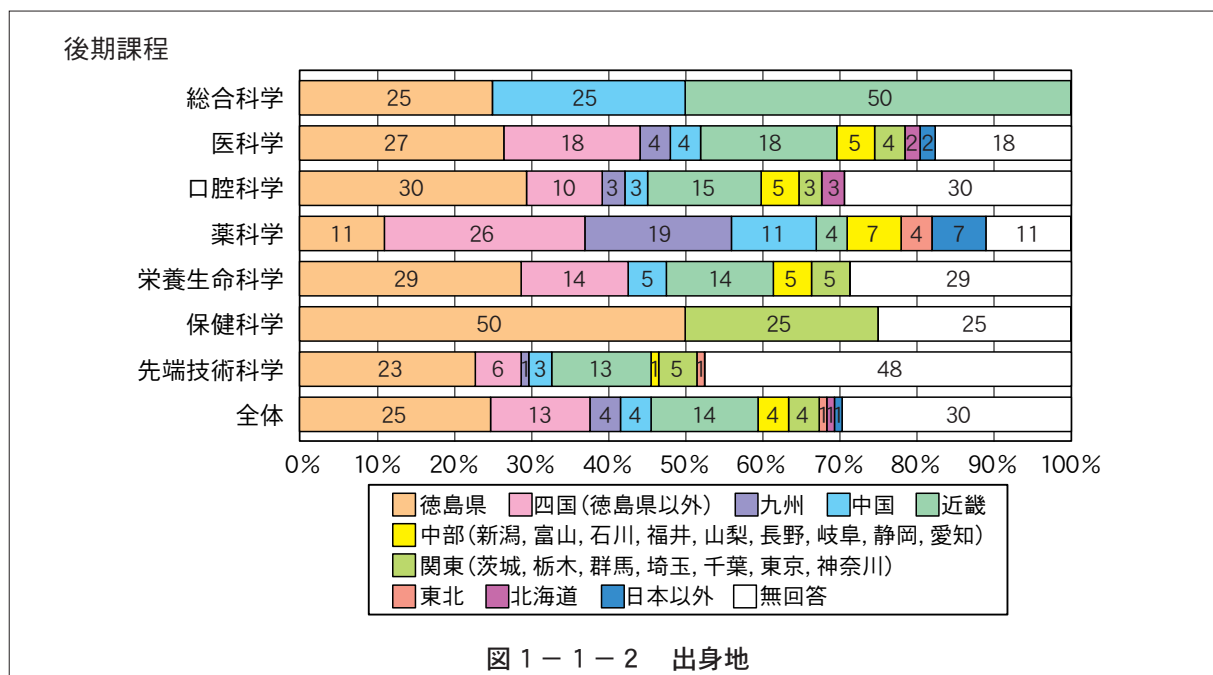
本調査は、本学大学院の総合科学，医科学，薬科学，栄養生命科学，保健科学，先端技術科学の6教育部の前期課程に在籍する1,069名，および後期課程に在籍する552名の計1,621名を対象とした。募集を停止した課程として，修士課程には人間・自然環境研究科および工学研究科が，後期課程には医学研究科，歯学研究科，工学研究科があり，これらに在籍する学生も調査の対象としたが，集計は対応する教育部に含めた。

回答数は，前期課程で727，後期課程で232，計959を得た。回収率は前期課程が68%，後期課程が42%，全体では59%であった。教育部ごとの回収率は，前期課程で33%から87%と差が大きく，回収率の低い教育部については調査結果の解釈には注意が必要だと思われる。

1-1 出身地 (図1-1-1, 図1-1-2)

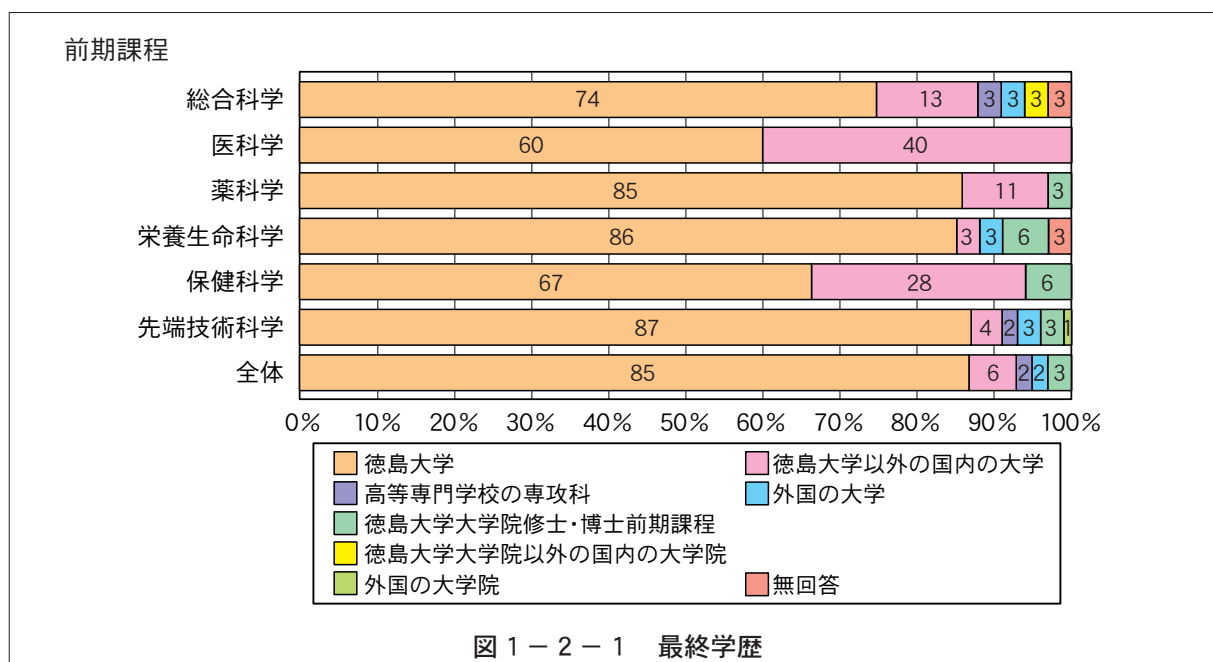
回答者の出身地を見る。回答者の出身地は，前期課程では徳島県(33%)，近畿(27%)，徳島県以外の四国(15%)と地元および近県出身者の割合が高い。日本以外の出身者は少ない。前平成20年の調査より，徳島県出身者の割合は微減，近畿および四国出身者の割合はほぼ前回と同様であった。教育部別には医科学，栄養生命科学，保健科学の各教育部で徳島県出身者の割合が増加している。後期課程では，前回に比べて出身地構成に大きな変化は見られないが，無回答の割合が増している。

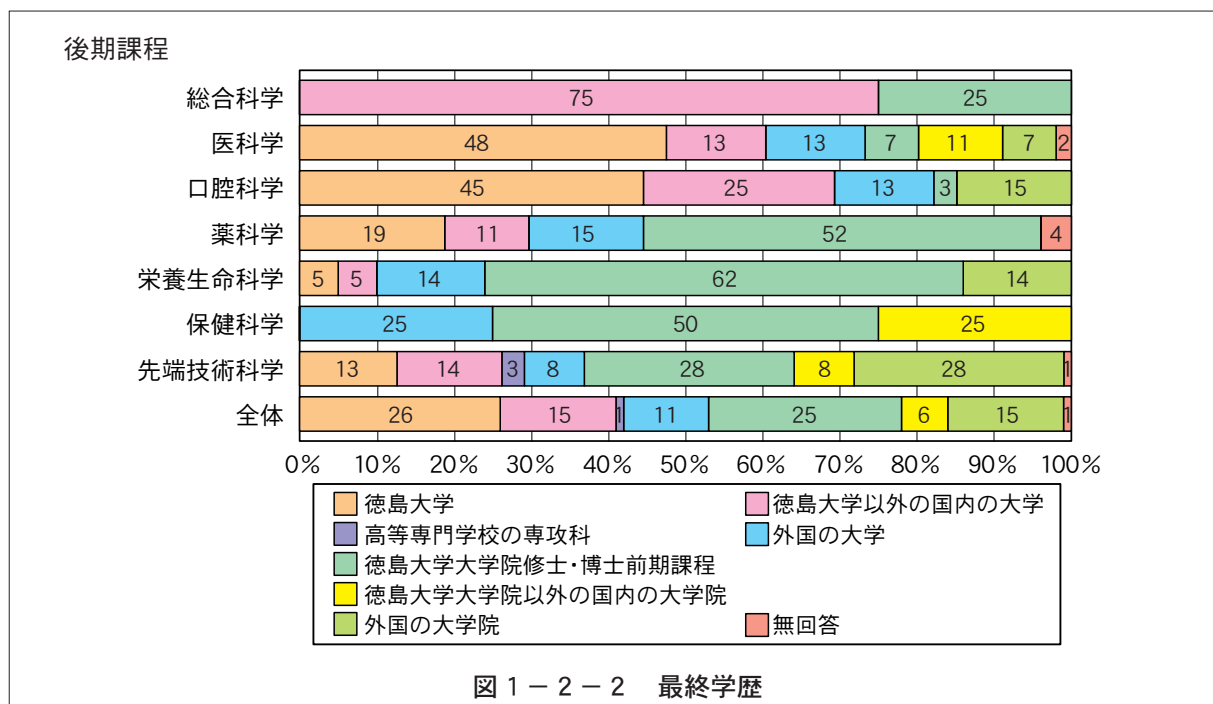




1-2 最終学歴 (図 1-2-1, 図 1-2-2)

回答者の出身地大学(大学院)を見る。前期課程ではすべての教育部で本学出身者の割合が60%を超えており、ことに先端技術科学では本学出身者の割合が87%と高い。全体では85%である。本学出身者の割合が高い傾向は前回調査よりも強まっており、全体で前回の82%から3ポイント上がっている。本学出身者の割合が比較的低い医科学でも47%から60%に割合は高くなっている。これに対して後期課程では徳島大学以外の出身者の比重は大きく、日本以外の大学(大学院)出身者の割合も大きい。



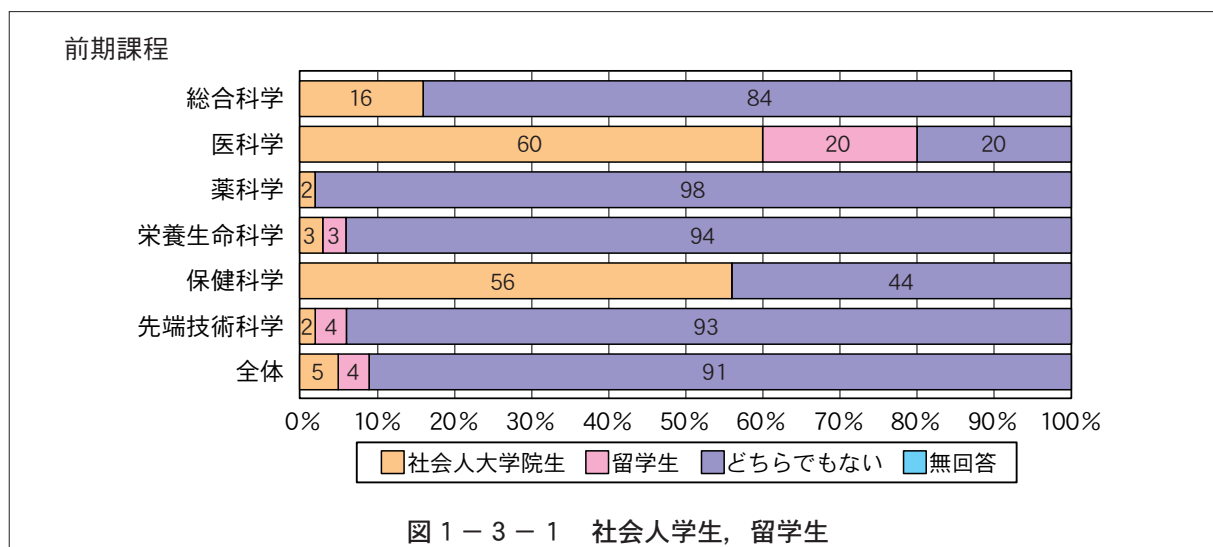


1-3 社会人大学院生と留学生 (図 1-3-1, 図 1-3-2)

この問では社会人学生であるかどうか、留学生であるかどうかをたずねた。

医科学（前期課程 60%，後期課程 59%）と保健科学（前期課程 56%，後期課程 75%）で社会人学生の割合が高く、国家試験資格取得後の進学者が多いことをうかがわせる。

留学生とする回答数は前期課程後期課程あわせて 98 であった。本学大学院在籍の留学生は 190 名であるので、留学生の回収率は 52% であった。留学生の多くは後期課程に在籍する。ことに先端技術科学に在籍する留学生とする回答は 38 と、同教育部の回答の 48% が留学生である。留学生の割合が高いのは、続いて栄養生命科学、口腔科学、保健科学、医科学、薬科学である。



後期課程

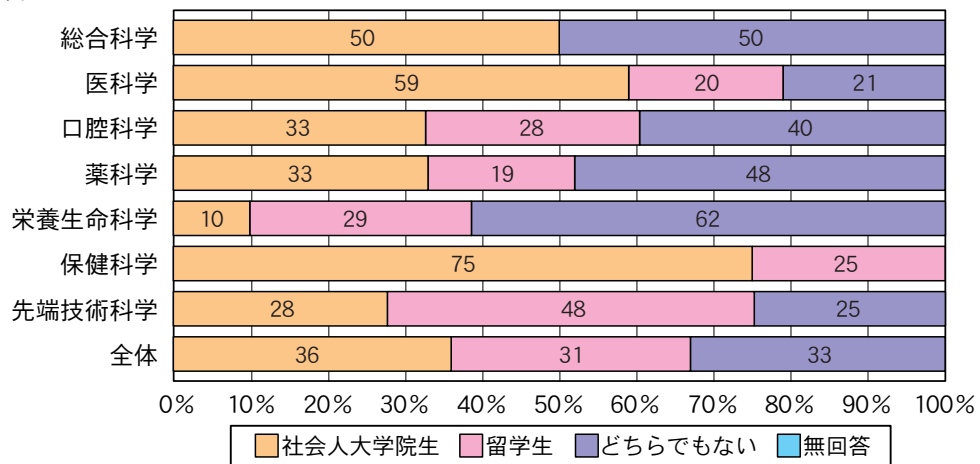


図 1 - 3 - 2 社会人学生, 留学生

第2章 家族・住居・通学について

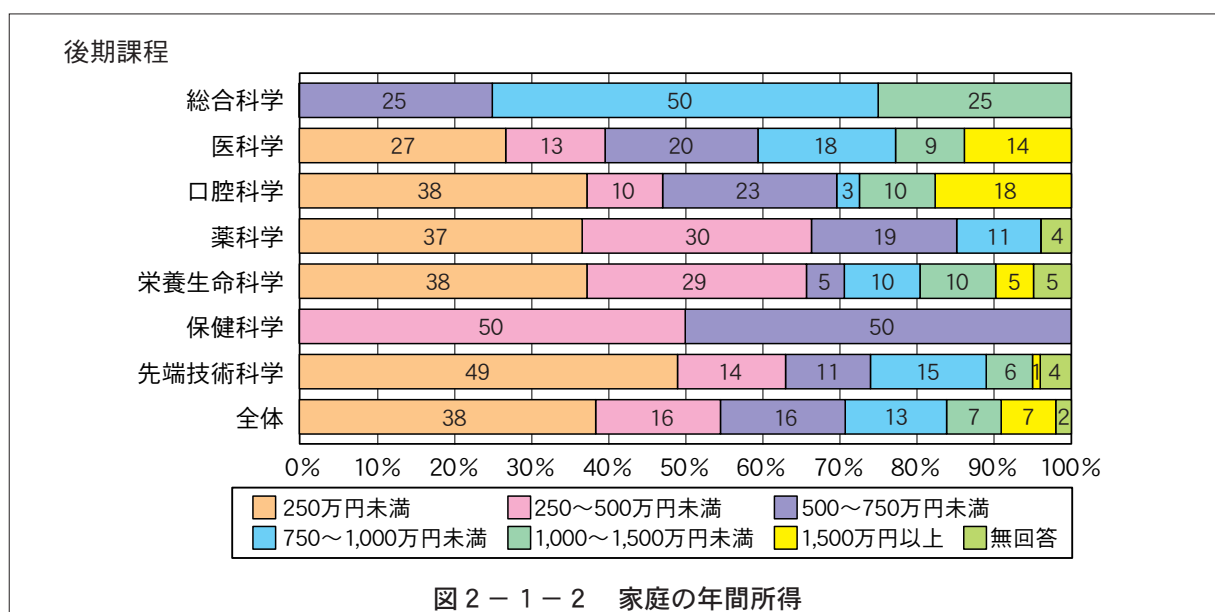
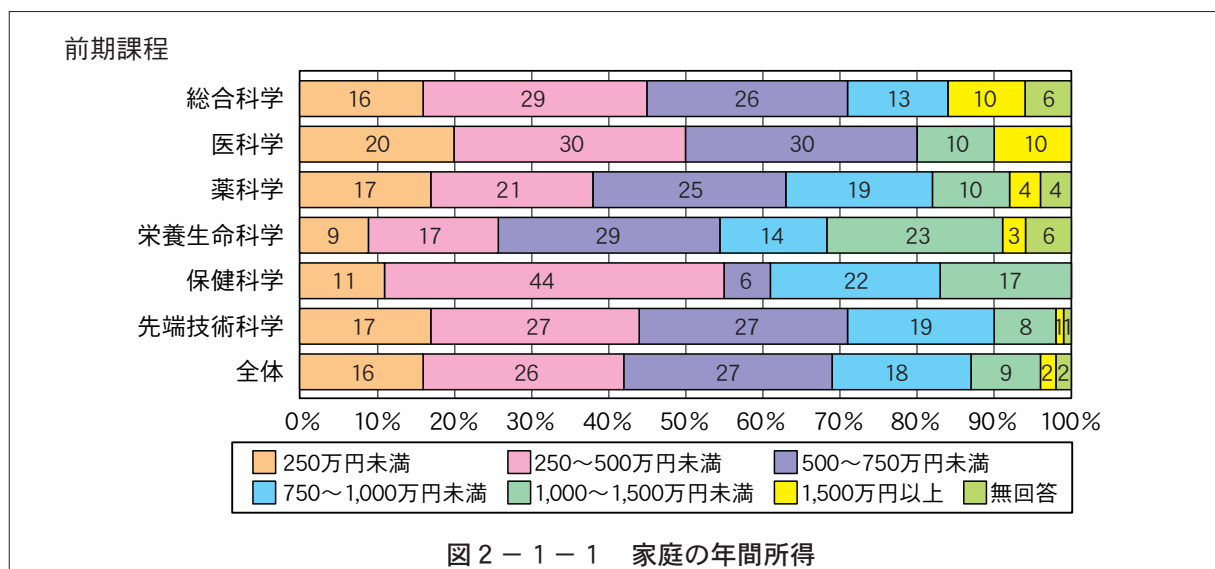
2-1 家庭の年間所得 (図2-1-1, 図2-1-2)

家庭の年収に関しては、大学全体としては、第2回調査が行われた平成20年度と本年度では目立った変化はない。

前期課程では、全体で500万円～750万円未満が27%で一番多く、次いで250万円～500万円未満26%、750万円～1000万円未満18%となっており、この3つの範囲で71%を占める。大学院生総数の74%が先端技術科学の大学院生であるため、大学全体の比率と先端技術科学の比率はほぼ一致している。

後期課程では、全体で250万円未満が38%と一番多く、次いで250万円～500万円未満と500万円～750万円未満の16%、750万円～1000万円未満13%となっている。総合科学や保健科学に在籍する実数が4人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。

大学全体の比率は、大学院生総数に占める先端技術科学の大学院生割合が43%から34%と減少したため前回の調査とは異なり、全体とはやや異なる比率となった。留学生は86%が250万円未満であり、こ

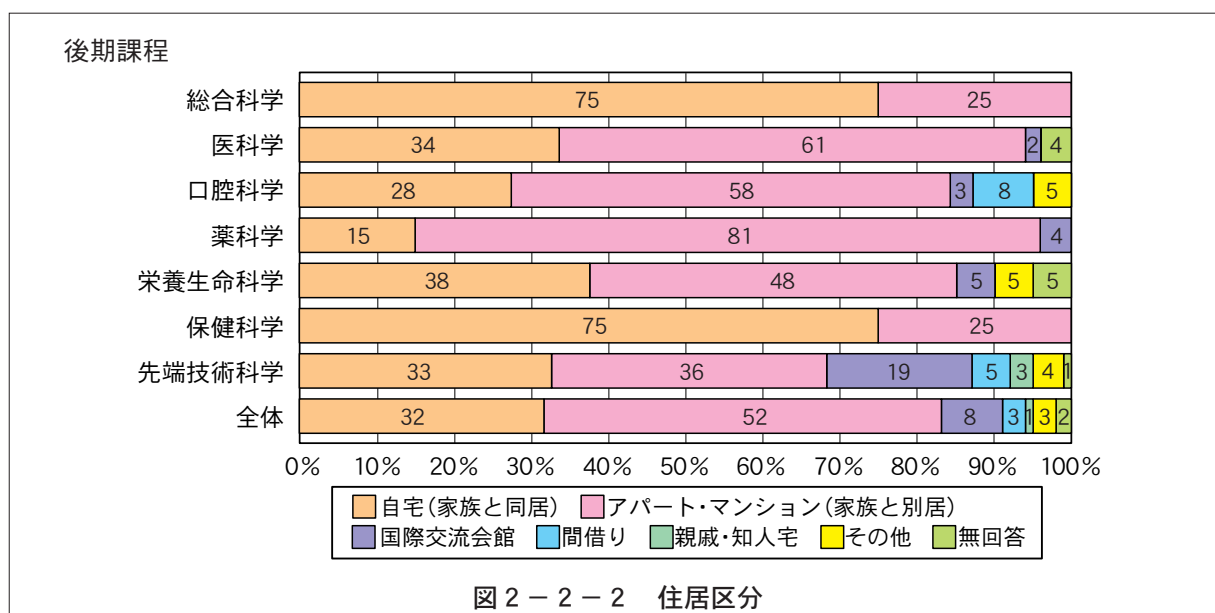
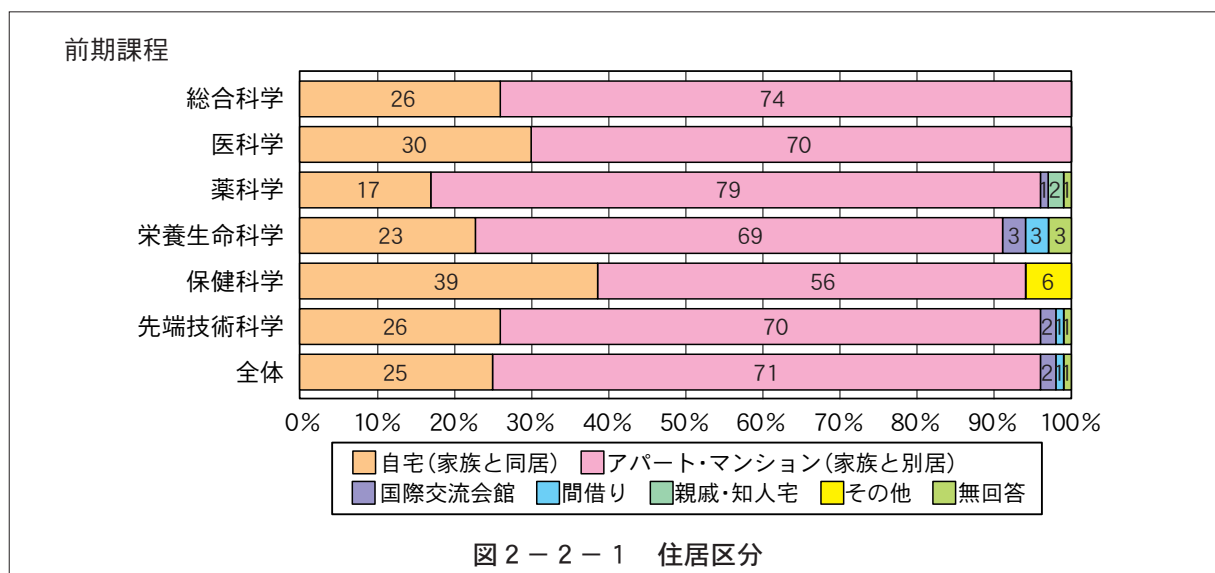


の割合は平成20年度と変化はなかった。後期課程に占める留学生比率は42%であり、この比率が全体の比率に大きく影響していると考えられる。

2-2 住居区分 (図2-2-1, 図2-2-2)

前期課程では、全体でアパート・マンションが71%、次いで自宅・家族と同居が25%となっていた。この2つで96%になっている。国際交流会館入居者は実数12人であった。第2回調査が行われた平成20年度と比較し、傾向としては同様である。大学院生総数の74%が先端技術科学の大学院生であるため、大学全体の比率と先端技術科学の比率はほぼ一致している。

後期課程も同様の傾向で第2回調査が行われた平成20年度と本年度では目立った変化はない。全体でアパート・マンションが52%で一番多く、次いで自宅・家族と同居が32%となっていた。この2つで84%になっている。国際交流会館入居者は実数19人であった。総合科学や保健科学は実数が4人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。

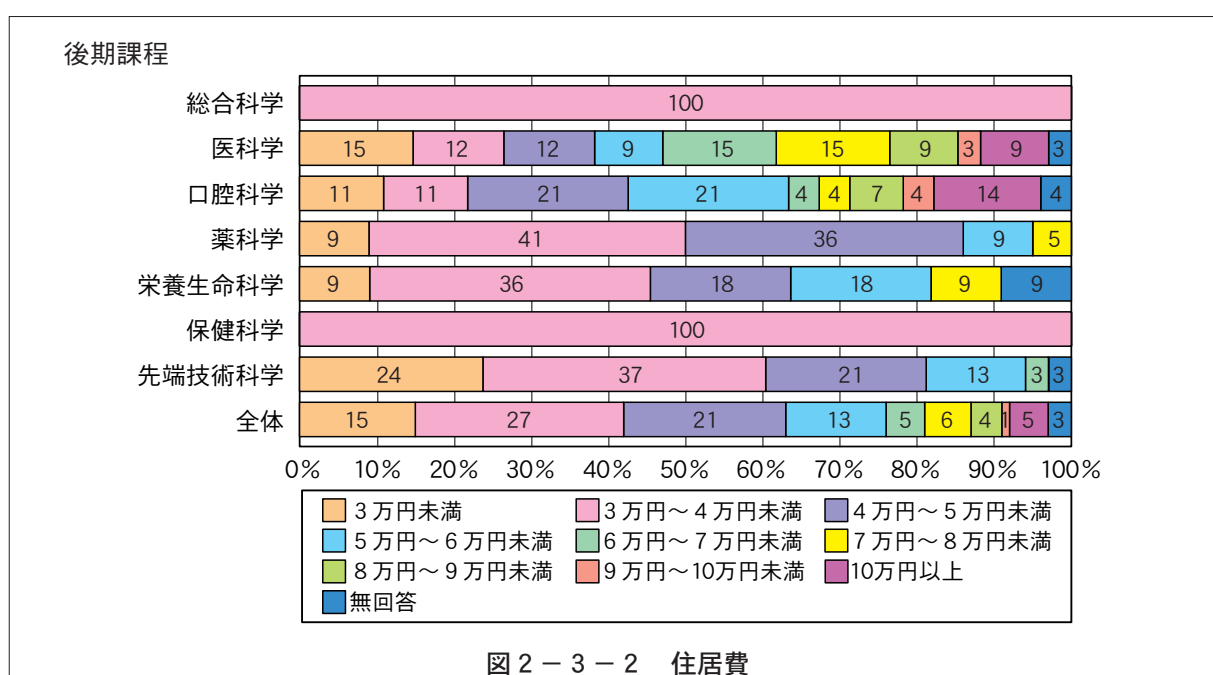
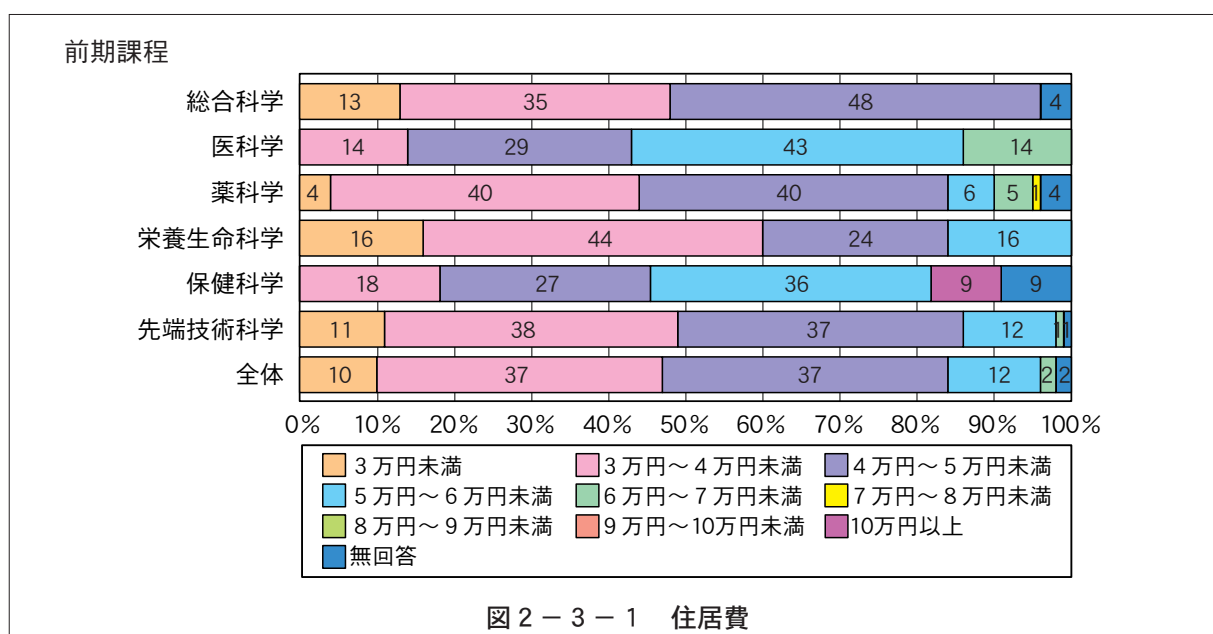


2-3 住居費 (図2-3-1, 図2-3-2)

住居費に関しては、大学全体としては、第2回調査が行われた平成20年度と本年度では目立った変化はない。

前期課程では、全体で3万～4万円未満と4万～5万円未満が37%と同率で一番多く、次いで5万～6万円未満が12%となっており、3万円未満の10%を加えると、これら合計で96%となっている。大学院生総数の74%が先端技術科学の大学院生であるため、大学全体の比率と先端技術科学の比率はほぼ一致している。

後期課程も同様の傾向で第2回調査が行われた平成20年度と本年度では目立った変化はない。全体で3万～4万円未満が27%と一番多く、次いで4万～5万円未満が21%、3万円未満が15%、5万～6万円未満13%となっており、これらで合計76%となっている。総合科学や保健科学は実数が4人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。



留学生は43%が3万円未満であり、次いで3万～4万円未満が29%であった。この割合は平成20年度と特にめだつた変化はなかった。

2-4 配偶者や子供の有無 (図2-4-1, 図2-4-2)

前期課程全体では98%が配偶者・子供ともなしである。配偶者・子供ともなしが男性では98%, 女性では97%である。

後期課程では配偶者・子供ともなしが59%である。26%が配偶者と子供と同居し, 15%は配偶者のみがいる。男性では, 配偶者・子供ともなしが54%で, 配偶者・子供ありが29%, 配偶者のみが17%である。女性では, 配偶者・子供ともなしが66%で, 配偶者・子供ともありが20%で, 配偶者のみが11%ある。

後期課程で子供がいる人について, 研究中はどのようにしているかの回答では重複回答で77人中, 多い順に配偶者に預けるが40%, 小学校等が22%, 保育施設に預ける17%, 親や親戚に預ける12%, その他9%であった。その他が何であるか不明であるが大学として援助できることがないか考える必要があるかも知れない。

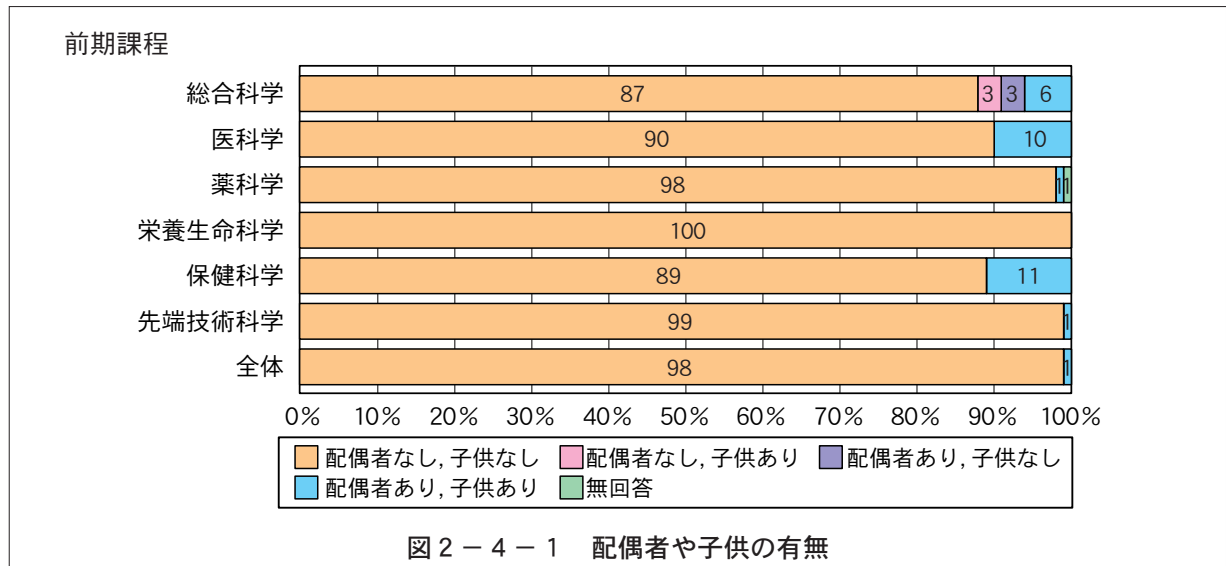


図2-4-1 配偶者や子供の有無

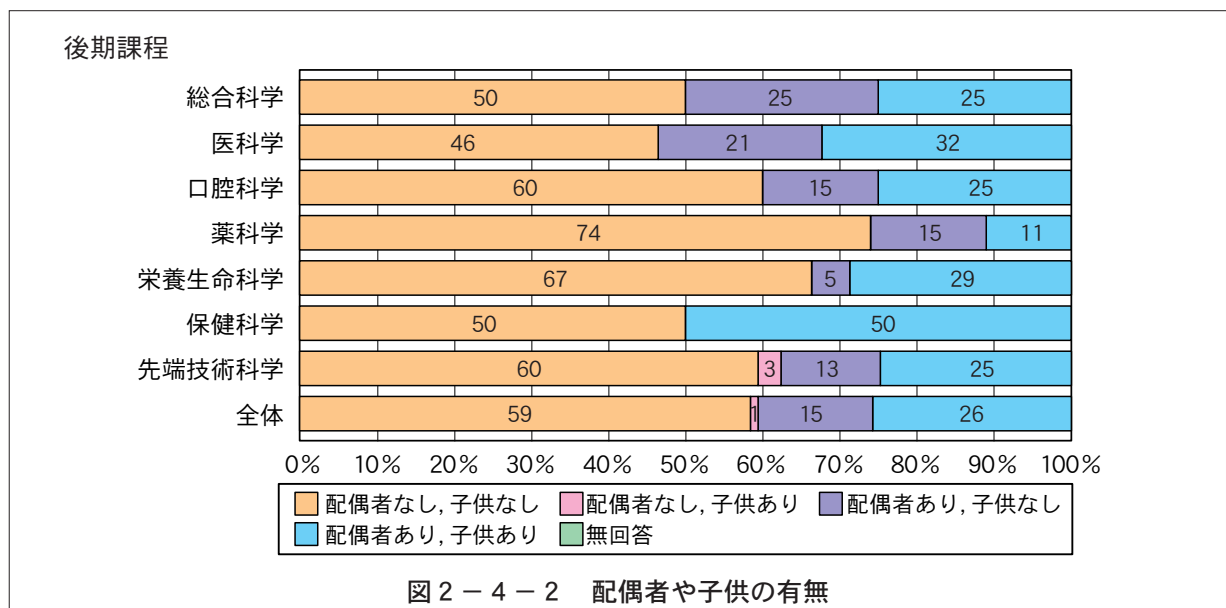


図2-4-2 配偶者や子供の有無

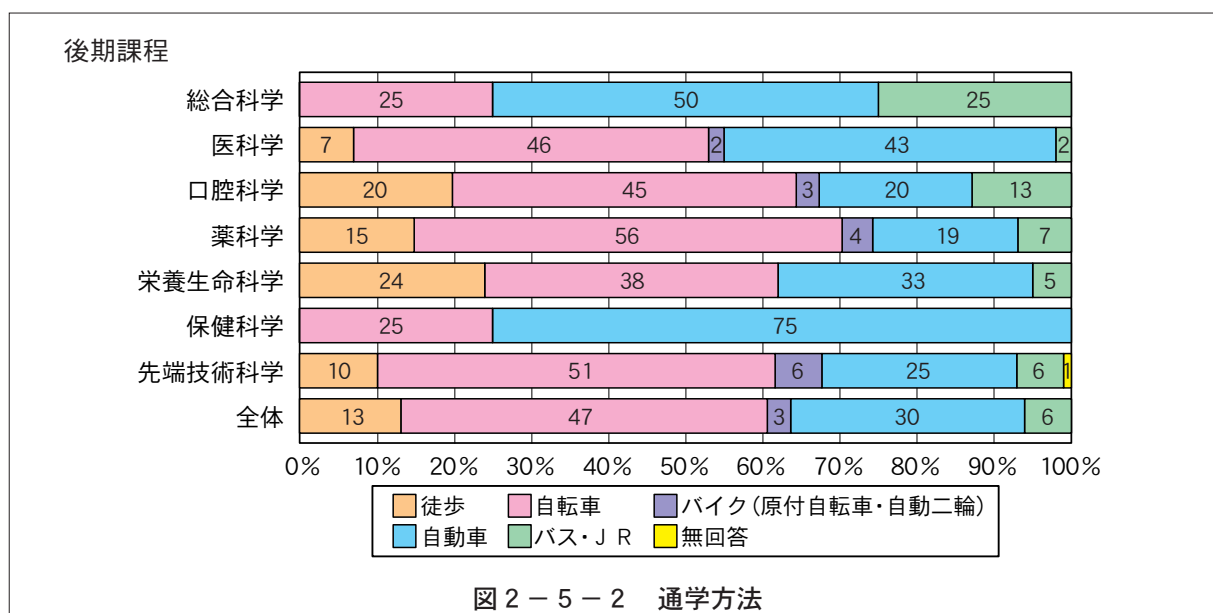
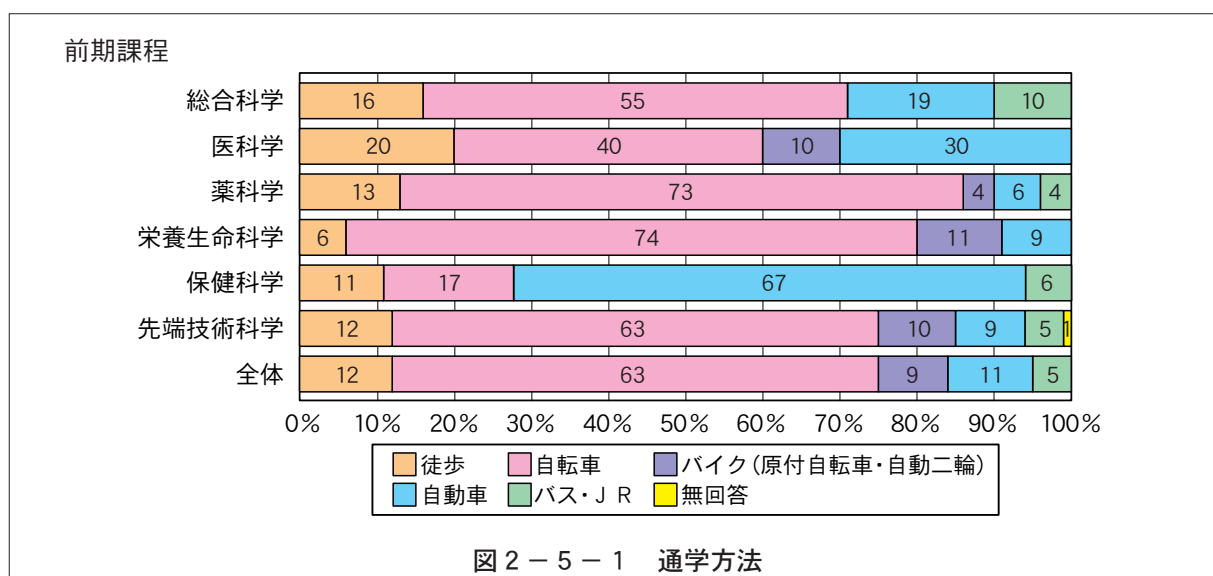
2-5 通学方法 (図2-5-1, 図2-5-2)

通学方法に関しては、大学全体としては、第2回調査が行われた平成20年度と本年度では目立った変化はない。

前期課程では、自転車通学が63%と一番多く、次いで徒歩12%、自動車11%、バイク9%となっている。

後期課程では、全体で自転車通学が47%と一番多く、次いで自動車30%、徒歩13%、バス・JR6%となっている。前期課程と比較すると自動車による通学方法の比率は高い。総合科学や保健科学は実数が4人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。

留学生は76%が自転車通学で一番多く、徒歩9%、バイク4%であった。



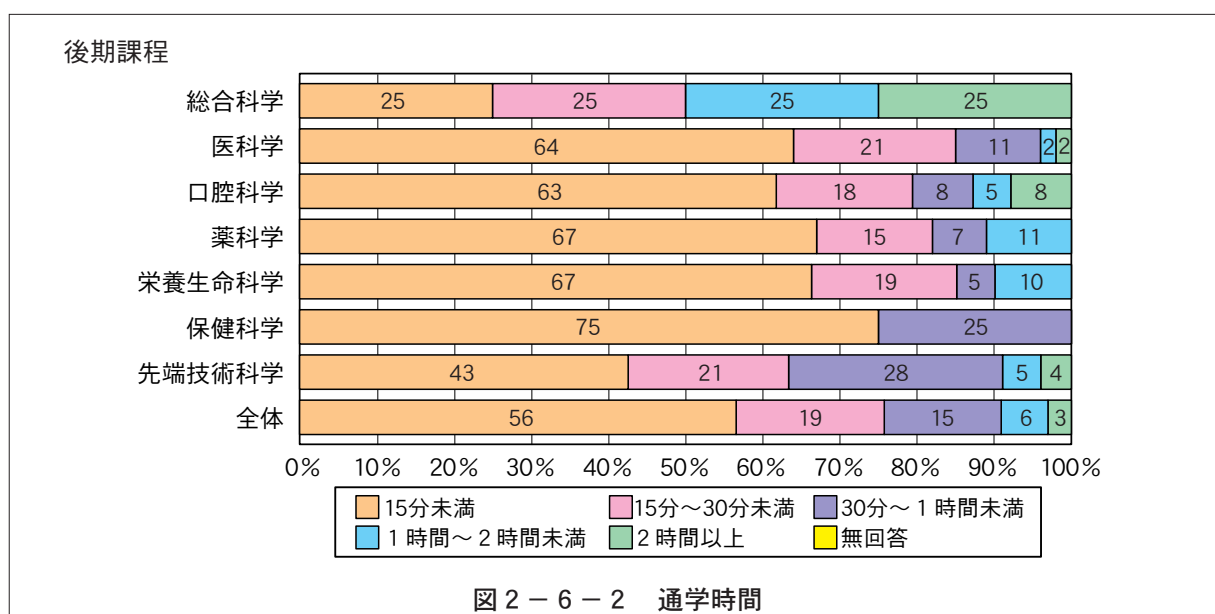
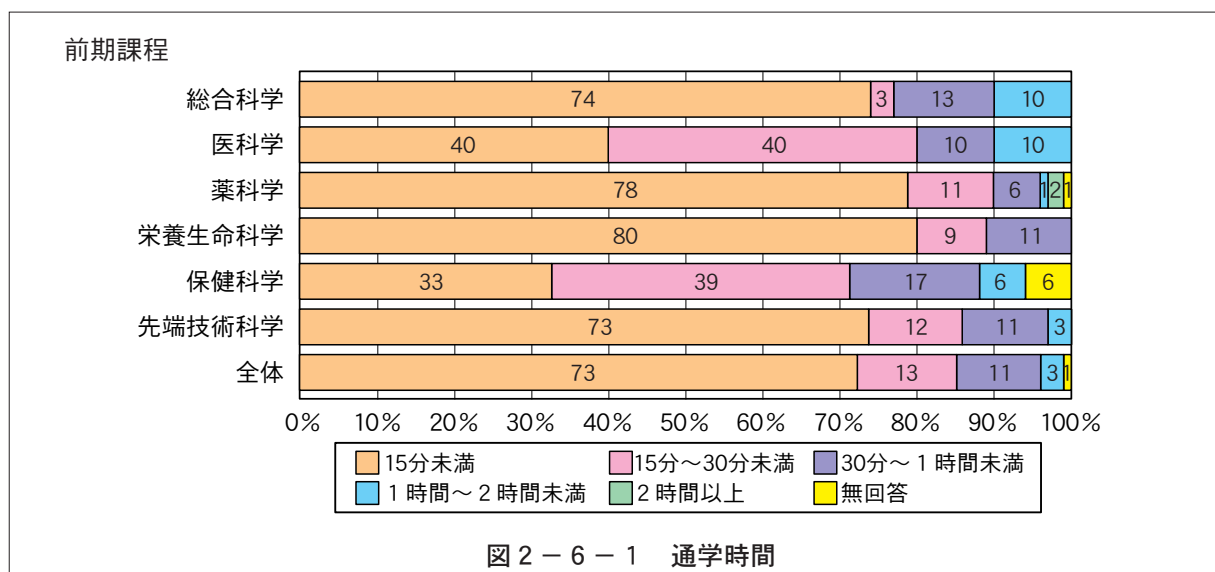
2-6 通学時間 (図2-6-1, 図2-6-2)

通学時間に関しては、大学全体としては、第2回調査が行われた平成20年度と本年度では目立った変化はない。

前期課程全体では、通学時間15分未満が73%と一番多く、次いで15分～30分未満13%、30分～1時間未満11%となっている。

後期課程全体では、通学時間15分未満が56%と一番多く、次いで15分～30分未満19%、30分～1時間未満15%となっている。2時間以上の人も3%みられる。総合科学や保健科学は実数が4人と少なくそのまま比較するのは適当ではない。

留学生の通学時間は、15分未満が63%と一番多く、次いで30分～1時間未満19%、15分～30分未満16%となっている。

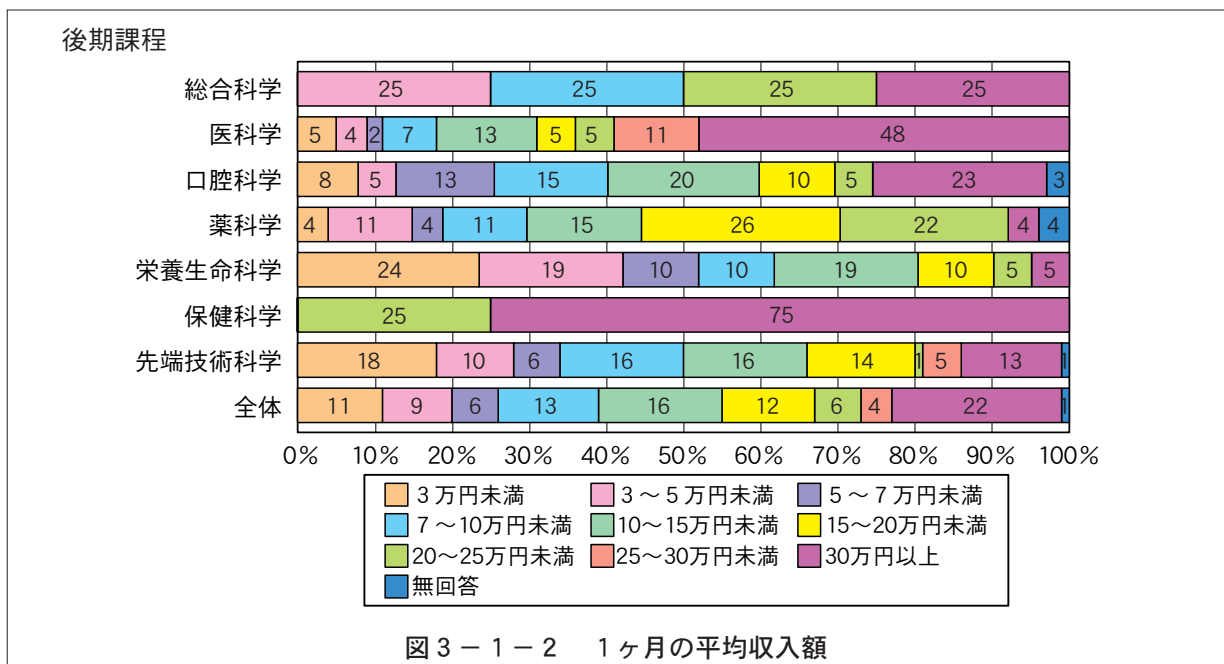
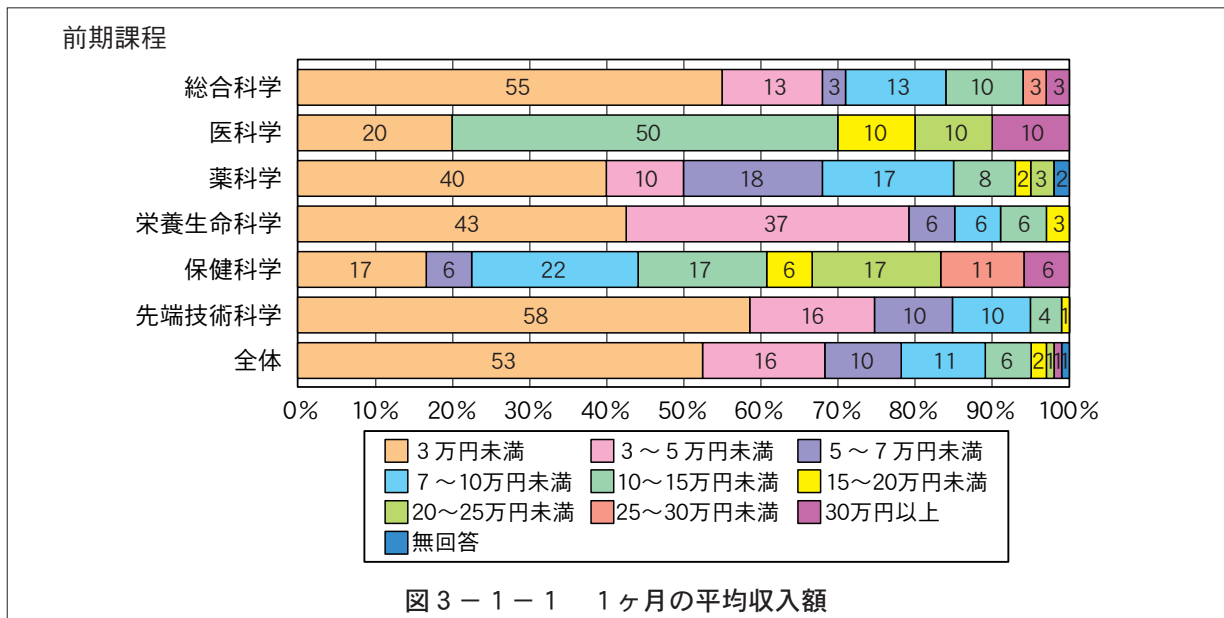


第3章 収入・支出について

3-1 1ヶ月の平均収入額 (図3-1-1, 図3-1-2)

前期課程では、全体の50%以上が親等からの援助を除く平均収入額は3万円未満で、90%が10万円未満である。教育部の比較では、医科学では社会人大学院生が多いため、80%が10万円以上の収入を得ている。一方、総合科学、薬科学、栄養生命科学、先端技術科学ではそれぞれ84%、85%、92%、94%の学生が10万円未満の収入となっている。保健科学では45%の学生が10万円未満だが、残りの55%は10万円以上の収入があり、中でも6%は30万円以上の収入を得ている。留学生はそのほとんどが先端技術科学に所属しており、1か月の平均収入が3万円未満が35%と最も多く、ついで7~10万円未満が30%を占めており、奨学金等の受給によると考えられる。

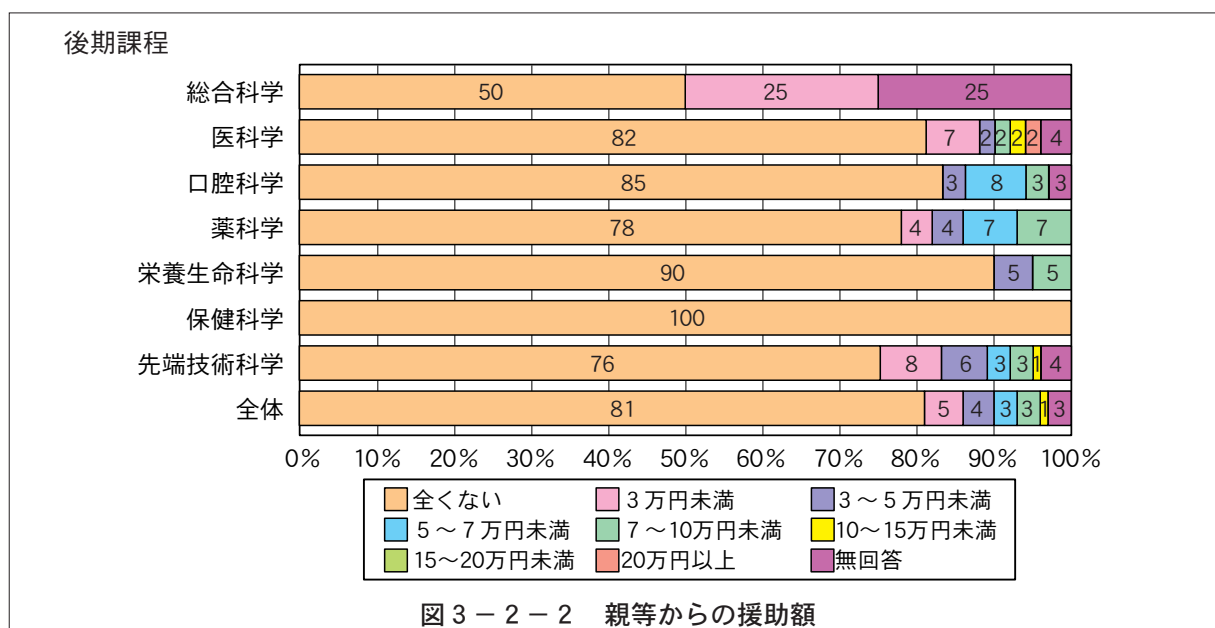
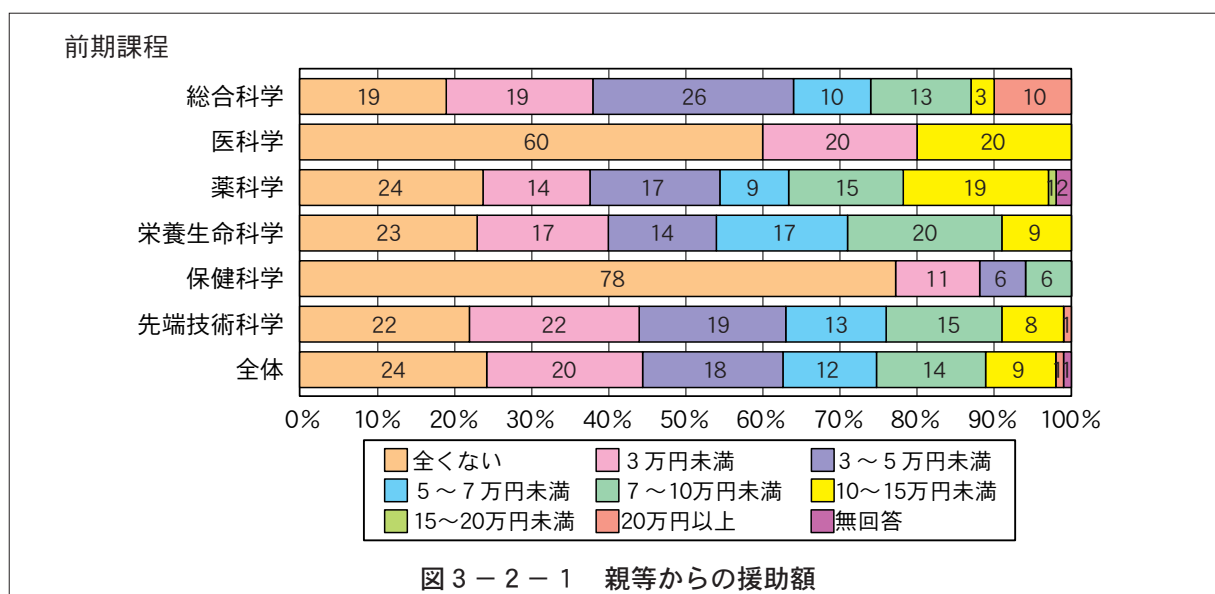
後期課程では、全体の20%が5万円未満の収入であるが、30万円以上の収入を得ている学生も22%



となっている。教育部の比較では、総合科学と先端技術科学では約半数が平均収入10万円未満である。栄養生命科学では収入額3万円未満の割合が24%と最も高く、半数以上（63%）が収入10万円未満である。一方、保健科学はすべての大学院生に20万円以上の収入があり、内75%は30万円以上の収入を有している。医科学では収入額に個人差があり、5%は3万円未満の収入であるのに対し、約60%は25万円以上の収入を得ている。留学生については保健科学（1名）を除くと、教育部による差はあまりなく、7～20万円未満が最も多く、奨学金受給によるものと考えられる。

3-2 親等からの援助額 (図3-2-1, 図3-2-2)

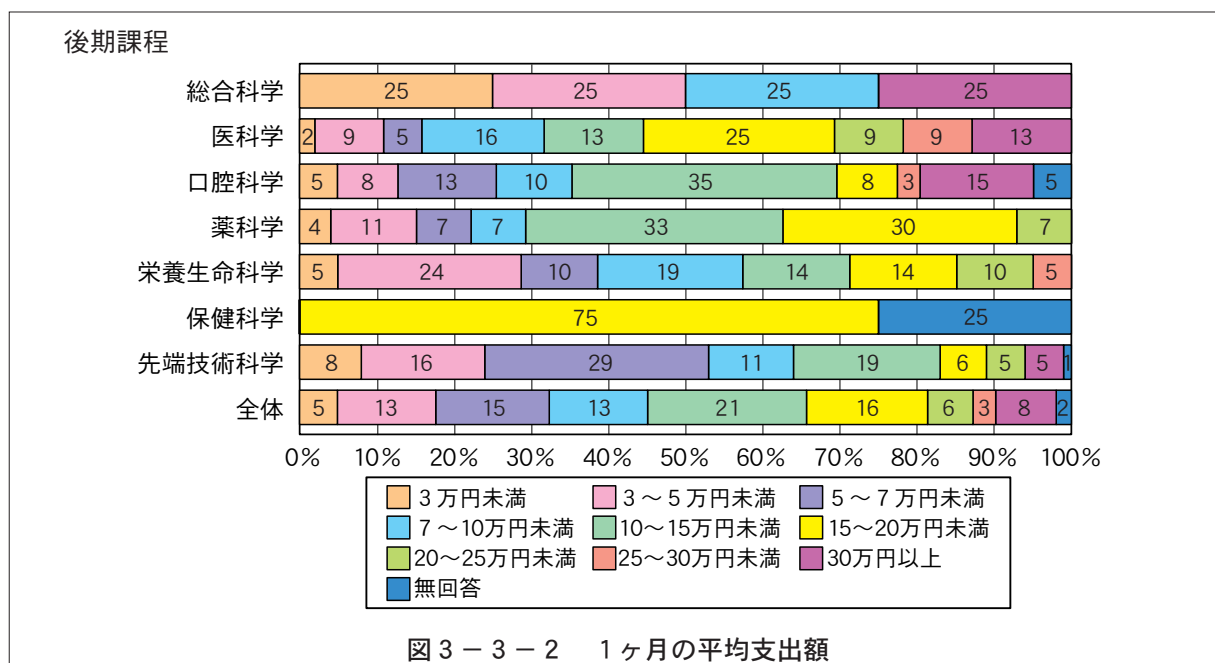
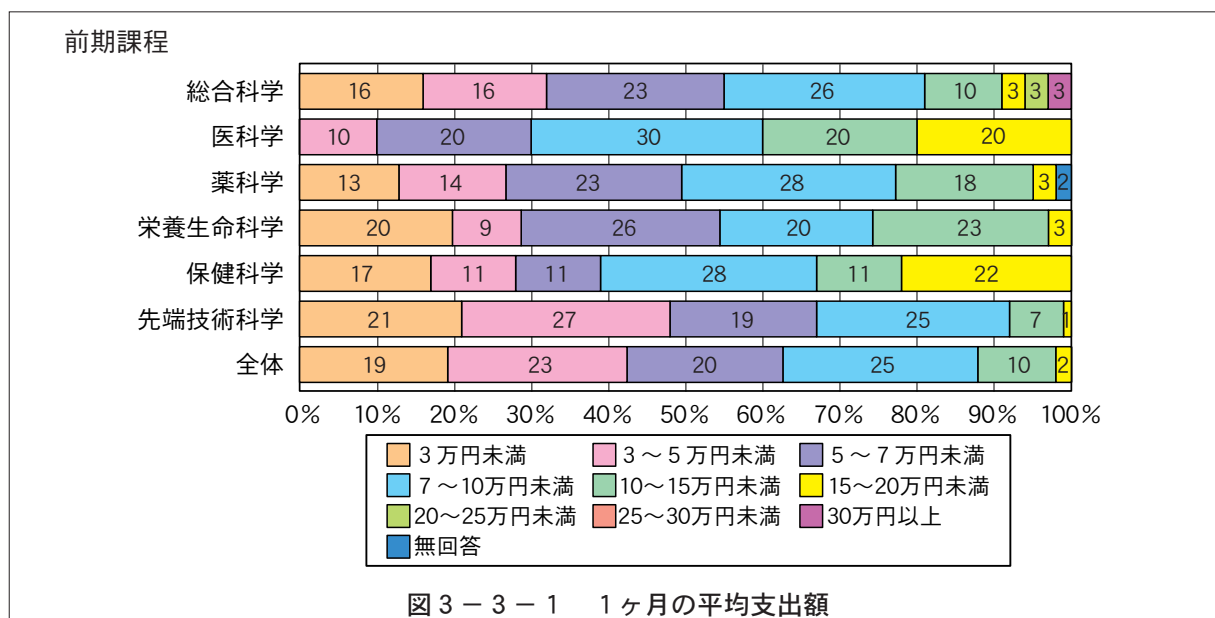
前期課程では、医科学と保健科学を除く4つの教育部で約25%が親等からの援助が全くなく、55～69%が10万円未満の援助を受けている。さらに、少ないものの、総合科学と先端技術科学では20万円以上の援助を親等から受けている学生がいる。一方、医科学、保健科学ではそれぞれ60%、78%が親等からの援助がなく、とくに保健科学の大学院生はすべて、親等からの援助が10万円未満である。留学生では全体の69%が親等からの援助はない。



後期課程では、前期課程と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が高く、収入面での独立傾向がうかがえる。全体では81%が親等からの援助がゼロで、親等からの援助額が5万円未満である大学院生が約90%を占めている。さらに、前期課程の10%を占めていた援助額10万円以上の大学院生の割合は1%に減少している。教育部の比較では、前期課程から援助を受けない割合の高かった保健科学では後期課程の大学院生すべてが援助ゼロとなっている。その他の医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、先端技術科学においても、親等からの援助が全くない大学院生の割合は75%以上を占めている。一方、総合科学では親等からの援助が全くない割合は50%で、25%は3万円未満の援助を受けている。留学生については全体の81%で親等からの援助はなく、あってもごくわずかである。

3-3 1か月の平均支出額(授業料支出は除く) (図3-3-1, 図3-3-2)

前期課程では、全体の42%が1か月5万円未満の支出、さらに87%が1か月10万円未満の支出で生活をしている。教育部を比較すると、先端技術科学では92%の大学院生が1か月10万円未満の支出で



生活している。総合科学，薬科学，栄養生命科学においても75～81%の大学院生が1か月の支出を10万円未満で抑えて生活している。医科学と保健科学は1か月10万円未満に支出を抑えている院生の割合は60～67%とやや低いものの，他の教育部と概ね同じような支出額である。留学生では1か月の平均支出額は3～10万円未満が85%を占めている。

後期課程では，全体として1か月の支出額が5万円未満である割合は18%と低く，逆に1か月の支出額が10万円以上の院生が54%で過半数を占めている。後期課程の総合科学は人数が少ないため，比較できないが，保健科学では無回答の25%を除く，残りの75%はすべて15～20万円未満の支出額である。このことは保健科学の後期課程ではほとんどの院生は社会人大学院であると考えられる。医科学，口腔科学，薬科学では29～36%が10万円未満の支出額であり，1か月平均支出額が10万円～20万円である割合が最も大きい（医科学38%，口腔科学43%，薬科学63%）。栄養生命科学と先端技術科学では1か月平均支出額が10万円未満である院生の割合がそれぞれ58%，64%で，医歯薬系に比較するとやや多く，1か月支出額が10万円～20万円である割合がやや少ない傾向を示している。留学生については医科学では73%が7～15万円未満，口腔科学，薬科学では72～80%が10～20万円未満，栄養生命科学では83%が10～25万円未満の支出を計上している。

3-4 奨学金 (図3-4-1, 図3-4-2)

前期課程では，全体の54%が奨学金を希望しており，一方で45%が将来的にも奨学金の受給を希望していない。現在奨学金を受給している割合は保健科学を除くすべての教育部で50%前後であり，将来的な受給希望を含めると栄養生命科学が74%と最も奨学金を希望する割合が高い。保健科学では現在奨学金を受けている22%と将来的に奨学金を希望する11%をあわせても全体の3分の1であり，残りの3分の2は奨学金を希望していない。留学生では先端技術科学の1名を除き，すべて奨学金を受けたいと考えている。

後期課程では，全体として奨学金を希望する割合は前期課程よりも高く，70%を占める。総合科学は人数が4名のみであるため，比較できないが，前期課程と同様，栄養生命科学の院生で奨学金を希望する割合が最も高く（86%），ついで口腔科学，薬科学，先端技術科学は約74%である。一方，医科学，保健科学では現在奨学金を受けている割合が約30%，将来的に奨学金を希望するものを含めて約50%を占めるが，残りの約50%は将来的にも奨学金の受給を希望していない。留学生では保健科学の1名を除き，すべて奨学金を受けたいと考えている。

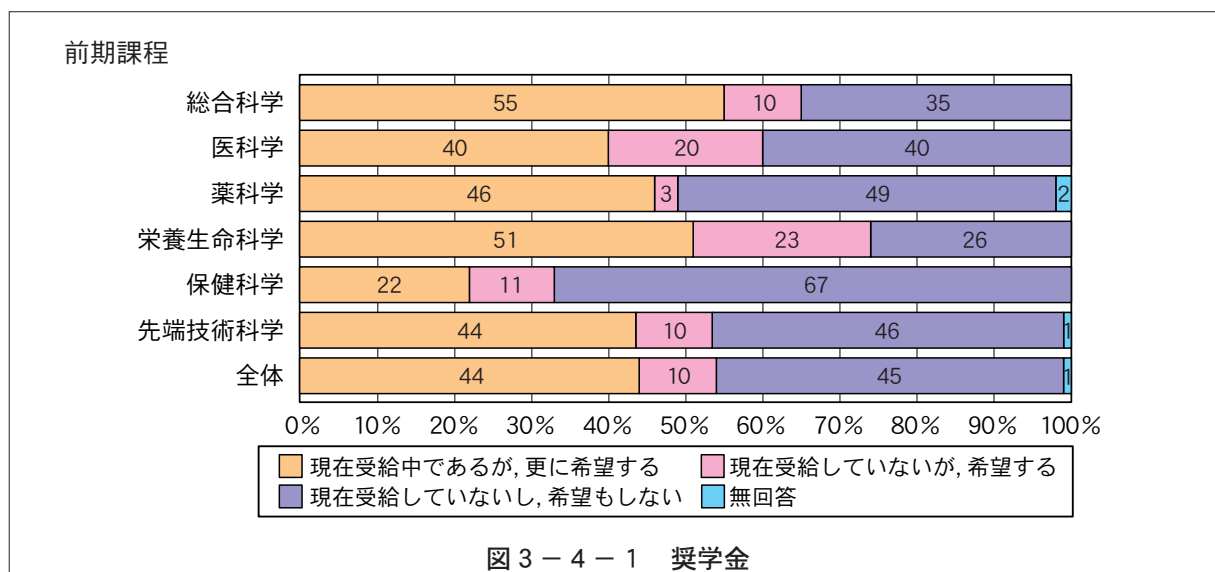
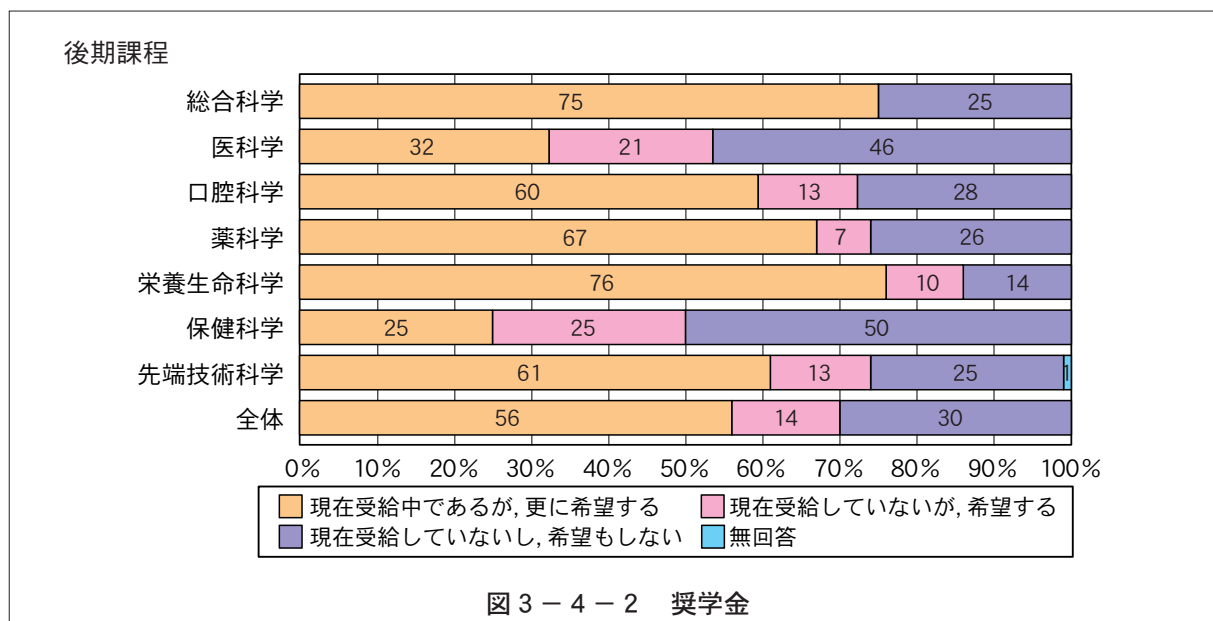


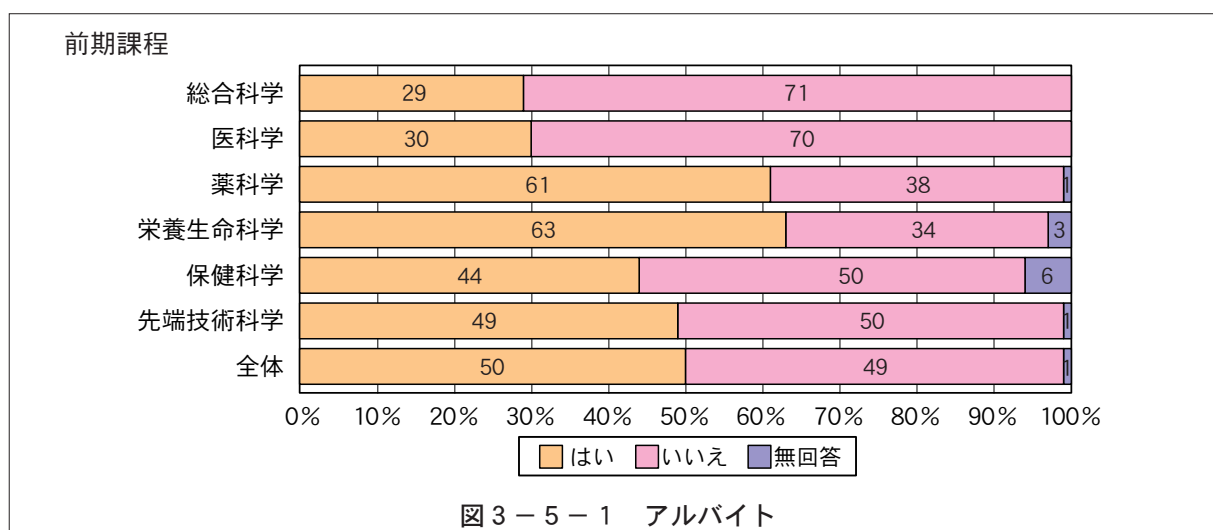
図3-4-1 奨学金

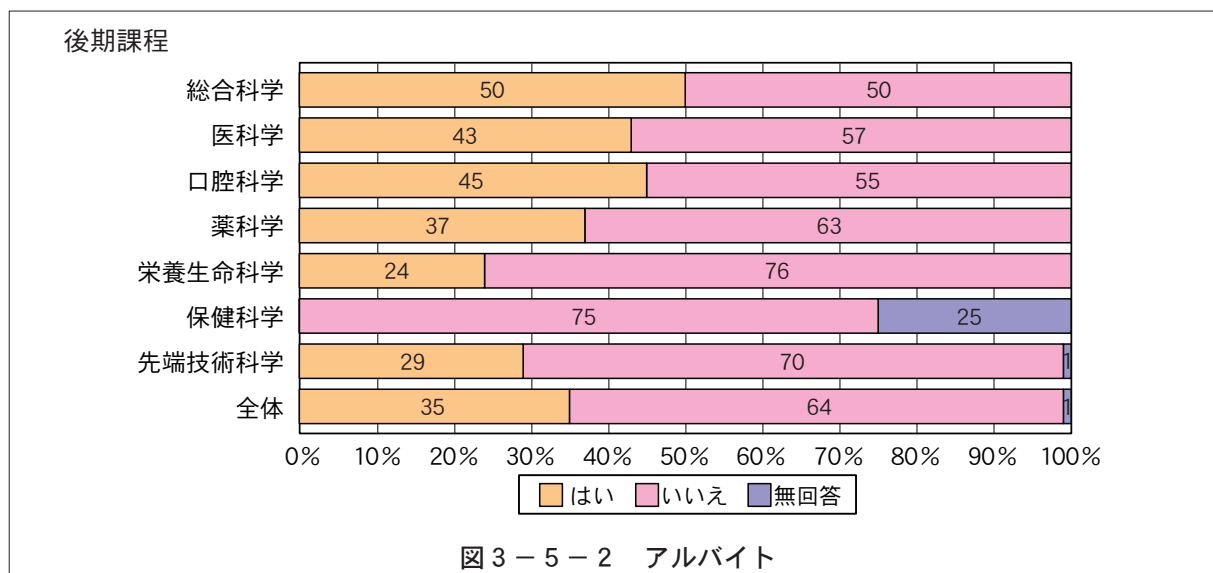


3-5 アルバイトの有無 (図 3-5-1, 図 3-5-2)

前期課程では、全体の50%がアルバイトをしており、残りの約50%がアルバイトを行っていない。教育部で比較すると、総合科学、医科学では約30%、保健科学では44%、先端技術科学では50%、薬科学と栄養生命科学では約60%の大学院生がアルバイトを行っている。留学生では半数がアルバイトをしている。

後期課程では、全体として35%がアルバイトを行っており、教育部別では医科学を除く（口腔科学は後期課程のみ、総合科学は全体で4名のため割合を比較できない）すべての大学院でアルバイトを行っている割合が減少している。このことは前期課程と異なり、後期課程では研究に関わる割合が増え、アルバイトをしている時間が減ったことが予想される。医科学と口腔科学のアルバイトを行っている割合は約44%で最も高く（総合科学は4名だけの集計のため比較できない）、保健科学ではアルバイトをする人はひとりもない（無回答を除く）。留学生では前期課程と異なり、全体の21%しかアルバイトをしていない。後期課程では研究に従事する時間が増えるため、アルバイトには行く時間はないようである。

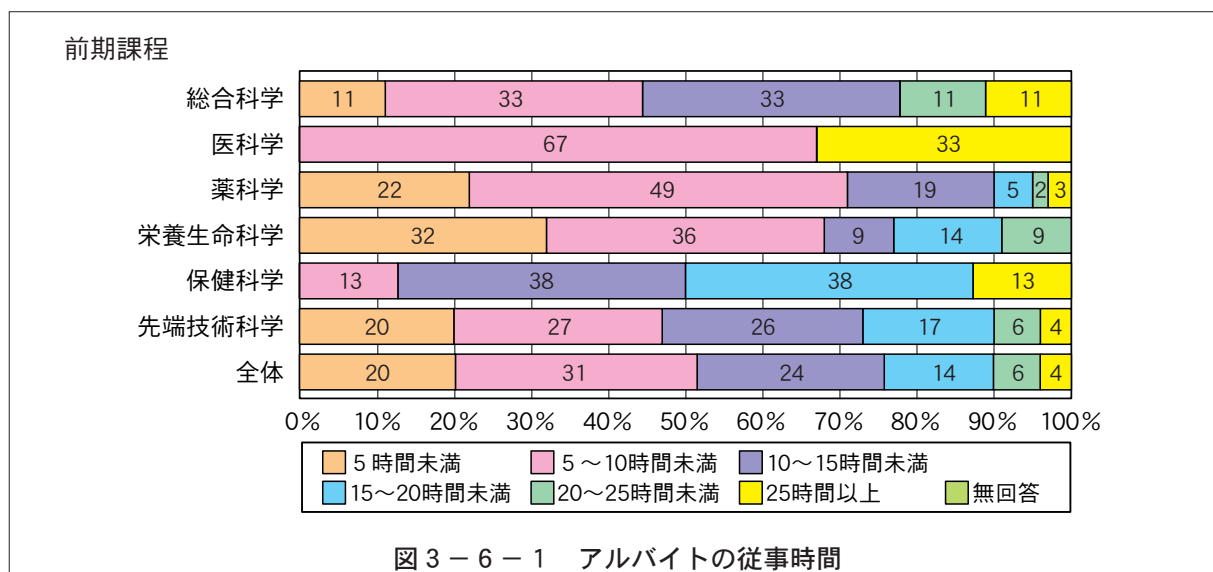


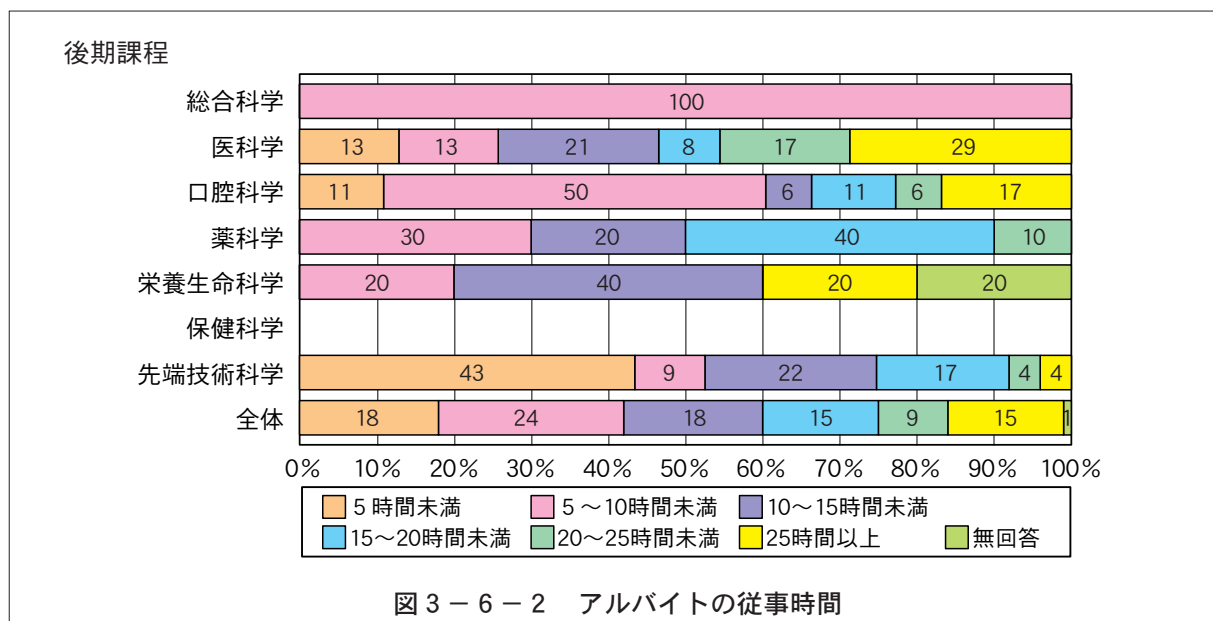


3-6 アルバイト従事時間数 (図 3-6-1, 図 3-6-2)

前期課程では、全体の51%がアルバイト従事時間は10時間未満、残りの49%が10時間以上であり、中でも4%の大学院生が25時間以上アルバイトをしている。教育部の比較では、医科学では3分の2の院生が5～10時間未満であるのに対し、残りの3分の1は25時間以上アルバイトに従事している。保健科学においても89%が10時間以上アルバイトに従事している。総合科学と先端技術科学は約半数が10時間未満で、残りの半数が10時間以上のアルバイトを行っている。薬科学、栄養生命科学は約70%の院生が10時間未満のアルバイトに従事しており、他と比較して時間数がやや少ない。留学生では5～10時間未満が54%を占めている。

後期課程では、全体としてアルバイトが10時間未満の院生(42%)の割合は前期課程と比較してやや少なく、25時間以上従事している院生の割合(15%)が多い。総合科学はアルバイト従事者数が2名であり、保健科学は0名であるため比較はできないが、そのほかの教育部の比較として、医科学では約半数は20時間未満の、残りの半数は20時間以上のアルバイトを行っている。口腔科学では61%の院生が10時間未満のアルバイトに従事しており、医科学と比較して従事時間数はやや短い。薬科学、栄養生命科学、先端技術科学の15時間未満のアルバイトに従事する院生の割合はそれぞれ50%、60%、

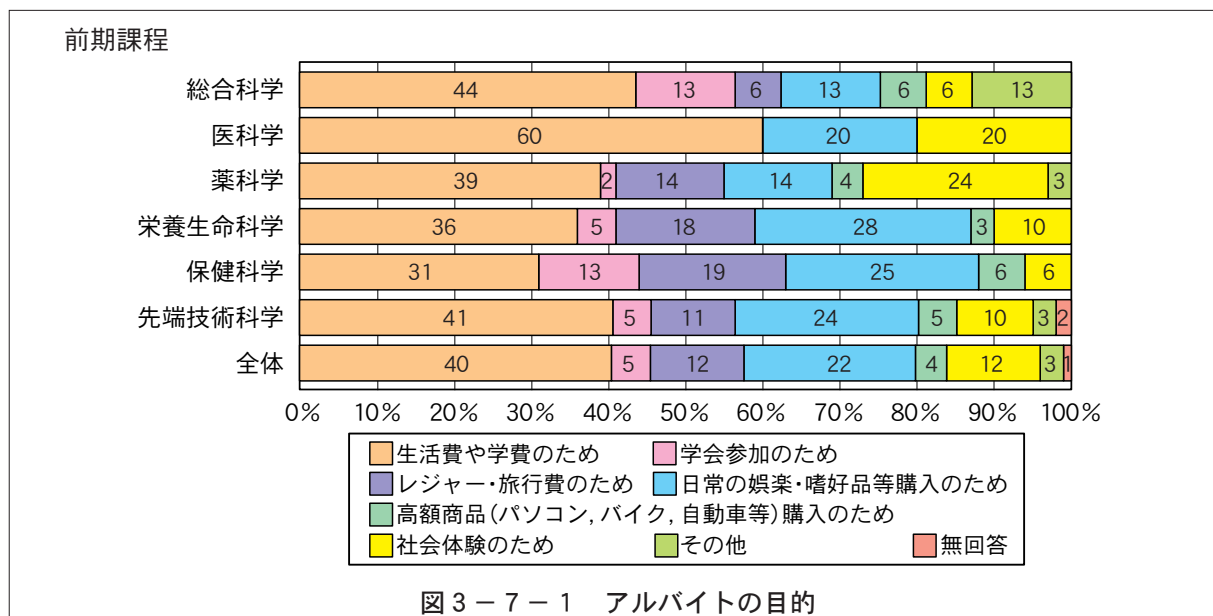


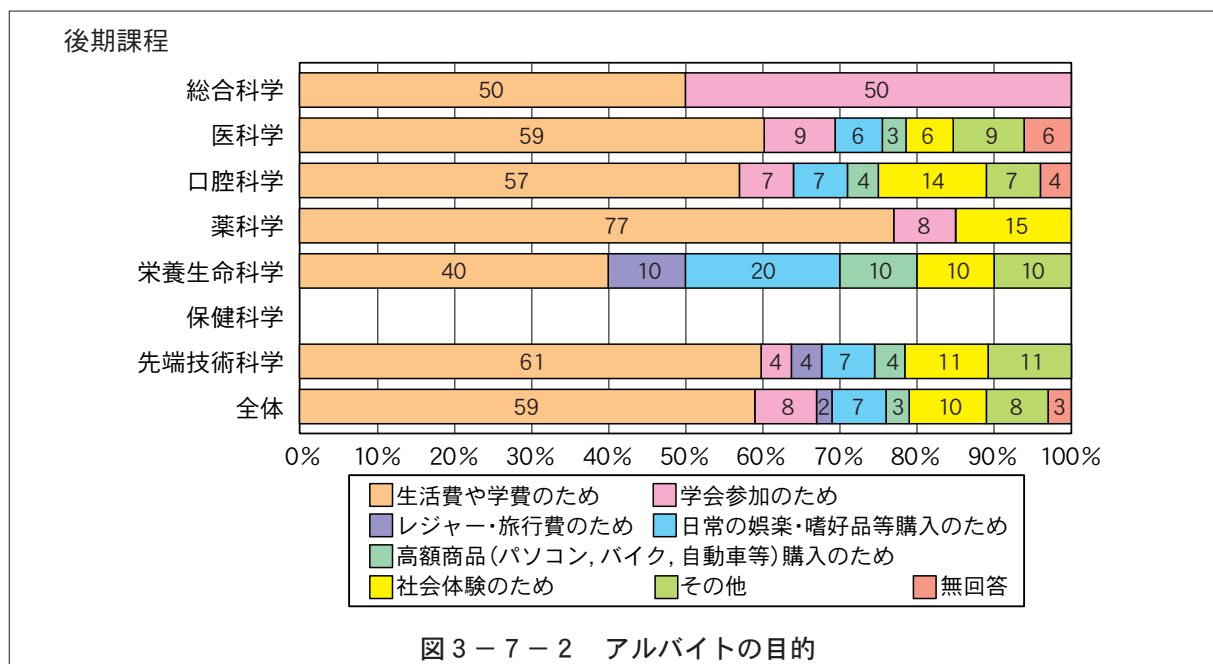


74%であり、従事時間数のみ比較すると医科学、口腔科学とほぼ同じである。留学生では全体（15名）のうち、40%（6名）は10時間未満、53%（8名）が10～20時間未満のアルバイトに従事している。

3-7 アルバイトの目的 (図 3-7-1, 図 3-7-2)

前期課程では、全体の40%が生活費や学費のためのアルバイトであり、学会参加のためのアルバイト5%を含め、45%が大学院生としての生活費捻出のためにアルバイトを行っている。レジャー・旅行、遊びなどの費用のためのアルバイトは34%である。教育部での比較では、学会参加費を含めた大学院生としての生活費捻出をアルバイトの目的としている割合は総合科学と医科学でそれぞれ57%、60%とやや高いものの、その他はほぼ40%強である。レジャー・旅行、交遊費としてのアルバイトの割合は栄養生命科学と保健科学においてやや高く、それぞれ46%、44%を占める。高額商品（パソコン、バイク、自動車等）購入のためのアルバイトはほぼすべての教育部で5%前後と低い。一方、社会体験のためのアルバイトと回答した割合はとくに医科学（20%）、薬科学（24%）で高かったものの、自由記入欄への記載もなく、具体的にどのようなものをイメージして回答しているのかはわからない。留学生では全





体の76%が生活費や学費のためのアルバイトであり、その他として日常の娯楽や社会体験のためは18%と少ない。

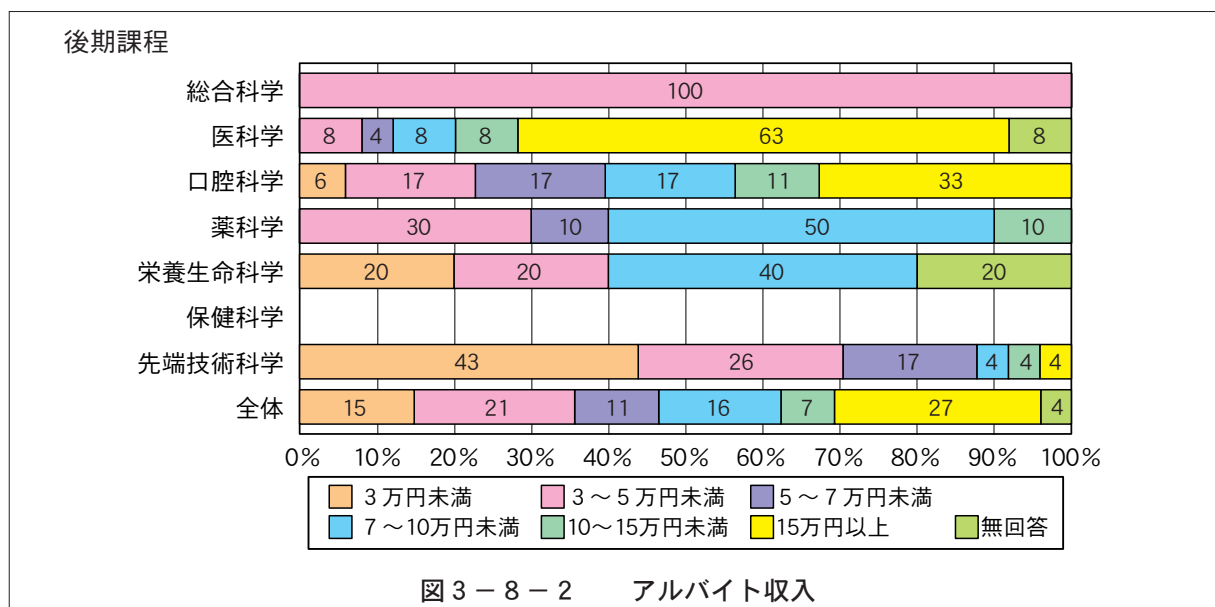
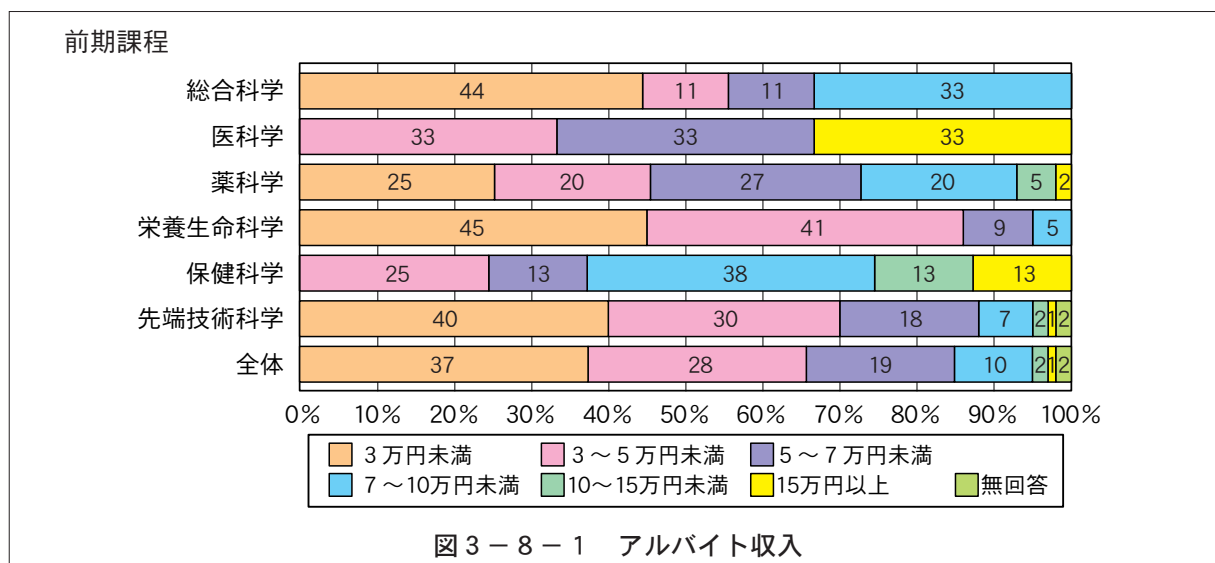
後期課程では、全体の67%が生活費や学費、学会参加のためのアルバイトであり、前期課程と比較しても割合が高くなっている。一方、レジャー・旅行、遊びなどの交遊費捻出を目的とする割合は9%で、前期課程と比較してきわめて低い。総合科学はアルバイト従事者数4名であり、保健科学は0名であるため比較はできないが、そのほかの教育部の比較として、医科学、口腔科学、先端技術科学では、全体としての割合と同じく、70%弱が生活費や学費、学会参加など大学院生としての生活費捻出を目的としている。栄養生命科学では生活費や学費のためが40%と比較的低く、レジャー・旅行などの交遊費にあてる割合が30%と高い。前期課程と同様、社会体験のためやその他と回答したものが20%前後と比較的高かったが、自由記入欄への記載がないため具体的な目的は不明である。留学生では前期課程以上に生活費や学費のためのアルバイトである割合が高く、93%を占めている。

3-8 アルバイト収入金額 (図3-8-1, 図3-8-2)

前期課程では、全体の37%が3万円未満、28%が3～5万円未満、残りの33%（無回答を除く）が5万円以上のアルバイト収入がある。教育部の比較では、総合科学、栄養生命科学、先端技術科学ではアルバイト収入が3万円未満である割合が40～45%で、半数近くを占める。この3教育部では一部を除き、ほぼすべての大学院生のアルバイト収入は10万円未満である。医科学は3～5万円未満、5～7万円未満、10～15万円未満がそれぞれ33%ずつを占めている。薬科学では3万円未満、3～5万円未満、5～7万円未満、7～10万円未満がほぼ同じ割合（20～27%）を占めており、10万円以上のアルバイト収入を得ているものは7%に過ぎない。保健科学では、7～10万円未満が38%と最も多く、10万円以上の収入を得ている大学院生の割合も26%で、約4分の1を占める。留学生ではすべて7万円未満の収入である。

後期課程では、全体の63%はアルバイト収入が10万円未満であるが、10万円以上の収入を得ている割合は34%で、前期課程（3%）と比較してアルバイト収入額が増加している。教育部での比較では、総合科学、保健科学は該当人数が少ないため評価はできないものの、医科学の63%、口腔科学の33%がアルバイト収入額15万円以上であり、大学院生の多くが社会人大学院かあるいは、それぞれの教室か

らのアルバイト先での収入を得ていると考えられる。薬科学および栄養生命科学ではそれぞれ50%、40%が7～10万円未満のアルバイト収入である一方、先端技術科学ではアルバイト収入が7万円未満である割合が86%を占めている。留学生では、3万円未満、3～5万円未満、5～10万円未満がそれぞれ約3分の1を占めている。

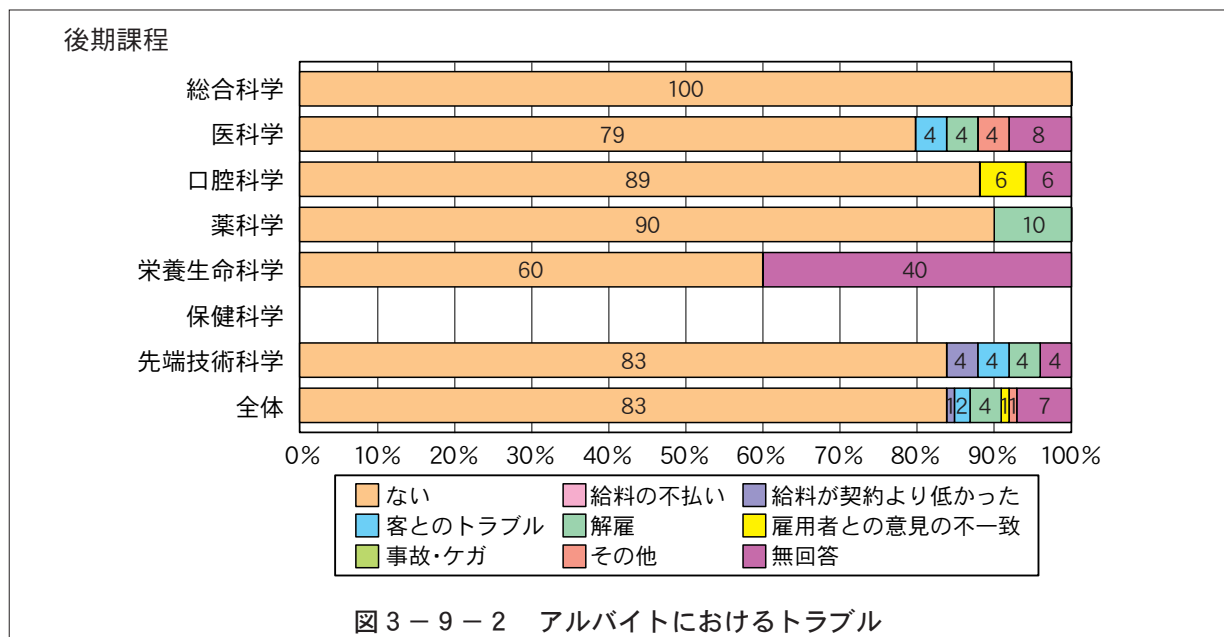
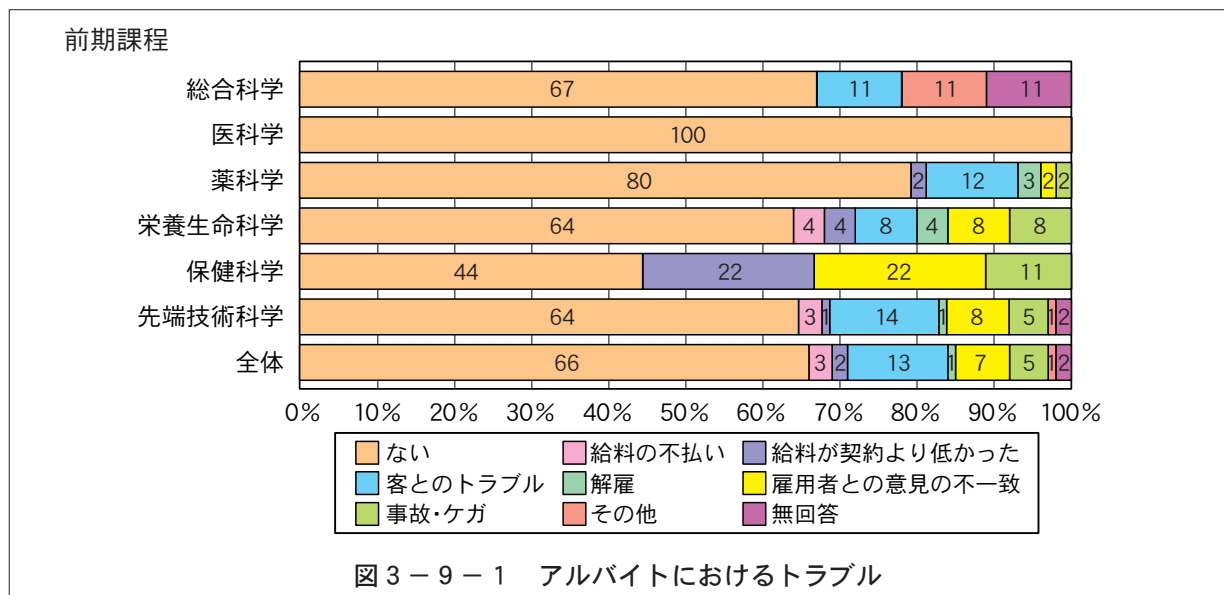


3-9 アルバイトにおけるトラブル (図 3-9-1, 図 3-9-2)

前期課程では、全体の3分の2にはトラブルは見られない。もっとも多いトラブルは客とのトラブルで13%、ついで雇用者との意見の不一致(7%)、事故・怪我(5%)が多い。教育部別では、医科学は100%トラブルを経験したことがない。ついで薬科学では80%でトラブルの経験がなく、総合科学、栄養生命科学、先端技術科学も約3分の2の院生がトラブル経験はないと回答している。これらの教育部の院生が経験したトラブルとしては客とのトラブル(8～14%)が最も多い。保健科学ではトラブル経験なしと回答した院生の割合は44%で、残りの56%は何らかのトラブルを経験しており、その内容としては給料が契約より低かったこと(22%)、雇用者との意見の不一致(22%)が最も多く、ついで事故・怪我(11%)であり、その他の教育部の院生のトラブルとはその種類を異にしている。留学生では

全体の71%にトラブルはないものの、それぞれ1名に客とのトラブル、雇用者との意見の不一致が見られる。また、先端技術科学の前期課程留学生からの自由回答として、アルバイト先が寒い、あるいは遠いといったことが書かれている。

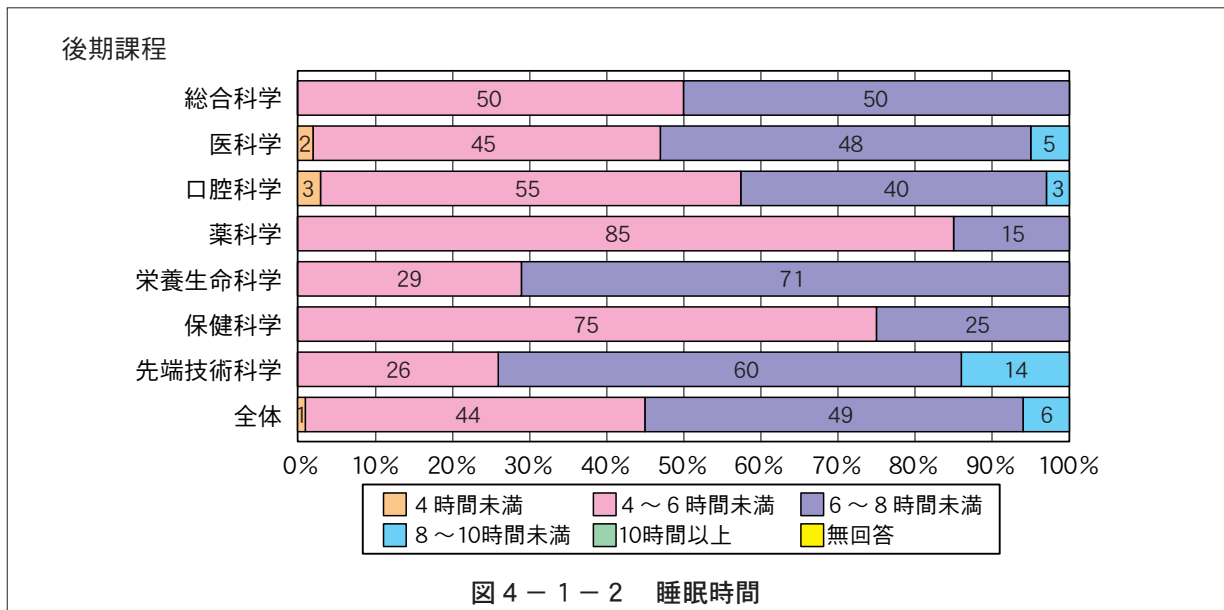
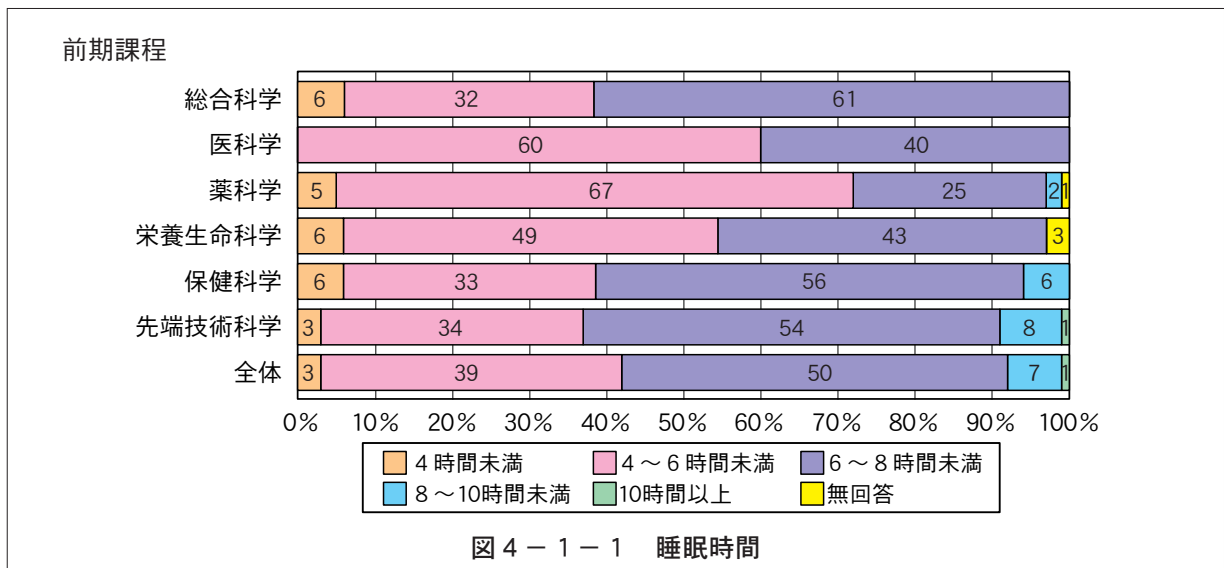
後期課程では、全体の83%はアルバイトでのトラブルの経験はなく、無回答を除くとトラブルの内容としては解雇が4%と最も多く、ついで客とのトラブルが多くみられる。教育部の比較では、総合科学は回答者が少ないものの、トラブルを経験した院生はなく、薬科学、口腔科学、先端技術科学、医科学においても79～90%はトラブルの経験がない。医科学の院生の自由回答として常勤医師からのいじめが見られる。薬科学の院生が経験したトラブルはすべて解雇であった。栄養生命科学では無回答(40%)を除く60%すべてにトラブルの経験がない。留学生では67%にトラブルの経験がないものの、1名に給料が契約より低かった、2名に解雇といったトラブルが見られる。



第4章 健康状態について

4-1 睡眠時間 (図4-1-1, 図4-1-2)

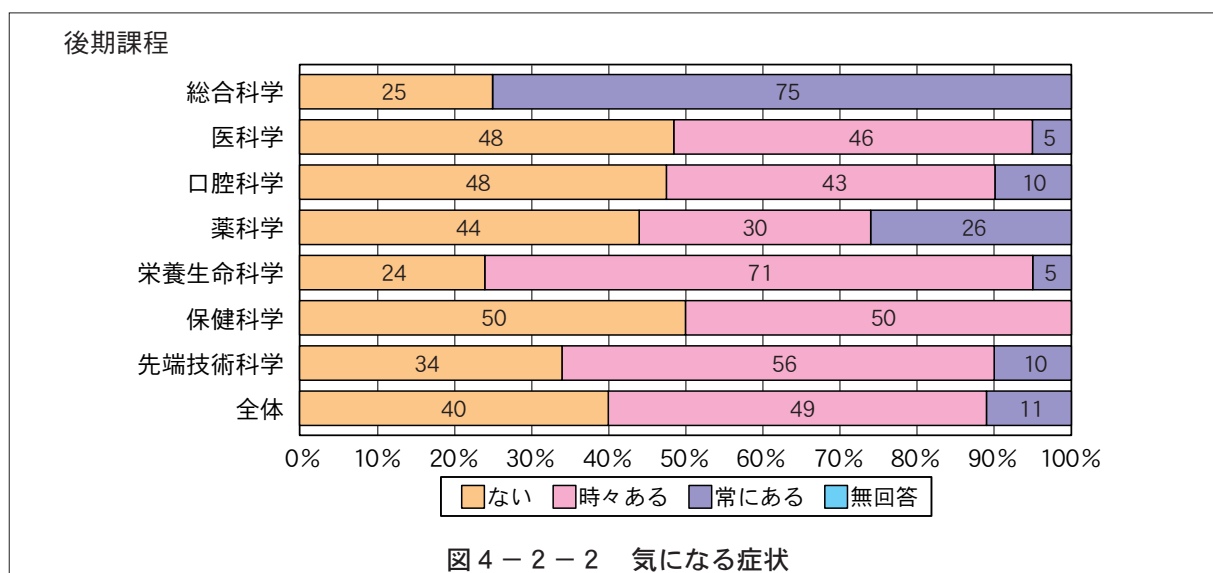
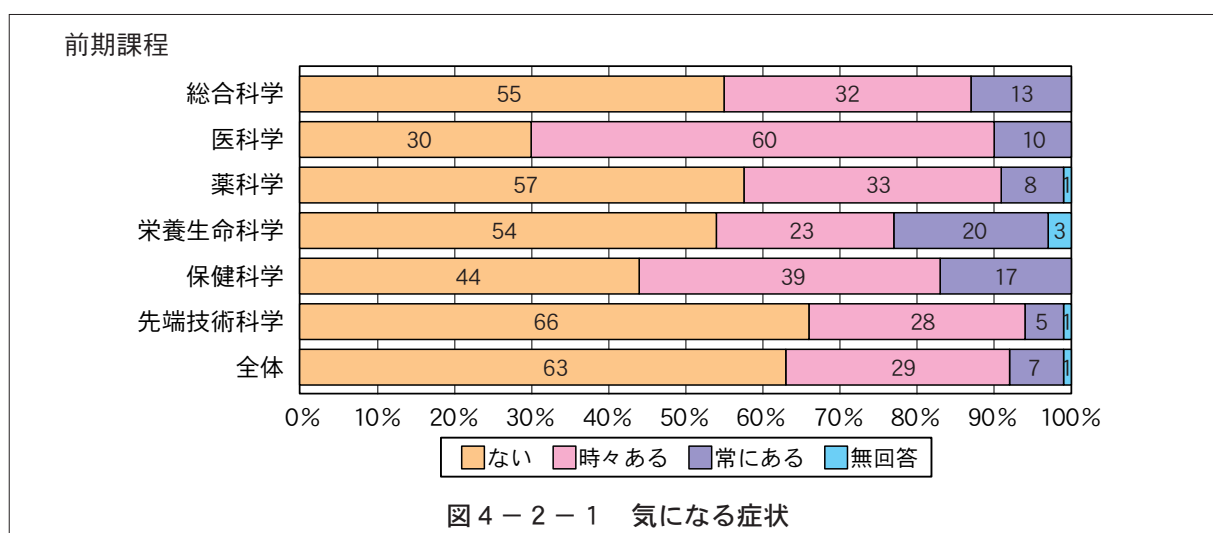
睡眠時間は全体として前期課程、後期課程で差はほとんどなく、「6～8時間未満」がそれぞれ50%および49%、「4～6時間未満」が39%、44%であった。最も健康的な睡眠時間は7～8時間といわれているため、半数の学生の睡眠は良好に保たれていると思われる。しかし6時間未満が40%強となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。教育部別では、薬科学に睡眠不足の学生が多い傾向にあると言える。睡眠不足は心身の疲労を招き、活動性の低下や心身の変調、注意力低下による事故などにもつながることが実証されているため、健康安全管理のために、睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。



4-2 気になる症状 (図4-2-1, 図4-2-2)

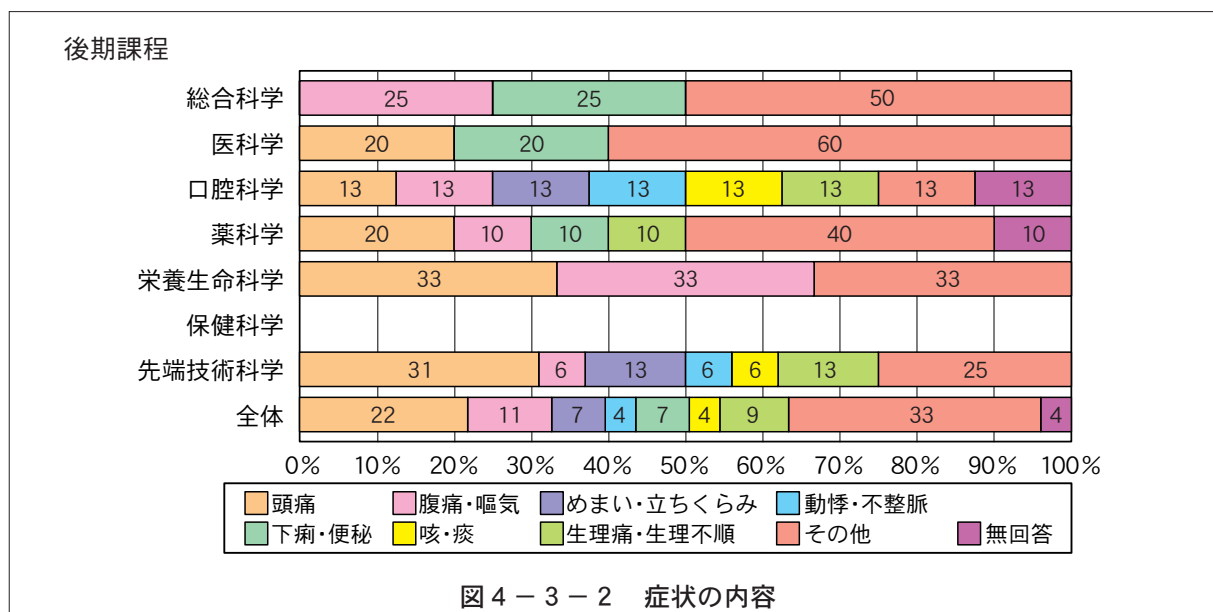
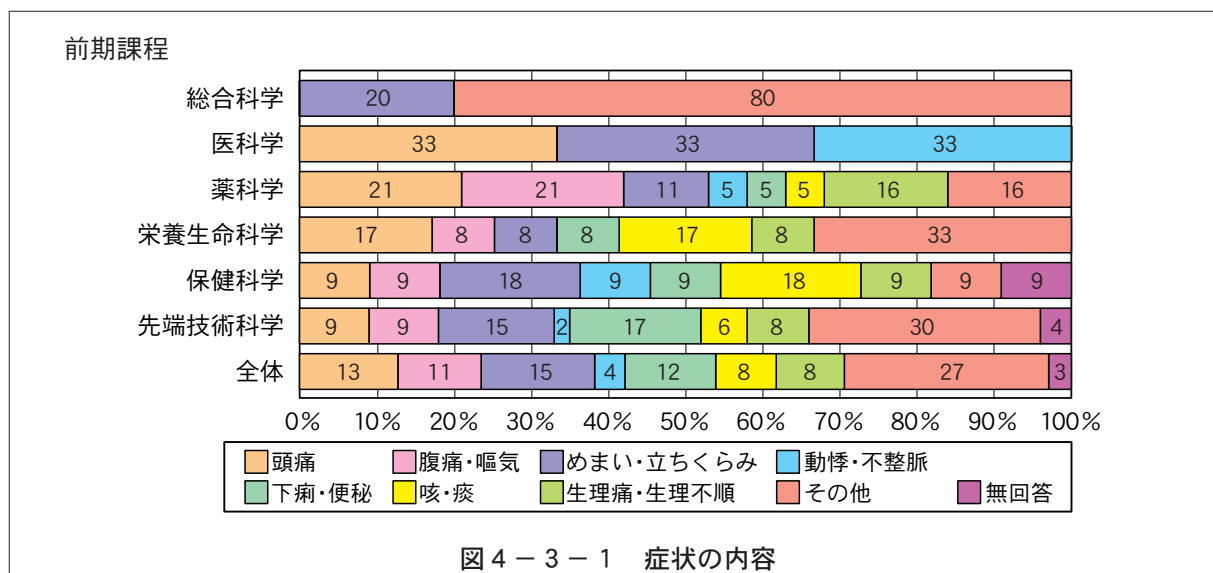
気になる症状が「ある」と答えた学生は、前期課程では36%であったが、後期課程では60%であった。後期課程では、気になる症状がある学生が多かったが、前回調査と比較して特に増加は見られなかった。前期課程の栄養生命科学、後期課程の薬科学で、気になる症状が「常にある」とした学生が4～5人に1人と多く、また後期課程の総合科学では回答数が非常に少ない影響をうけたとはいえ、75%となっており、保健管理センターなどを活用した健康相談、生活の見直しなどが望まれる。また、男女別では、気になる症状が「ある」と答えた男子は37%、女子は59%と、女子に多いのも前回調査と同様であった。

留学生では、前期・後期課程ともに「常にある」とした学生は4～6%と少ないが、「時々ある」とした学生はそれぞれ85%、82%に上っており、健康面の問題や不安に対する支援のニーズがあると思われる。



4-3 症状の内容 (図4-3-1, 図4-3-2)

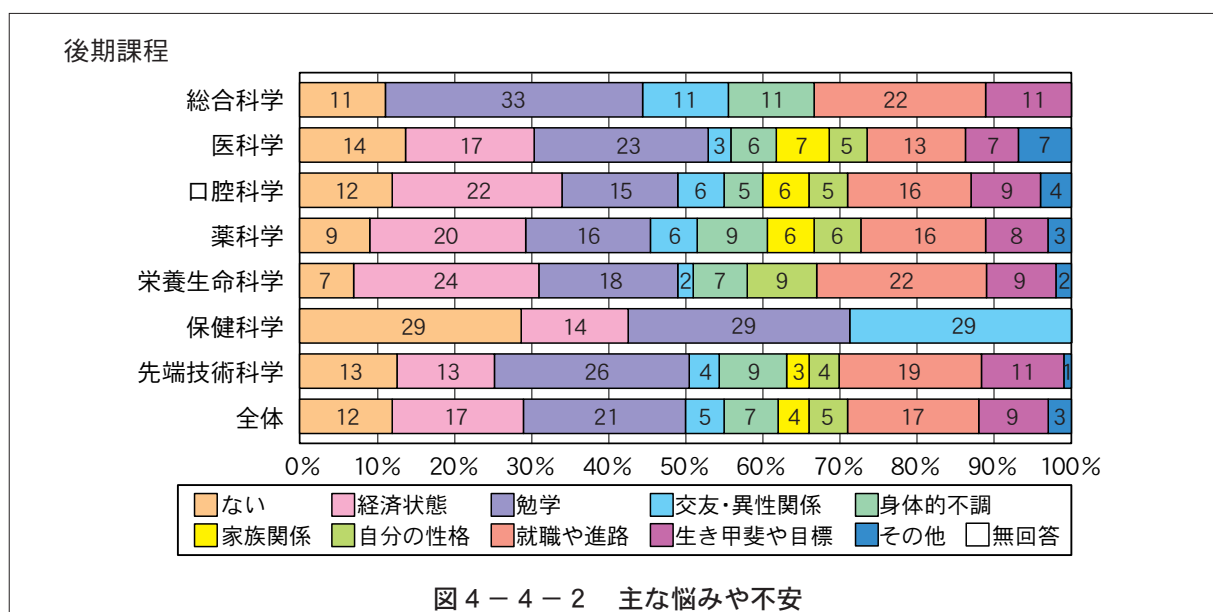
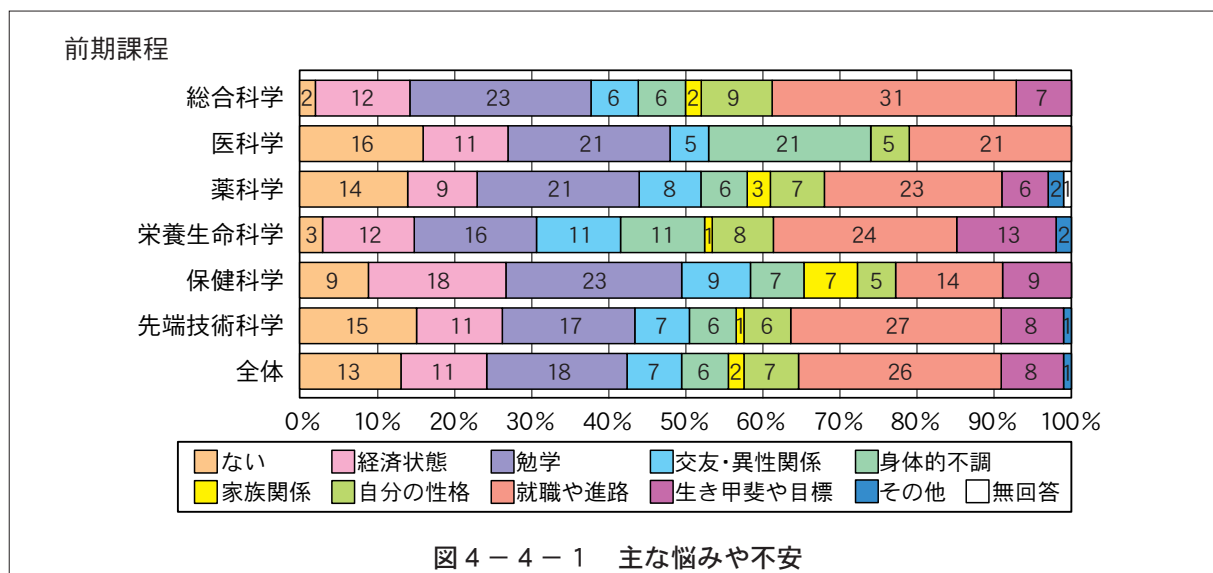
腹痛・嘔気、下痢・便秘の腹部症状、頭痛、めまい・立ちくらみが多くみられた。男女別に見ると、男子は「その他」が多く、女子では生理痛・生理不順が頭痛と並んで多かった。また、男女ともに共通して多くみられたのが、頭痛、腹部症状、めまい・立ちくらみであった。生活リズムの乱れや夜型生活、運動不足、ストレスなどの要因が考えられる。



4-4 主な悩みと不安 (図4-4-1, 図4-4-2)

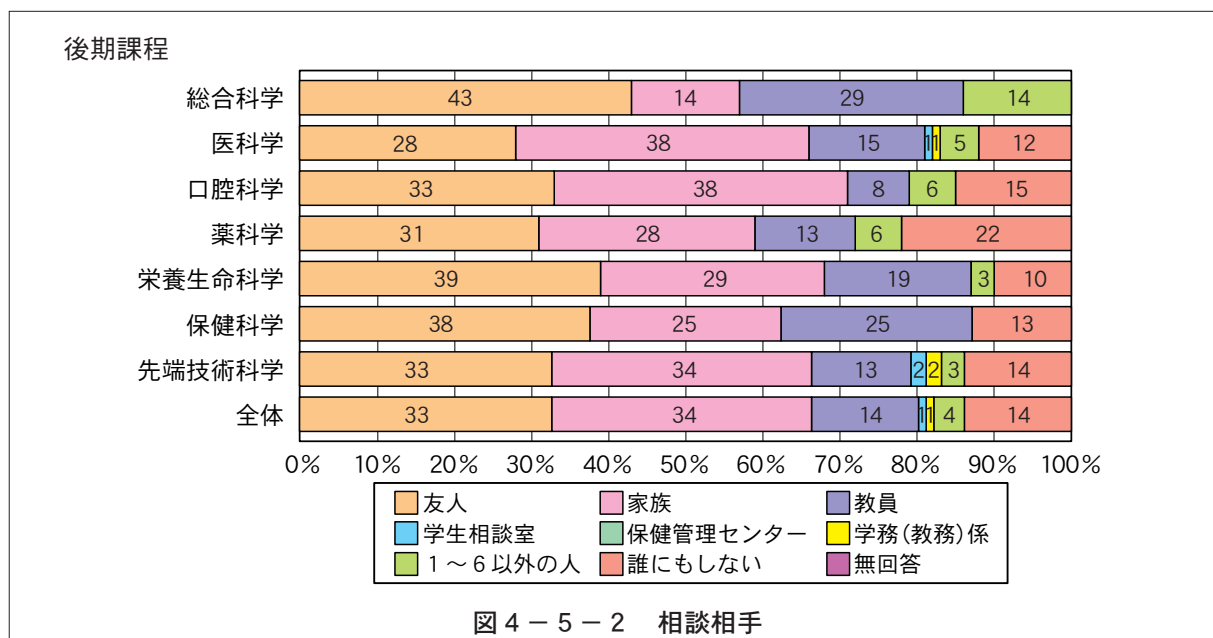
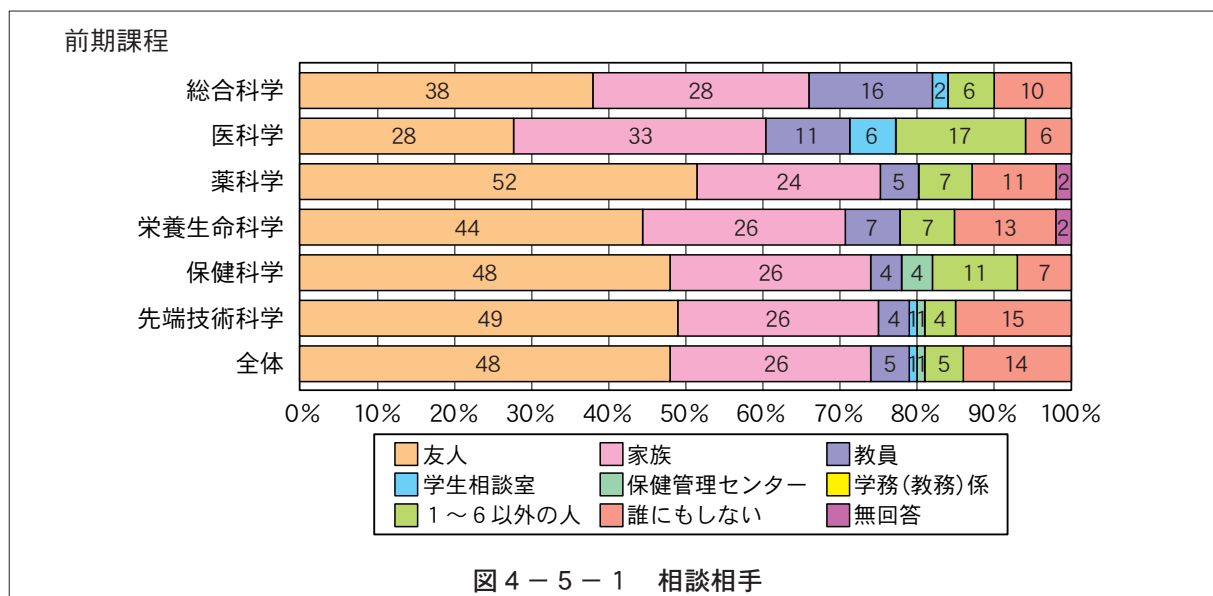
主な悩みや不安は、前期課程では「就職や進路」が最も多く、次いで「勉学」、「経済状態」であり、後期課程では「勉学」、「就職や進路」、「経済状態」の順であった。また、男女ともに共通してこの3つが上位をしめており、前回調査とほぼかわりなく、学生特有の問題を悩みとしていると言える。「身体的不調」を主な悩みとしている学生の割合は、4-2で気になる症状が「常にある」とした学生の割合とほぼ同様であった。

留学生でも、同様であったが、「勉学」「経済状態」の悩みがより多くなっていた。



4-5 相談相手 (図 4-5-1, 図 4-5-2)

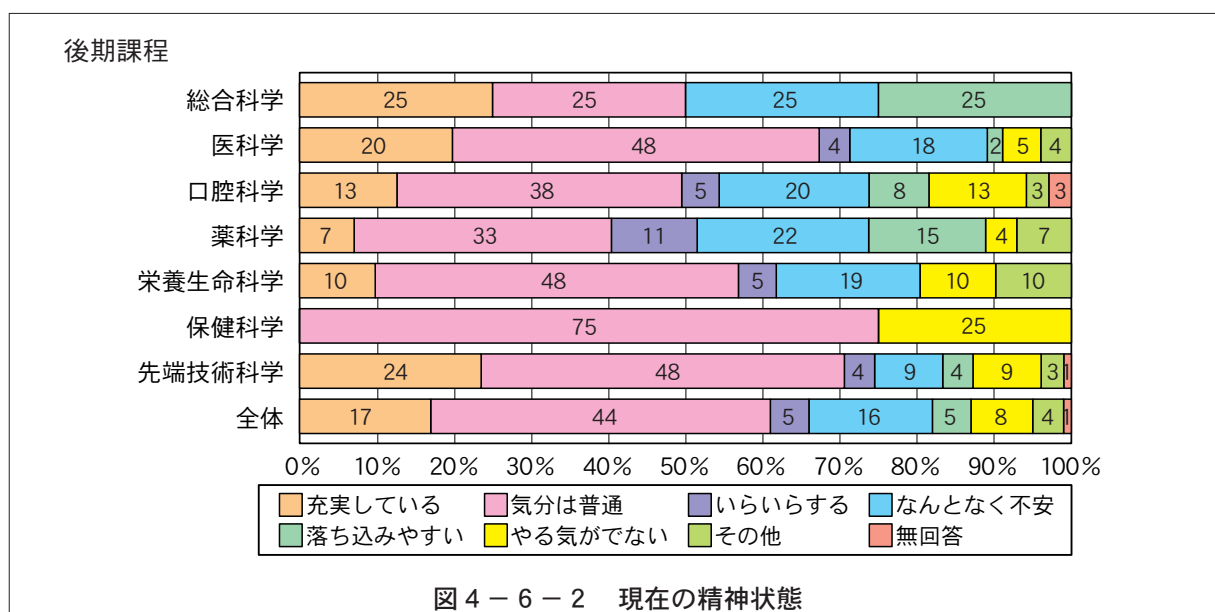
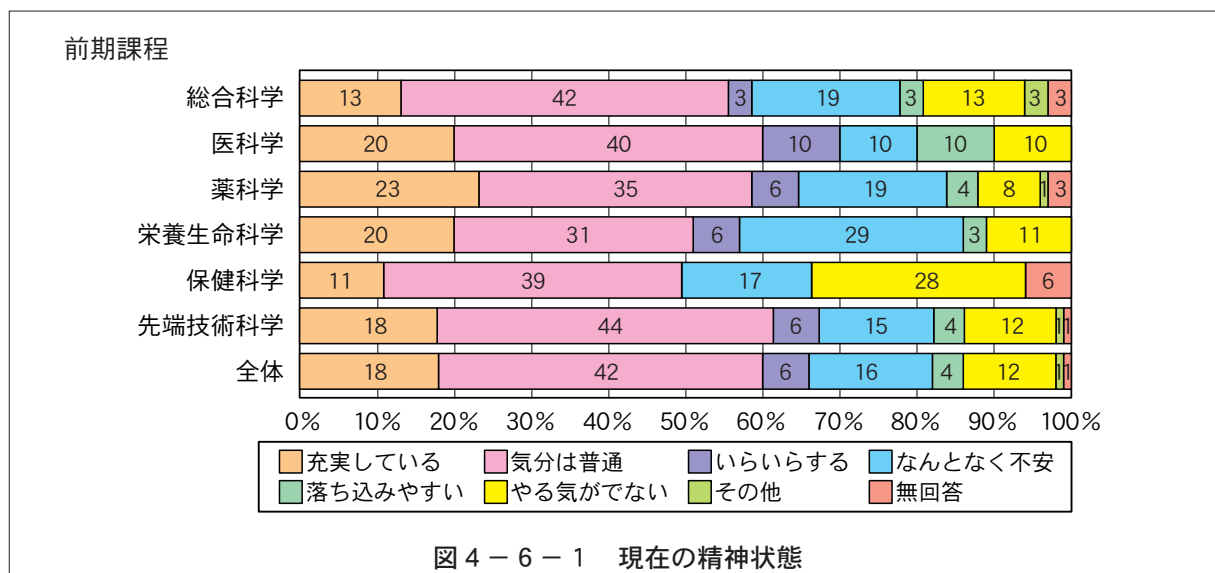
悩み事は、6～7割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが勉学や就職・進路であるため、教員が相談相手となりやすいとも考えられるが、前回調査同様、後期課程の学生は教員に相談するものが14%と多いが、前期課程では5%と少なかった。また悩みを誰にも相談しないという学生がそれぞれ14%であった。自分だけで問題を処理しようとする傾向か、あるいは相談するという行動自体に違和感をもっている、信頼して相談できる人間関係を欠いている、などの理由が考えられるが、一人で抱えこんで、ストレス耐性が低くなることが危惧される。学生相談室や保健管理センターの利用は前回調査同様、1%弱にとどまっており、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望ましい。



4-6 現在の精神状態 (図 4-6-1, 図 4-6-2)

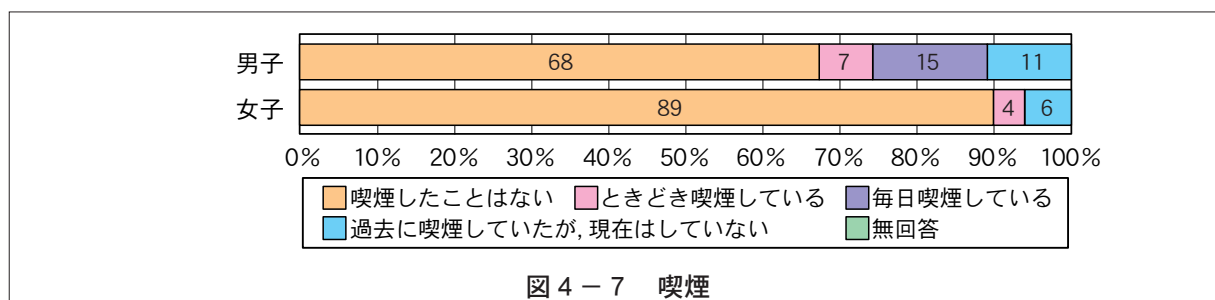
前期・後期課程ともに約6割の学生が「充実している」「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられるが、4割は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」が最も多いが、「やる気がでない」も約1割みられた。不安や意欲を持ってない状態が続くと、研究を中心とした院生生活の大きなストレスとなると思われるため、本人は早めに誰かに相談すること、周囲はいつもとは変わってきた様子に気付いて本人の話を聴くこと、などが大切である。

留学生では何らかの症状を持っているのは2割で、精神的健康は比較的保たれていると思われる。



4-7 喫煙 (図 4-7)

「喫煙したことはない」のは男子68%、女子89%、「過去に喫煙していたが、現在はしていない」のが男子11%、女子6%であり、喫煙率は男子21%、女子が5%という結果となった。日本の20歳代の喫煙率が男子41.2%、女子14.3%（平成20年）であることと比較すると、喫煙率は低く、良い傾向であると言える。長期間の喫煙習慣はさまざまな有害作用を健康に及ぼすため、学生時代に喫煙を習慣づけないことが望ましい。



4-8 飲酒 (図4-8)

「たまに飲酒する」と答えた学生が男子59%、女子63%と最も多く、「飲酒はしない」と答えた学生も男子17%、女子21%で、7～8割の学生に飲酒習慣がないとの結果だった。飲酒習慣のある2～3割の学生のうち、週3～4日以上飲んでいる学生が6～10%であるが、1回の飲酒量が問題となる。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g（日本酒だと1合）と言われている。アルコールの過剰摂取が長期間継続すると、アルコール関連健康障害などの酒害につながるため、適量飲酒に留意することが必要である。

留学生では97%が「たまに飲酒する」か「飲酒しない」であり、飲酒習慣がある学生は3%とわずかであった。

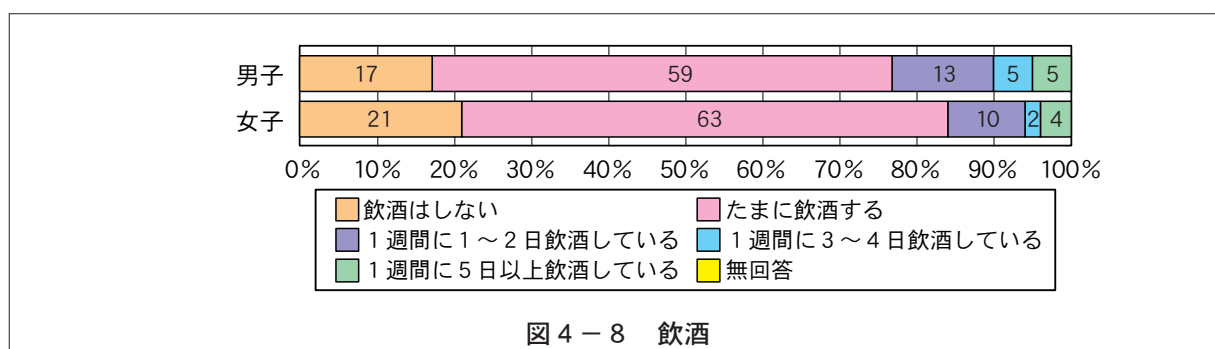


図4-8 飲酒

4-9 保健管理センターの認識 (図4-9-1, 図4-9-2)

「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生が前期4%、後期18%であり、前回調査同様後期課程の学生の認識率が低かった。また、利用率も、後期課程および蔵本地区の学生で低かった。蔵本には蔵本保健室を設置しているが、今後も蔵本地区での周知や利便性の向上を図っていく必要がある。

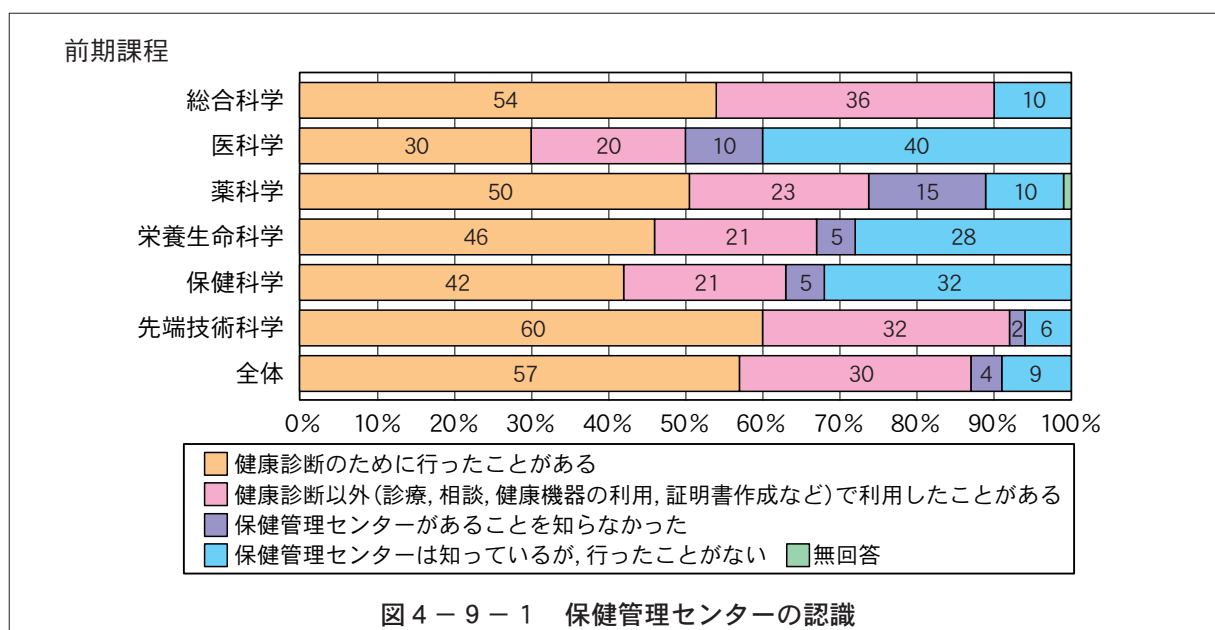


図4-9-1 保健管理センターの認識

後期課程

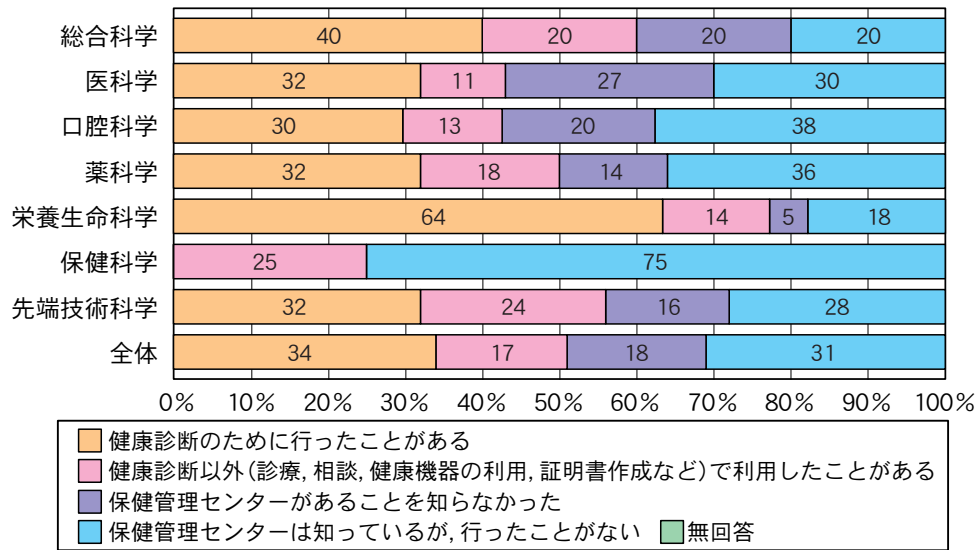
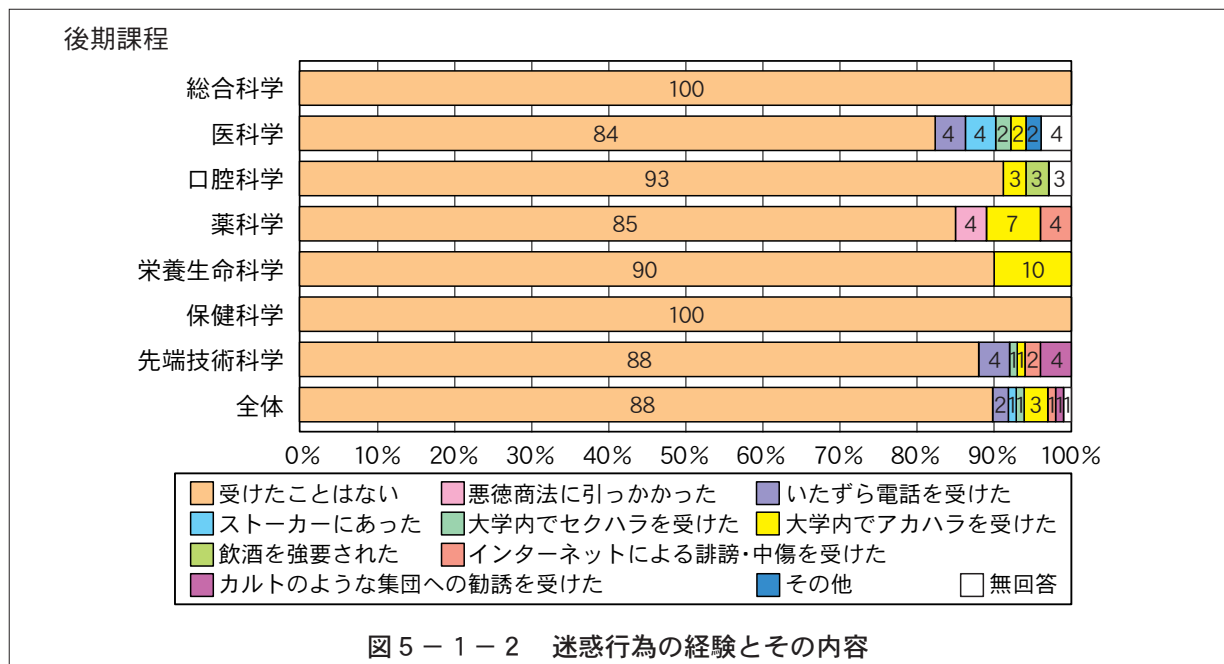
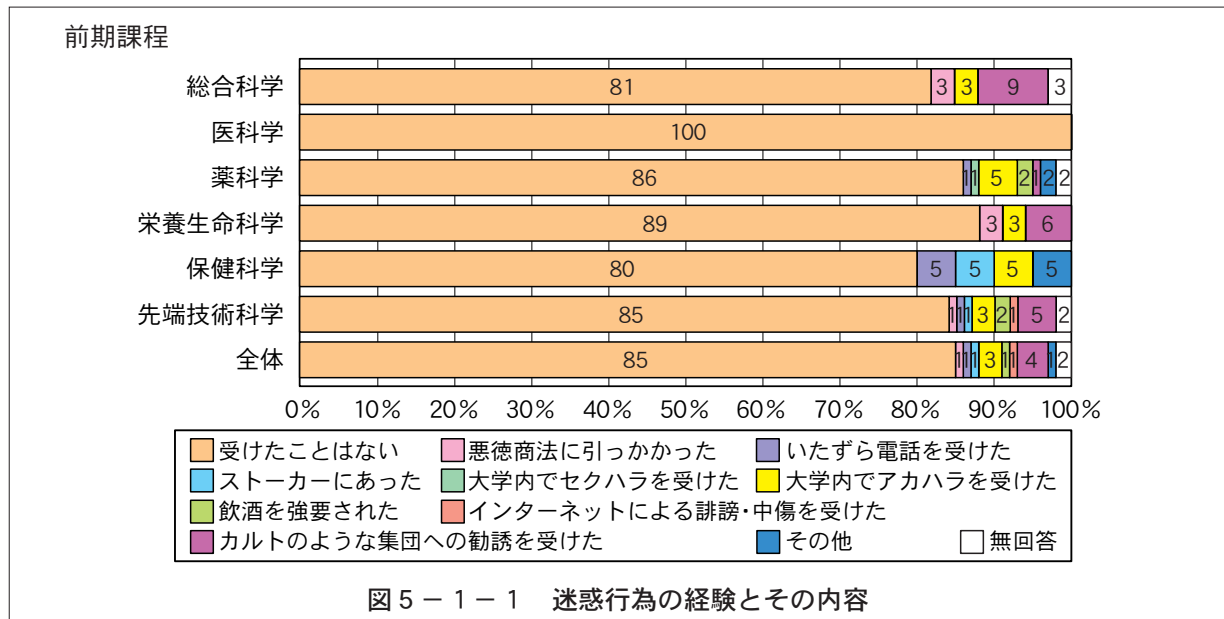


図 4 - 9 - 2 保健管理センターの認識

第5章 学生生活上の問題点

5-1 迷惑行為 (図5-1-1~図5-1-6)

図5-1-1と5-1-2は、迷惑行為を受けたことの有無と「有」の場合はどのような内容かを課程別に図示したものである。迷惑行為を受けたことがない比率は、全体平均で前期課程では85%であり、後期課程では88%となっている。前回調査結果とほぼ同様の結果である。留学生は、98名の回答中、前期課程では、いたずら電話を受けたのが1名、後期課程では、いたずら電話を受けたのが2名、アカハラを受けたのが1名、インターネットによる誹謗・中傷を受けたのが1名、カルトのような集団への勧誘を受けたのが2名であった。



[悪徳商法]

引っ掛かった学生は、前期課程では、9名（男性7名、女性2名）、後期課程では、男性1名であった。

[いたずら電話]

いたずら電話を受けたのは、前期課程では、8名（男性3名、女性5名）、後期課程では、3名（男性1名、女性2名）であった。

[ストーカー]

ストーカーにあった学生は、前期課程では、4名（男性2名、女性2名）、後期課程では、女性2名であった。

[セクハラ]

大学内でセクハラを受けた学生は、前期課程では、3名（男性2名、女性1名）、後期課程では、女性2名であった。

[アカハラ]

大学内でアカハラを受けた学生は、前回調査結果同様、迷惑行為の中では前期課程、後期課程共に3%と比率が高い。前期課程では、22名（男性15名、女性7名）、後期課程では、6名（男性3名、女性3名）であった。

[飲酒の強要]

飲酒を強要された学生は、前期課程で11名、後期課程で1名となっており、全員が男性であった。このうち9名が先端技術科学であった。

[インターネットによる誹謗・中傷]

インターネットによる誹謗・中傷を受けた学生は、前期課程では、4名（男性3名、女性1名）、後期課程では、2名（男性1名、女性1名）であった。

[カルトのような集団への勧誘]

カルトのような集団への勧誘を受けた学生は、迷惑行為のなかでは、前期課程で4%、後期課程で1%であり、前期課程では今回の調査では最も高くなっている。前期課程で33名（男性24名、女性9名）、後期課程では男性1名であった。

アカハラに関しては、今までの調査結果が対応に活かされていないと言え、今後も各教育部で適切な予防策を講じる必要がある。さらに、カルト様集団への勧誘が増加しているため、今まで以上に、さまざまな機会を通して大学院生に啓蒙・啓発活動を行う必要があると言える。

図5-1-3と5-1-4は、迷惑行為のうち、セクハラを受けた場合にどのような人に相談するかを課程別に図示したものである。留学生では、セクハラを受けたという回答はなかった。相談者は、

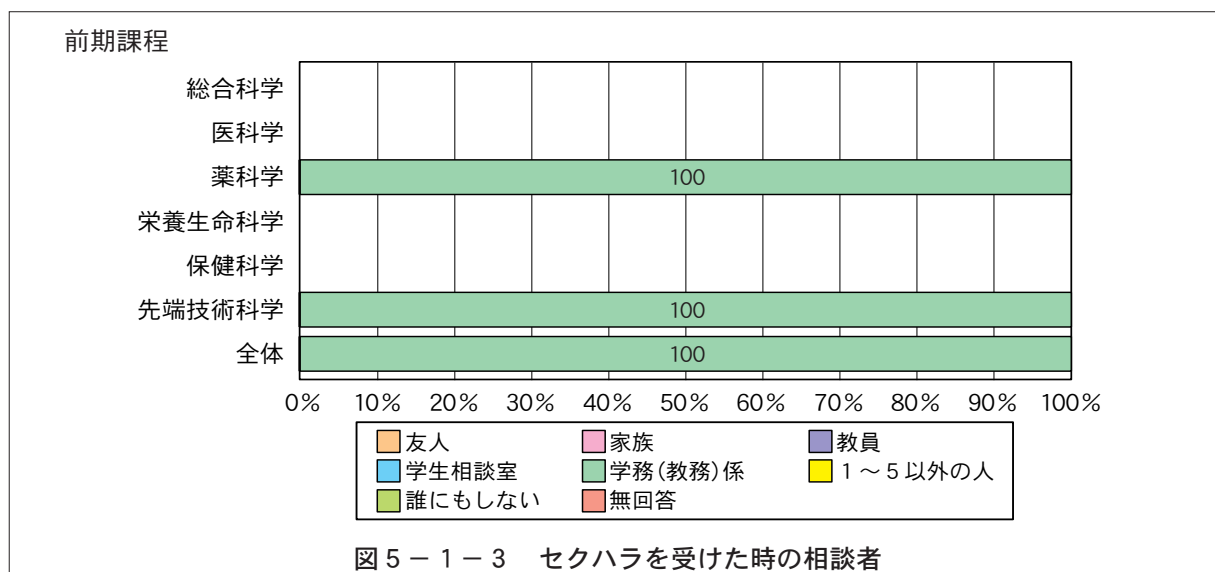
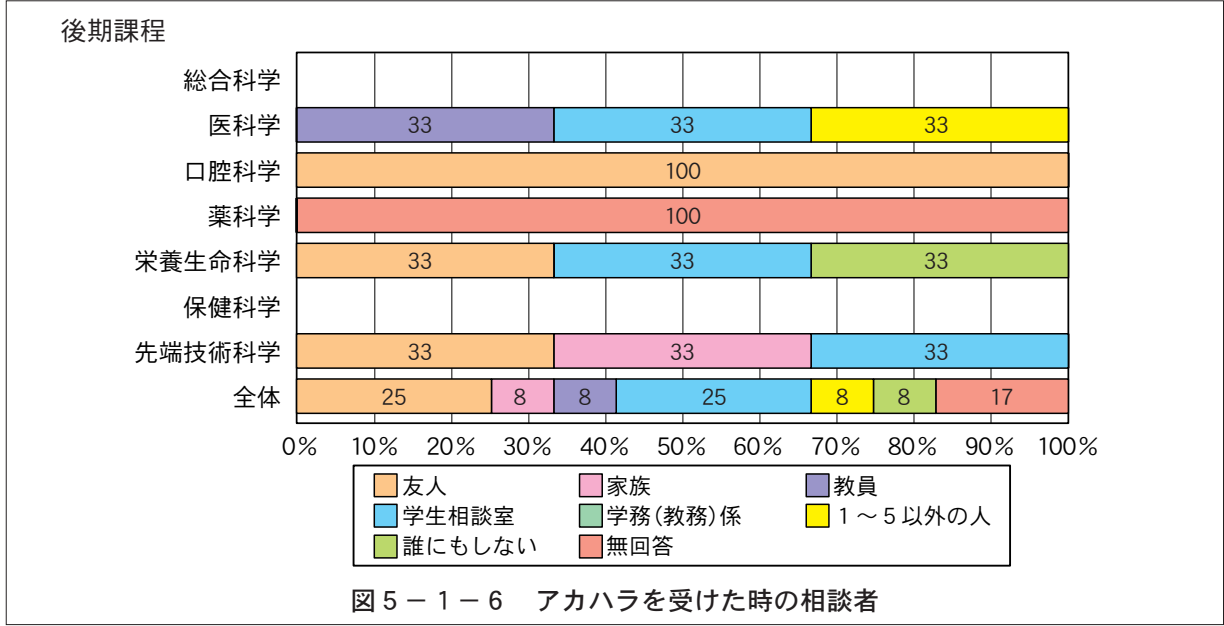
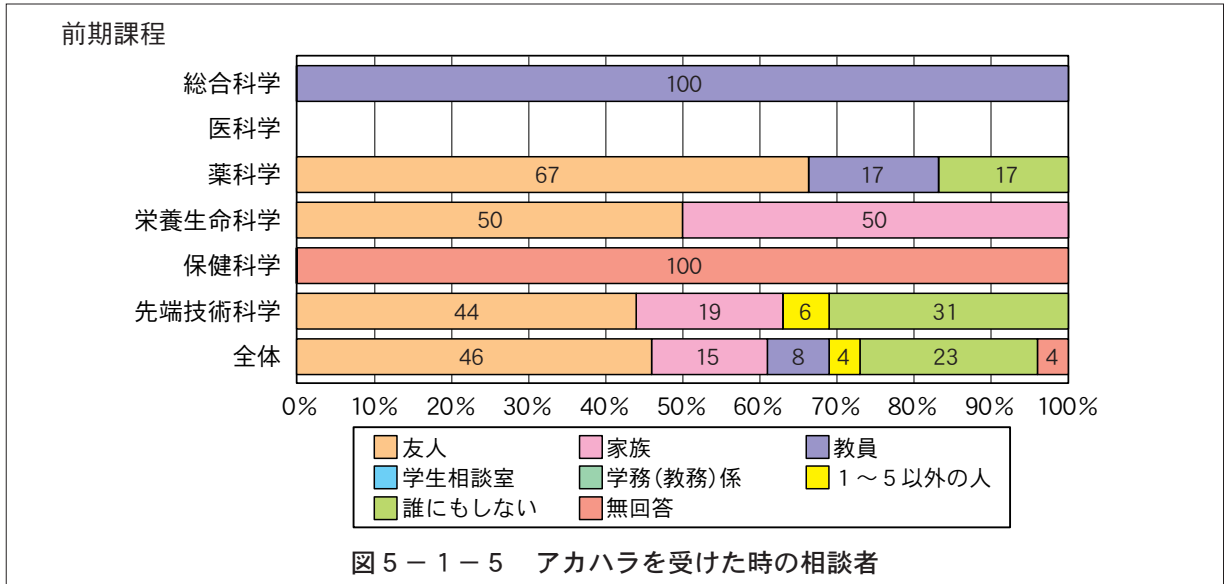
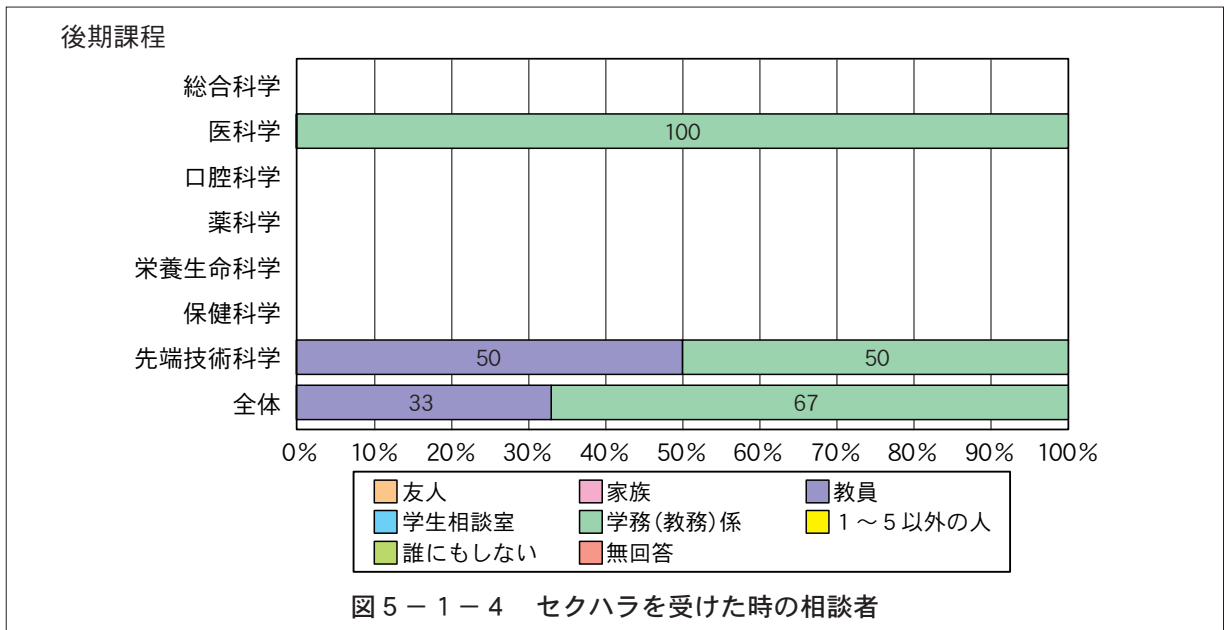


図5-1-3 セクハラを受けた時の相談者



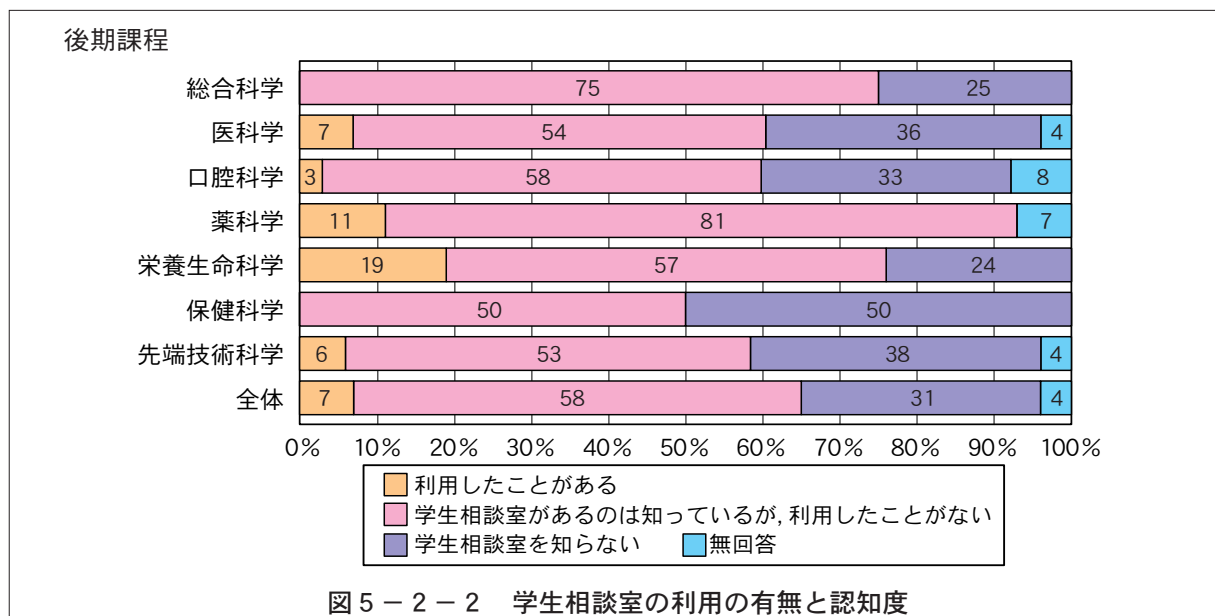
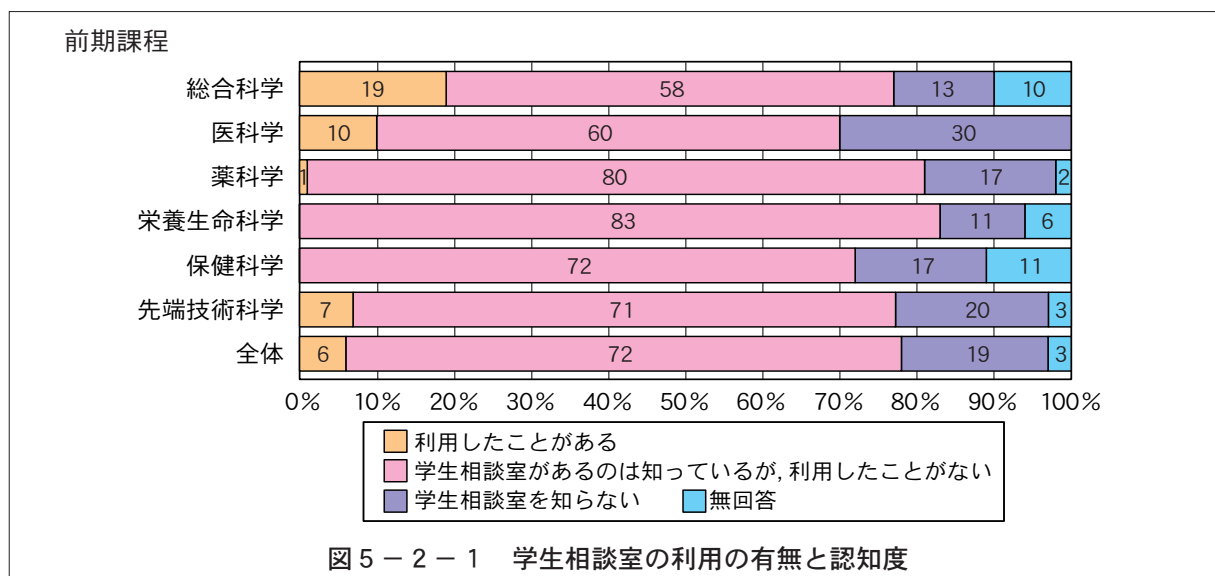
前期課程では、学務（教務）係が100%であり、後期課程では、教員が33%、学務（教務）係が67%であった。

図5-1-5と図5-1-6は、課程別に大学内でアカハラを受けた時の相談相手について図示したものである。前期課程では、友人に相談するのが46%、次いで、誰にも相談しない23%、家族15%、教員8%となっている。後期課程では、友人と学生相談室が同率の25%であり、無回答を除くと、家族、教員、選択肢以外の人、誰にも相談しないがそれぞれ8%であった。セクハラを受けたと感じた場合は事務に相談することが目立ったが、アカハラを受けたと感じた場合は友人が多いものの相談対象者は多岐に渡ると言える。

5-2 学生相談室の利用（図5-2-1～図5-2-4）

図5-2-1と図5-2-2は、課程別に学生相談室の利用の有無と認知度を図示したものである。「利用したことがある」という回答と「知っているが、利用したことはない」と合わせると前期課程では78%、後期課程では65%となり、認知度は前回調査とほぼ同様である。

留学生についても前期課程では39%、後期課程では46%となっている。これは、前回の調査報告書に



書かれているように HBS 研究部における大学院の共通科目として「医療生命倫理入門」の1コマを使用し、学生相談室の紹介とハラスメントに関する講義を行った効果の現れとも言える。

図5-2-3と図5-2-4は、学生相談室利用後の満足度を課程別に図示したものである。「満足である」と「どちらかといえば満足である」を合わせると前期課程では72%、後期課程では82%であった。相談者は学生相談室の対応にほぼ満足していると言えるが、後期課程の先端技術科学で60%が不満足であると回答している。また、留学生においても、同じく先端技術科学で不満足であると回答している比率が100%（2名）となっている。自由記述欄に回答がないため、詳細は不明であるが、対応について学生相談室はさらに研鑽を積む必要がある。

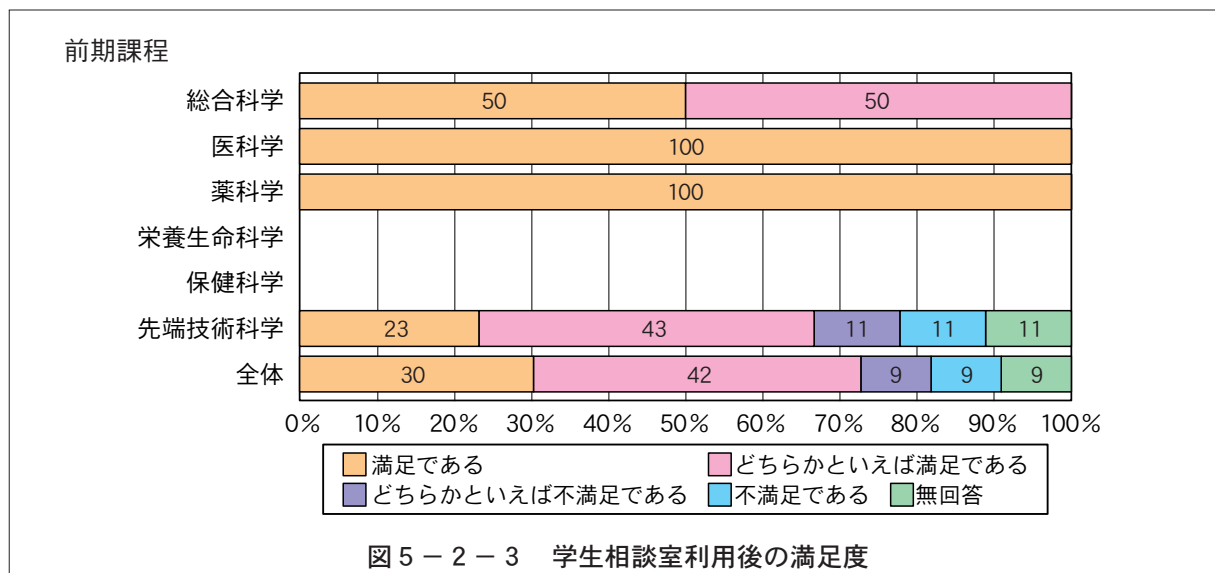


図5-2-3 学生相談室利用後の満足度

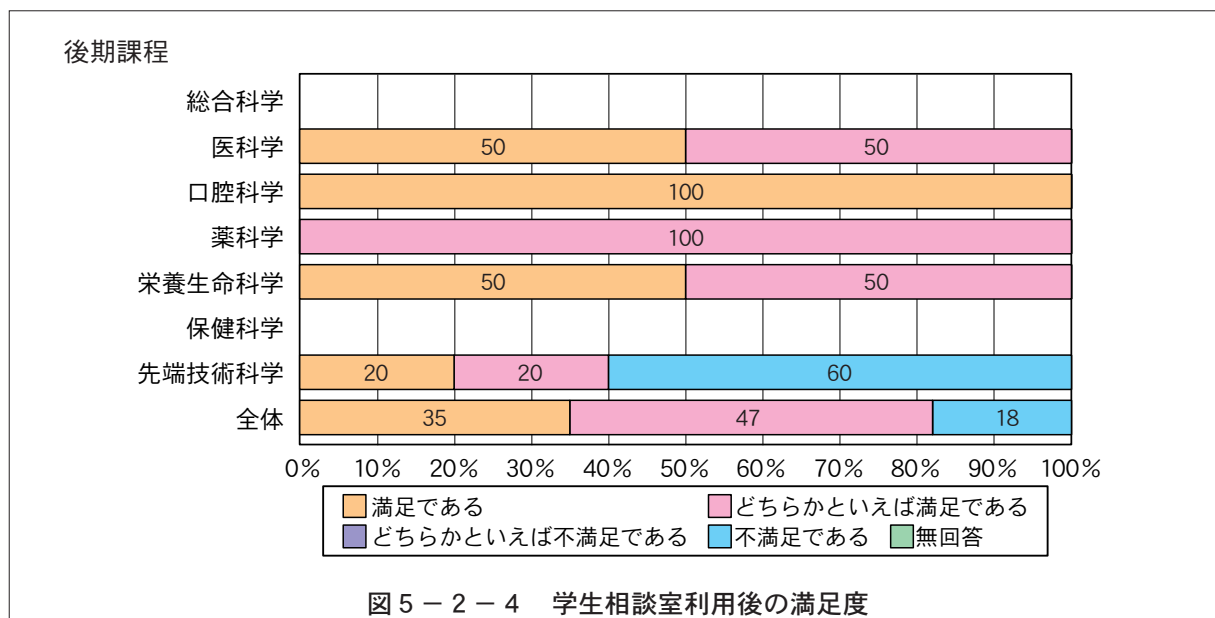
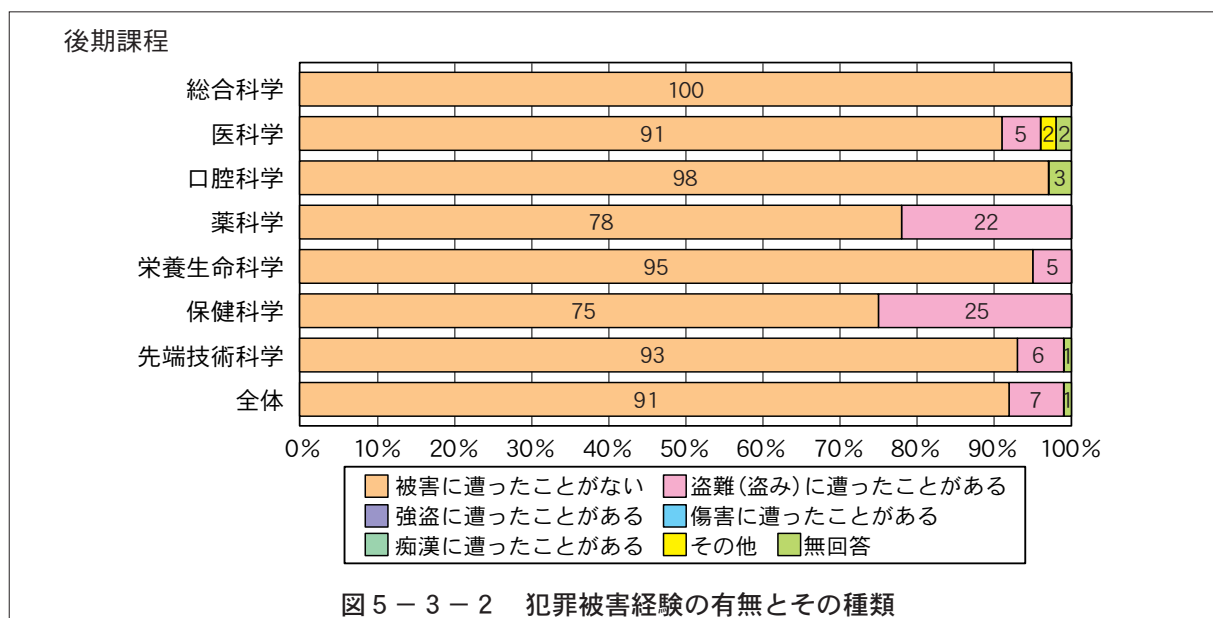
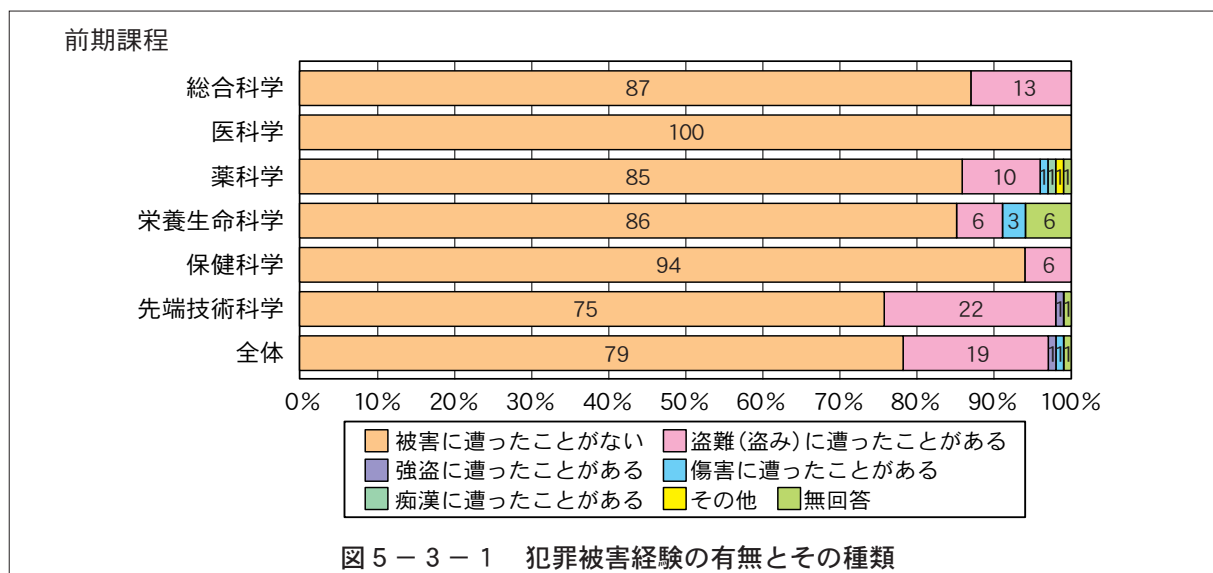


図5-2-4 学生相談室利用後の満足度

5-3 犯罪被害・交通事故・違法薬物使用 (図5-3-1~図5-3-6)

図5-3-1と図5-3-2は、犯罪被害経験の有無と経験があればどのようなものかを課程別に図示したものである。被害に遭ったことがないと回答した学生が前期課程で79%、後期課程で91%であった。後期課程の学生は前期課程に比べて被害経験が少ない。

犯罪被害の中では、盗難が、前期課程19%、後期課程7%と最も多い。留学生の傾向も同じであり、



被害に遭ったことのない学生がほとんどである。盗難被害に遭ったという学生の比率は、前期課程12%、後期課程7%であった。自由記述からは自転車の盗難が挙げられていた。強盗（男性4名）、傷害（男性2名、女性2名）、痴漢（女性2名）の被害があり、学内での被害か、学外での被害かは不明であるが、社会情勢を反映しているとも言える。

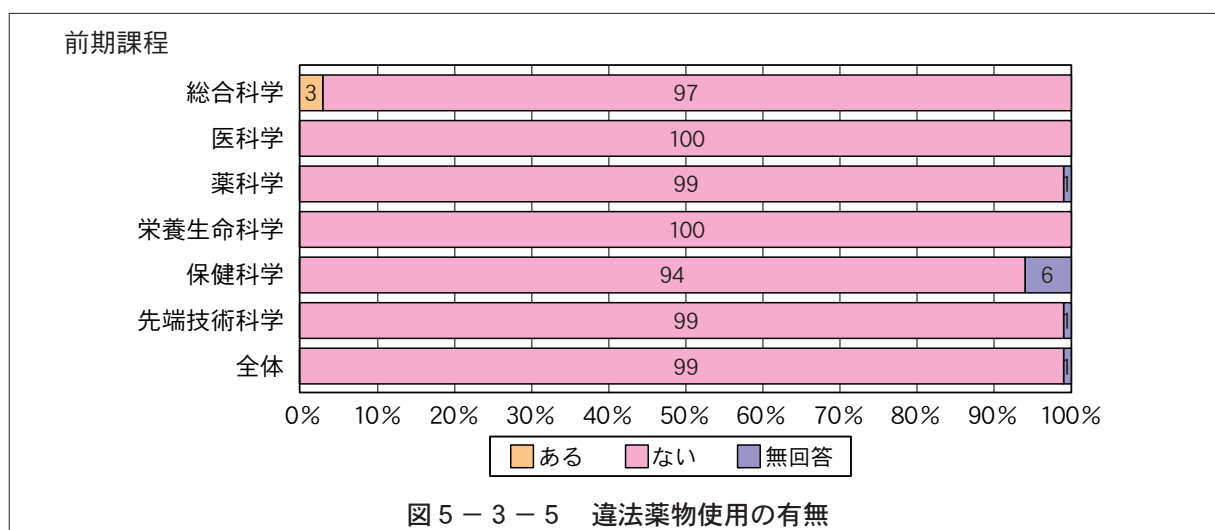
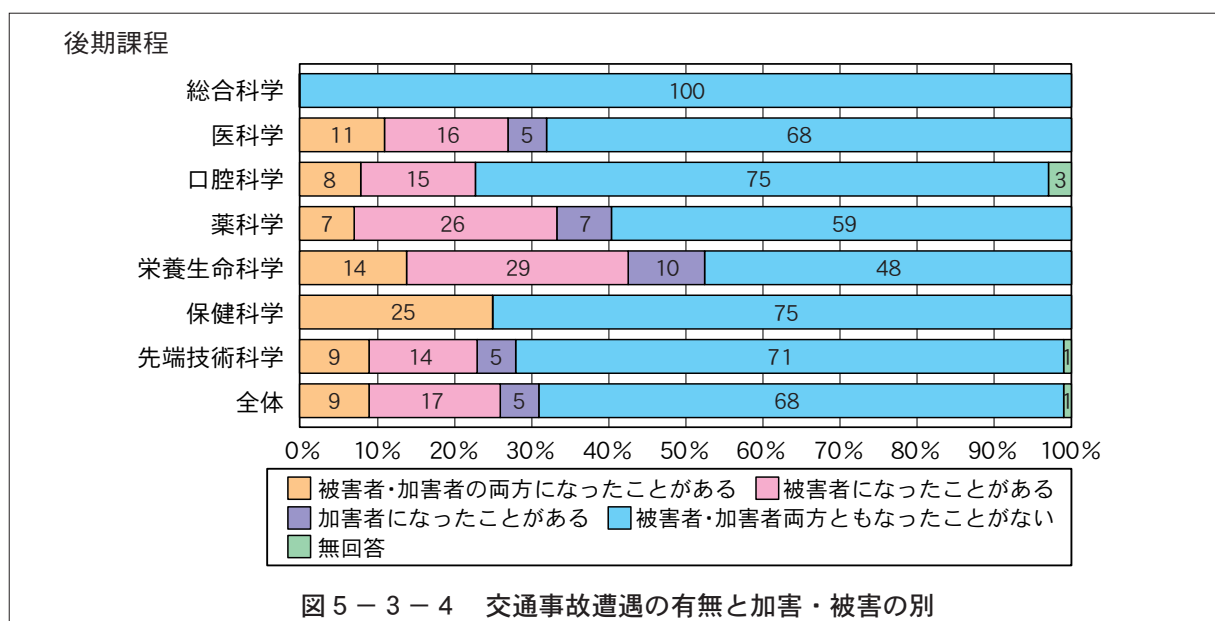
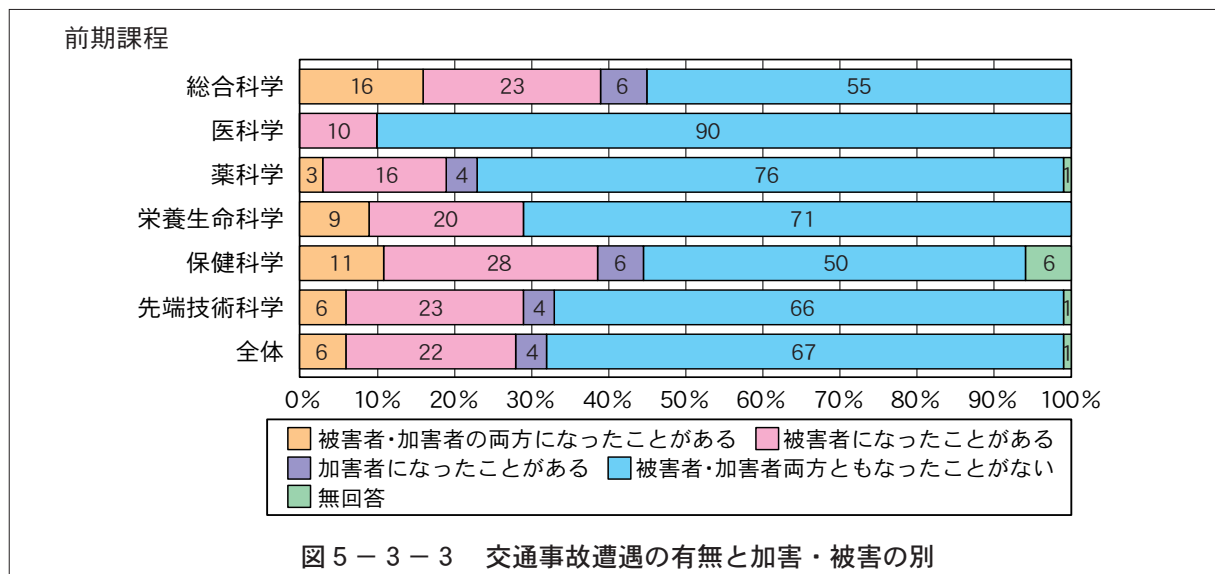
図5-3-3と図5-3-4は、交通事故遭遇の有無と加害・被害の別を課程別に図示したものである。交通事故に遭ったことがない学生が、前期課程で67%、後期課程で68%であり、選択肢の中では最も高い。留学生も同じ傾向であり、前期課程と後期課程で81%であった。被害者と加害者、もしくは被害者あるいは加害者になった比率を合計すると前期課程で32%、後期課程で31%となる。交通事故についても犯罪被害と同様、社会情勢を反映している。

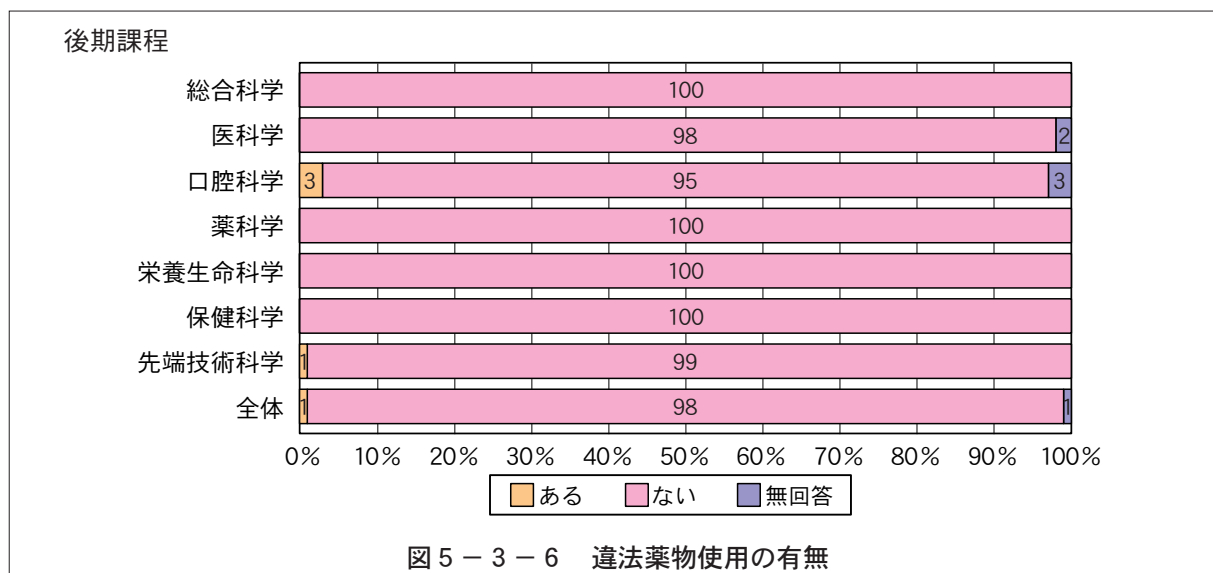
図5-3-5と図5-3-6は、違法薬物使用の有無について課程別に図示したものである。前期課程で99%、後期課程で98%が違法薬物を使用したことはないと回答している。

留学生では、前期課程・後期課程共に使用したことがないという回答が100%であった。1%の日本人大学院生が違法薬物を使用したことがあるという結果が得られた。

犯罪被害、交通事故、違法薬物使用等の傾向は、大学がユニバーサル化している状況下では特別な社会ではなく、一般社会を反映した場所になっていると言える。したがって、大学院生と雖も、大学生活

の中で、さまざまな機会を利用して、予防教育と共に保険に関する教育も行う必要があると言える。



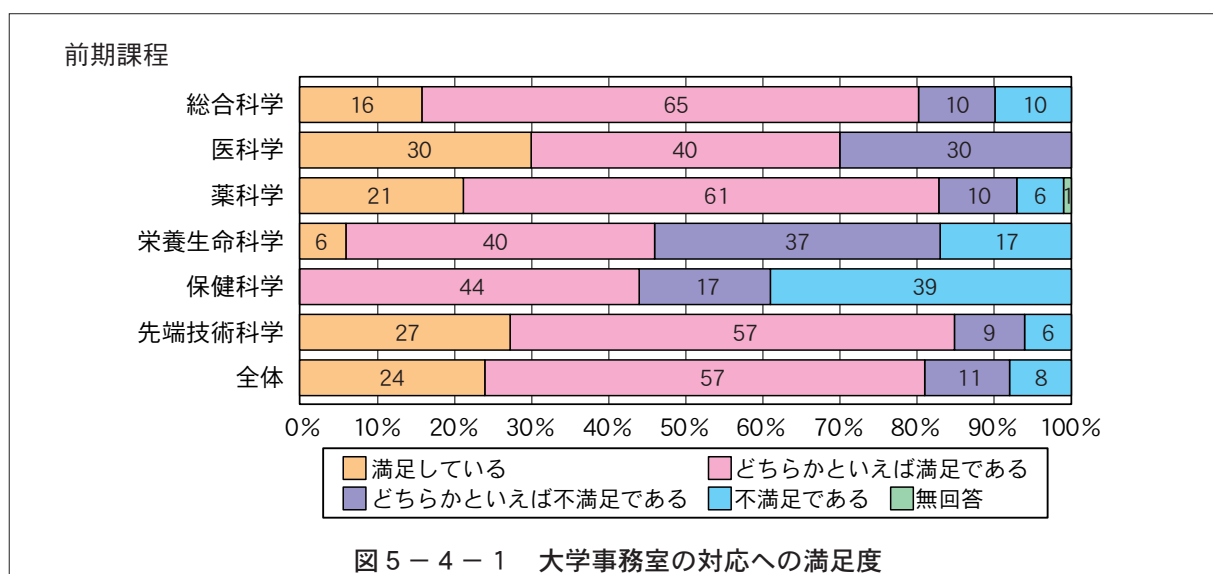


5 - 4 大学事務室の対応 (図 5 - 4 - 1, 図 5 - 4 - 2)

図 5 - 4 - 1 と図 5 - 4 - 2 は、大学事務室の対応への満足度を課程別に図示したものである。満足しているとどちらかと言えば満足であると合わせると、前期課程も後期課程も81%であった。満足しているという回答は、後期課程の方が前期課程よりも10%高かった。留学生でも前期課程で96%，後期課程で93%が満足している、あるいはどちらかと言えば満足であると回答していた。前回の調査時とほぼ同様の比率となっている。

また、教育部別にさらに検討すると、これも前回調査結果と同様、栄養生命科学と保健科学の満足度が低い。事務職員は毎年異動することを勘案すると、やはり、大学院生が学習したり、研究したりしている場所と事務室の場所が離れていることが原因ではないかと言える。

どちらかと言えば不満足であると不満足であるという回答には、自由記述を求めた。これも前回調査時同様、多くの記載があり、総合科学2件、医科学7件、栄養生命科学8件、保健科学3件、口腔科学1件、薬科学3件、先端技術科学23件で、合計47件であった。留学生からの英語の理解力が低く、自分の言うことを正しく理解してくれないという記述は複数あった。また、全面禁煙の場所で喫煙しているといったマナーの悪さを訴えるものもあった。職員に対するSDも行われていると思うが、英語能力



後期課程

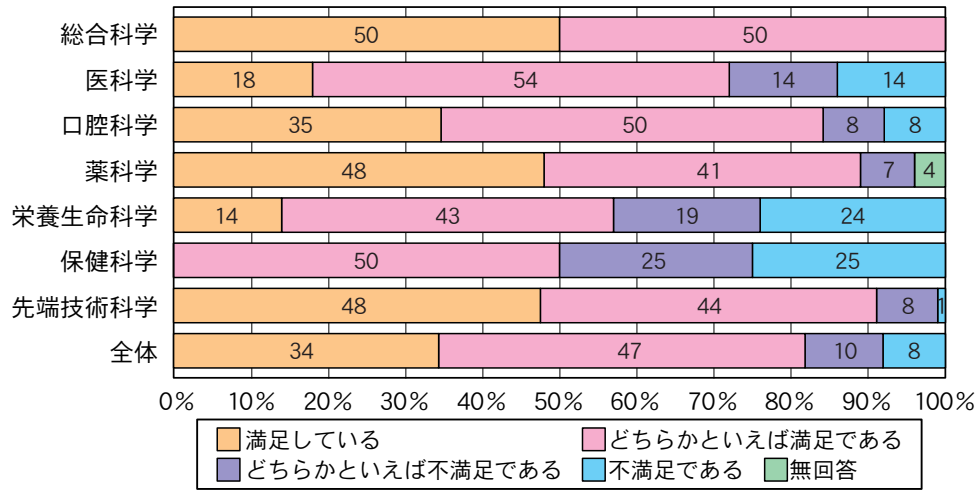


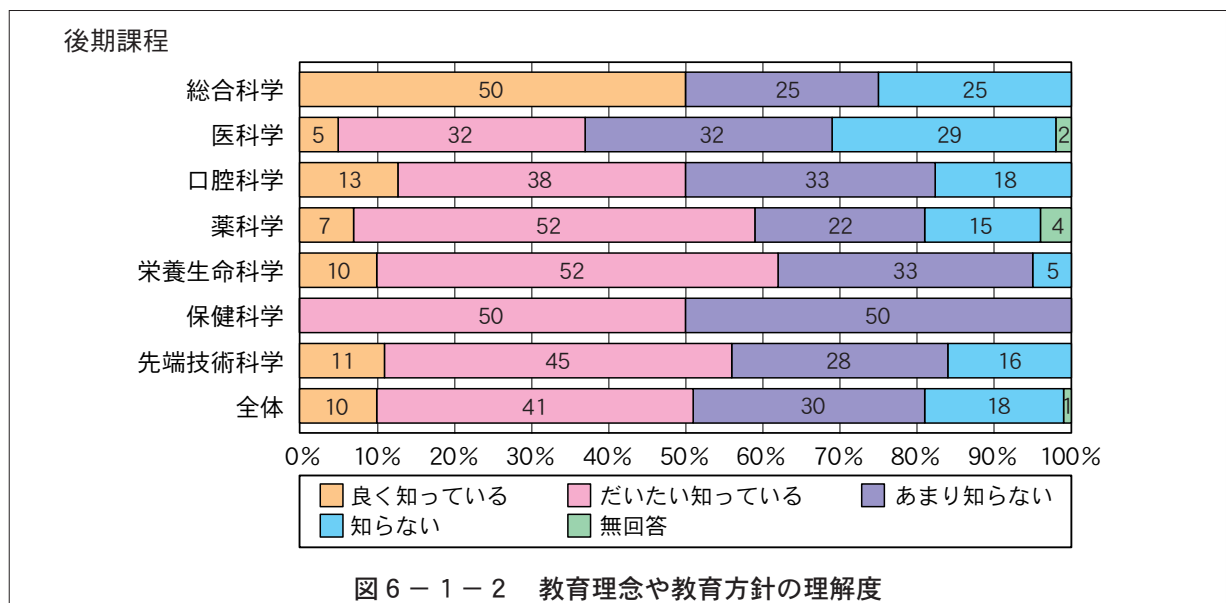
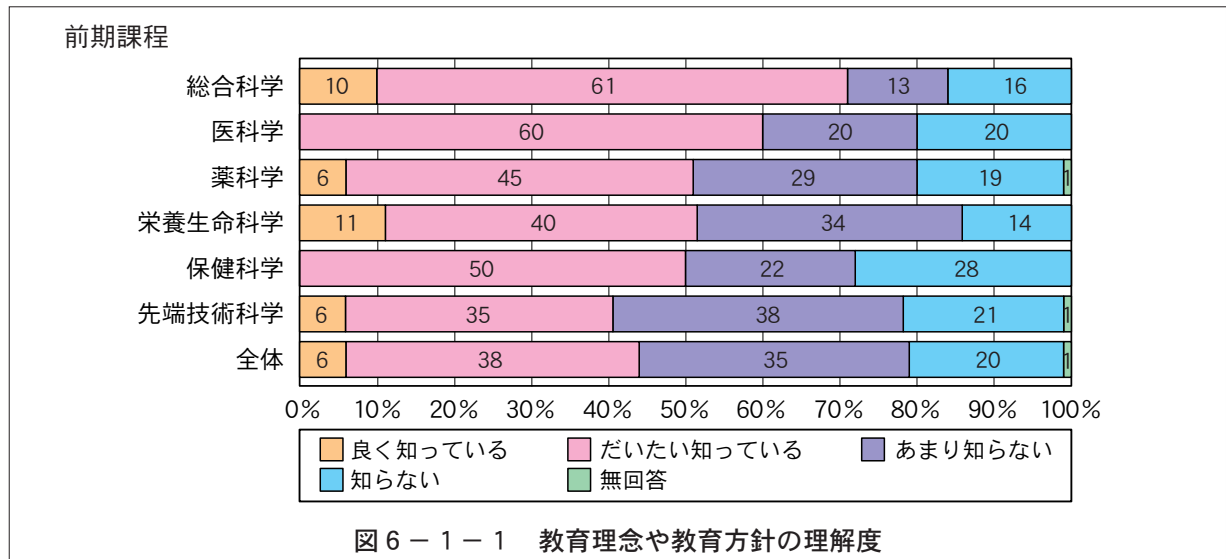
図 5 - 4 - 2 大学事務室の対応への満足度

の向上訓練も必要かもしれない。

第6章 修学状況について

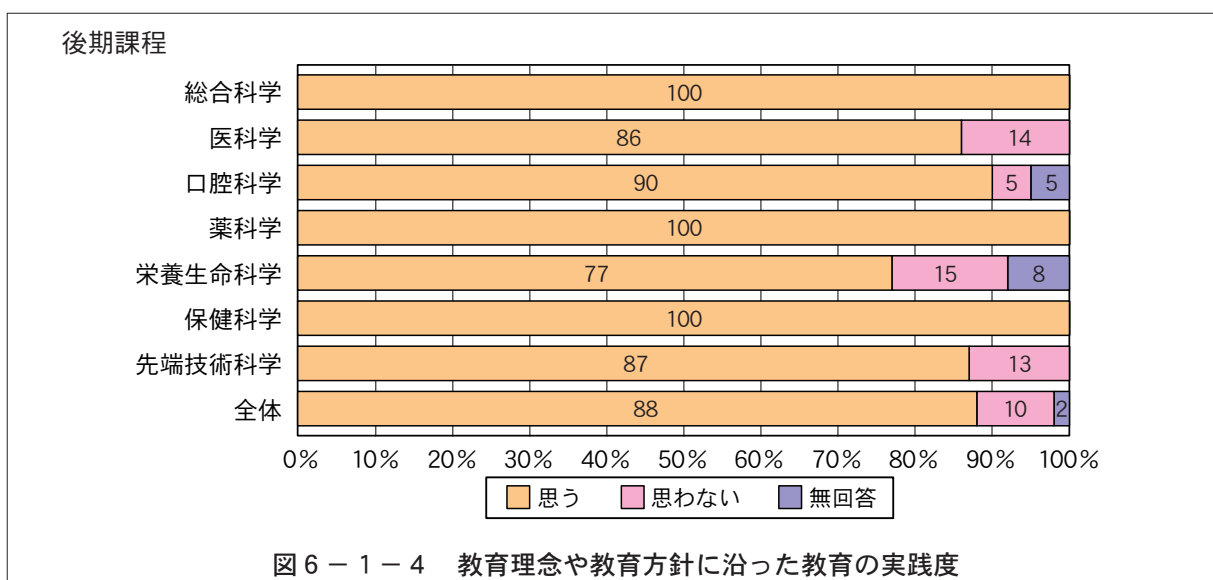
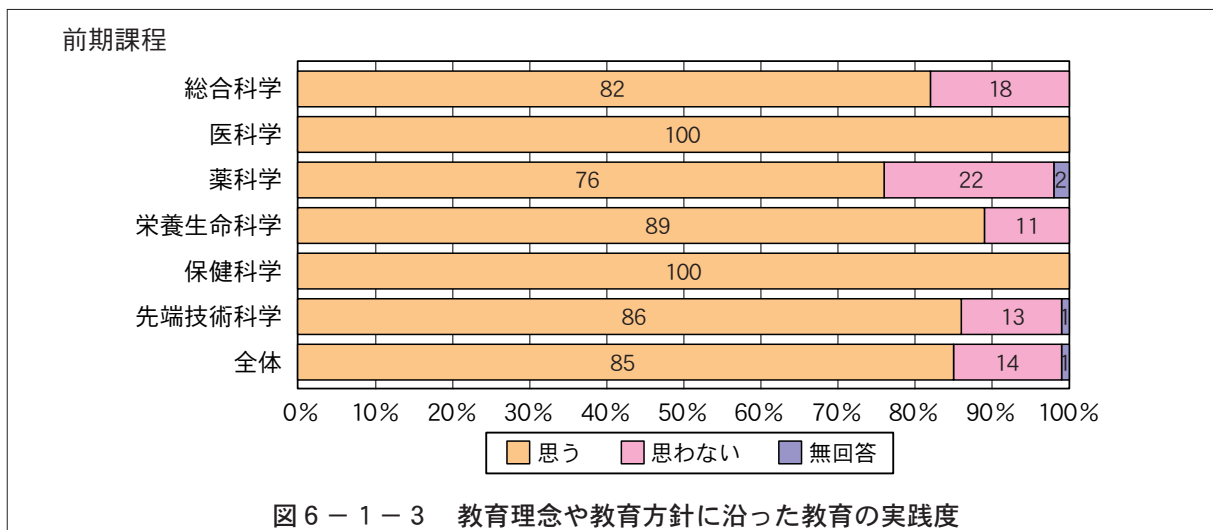
6-1 教育理念・方針と教育に対する満足度 (図6-1-1~図6-1-10)

前期課程において、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は4割強（良く知っている：6%，だいたい知っている：38%）であり、35%が「あまり知らない」、20%が「知らない」と回答している（図6-1-1）。教育部別に見ると、総合科学（良く知っている：10%、だいたい知っている：61%）と医科学（良く知っている：0%、だいたい知っている：60%）での認知度が比較的高い。一方、先端技術科学（知っている：6%、だいたい知っている：35%）での認知度は若干低くなっている。また、後期課程では、全体として5割程度の学生（良く知っている：10%、だいたい知っている：41%）に知られており、30%があまり知らない、18%が知らないと回答している。留学生については、「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が、前期課程61%、後期課程68%であった。

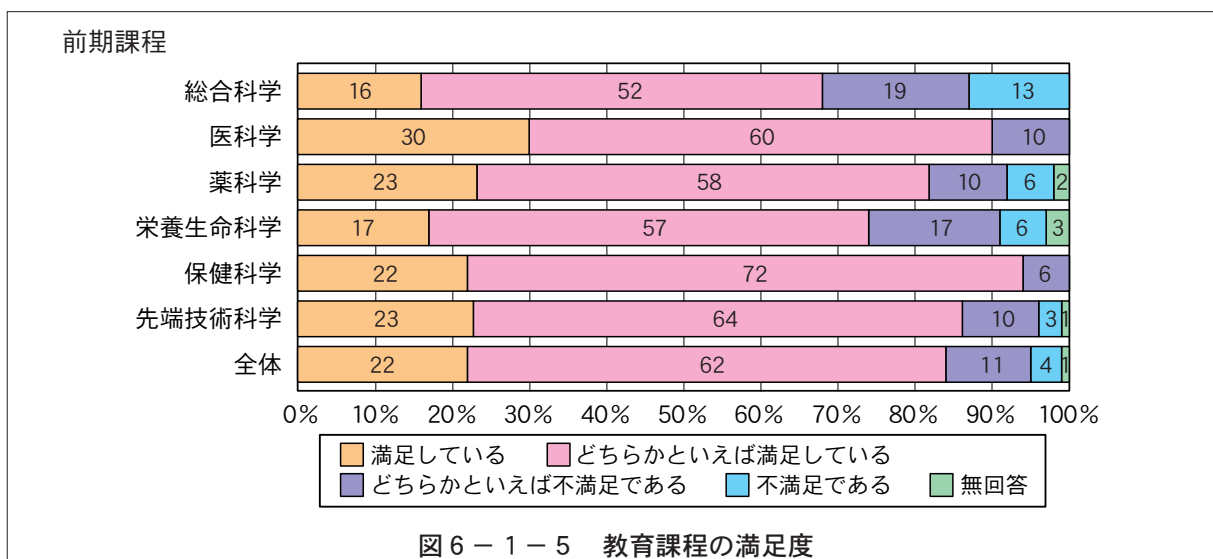


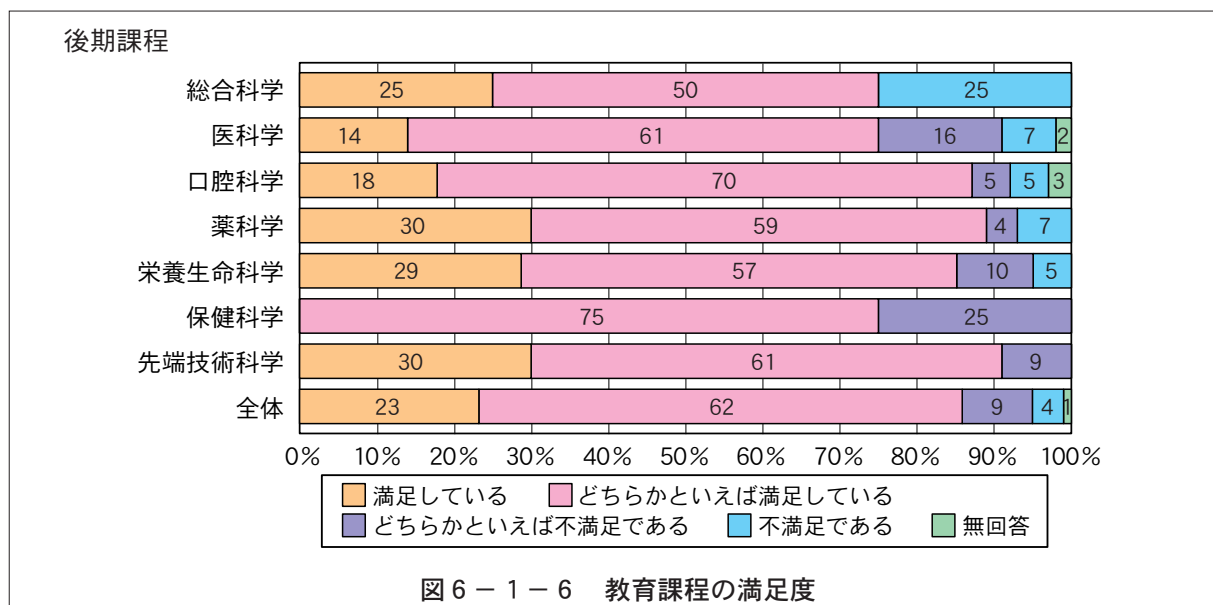
教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿った教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では85%、後期課程では88%が「思う」と答えている。逆に、「思わない」と答えたのは前期課程では14%、後期課程では10%であった〔図6-1-3（前期課程）〕

と図6-1-4（後期課程）]。



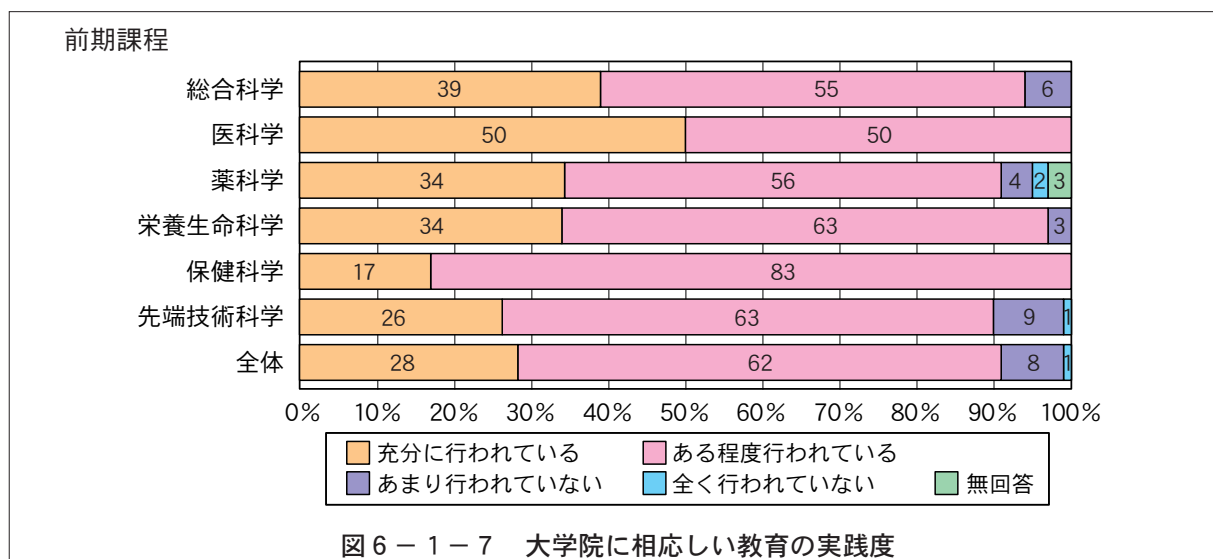
教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は22%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（62%）と合わせて84%であった（図6-1-5）。一方、「どちらかといえば不満足である」は11%、「不満足である」は4%となっている。教育部別に見ると、総合科学の満足度（満





満足している：16%、どちらかといえば満足している：52%）が他教育部と比較して若干低くなっており、自由記入欄には、専門外の講義や研究の負担が大きいとの意見が記載されていた。後期課程では全体で85%がほぼ満足しており（満足している：23%、どちらかといえば満足している：62%）、「どちらかといえば不満足である」が9%、「不満足である」が4%となっている（図6-1-6）。教育部別に見ると、保健科学では「満足している」は0%で、75%が「どちらかといえば満足している」と回答している。留学生については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程93%、後期課程94%であった。

図6-1-7、図6-1-8より、大学院に相応しいレベルの教育が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合は前期課程（充分に行われている：28%、ある程度行われている：62%）、後期課程（充分に行われている：41%、ある程度行われている：51%）ともに90%以上と高くなっている。「あまり行われていない」は、前期課程8%、後期課程6%であり、「全く行われていない」は、両課程ともに1%であった。教育部別に見ると、前期課程では医科学の評価が高く、「充分に行われている」が50%、「ある程度行われている」が50%となっている。後期課程では、保健科学の評価が他教育部と異なり、「ある程度行われている」という回答が100%であった。留学生については、「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程93%、後期課程95%であった。



後期課程

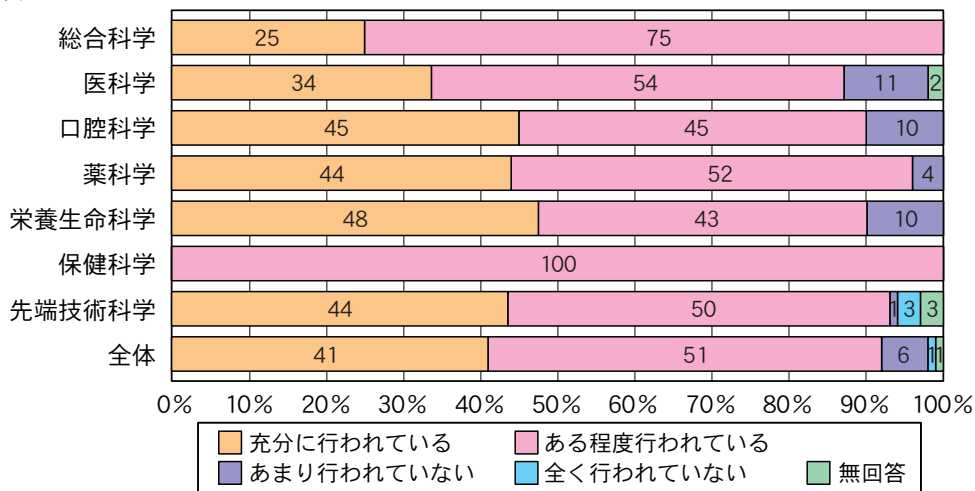


図 6 - 1 - 8 大学院に相応しい教育の実践度

また、授業の内容や進め方に対して、図 6 - 1 - 9, 図 6 - 1 - 10 より、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、前期課程（満足している：23%，どちらかと

前期課程

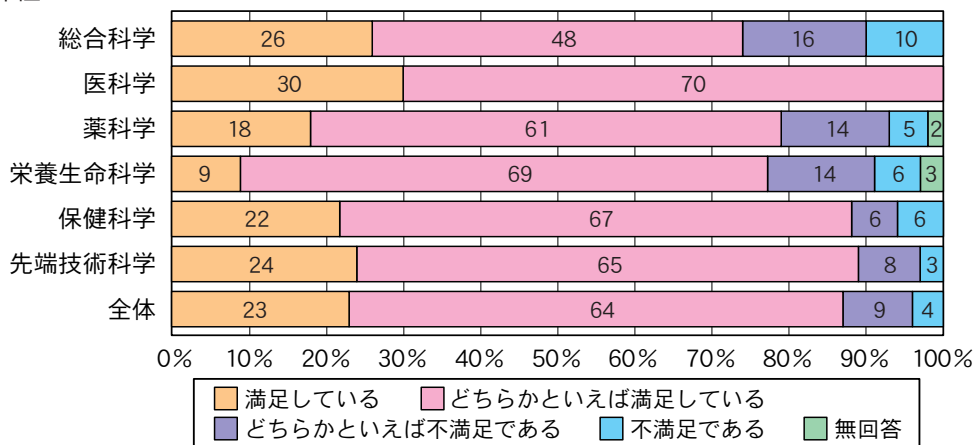


図 6 - 1 - 9 授業の内容・進め方の満足度

後期課程

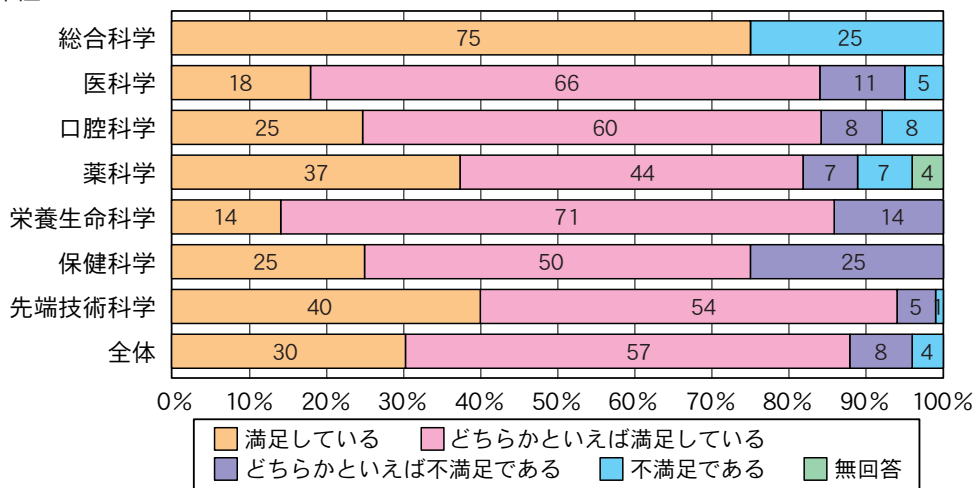
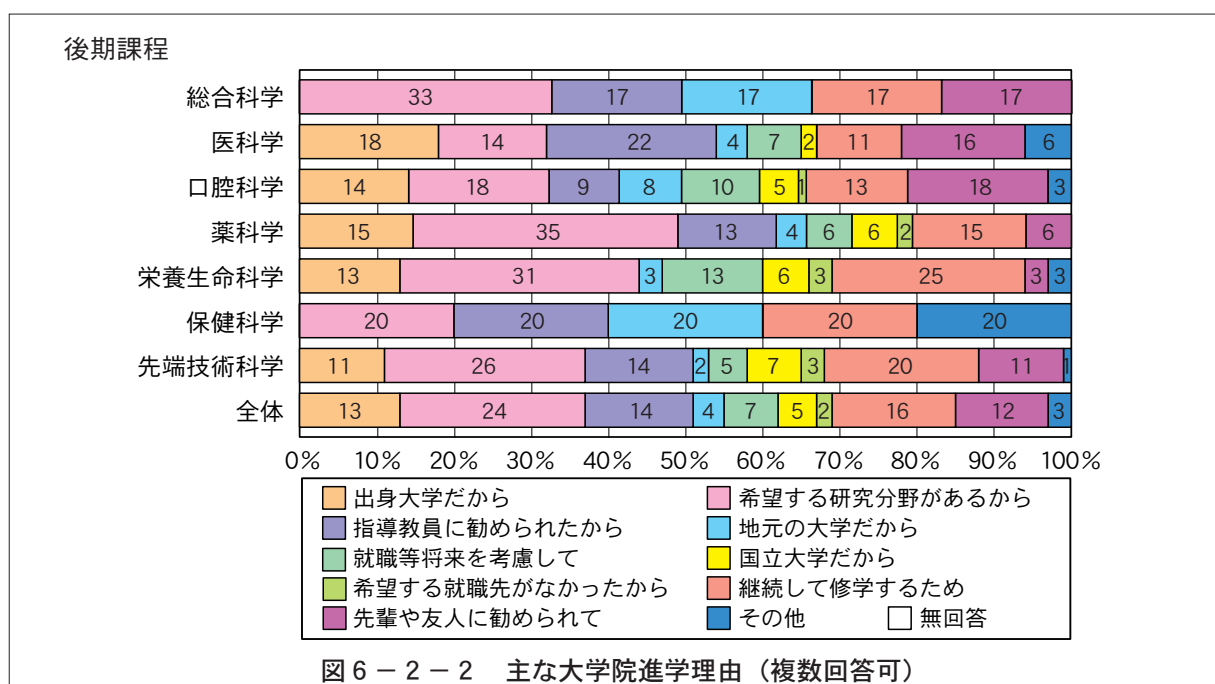
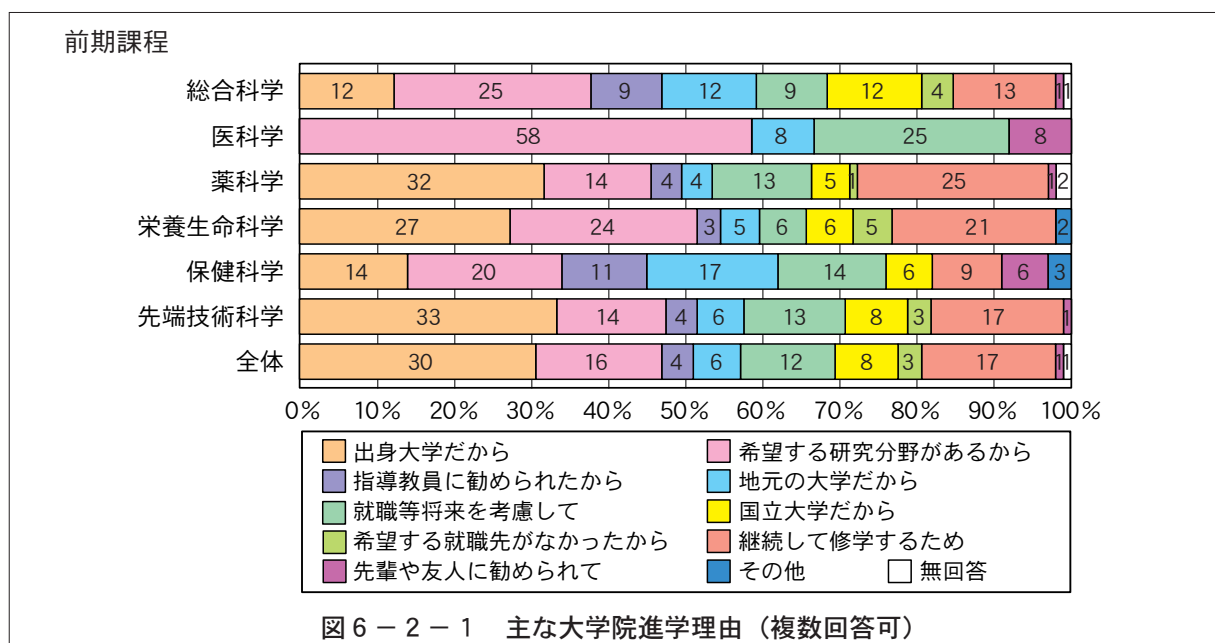


図 6 - 1 - 10 授業の内容・進め方の満足度

いば満足している：64%），後期課程（満足している：30%，どちらかといえば満足している：57%）ともに87%であった。「どちらかといえば不満足である」は，前期課程9%，後期課程8%であり，「不満足である」は，両課程とも4%であり，教育部別に見ると，前期課程の総合科学と薬科学，栄養生命科学での満足度が他教育部と比較して若干低くなっている。留学生については，「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が，前期課程96%，後期課程92%であった。

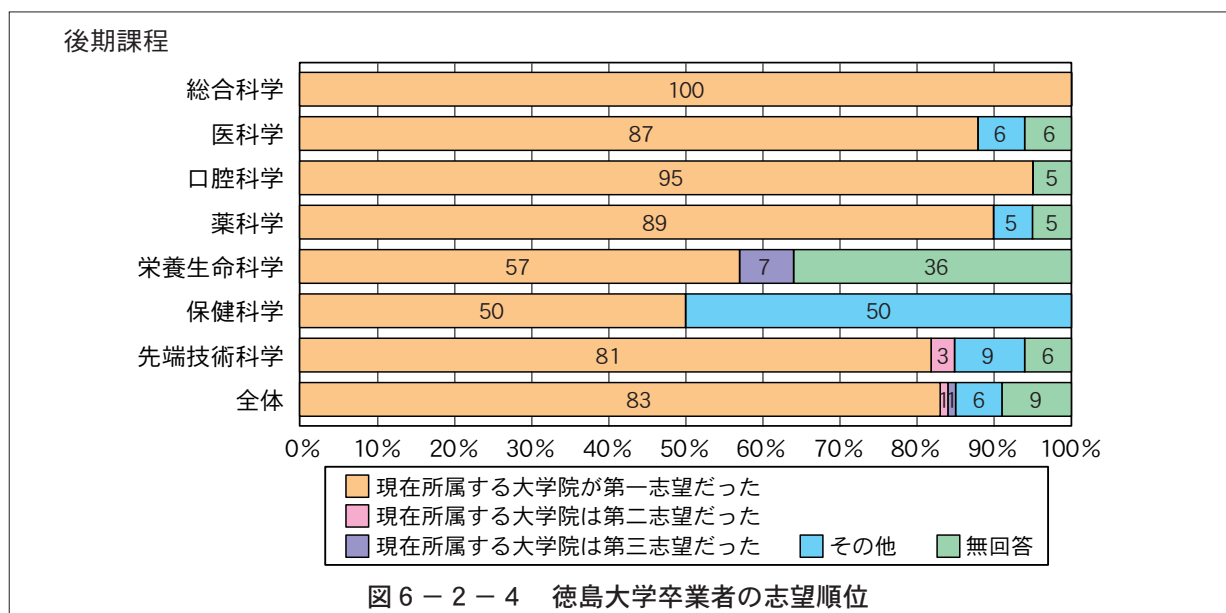
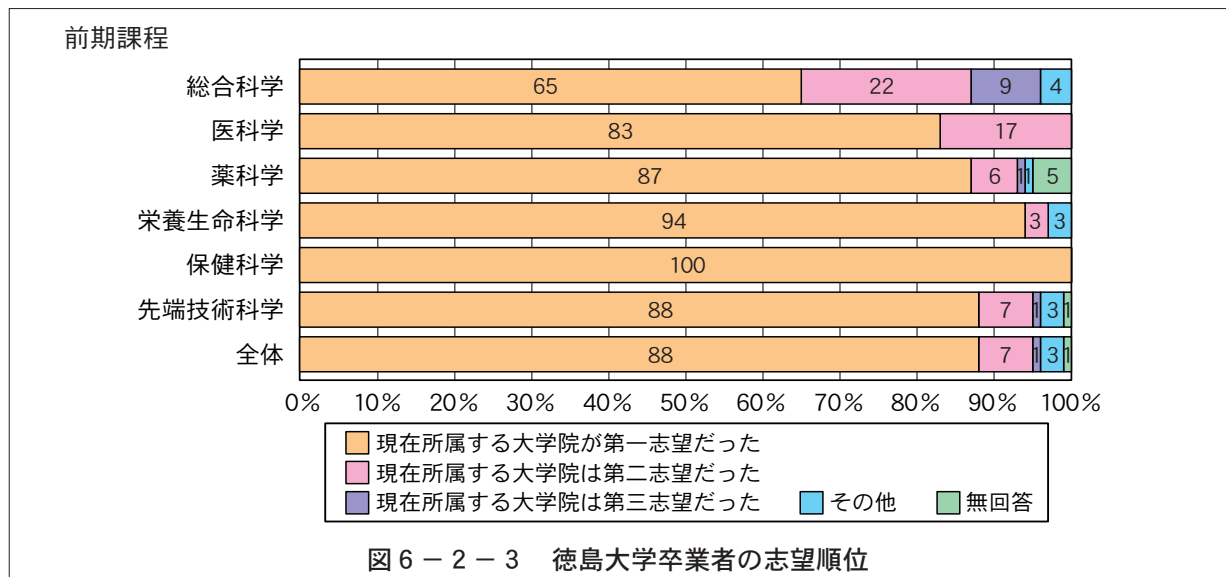
6-2 本学を選んだ理由と目的 (図6-2-1~図6-2-8)

前期課程の学生の主な入学理由は，「出身大学だから」が30%，「継続して修学するため」が17%，「希望する研究分野があるから」が16%，「就職等将来を考慮して」が12%となっている（図6-2-1）。教育部別に見ると，薬科学と栄養生命科学，先端技術科学では，「出身大学だから」という理由が30%程度で最も多い。また，総合科学や医科学，保健科学では，「希望する研究分野があるから」という理由

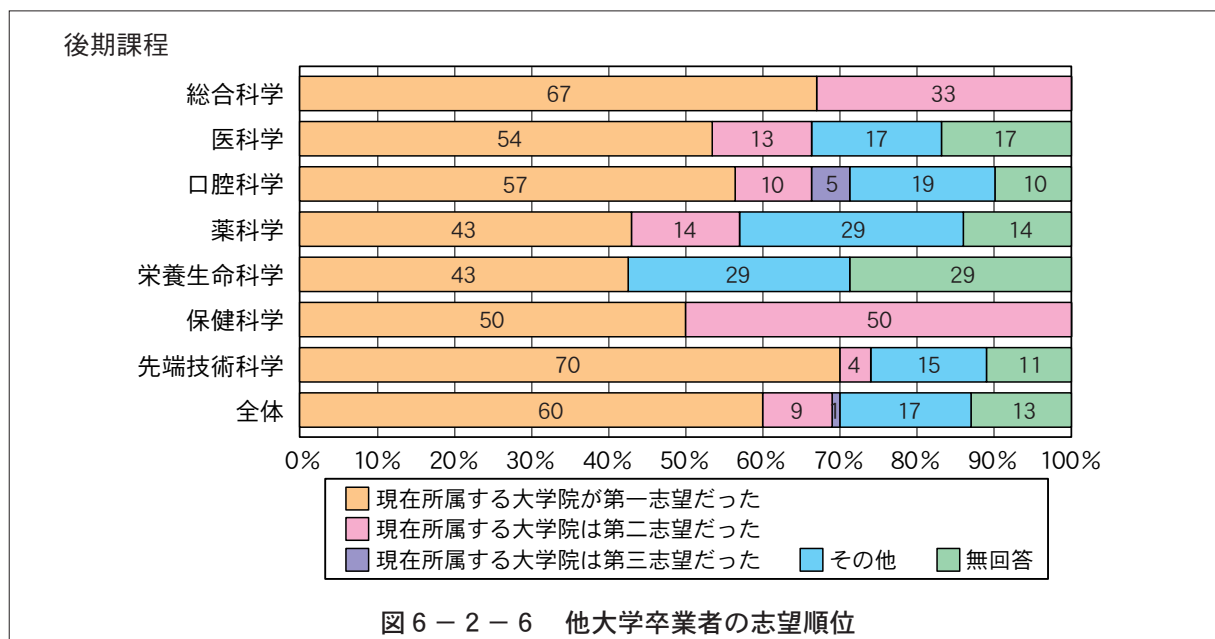
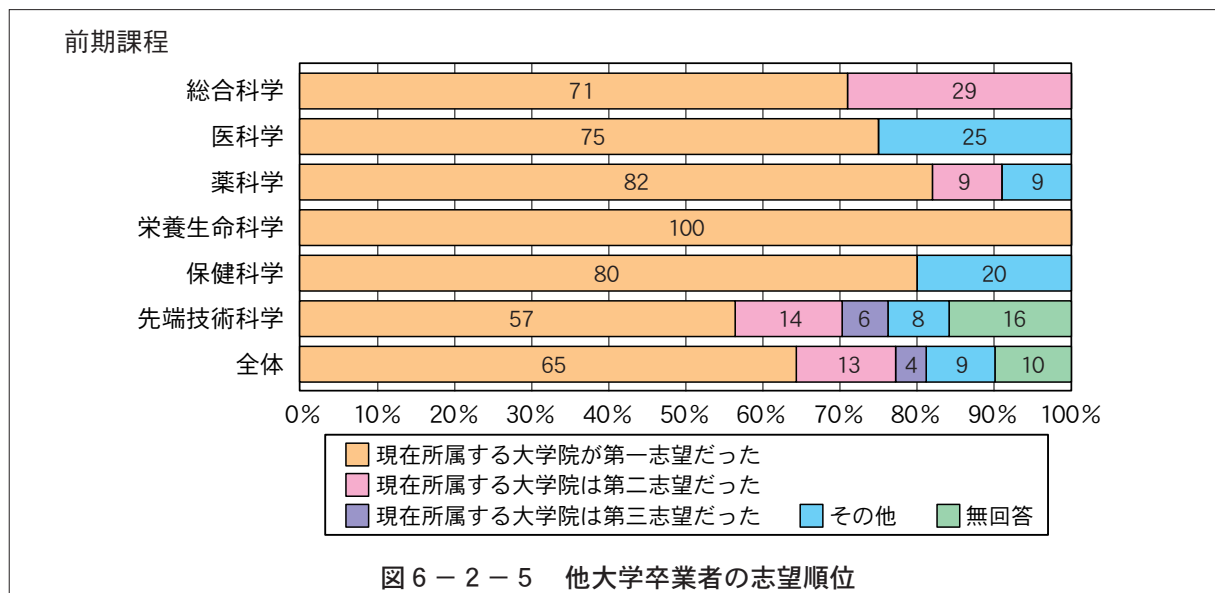


が最も多く、特に医科学では58%を占めている。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く(24%)、次いで「継続して就学するため」が16%となっている(図6-2-2)。また、「出身大学だから」との回答(13%)は、前期課程の学生の回答割合(30%)を大きく下回っている。一方、「指導教員に勧められたから」という回答(14%)は前期課程の学生の回答割合(4%)を大きく上回っている。留学生については、前期課程では「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合(23%)が最も多く、次いで「継続して修学するため」が19%、「指導教員に勧められたから」が14%となっている。後期課程では「先輩や友人に勧められて」が最も多く(25%)、次いで「希望する研究分野があるから」が24%、「継続して修学するため」が21%となっている。

また、徳島大学卒業生について、「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は、全体で88%となっており、「第二志望だった」は7%、「第三志望だった」は1%であった(図6-2-3)。教育部別に見ると、総合科学で「第一志望だった」と回答した学生の割合は65%であり、他教育部と比較して若干低くなっている。一方、徳島大学を卒業して後期課程に在籍する学生の83%が「第一志望だった」と回答しており、「第二志望だった」と「第三志望だった」はいずれも1%であった(図6-2-4)。教育部別に見ると、保健科学の「第一志望だった」と回答した学生の割合(50%)は、他教育部と比較して低くなっている。

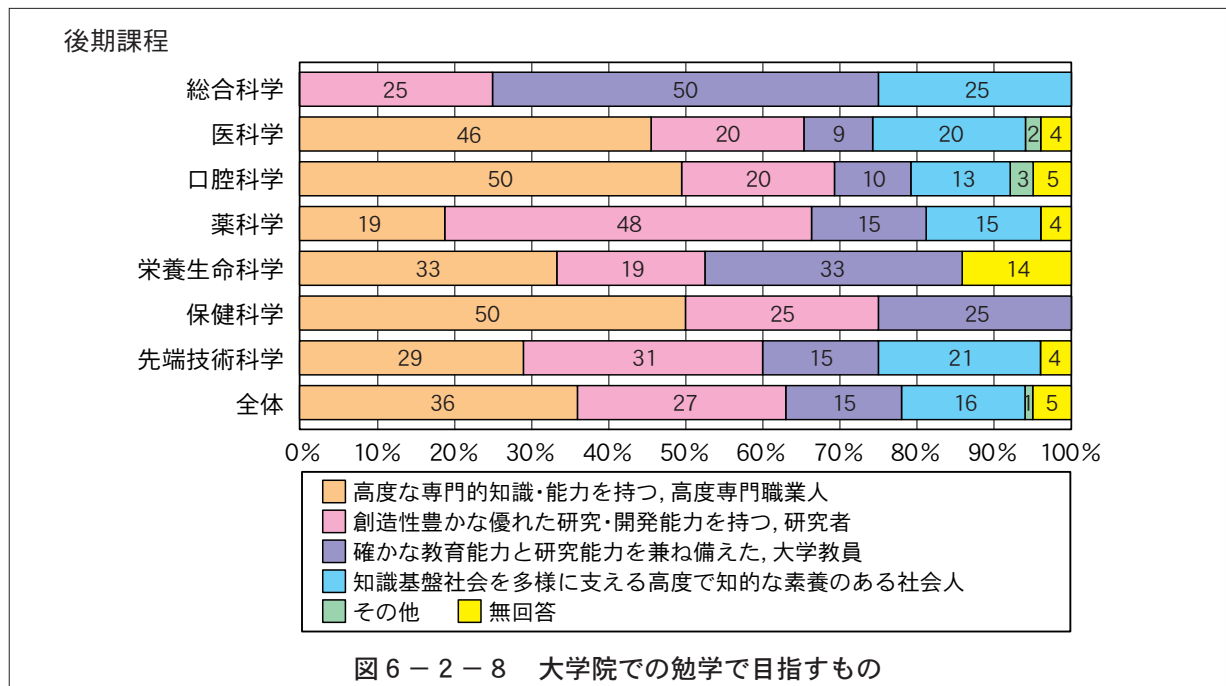
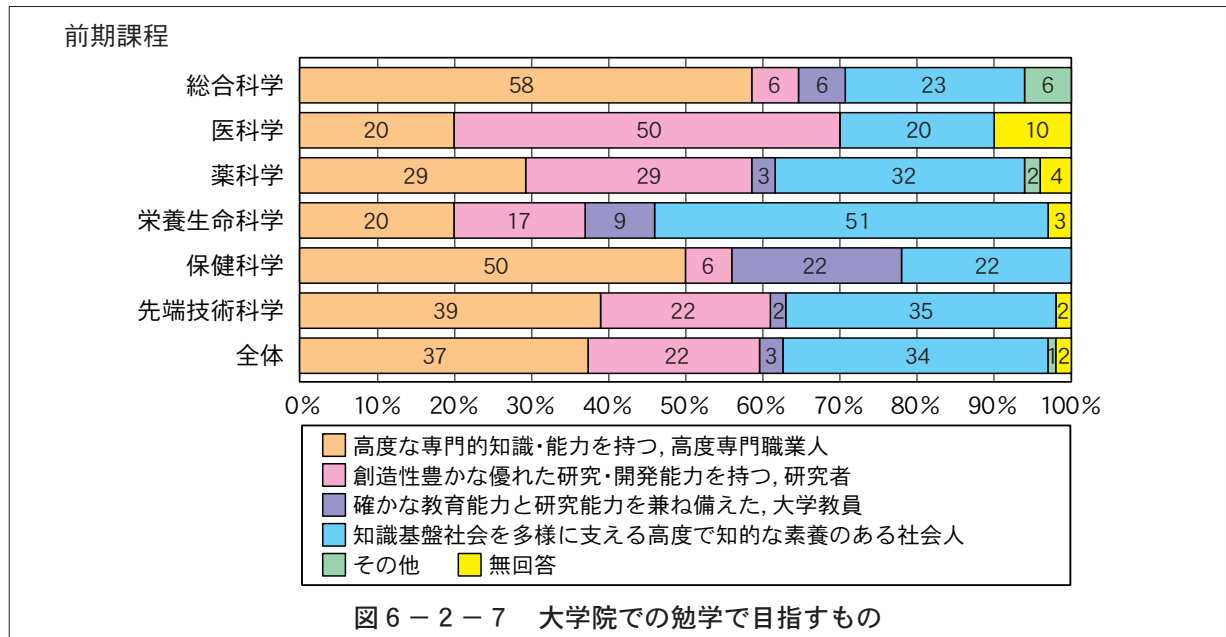


他大学を卒業した学生については、前期課程に進学した学生の65%が「第一志望だった」と回答しており、「第二志望だった」は13%、「第三志望だった」は4%となっている（図6-2-5）。栄養生命科学の「第一志望だった」とした回答の割合は100%であった。留学生では「第一志望だった」とする回答の割合が53%と若干低くなっている。他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については、「第一志望だった」が60%、「第二志望だった」が9%、「第三志望だった」が1%となっている（図6-2-6）。教育部別に見ると、「第一志望だった」と回答した学生は、総合科学67%、先端技術科学70%であり、他教育部より若干高くなっている。



大学院での勉強で目指すものとして、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」との回答（37%）が最も多く、次いで「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が34%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が22%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が3%となっている（図6-2-7）。教育部別に見ると、総合科学と保健科学では半数以上が「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指しているのに対し、医科学では、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」の割合（50%）が最も多い。後期課程の学生全体では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生（36%）が最も多く、

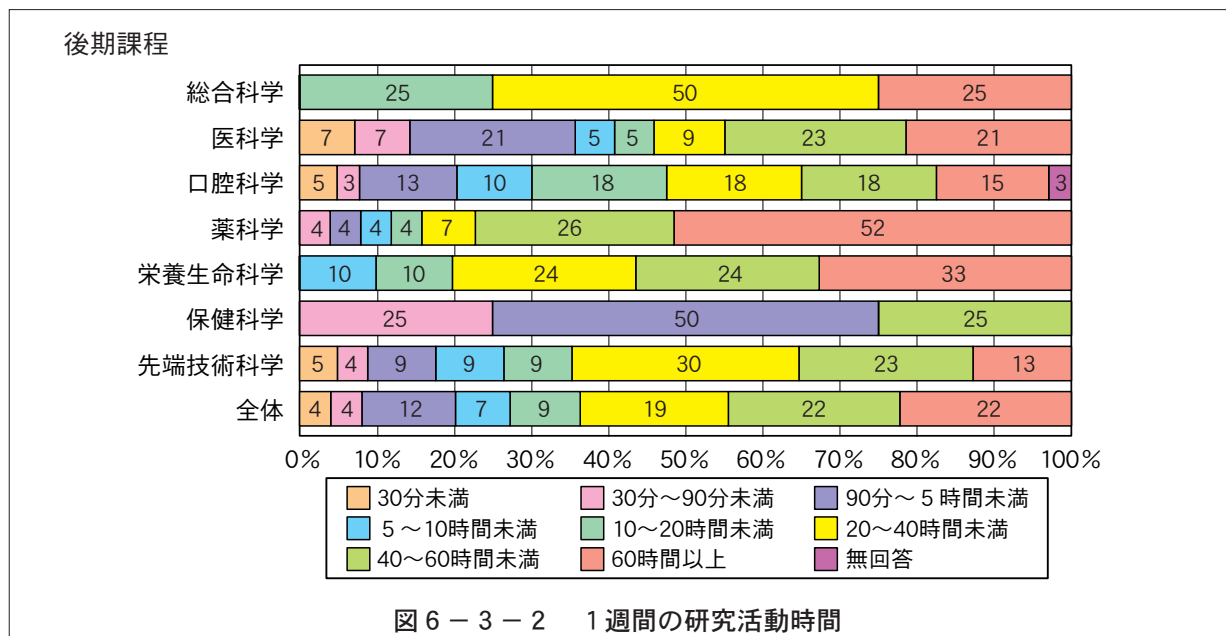
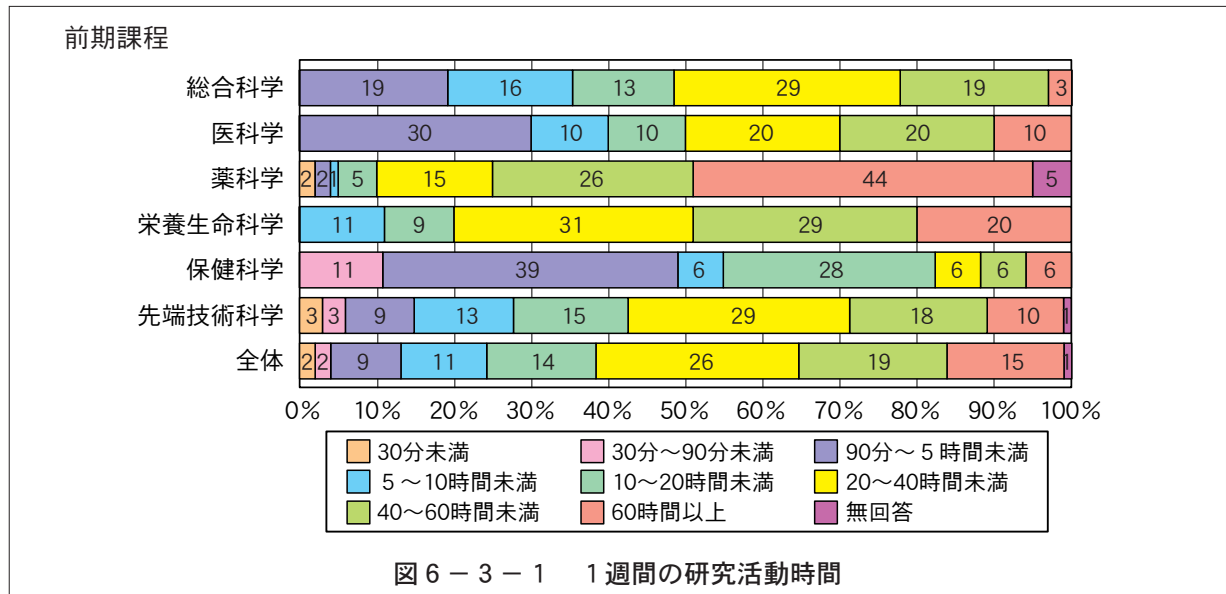
次いで「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が27%、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が16%となっている（図6-2-8）。「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」（15%）を目指す学生の割合は前期課程を大きく上回っており、教育部別に見ると、総合科学（50%）と栄養生命科学（33%）では他教育部と比較して特に多くなっている。



6-3 研究活動と研究指導 (図6-3-1~図6-3-12)

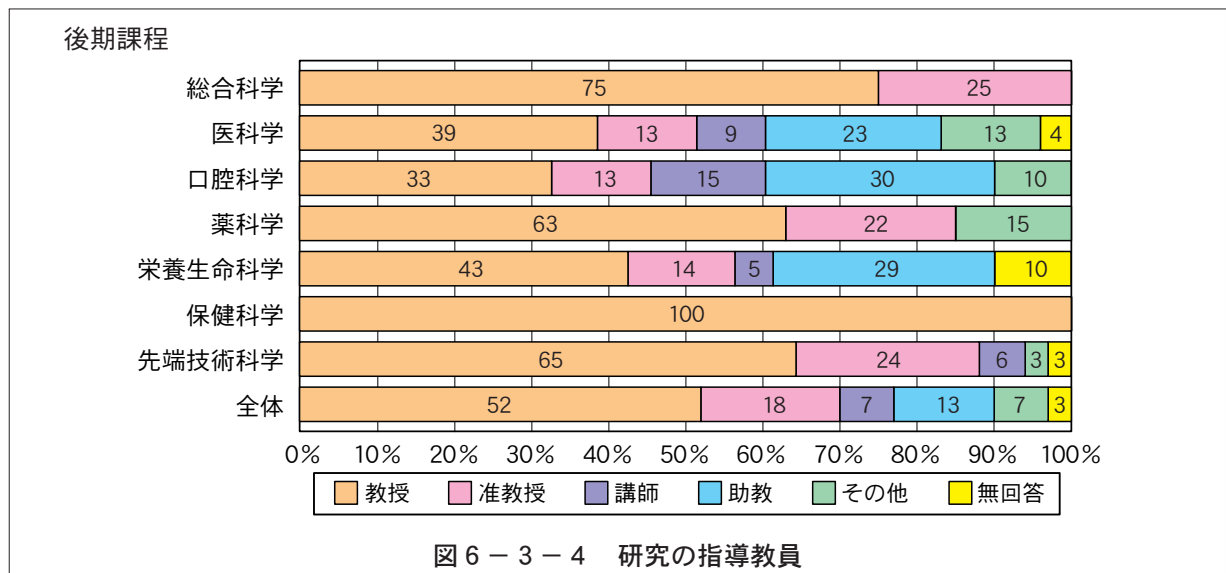
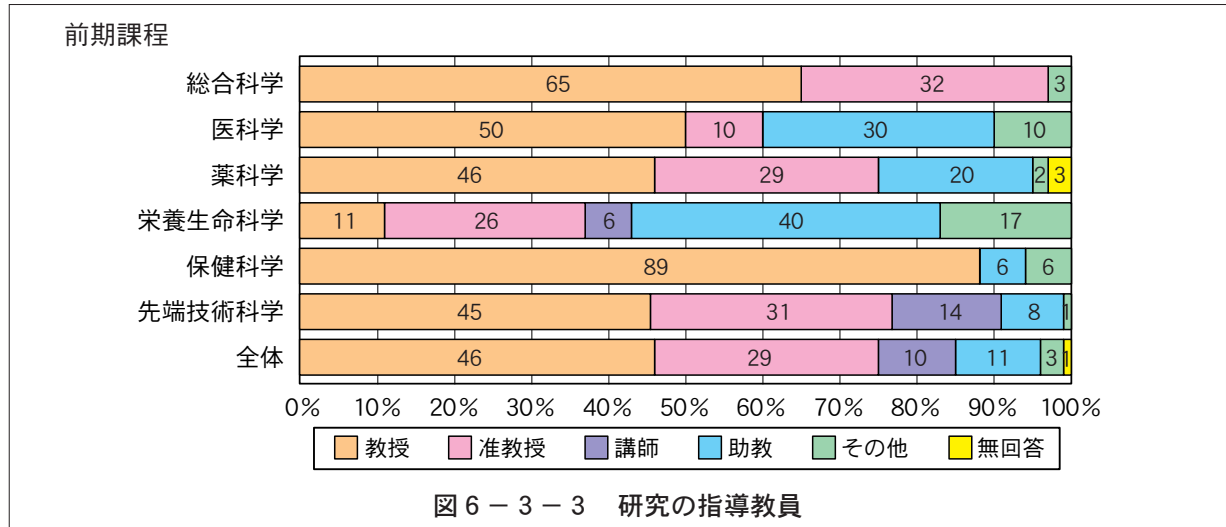
前期課程の学生全体での授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「20～40時間未満」との回答（26%）が最も多く、次いで「40～60時間未満」が19%、「60時間以上」が15%、「10～20時間未満」が14%、「5～10時間未満」が11%、「90分～5時間未満」が9%、「30～90分未満」と「30分未満」が2%の順になっている（図6-3-1）。すなわち、60%の学生が週20時間以上の研究活動を行っており、特に、週20時間以上研究活動を行っている割合が、薬科学（85%）と栄養生命科学

学（80％）で高くなっている。一方、保健科学では週20時間以上研究活動を行っている割合が18％と他教育部より低くなっている。一方、後期課程の学生が授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「40～60時間未満」および「60時間以上」とした割合がいずれも22％と最も高くなり、「20～40時間未満」が19％、「90分～5時間未満」が12％、「10～20時間未満」が9％、「5～10時間未満」が7％、「30～90分未満」と「30分未満」が4％と続いている。すなわち、63％の学生が週20時間以上研究活動を行っており、特に、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程と同様に、薬科学（85％）と栄養生命科学（81％）で高くなっている。一方、前期課程と同様に、保健科学では週20時間以上研究活動を行っている割合が25％と他教育部より低くなっている。留学生については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程では62％、後期課程では86％であった。



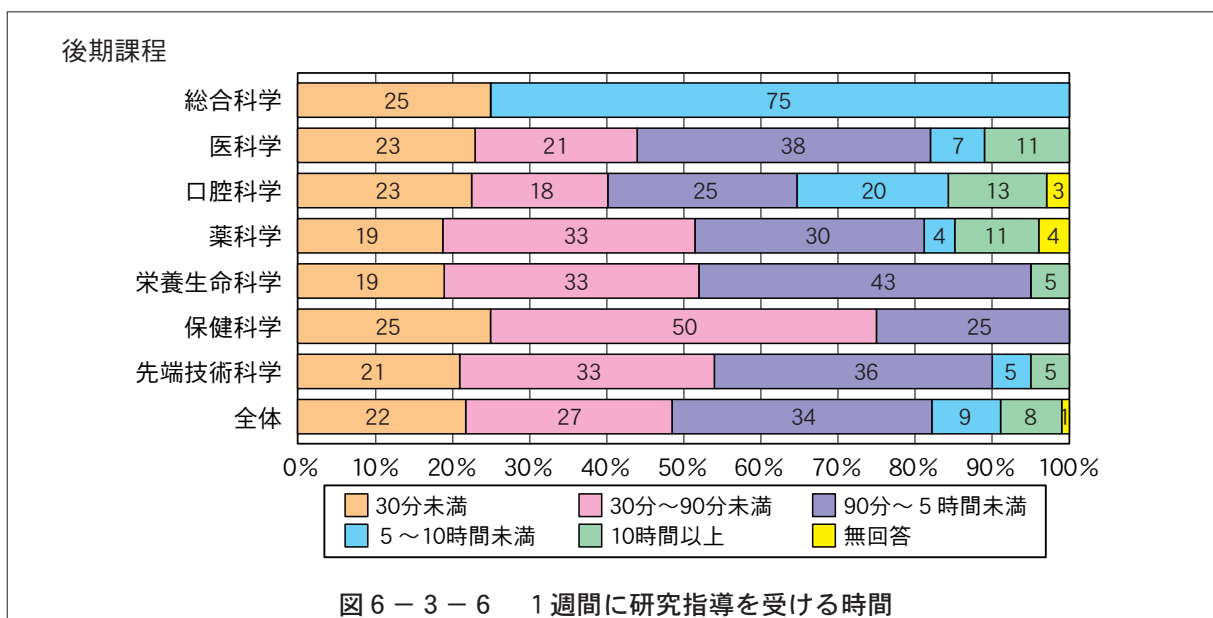
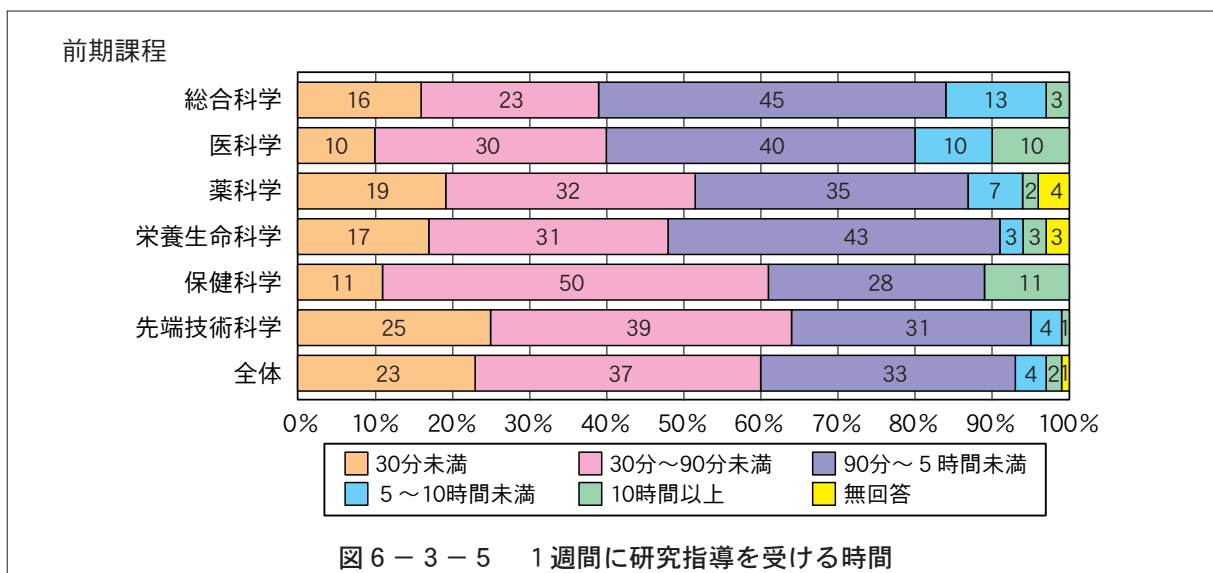
前期課程の学生の研究を直接指導している教員は、「教授」が46％、「准教授」が29％、「講師」が10％、「助教」が11％、「その他」が3％であった（図6-3-3）。保健科学では「教授」との回答（89％）が特に多くなっている。逆に、栄養生命科学では「助教」が40％であったのに対し、「教授」は11％であった。後期課程の学生の研究を直接指導しているのは、「教授」が52％、「准教授」が18％、「講師」が7％、「助教」が13％、「その他」が7％であった（図6-3-4）。教育部別に見ると、保健科学で

は「教授」が全ての学生を直接指導しているのに対し、医科学（39%）と口腔科学（33%）、栄養生命科学（43%）では、「教授」の割合が他教育部と比較して若干低くなっており、「助教」の割合がそれぞれ23%、30%、29%と高くなっている。留学生については、両課程ともに「教授」と回答した学生の割合が最も多く、前期課程では69%、後期課程では57%であった。

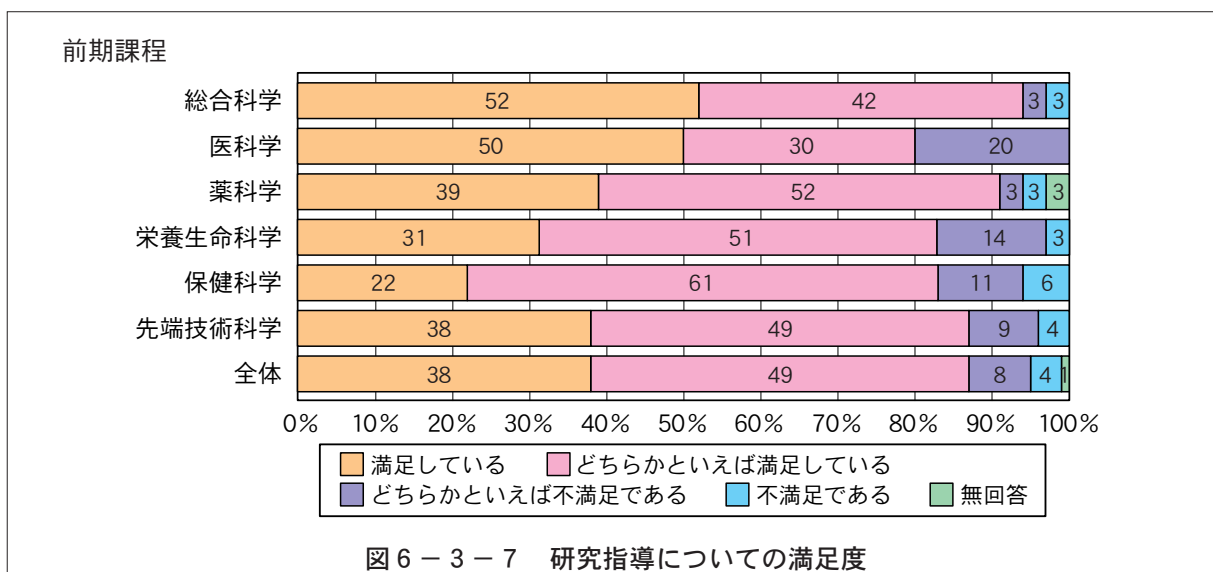


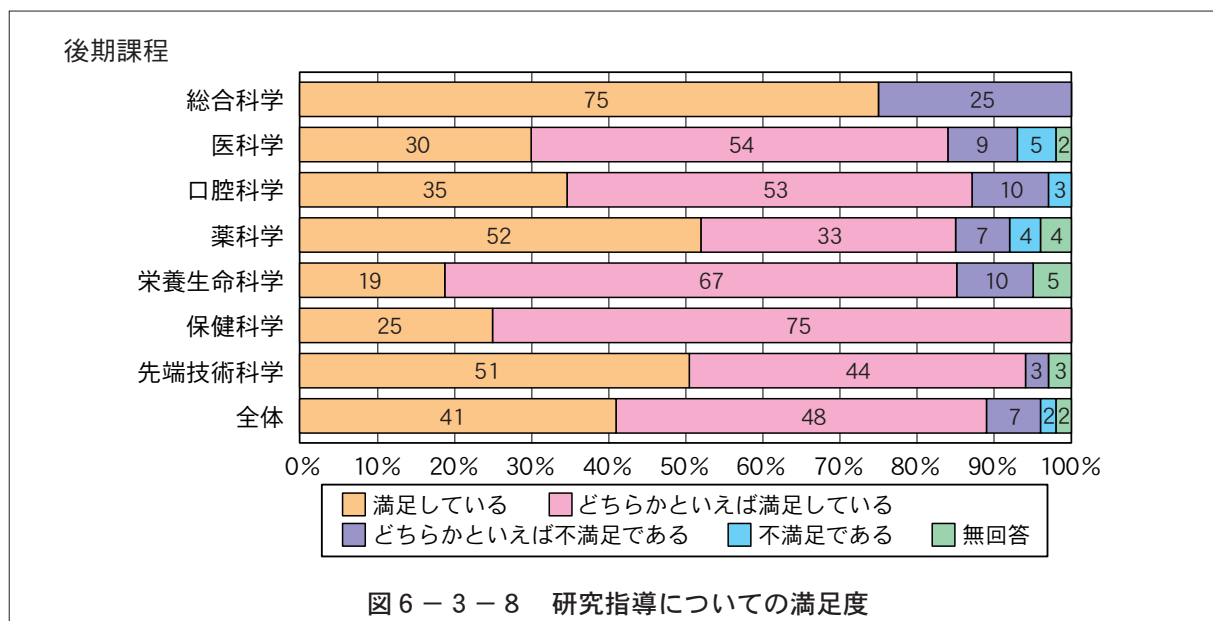
前期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「30～90分未満」が37%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が33%、「30分未満」が23%、「5～10時間未満」が4%、「10時間以上」が2%となっている（図6-3-5）。研究指導時間が90分未満の割合は全体で60%であるが、保健科学（61%）と先端技術科学（64%）では他教育部より比較的多く、総合科学（39%）と医科学（40%）では少なくなっている。後期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「90分～5時間未満」が34%と最も多く、以下、「30～90分未満」が27%、「30分未満」が22%、「5～10時間未満」が9%、「10時間以上」が8%となっている（図6-3-6）。研究指導時間が90分未満の割合は、全体で49%であるが、保健科学（75%）では多く、総合科学（25%）では少なくなっている。留学生については、前期課程では「30～90分未満」と回答した学生の割合（38%）が最も多く、後期課程では「90分～5時間未満」が最も多く（40%）になっている。

図6-3-7より、研究指導の内容や進め方についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」との回答（49%）が最も多く、以下、「満足している」が38%、「どちらかといえば不満足である」が8%、「不満足である」が4%となっている。「満足している」と「どちらか



「といえば満足している」を合わせた割合は、総合科学（94%）と薬科学（91%）で90%を上回っている。図6-3-8より、研究指導の内容や進め方についての設問に対する後期課程の学生の回答は、「ど

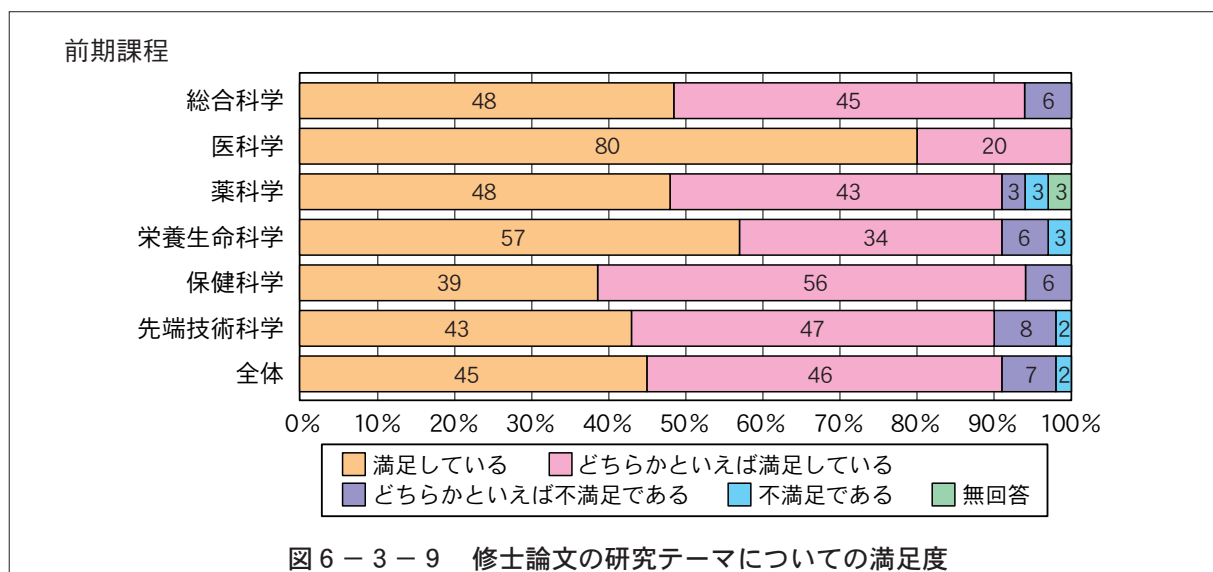




「どちらかといえば満足している」との回答（48％）が最も多く、以下、「満足している」が41％、「どちらかといえば不満足である」が7％、「不満足である」が2％となっている。保健科学では「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が100％となっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程93％、後期課程90％であった。

修士論文の研究テーマに関する満足度は、「どちらかといえば満足している」が最も多く（46％）、以下、「満足している」が45％、「どちらかといえば不満足である」が7％、「不満足である」が2％となっている（図6-3-9）。すなわち、全ての教育部で90％以上の満足度が得られている。博士論文の研究テーマに関する全体の満足度は、「満足している」が最も多く（53％）、以下、「どちらかといえば満足している」が40％、「どちらかといえば不満足である」が4％、「不満足である」が2％となっている（図6-3-10）。すなわち、全ての教育部で90％前後の満足度が得られている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、両課程とも96％であった。

指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」が最も多く（50％）、以下、「充分とれている」が29％、「あまりとれていない」が18％、「まったくとれて



後期課程

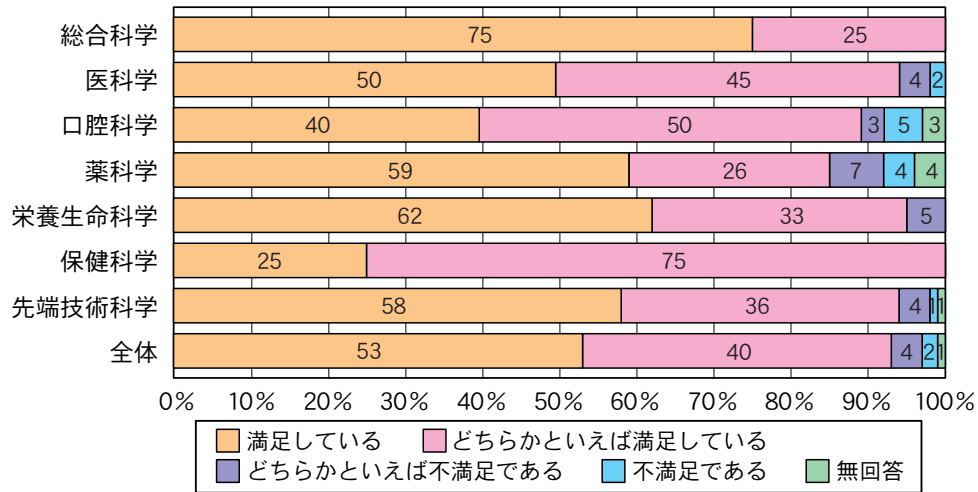


図 6-3-10 博士論文の研究テーマについての満足度

前期課程

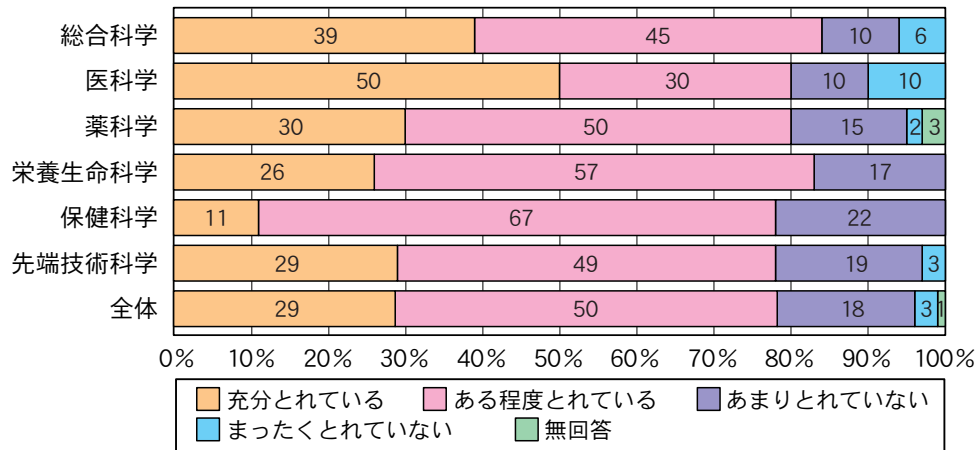


図 6-3-11 指導教員とのコミュニケーション

後期課程

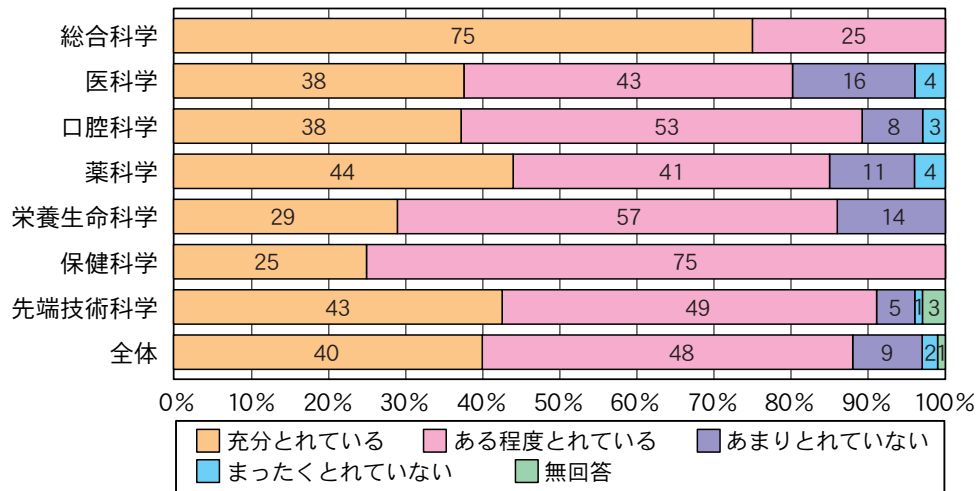
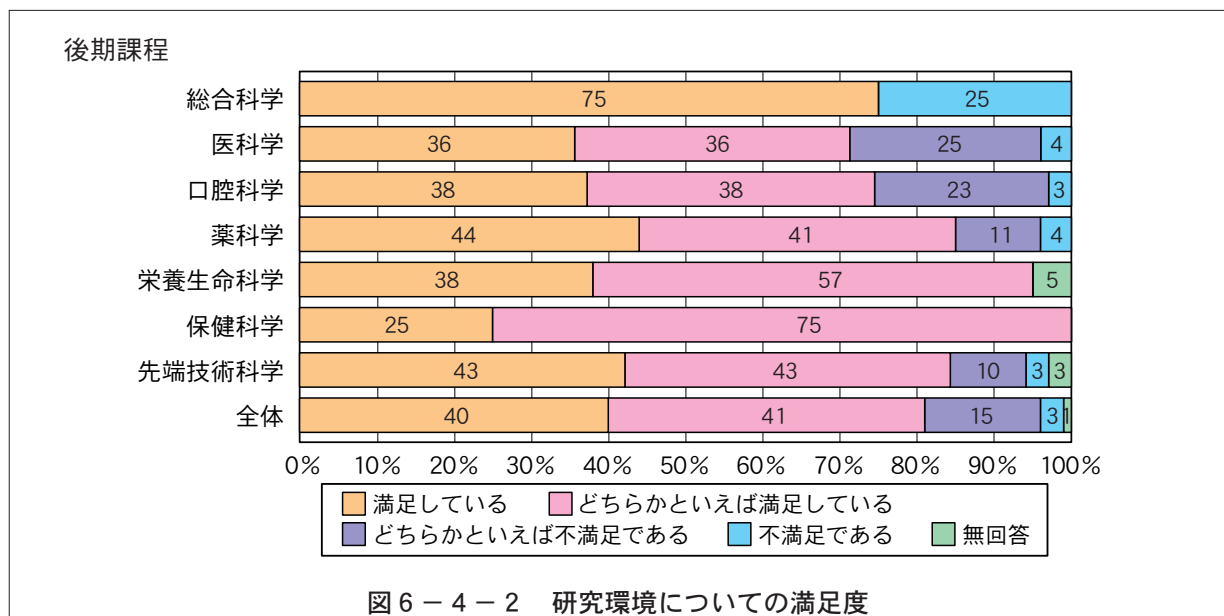
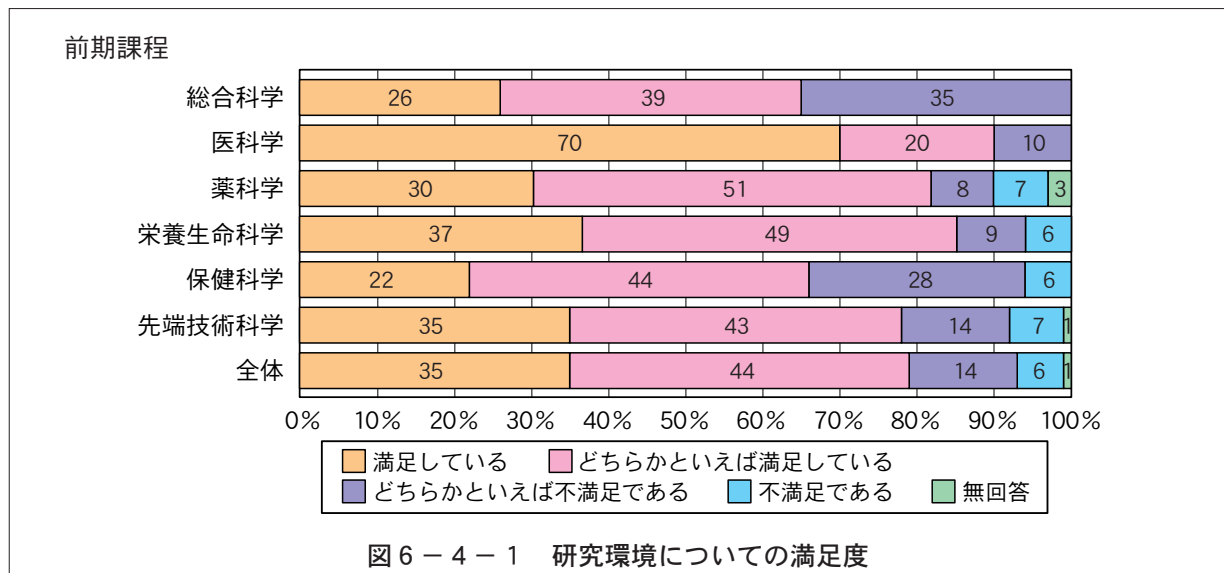


図 6-3-12 指導教員とのコミュニケーション

いない」が3%となっている(図6-3-11)。教育部別に見ると、コミュニケーションが「充分とれている」という回答の割合は、医科学(50%)が高く、保健科学(11%)が低くなっている。同じ設問に対して、後期課程では48%の学生が「ある程度とれている」と回答しており、以下、「充分とれている」が40%、「あまりとれていない」が9%、「まったくとれていない」が2%となっている(図6-3-12)。総合科学と保健科学では「充分とれている」と「ある程度とれている」を合わせた割合が100%となっている。留学生については、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程92%、後期課程93%であった。

6-4 研究環境と所属大学院に対する満足度 (図6-4-1~図6-4-6)

図6-4-1より、前期課程では、研究環境に「どちらかといえば満足している」割合が最も高く(44%)、以下順に、「満足している」が35%、「どちらかといえば不満足である」が14%、「不満足である」が6%となっている。教育部別に見ると、医科学の満足度が高く、「満足している」が70%、「どちらかといえば満足している」が20%となっている。総合科学(満足している:26%、どちらかといえば満足している:39%)と保健科学(満足している:22%、どちらかといえば満足している:44%)では、



他教育部より研究環境に関する満足度が若干低くなっている。図6-4-2より、後期課程学生全体では、研究環境に「満足している(40%)」または「どちらかといえば満足している(41%)」と答えた割合がほぼ等しく、以下、「どちらかといえば不満足である」が15%、「不満足である」が3%となっている。満足度が90%以上となっているのは栄養生命科学(満足している:38%, どちらかといえば満足している:57%)と保健科学(満足している:25%, どちらかといえば満足している:75%)であり、医科学(満足している:36%, どちらかといえば満足している:36%)では前期課程に比較して満足度が低くなっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程93%、後期課程90%であった。

研究環境に満足していない前期課程学生にその理由を尋ねた設問では、「施設・設備」との回答が最も多く(45%)、以下、「研究費用」が33%、「研究時間」が13%、「その他」が8%となっている(図6-4-3)。研究環境に対する満足度が比較的低かった総合科学と保健科学では、その理由として「施設・設備」とする回答が50%程度を占めている。また、医科学では回答のすべてが「研究時間」であった。図6-4-4より、研究環境に満足していない後期課程学生にその理由を尋ねた設問では、「施設・設備」との回答が36%、「研究時間」が26%、「研究費用」が23%、「その他」が15%の順となっており、前期課程と比較して「施設・設備」の割合が低くなり、「研究時間」の割合が高くなっている。研究環境に満足していない留学生にその理由を尋ねた設問では、両課程とも「施設・設備」との回答が最も多く、前期課程では50%、後期課程では56%であった。

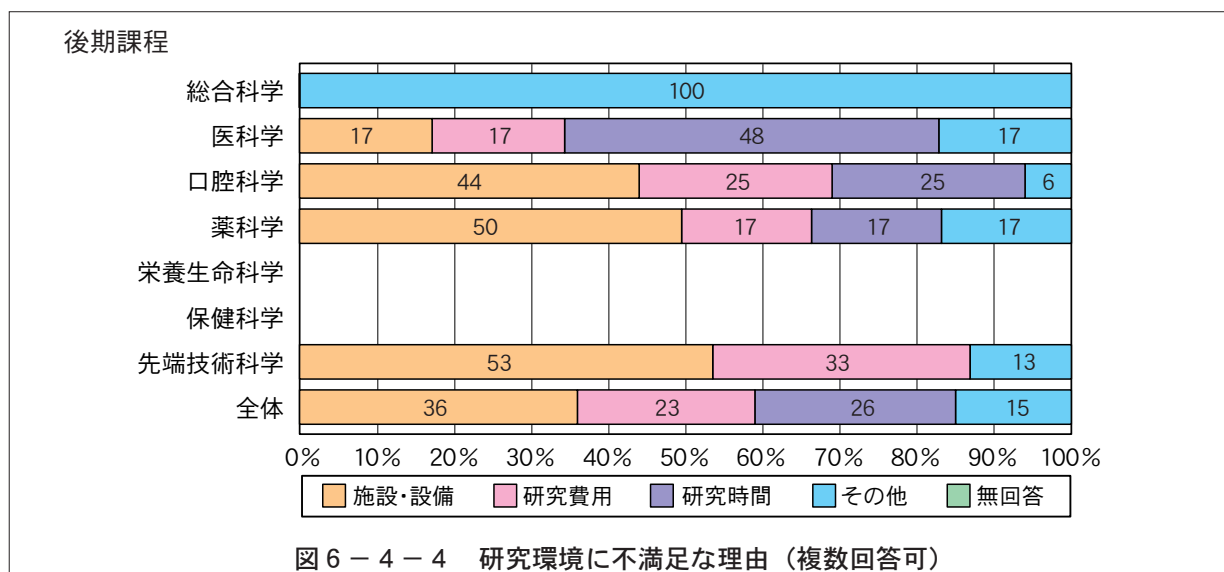
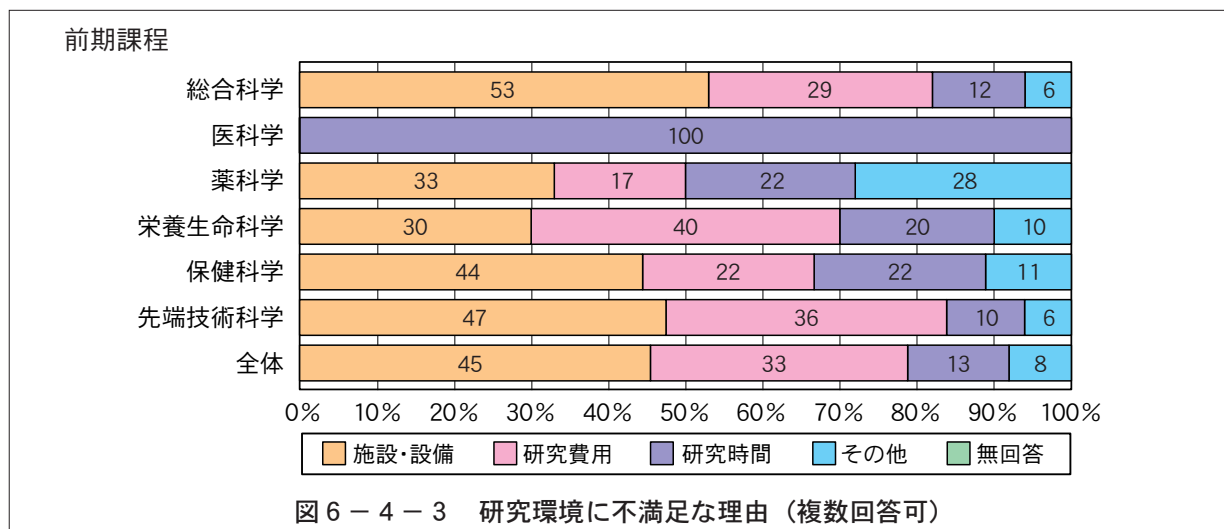
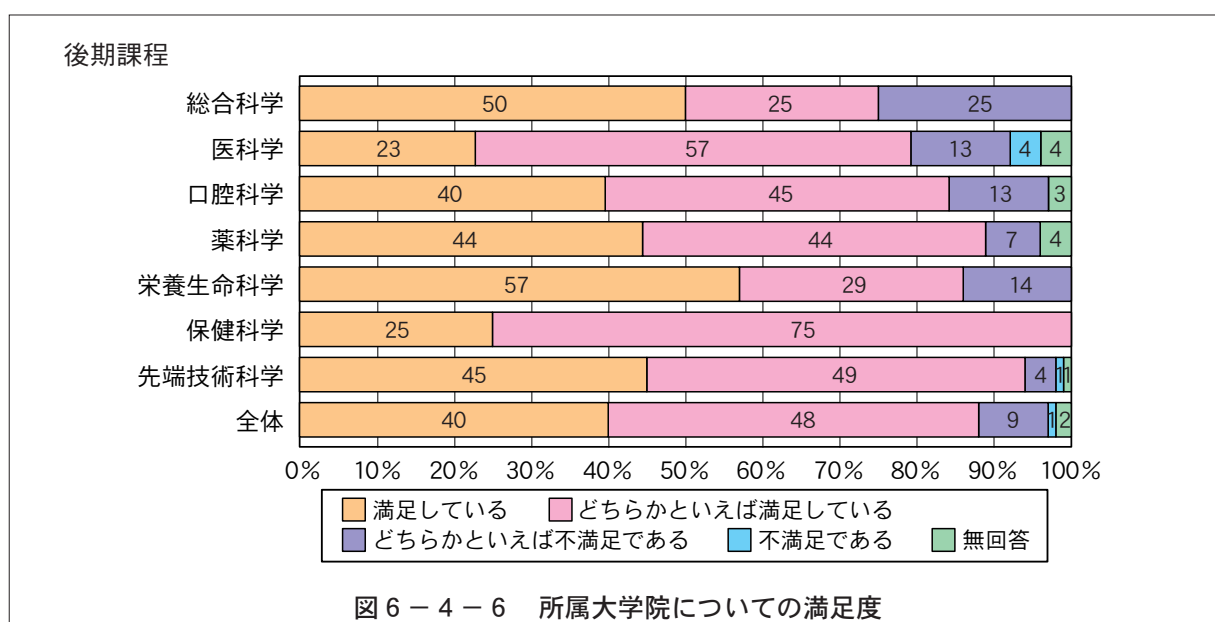
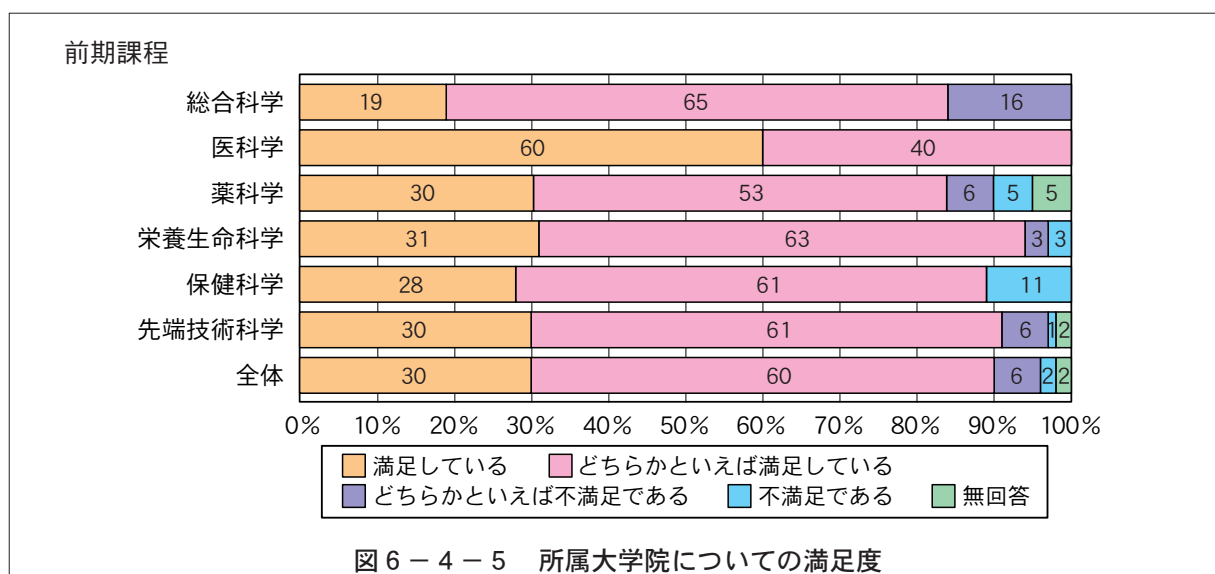
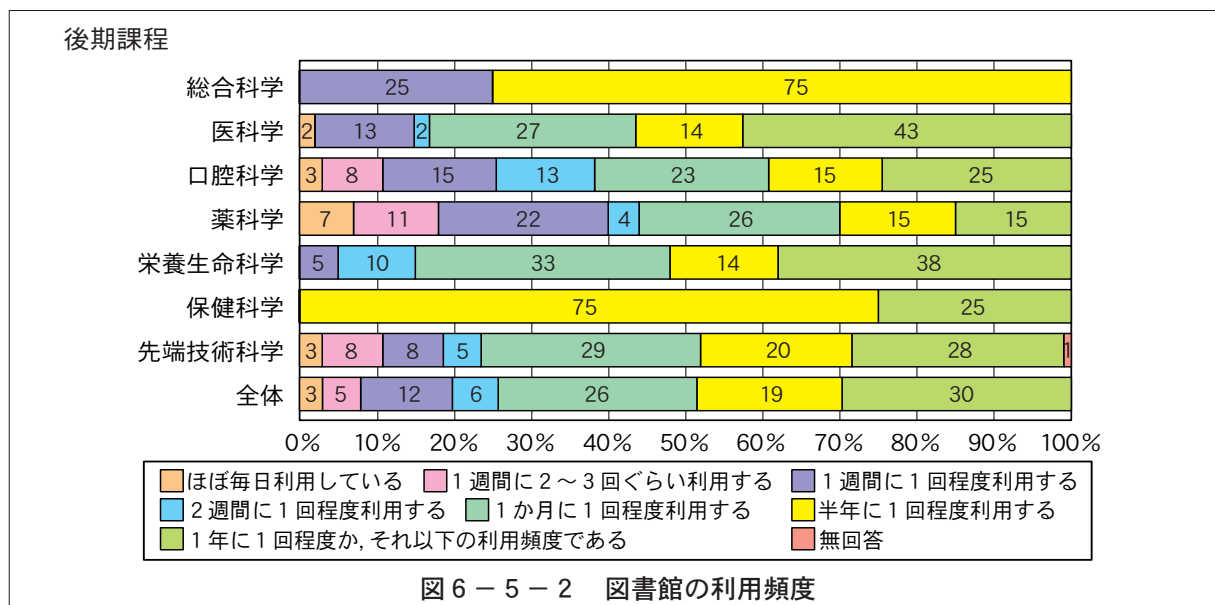
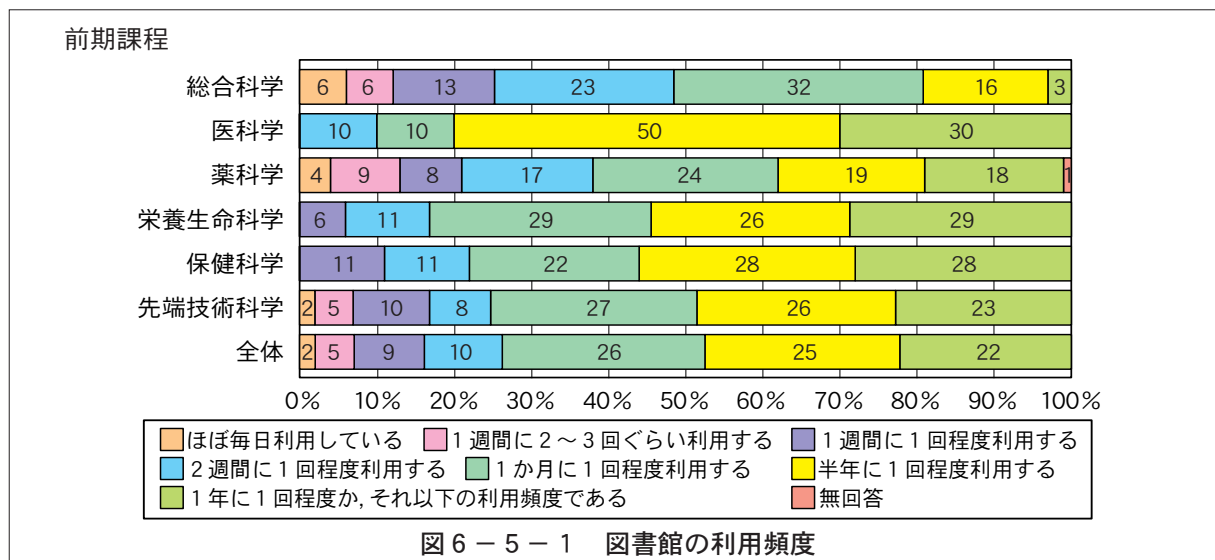


図6-4-5より、前期課程学生は、所属教育部に対して、60%が「どちらかといえば満足している」と回答しており、以下、「満足している」が30%、「どちらかといえば不満足である」が6%、「不満足である」が2%となっている。教育部別に見ると、医科学の満足度が高く、「満足している」が60%、「どちらかといえば満足している」40%となっている。総合科学（満足している：19%、どちらかといえば満足している：65%）と薬科学（満足している：30%、どちらかといえば満足している：53%）での満足度は、他教育部と比較して若干低くなっている。図6-4-6より、後期課程学生は、所属教育部に対して、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が最も高く（48%）、以下、「満足している」が40%、「どちらかといえば不満足である」が9%、「不満足である」が1%となっており、前期課程とほぼ同様な分布を示した。満足度が90%以上となっているのは保健学科教育部（満足している：25%、どちらかといえば満足している：75%）と先端技術科学（満足している：45%、どちらかといえば満足している：49%）であり、総合科学（満足している：50%、どちらかといえば満足している：25%）での満足度は、他教育部と比較して若干低くなっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程88%、後期課程96%であった。



6-5 図書館の利用状況 (図6-5-1~図6-5-6)

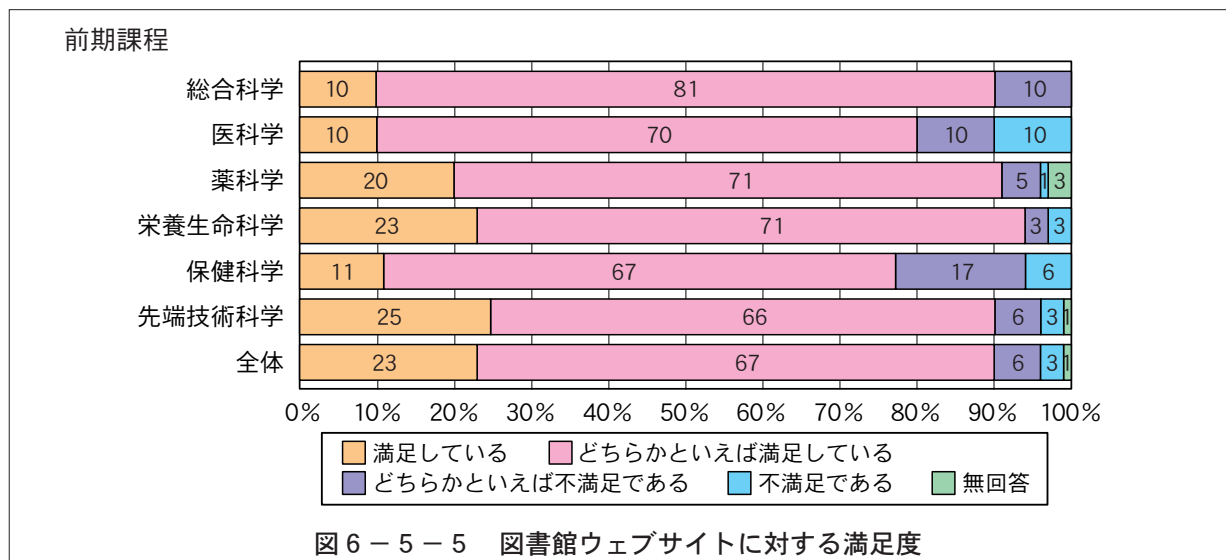
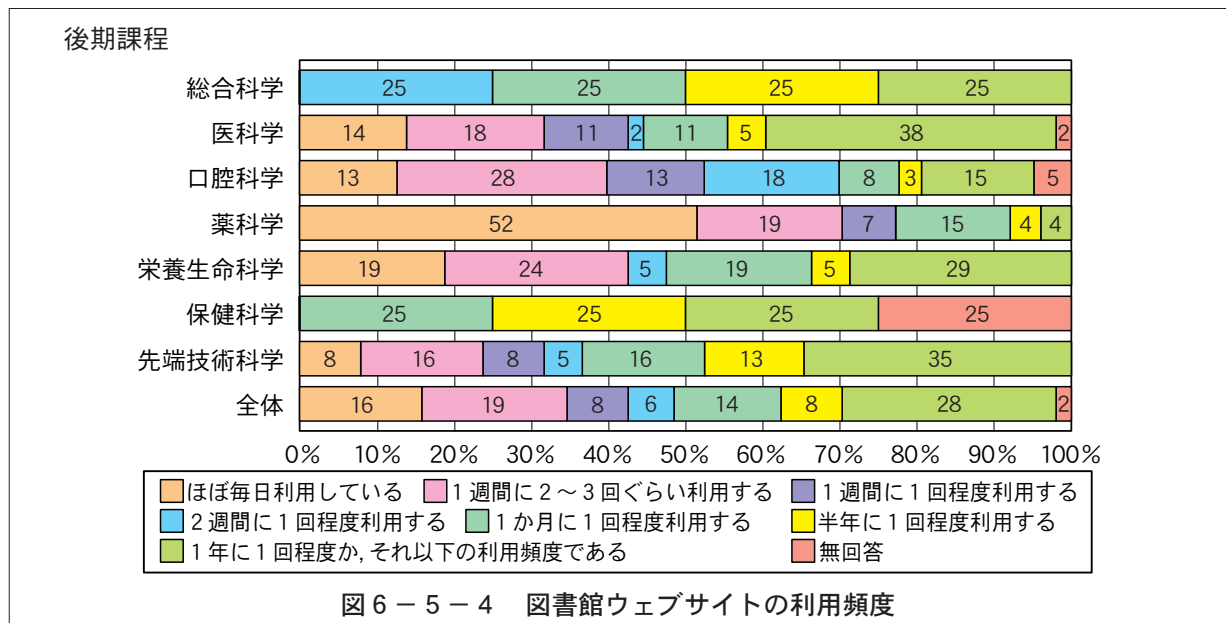
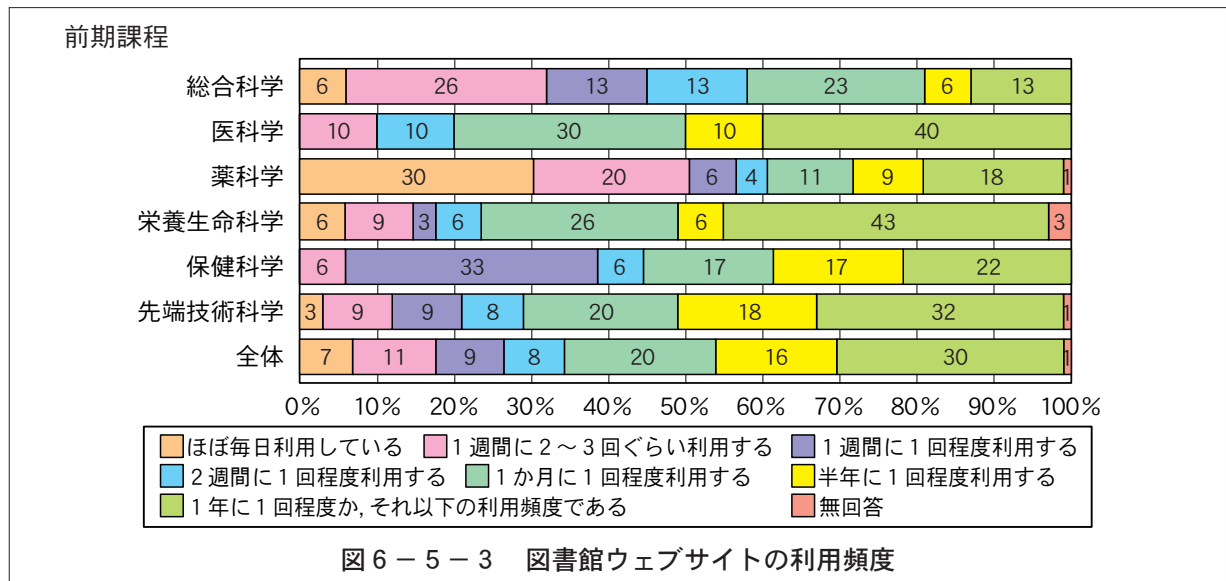
図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で16%、後期課程で20%であり、1 昨年 の第2回調査結果に比べるとそれぞれ1%、6%多くなっている。利用頻度が高いのは前期・後期とも薬科学で、常三島キャンパスの総合科学や先端技術科学の利用頻度も高い。一方、医科学、栄養生命科学、保健科学の利用頻度はやや低い傾向が伺える(図6-5-1、図6-5-2)。

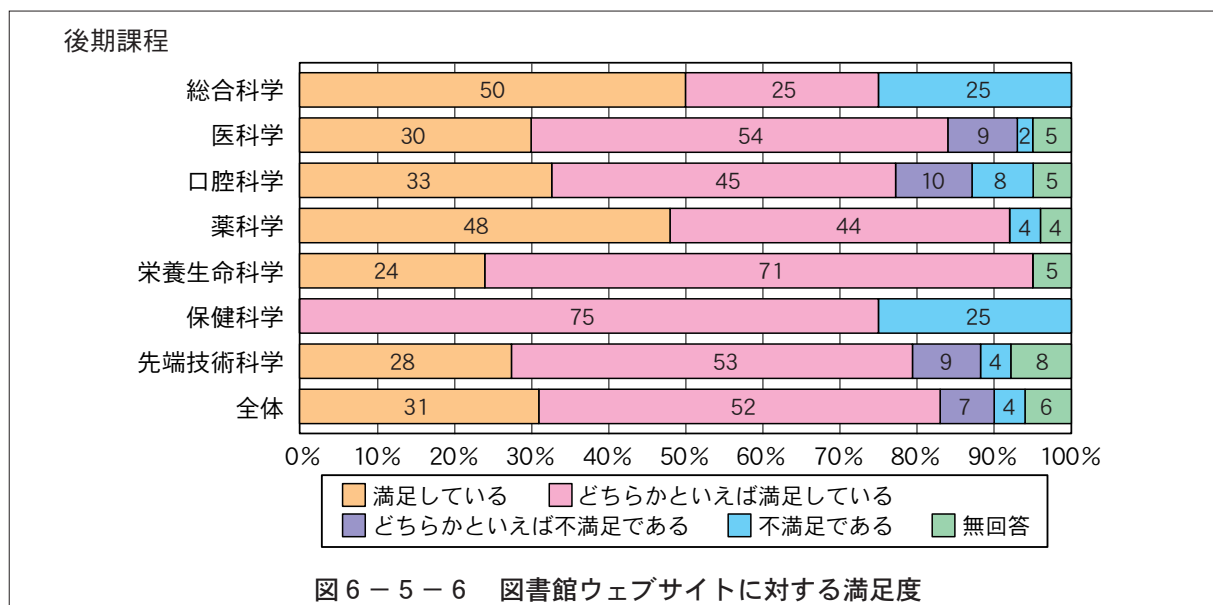


図書館ウェブサイトによる文献検索の利用についての質問では1週間に1回以上利用する学生が、前期課程で27%、後期課程で43%であり、ウェブサイトによる文献検索の利用は研究活動を行う上で重要となっていることが理解できる(図6-5-3、図6-5-4)。

また、図書館ウェブサイトに対する満足度も前期課程で90%、後期課程で83%の学生がある程度満足しており、図書館が提供するサービスとして学生からの評価も高い(図6-5-5、図6-5-6)。インターネットを利用した文献検索は大学院生の日々の研究活動に必要な不可欠のものとしてすでに定着しており、学生の自律的な研究活動を支援するためにも、インターネットで閲覧可能な学術雑誌の維持とさらなる拡充といった図書館ウェブサイトの継続的な整備が望まれる。また、学生が快適にウェブサイト検索を行えるためのハード面、ソフト面での充実も必要であろう。なお、留学生を対象としたアンケート調査結果でもウェブサイトによる文献検索の利用頻度や図書館ウェブサイトに対する満足度につ

いて日本人学生とほぼ同様の回答が得られており、日本人学生と留学生の図書館利用に関する利用状況や整備ニーズに大きな差異はないと考えられる。

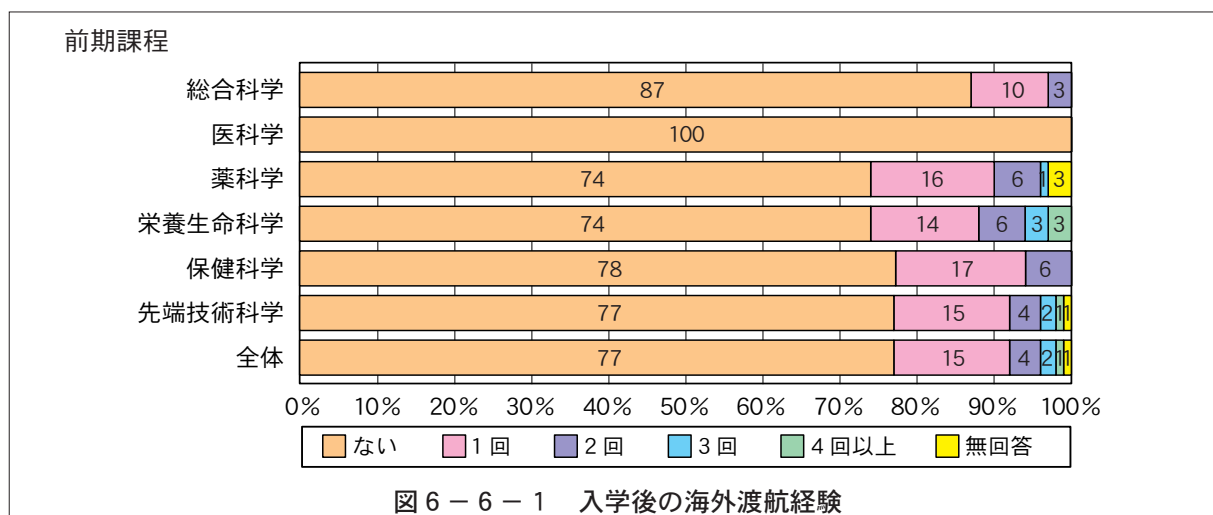


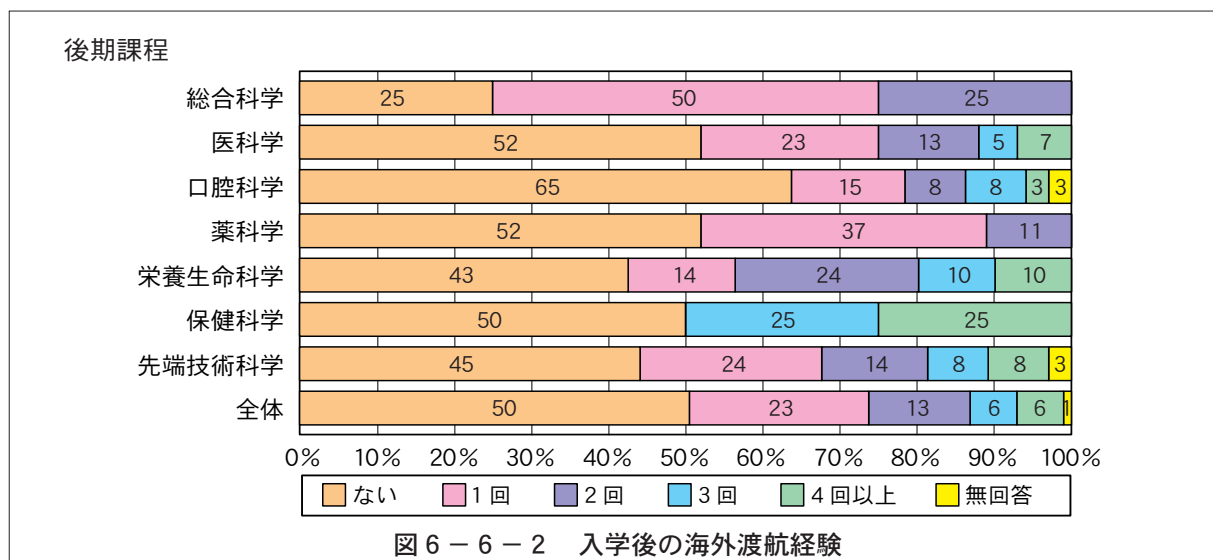


6-6 海外渡航の経験と英会話 (図 6-6-1~図 6-6-10)

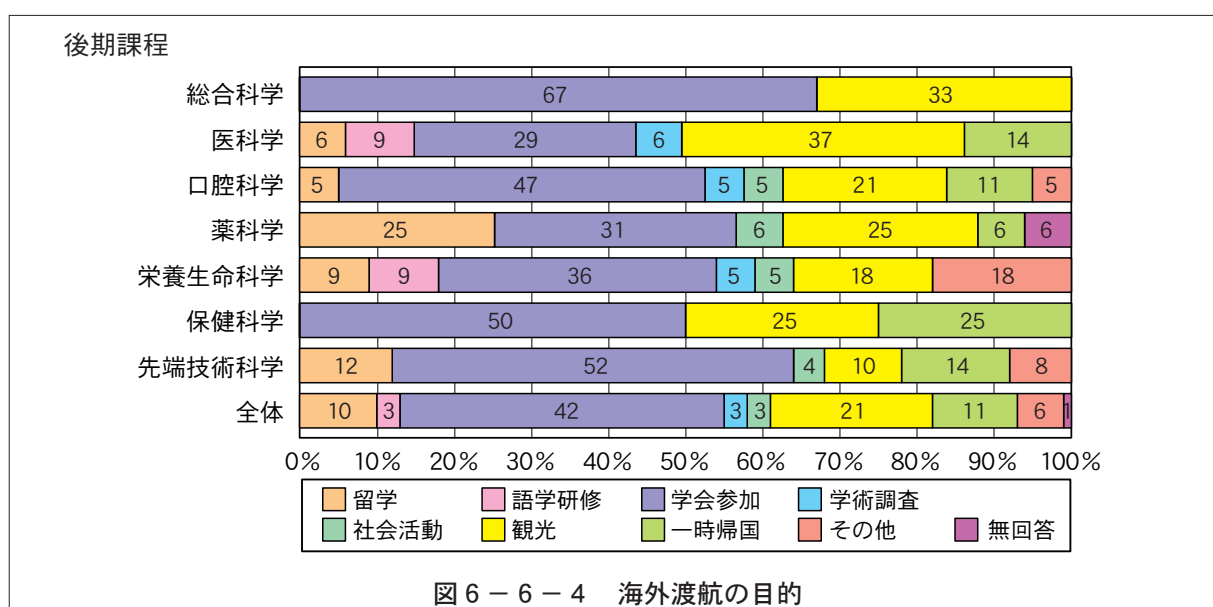
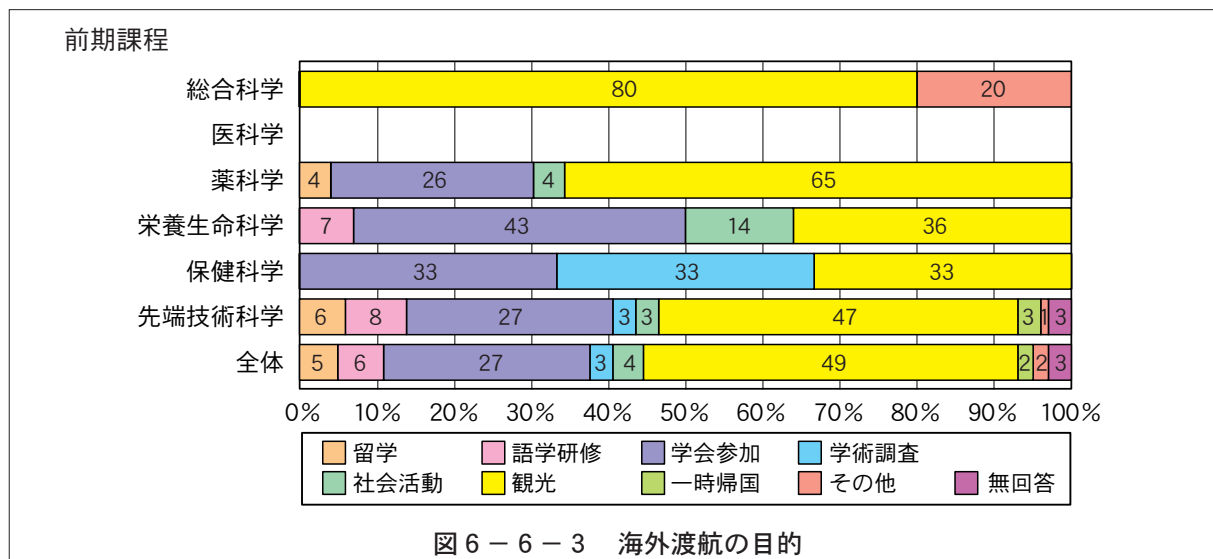
入学後の海外渡航経験については、前期課程全体で77%の学生が「ない」と答えている。さらに、海外渡航経験のある学生でも1回の学生が15%である(図6-6-1)。これは前回調査(平成20年度)の数値がそれぞれ76%, 16%であり、これとほぼ一致している。一方、後期課程の学生では「ない」と答えた学生は全体で50%となっており、半数の学生が1回以上、海外渡航経験を有することがわかる(図6-6-2)。なお、総合科学の後期課程学生の海外渡航割合は75%と高いが、回答者が4名と少ないため、内容分析するには適さない。

海外渡航の目的についての回答では前期課程では観光目的49%、次いで学会参加が27%である。これに対して、後期課程学生では全体の42%が学会参加、21%が観光、10%が留学と回答している(図6-6-3, 図6-6-4)。前回調査によると後期課程学生の目的はほぼ学会参加が46%と今回とあまり変わらないが、前期課程学生は学会参加が39%と最も多く、次いで観光が38%となっており、今回の調査結果に比べて学会参加が多かったようである。国際学会での発表など海外の学会参加を大学院の早い時期に経験することは研究意欲を高めるだけでなく、国際的に活動できる人材を育成する上で重要である。その意味で前回調査に比べて、前期課程学生の学会参加を目的とした海外渡航の割合が12%も減少していることはその原因について検討すべき点がある。経済変化など社会的要因も影響していると考

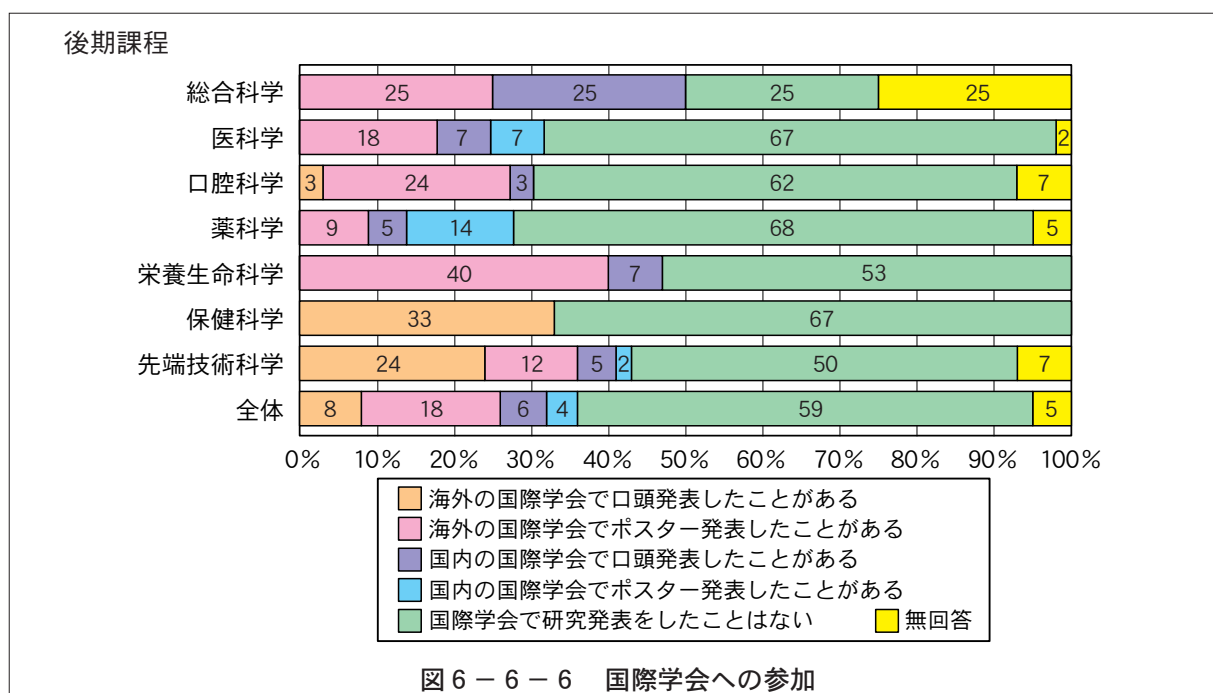
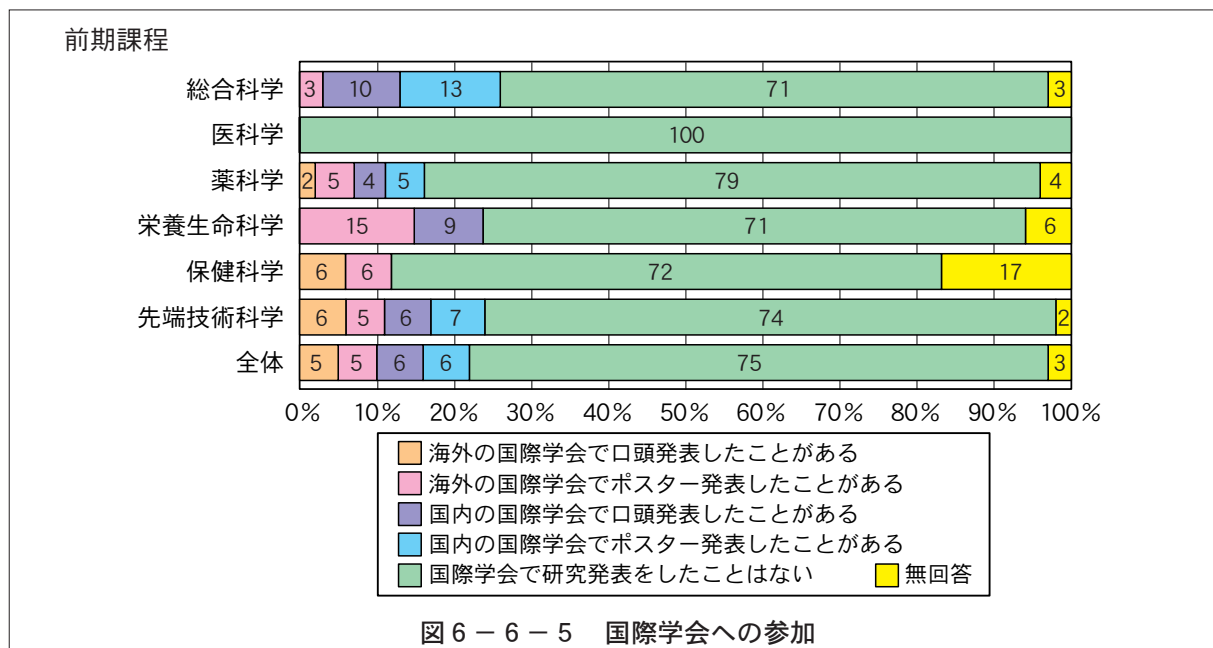




えられるが、学生が学会参加を目的とした海外渡航を支援するシステムを多角的に検討する必要がある。国内外での国際会議での発表経験を問うた質問では前期課程では全体の75%、後期課程でも全体の59%が「国際学会で研究発表をしたことがない」と答えている（図6-6-5、図6-6-6）。これ



は前回調査に比べても後期課程で10%、国際学会での研究発表未経験者が増加している。国際的に通用する有能な人材を育成するため、国際学会での発表を義務化するなど教育カリキュラムからの環境整備も必要であろう。



英会話能力に関する質問では医科学と保健科学の前期課程学生は80%以上の学生が「できない」「あまりできない」と回答している。前期課程では全体でも72%の学生が「できない」か「あまりできない」と答えている（図6-6-7）。後期課程でも全体で60%の学生が「できない」か「あまりできない」（図6-6-8）であり、本学の日本人学生にとって語学修得が難しい環境になっていることが窺い知れる。

一方、語学についての学習状況は前期・後期課程学生とも「何もしていない」という学生がそれぞれ44%、47%であり、半数近くの学生は語学修得に努力をしていないことがわかる（図6-6-9、図6-6-10）。語学の学習内容としては前期課程ではTOEICやTOEFLの受験が中心であり、後期課程では外国人とのコミュニケーション、ラジオ・テレビの英会話番組、外国のラジオ・テレビの視聴、

前期課程

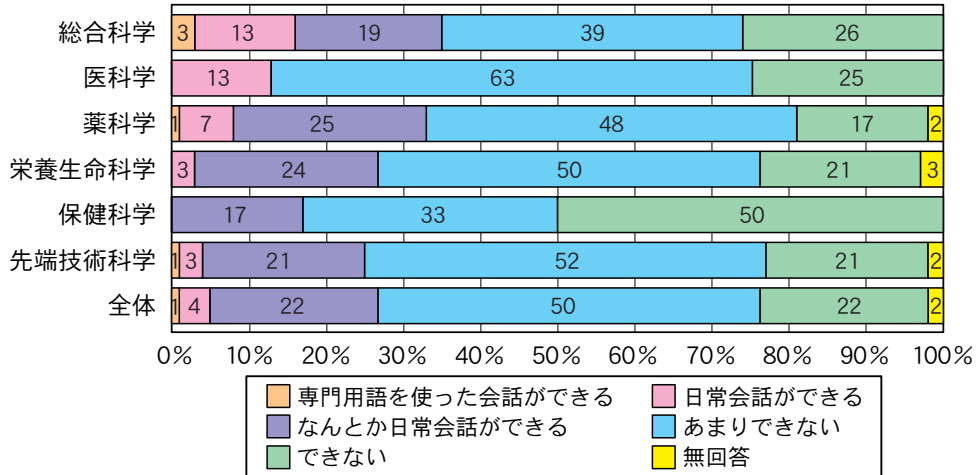


図 6 - 6 - 7 英会話（日本人のみ）

後期課程

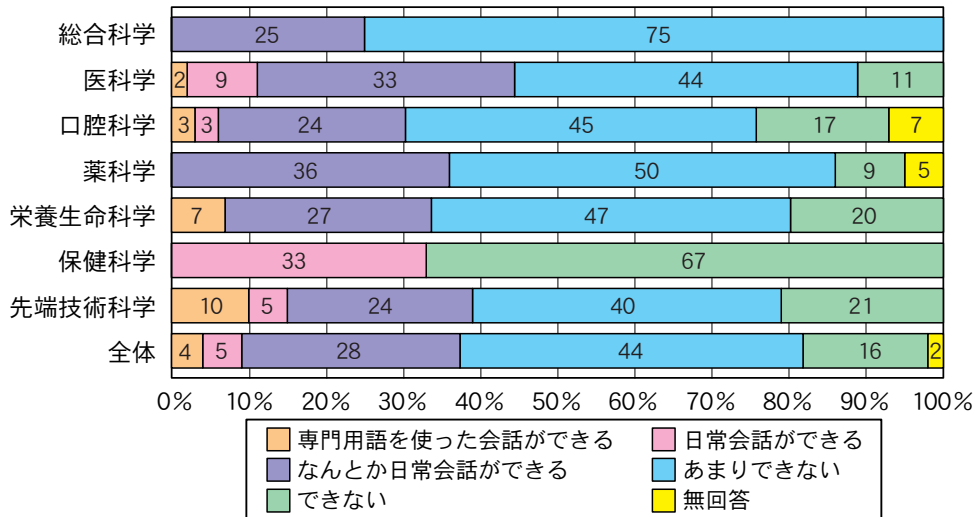


図 6 - 6 - 8 英会話（日本人のみ）

前期課程

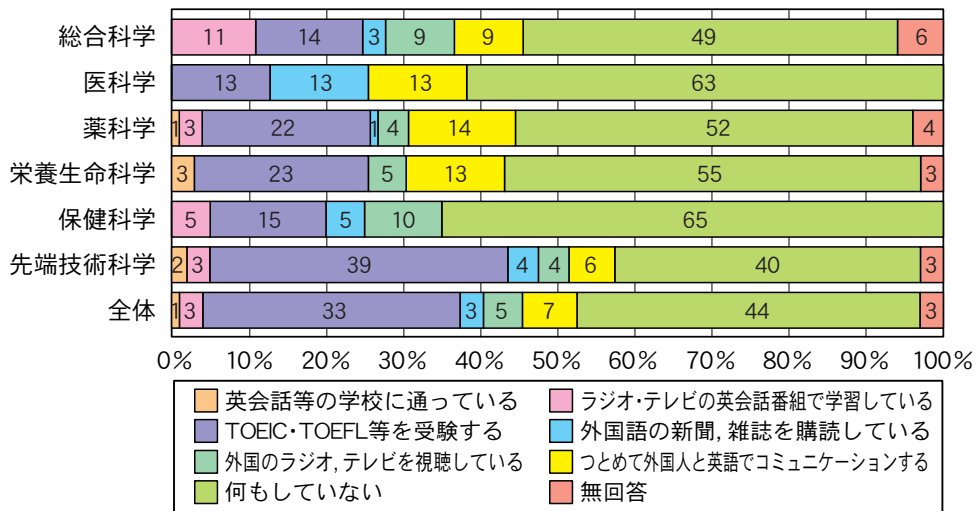
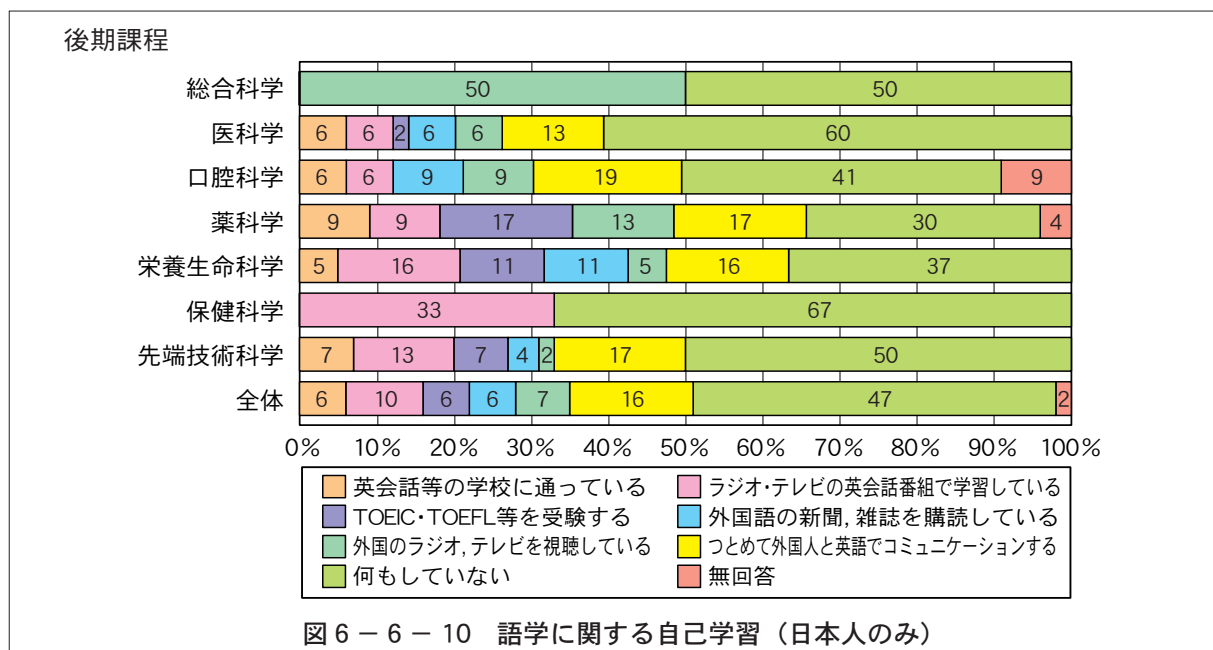


図 6 - 6 - 9 語学に関する自己学習（日本人のみ）



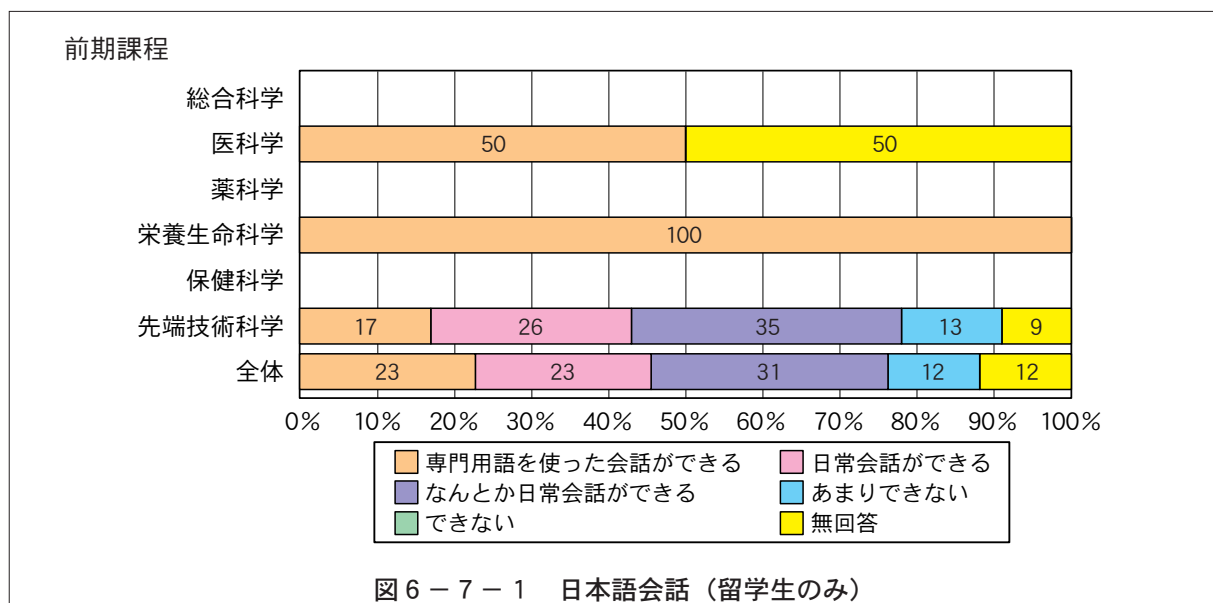
英会話学校の通学など多様な方法で学習を行っていることがわかる。語学の学習努力を行っていない学生を減らすためのきっかけづくりを含め、英語による教育カリキュラムの整備を始め、大学院生が個人的に語学学習しやすくするための経済的援助など多面的な対策を検討する必要がある。

6-7 日本語会話 (図 6-7-1~図 6-7-6)

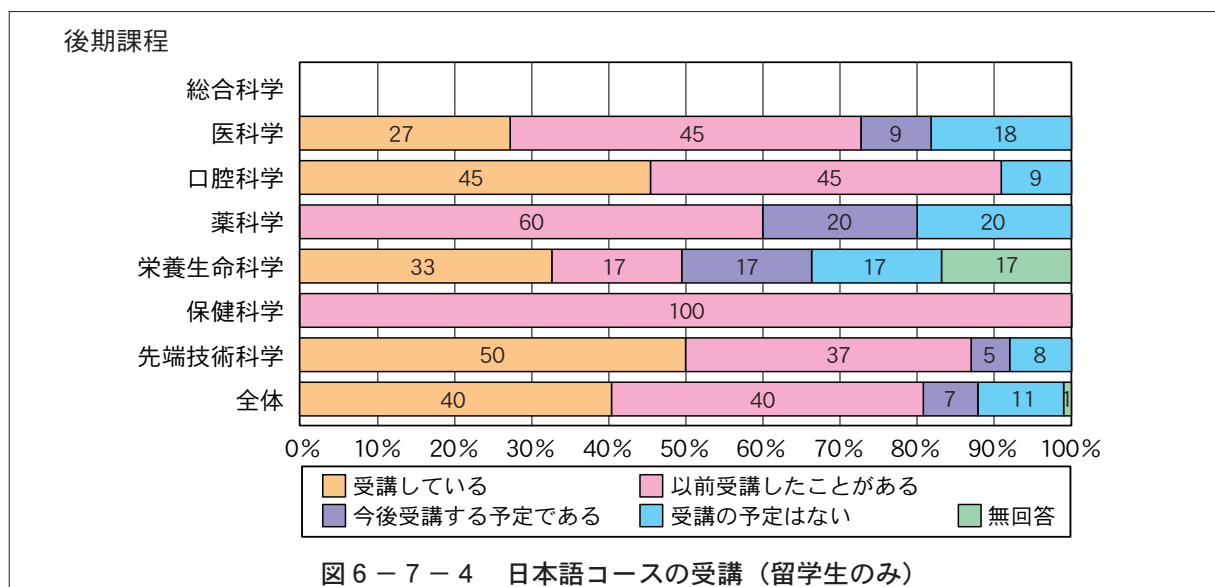
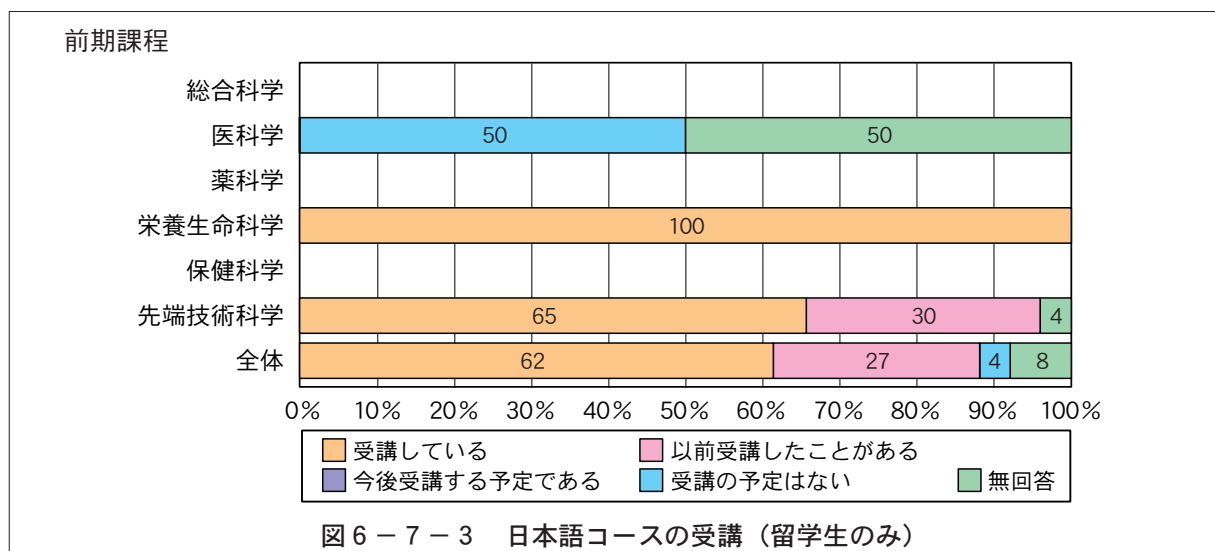
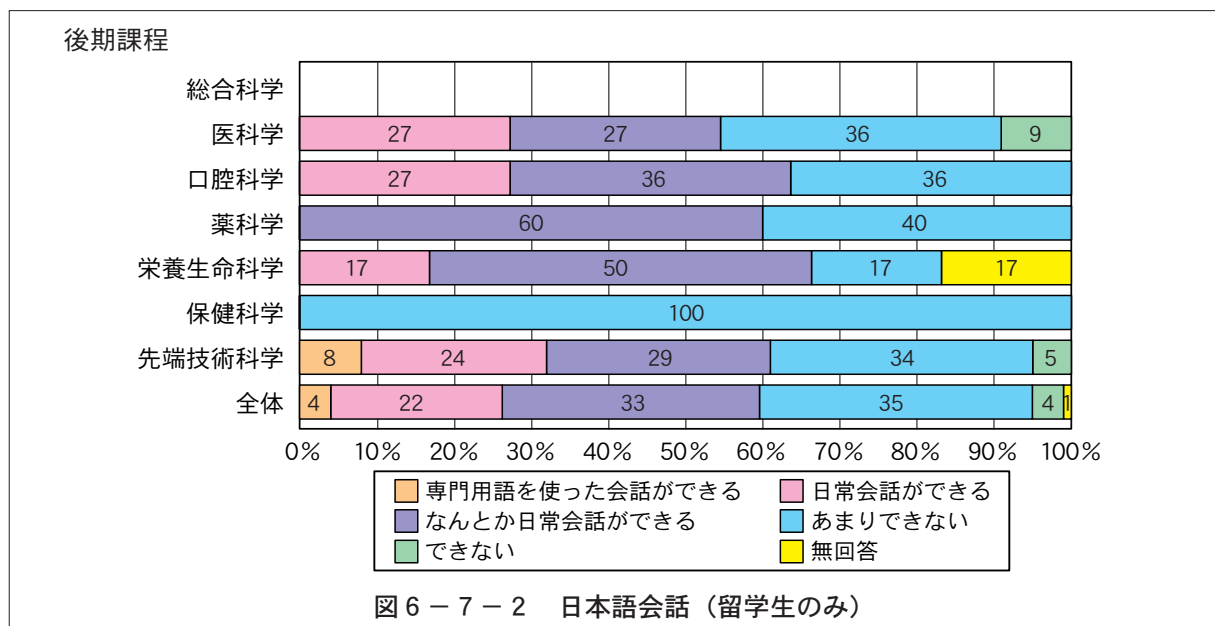
前期課程では77%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対して、後期課程では59%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている（図 6-7-1、図 6-7-2）。なお、前期課程の回答者は26名で、その内23名は先端技術科学であり、医科学、栄養生命科学のデータの分析は不能である。

前期課程では89%、後期課程では80%の留学生が日本語コースを「受講している」あるいは「以前受講したことがある」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる（図 6-7-3、図 6-7-4）。

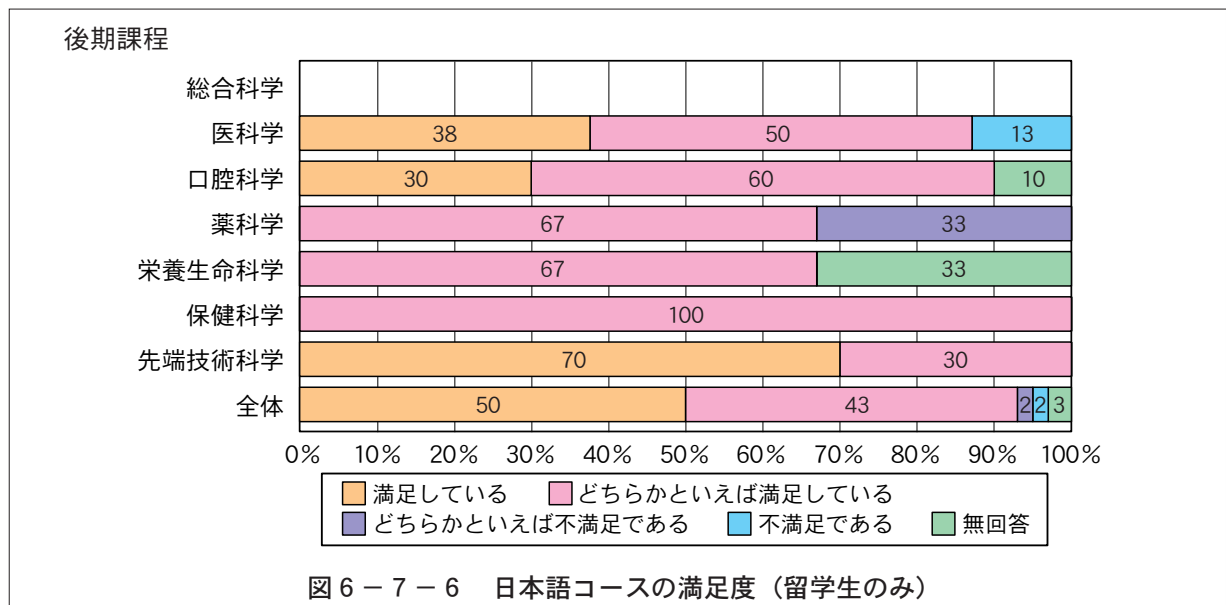
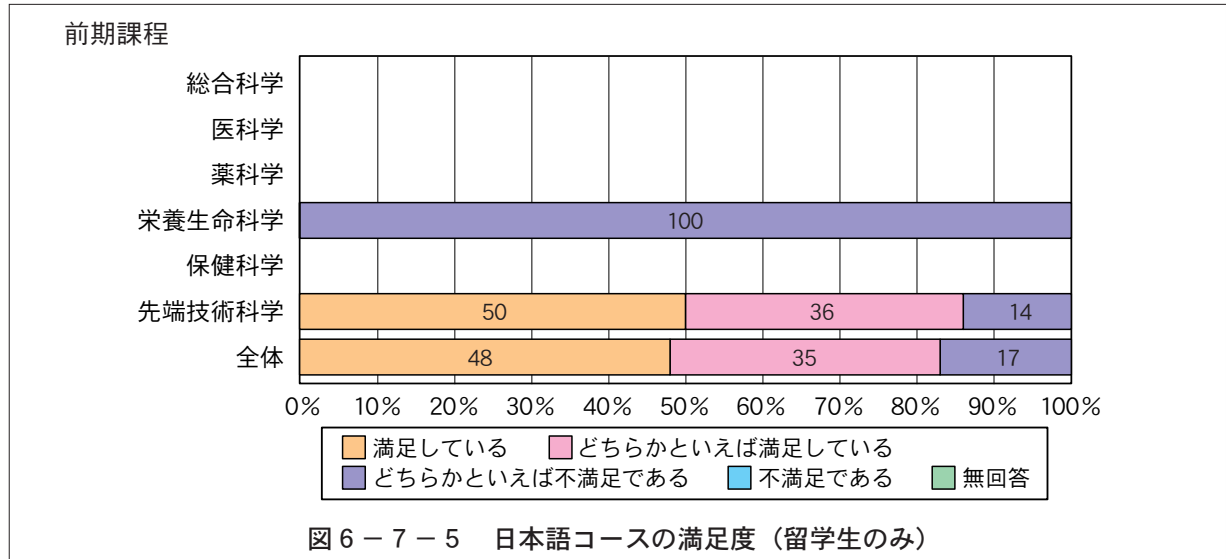
また、日本語コースの満足度については前期課程で83%、後期課程で93%の学生が「満足している」



あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる（図6-7-5, 図6-7-6）。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要



な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

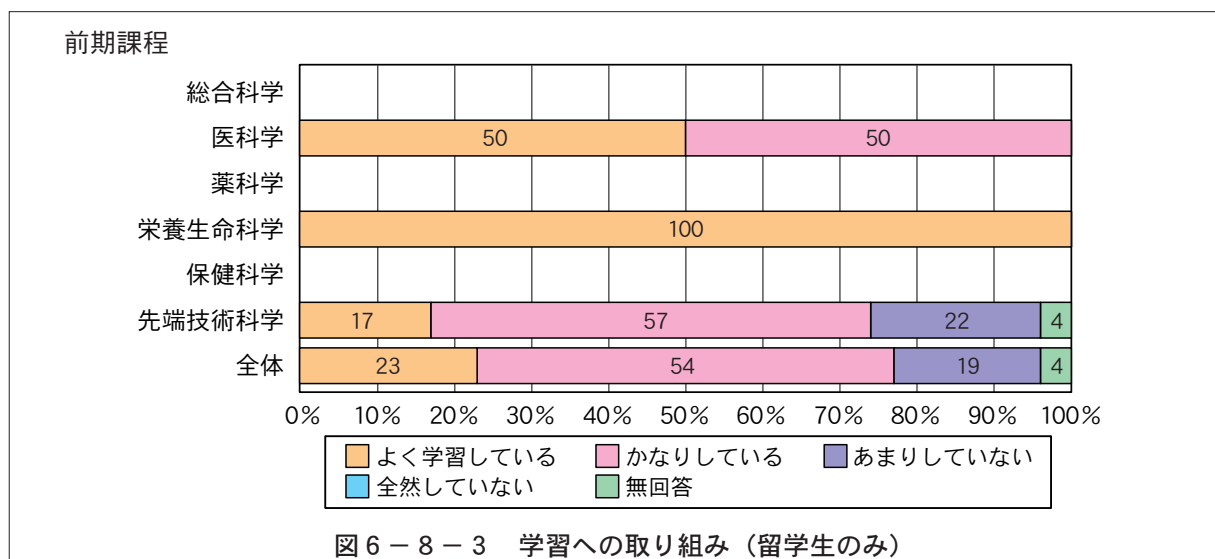
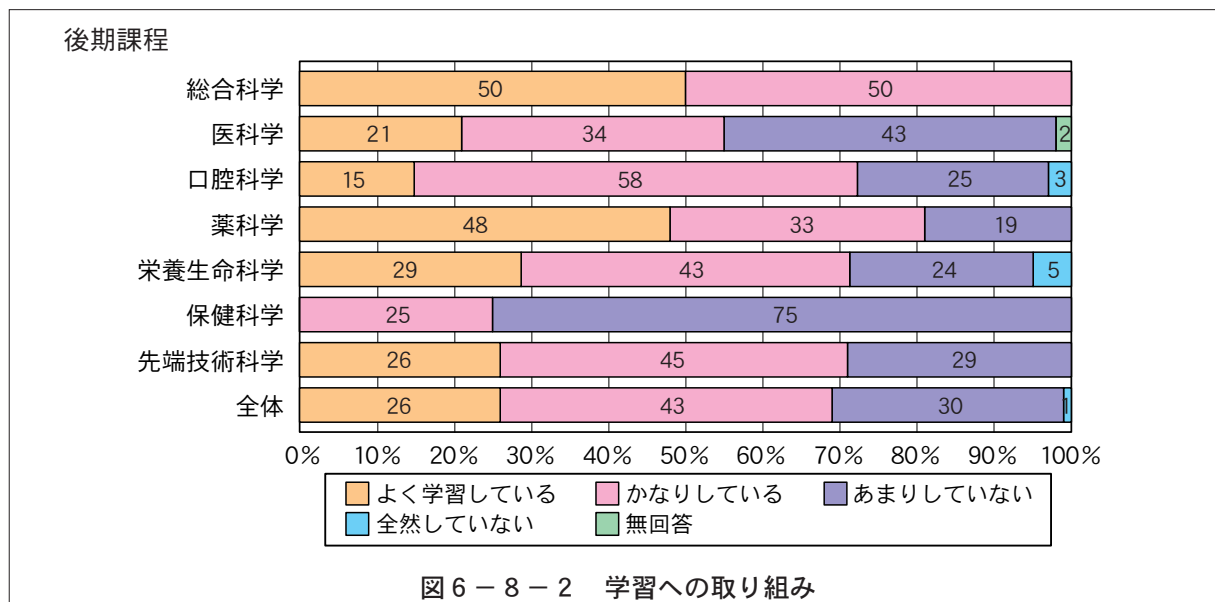
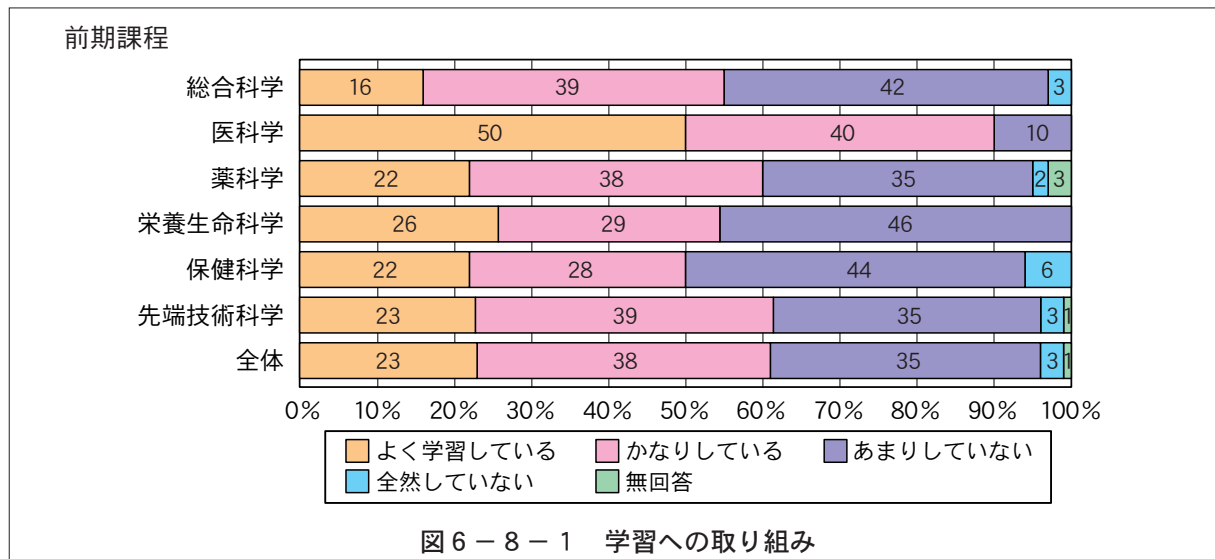


6-8 学習への取組みと本学の教育への期待 (図6-8-1~図6-8-8)

大学院での学習への取組み状況についての質問に対して、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生は前期課程全体で61%，後期課程全体69%である（図6-8-1，図6-8-2）。これは前回調査の66%および77%に比べると、いずれも数%程度減少しており、学習量が減少していることが懸念される。教育部別では前期課程の医科学，後期課程の総合科学や薬科学がいずれも80%を超える学生がよく学習していると答えているのに対して，前期課程の総合科学，栄養生命科学，保健科学，後期課程の医科学では40%を超える学生が「あまりしていない」と回答しており，学習意欲がやや低いことが案じられる。なお，後期課程の保健科学は回答者が4名と少ないため，その傾向を把握することは難しい。

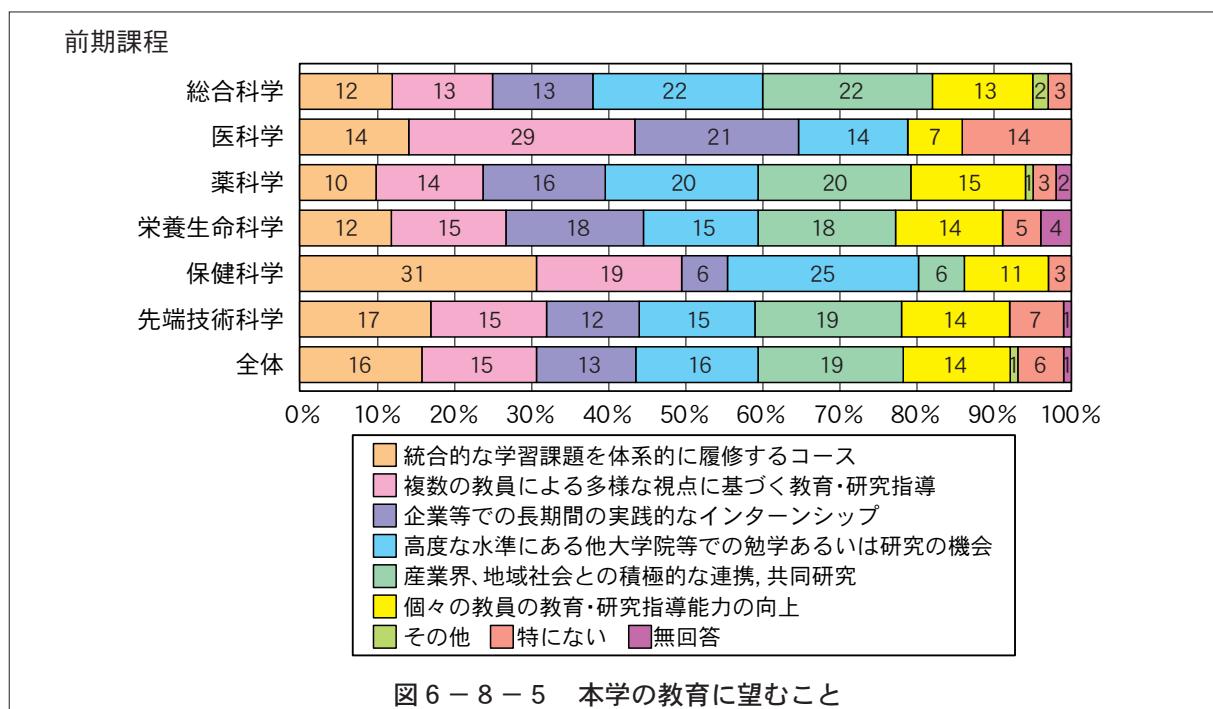
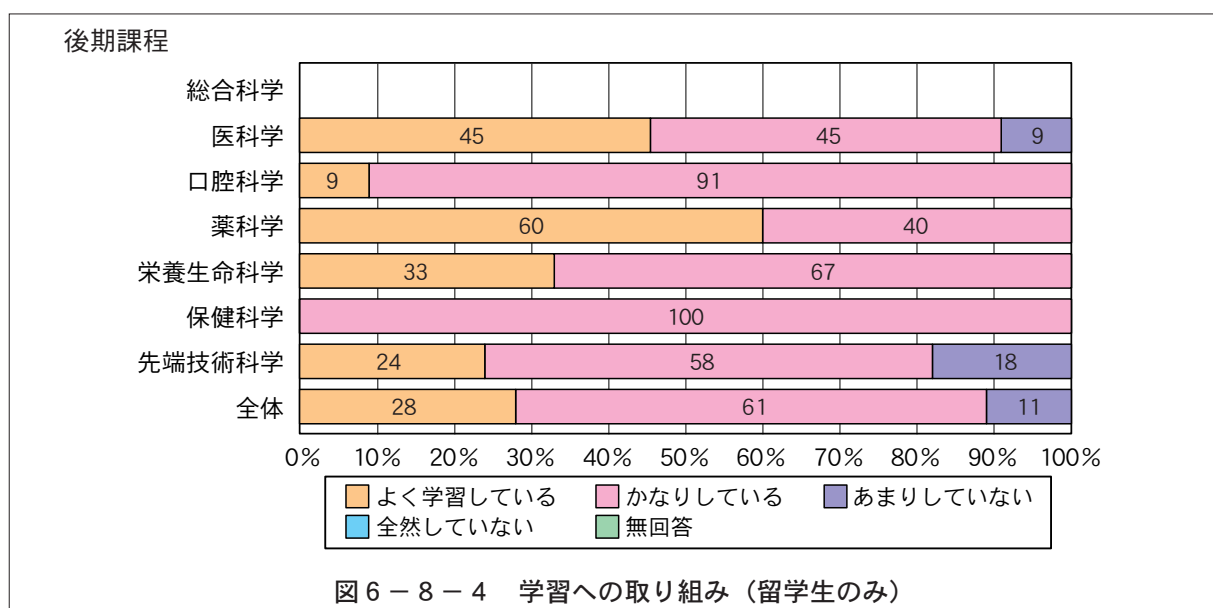
一方，留学生は先端技術科学の前期課程で22%，後期課程で18%の学生が「あまりしていない」と回答しているものの，前期課程全体で77%，後期課程全体で89%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており，学生全体の数値に比べて大きく上回っており，一般学生の学習意欲を高めるための取組みが急務と言える（図6-8-3，図6-8-4）。

「あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか」として、6種類の選択肢を選んでもらった設問では前期課程、後期課程ともほぼ均等に意見が分かれた。これは前回調査でも同じ結果が得られており、選択肢の内容から具体的な教育カリキュラムをイメージしにくいことや学生ごとにニーズが異なる



ことなどの理由が考えられる（図6-8-5, 図6-8-6）。

本学の国際化への対応については、前期課程の70%、後期課程の75%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と回答しており、本学の国際化を進めるための取組みについてある程度大学院生は評価している（図6-8-7, 図6-8-8）。また、留学生に注目した場合には前期課程の89%、後期課程の94%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えており、学生全体をさらに上回る結果となっている。こうした結果は前回調査とほぼ同じであり、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられるが、各教育部において、教育カリキュラムの組織的展開を強化し、国際的に通用する質の高い大学院教育の提供を目指さなければならない。また、「国際化への対応が積極的である」と100%の学生に評価されるよう、さらなる改善が必要である。



後期課程

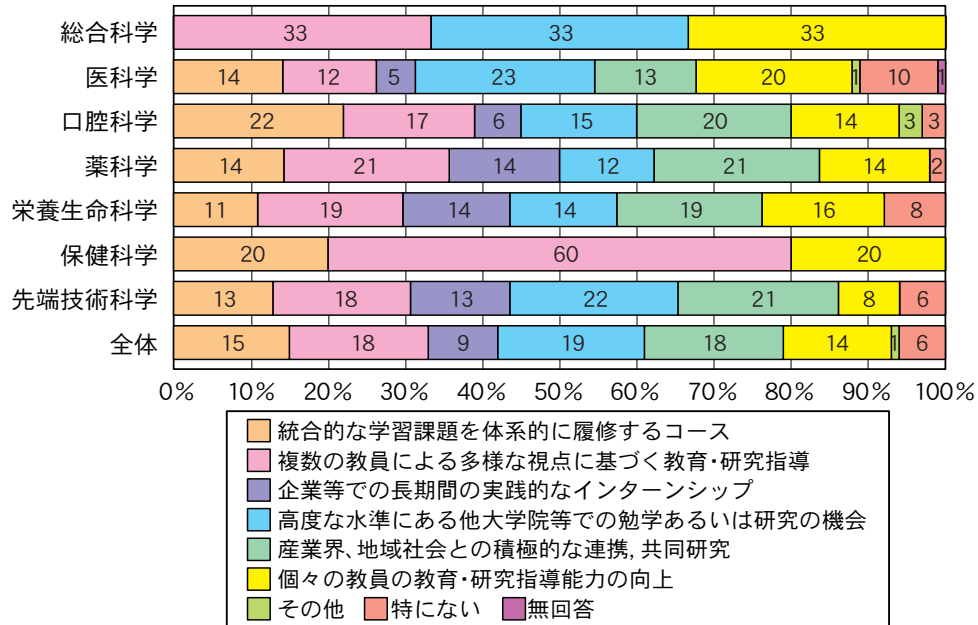


図 6-8-6 本学の教育に望むこと

前期課程

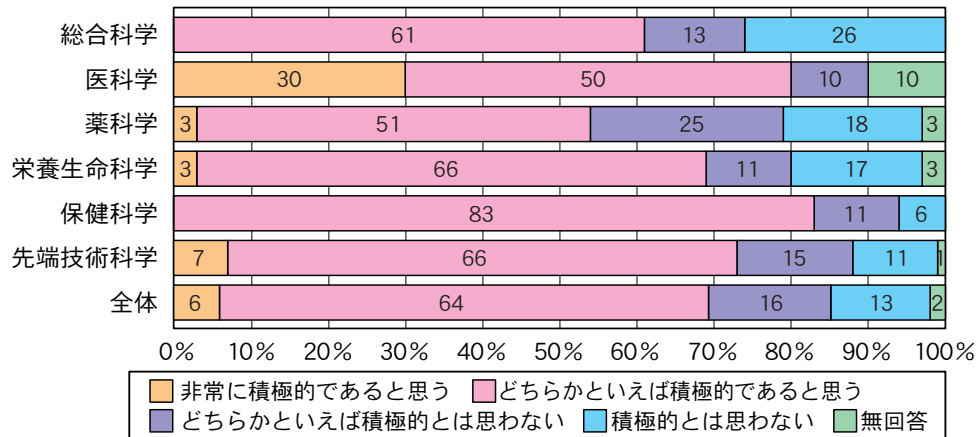


図 6-8-7 本学の国際化への対応

後期課程

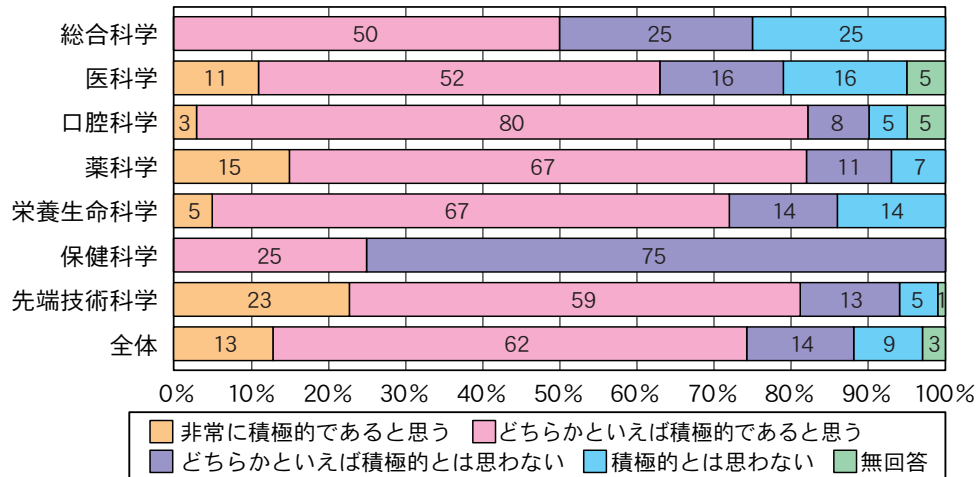


図 6-8-8 本学の国際化への対応

第7章 進路選択・就職について

7-1 後期課程への進学意思 (図7-1-1, 図7-1-2)

前期課程学生の後期課程への進学意思が高いのは医科学で、質問項目74で回答1または回答2を選択したものが30%、次いで栄養生命科学と保健科学がそれぞれ26%と17%である。逆に先端技術科学では86%、薬科学の78%、総合科学の68%が回答3「進学しない」と答えている。項目7-3で後述するが、先端技術科学の進学しないと答えたものは技術職や専門職に就くために前期課程に入学したと思われる。また進学希望者は研究の継続意思があるものと考えられる。なお留学生の回答数は、医科学2名、栄養生命科学1名、先端技術科学23名で、その内6名のみが進学しないと答え、進学意欲を持つ学生が多い。

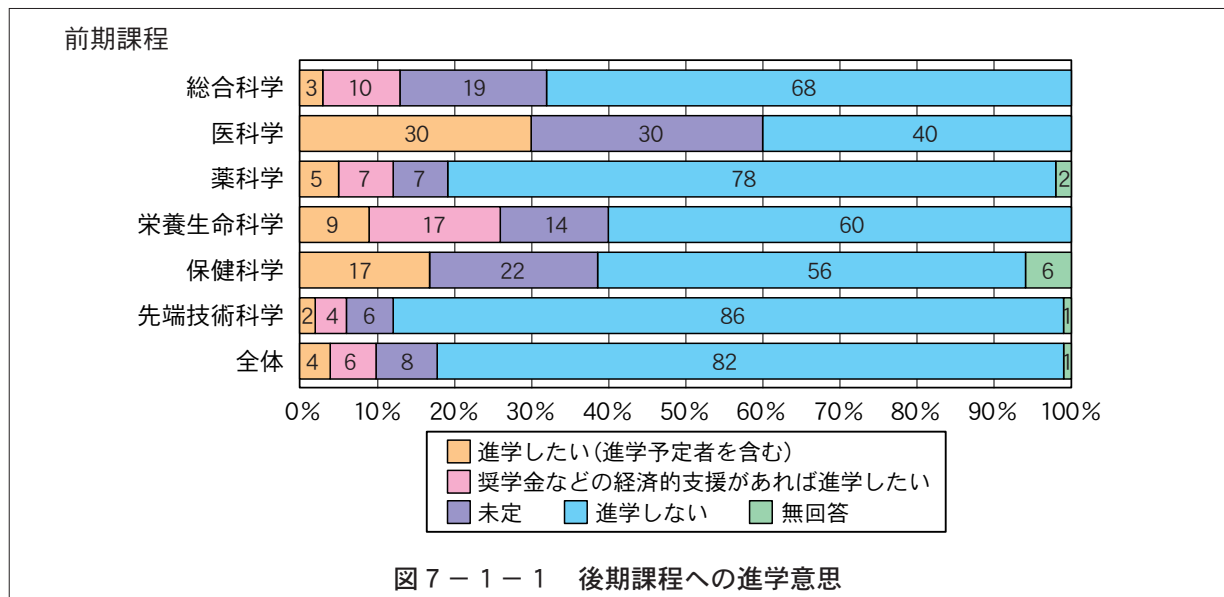


図7-1-1 後期課程への進学意思

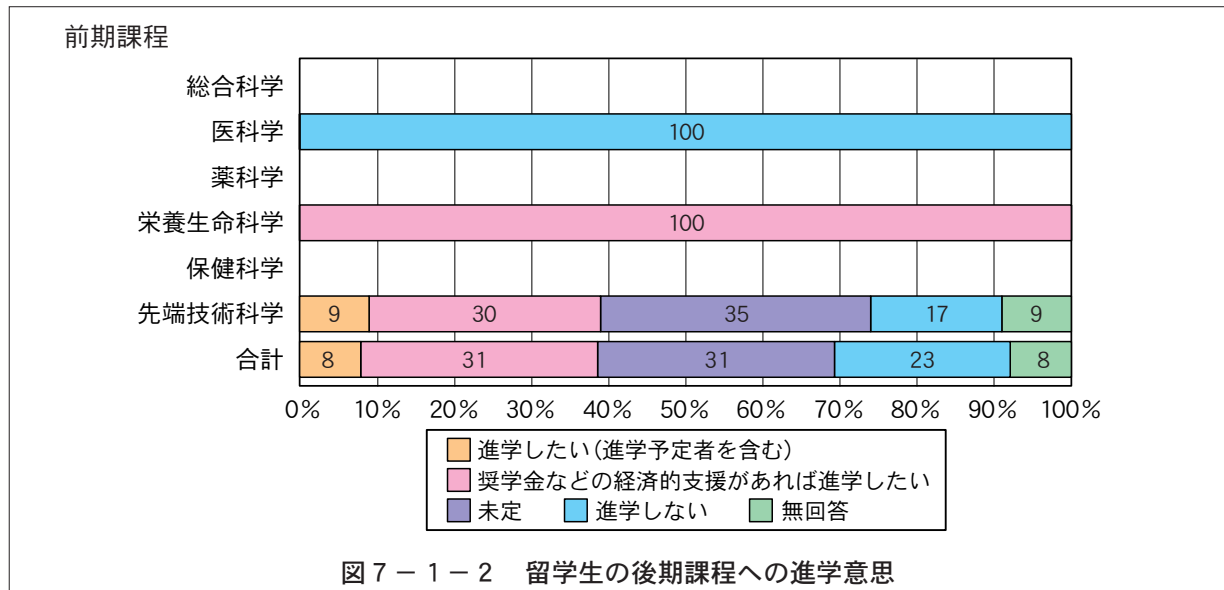
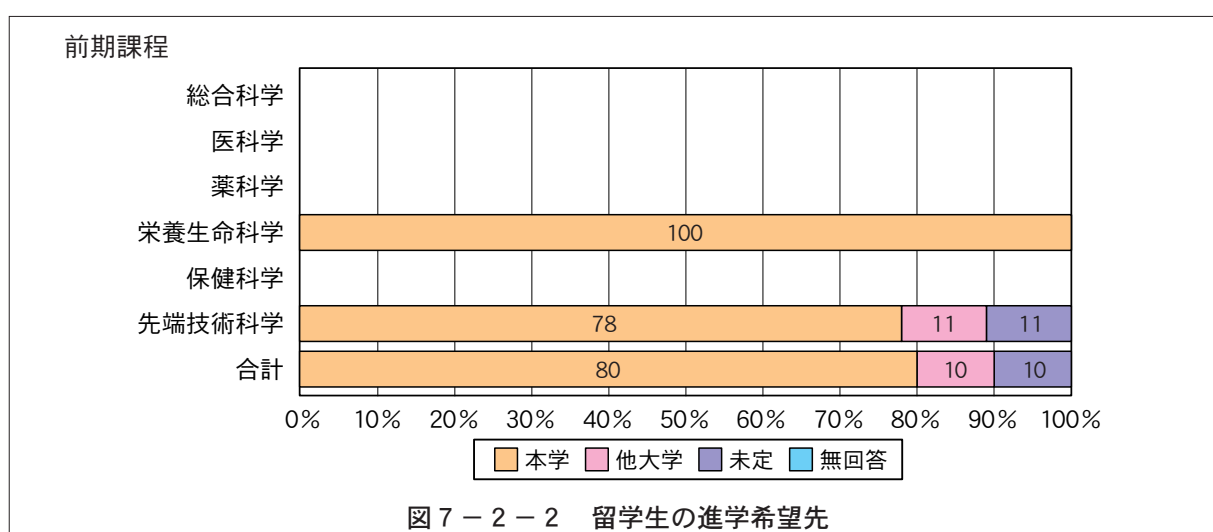
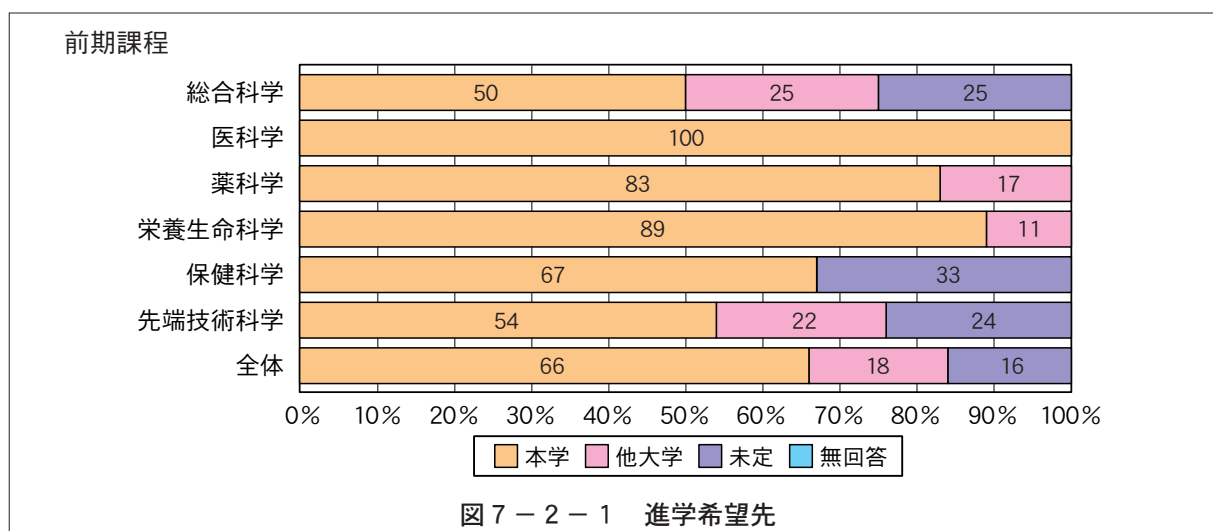


図7-1-2 留学生の後期課程への進学意思

7-2 進学希望先 (図7-2-1, 図7-2-2)

前項目で進学意思を示した学生の進学希望先大学院調査である。全体で66%が本学の後期課程に進学することを希望している。医科学, 栄養生命科学, 薬科学は本学志望者が多く, 継続した研究環境を望んでいるものと思われる。総合科学と先端技術科学は, 未定者の動向が不明であるが, この時点(平成22年11月)では約半数が本学志望者となっている。

留学生については総数が10名と少なく, 留学生がいない教育部もあるため判断が難しいが, 全体としては本学の後期課程を希望しているものが多く, 継続した研究環境を望んでいるものと思われる。



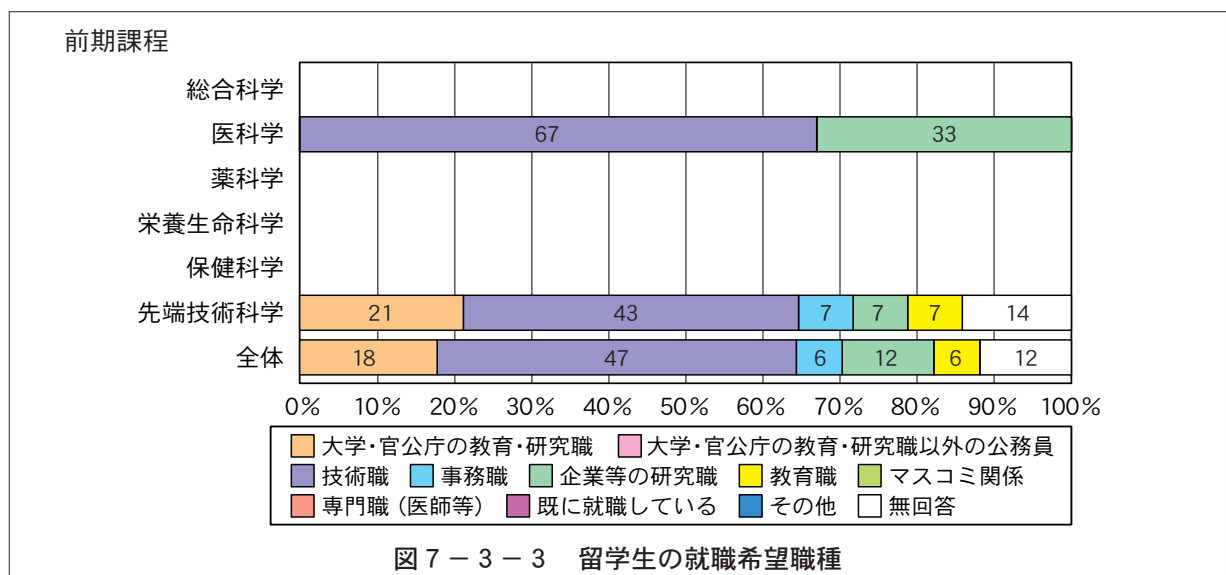
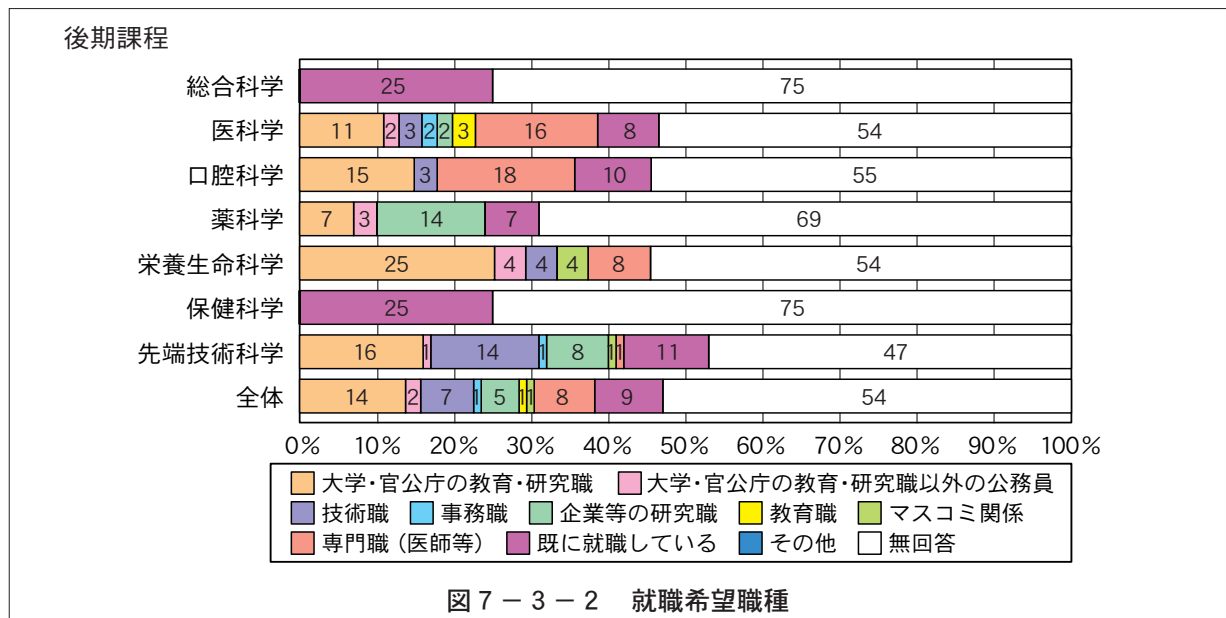
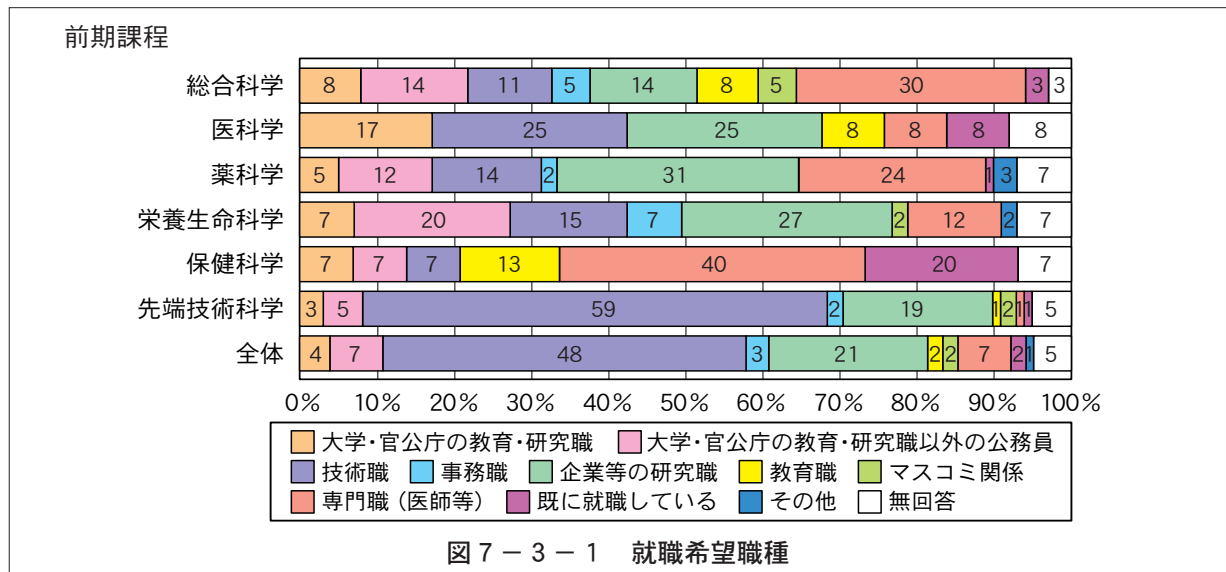
7-3 就職希望職種 (図7-3-1~図7-3-4)

図7-3-1は項目7-1で「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種である。「進学しない」が86%の先端技術科学では, 技術職59%, 企業等の研究職19%と企業への就職目的に前期課程の修了を目指していることが窺われる。その他の教育部では希望職種が広く分散している。

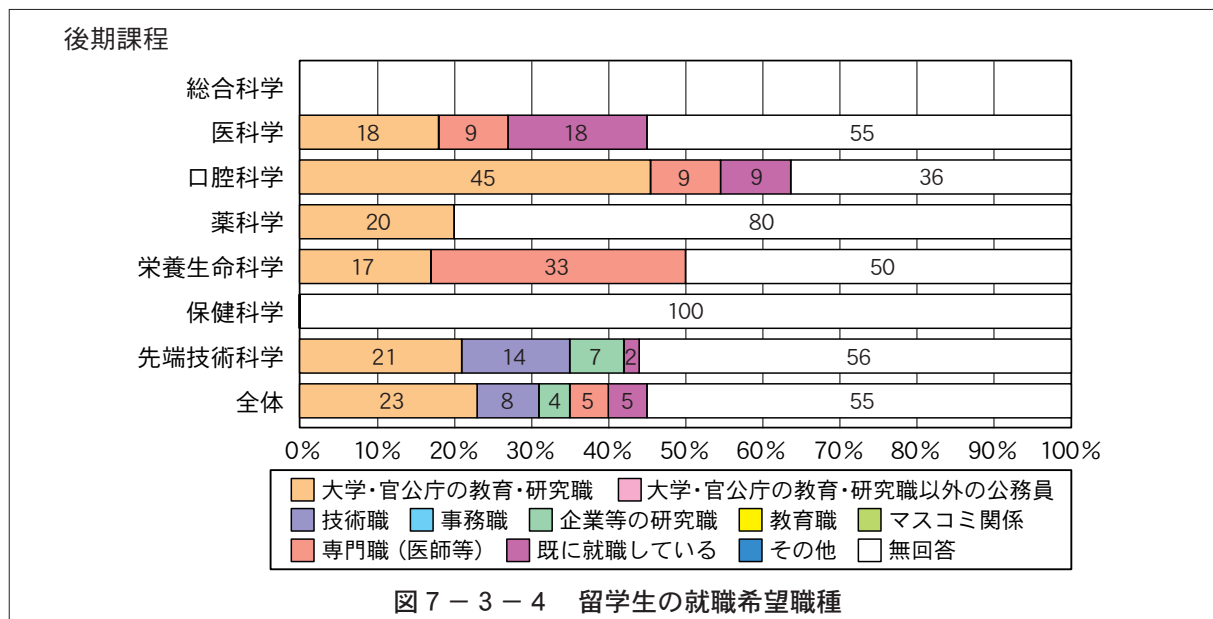
図7-3-2は後期課程の院生に就職希望職種を尋ねたものである。全般に無回答が目立つ。全体では, 大学・官公庁の教育・研究職を希望しているものが比較的多いが, 技術職, 企業等の研究職, 専門職(医師等)に分散している。

留学生に関しては, 博士前期の回答者は17名(医科学3名, 先端技術科学14名)であり, 後期課程

の回答者は77名（医科学11名，口腔科学11名，薬科学5名，栄養生命科学6名，保健科学1名，先端技術科学43名）である。前期課程では技術職が多く，後期課程では無回答が多い。全体としては，



前期課程，後期課程ともに約20%が大学・官公庁の教育・研究職を志望している。



7-4 進路選択の要件 (図7-4-1~図7-4-4)

図7-4-1は前期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたもので3個以内の回答結果である。どの教育部においても収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できることの3点が主要件になっており，これに勤務地，経営方針が次いでいる。全体として，就職先の将来性・安定性が大きな要件となっている。

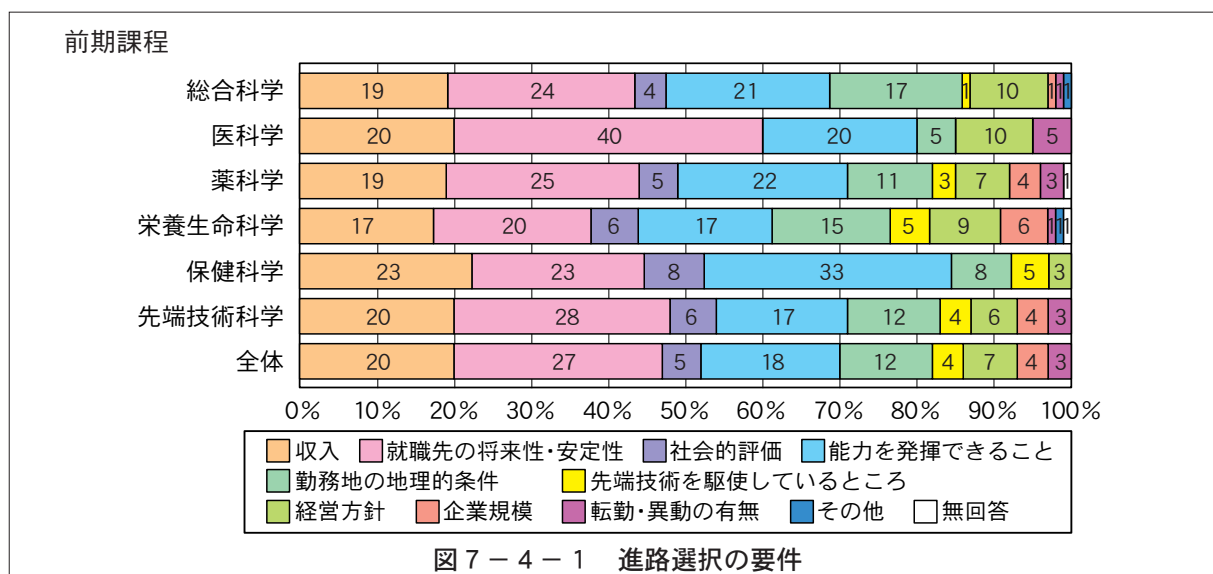


図7-4-2は後期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたものである(3個以内で回答)。前期課程と同じく収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できること，の3点が主要件になっており，勤務地，社会的評価がこれに次いでいる。総合科学では，収入が要件に入っていないが，回答者数が少ないこと(延べ7名)と，多くが社会人であるためと考えられる。全体として，前期課程では就職先の将来性・安定性が，後期課程では能力を発揮できることが主要件であった。留学生においても同様で，収入，就職先の将来性・安定性，能力を発揮できること，の3点が主要件である。

後期課程

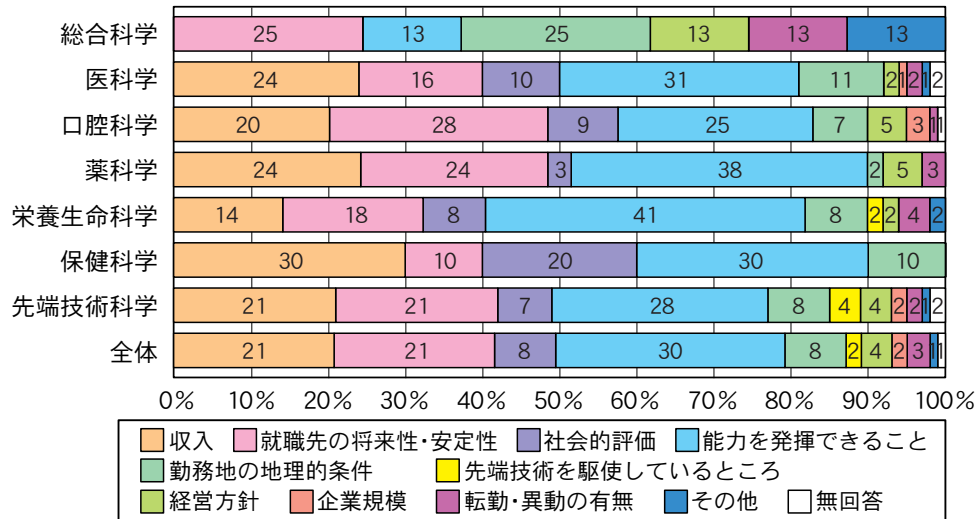


図 7-4-2 進路選択の要件

前期課程

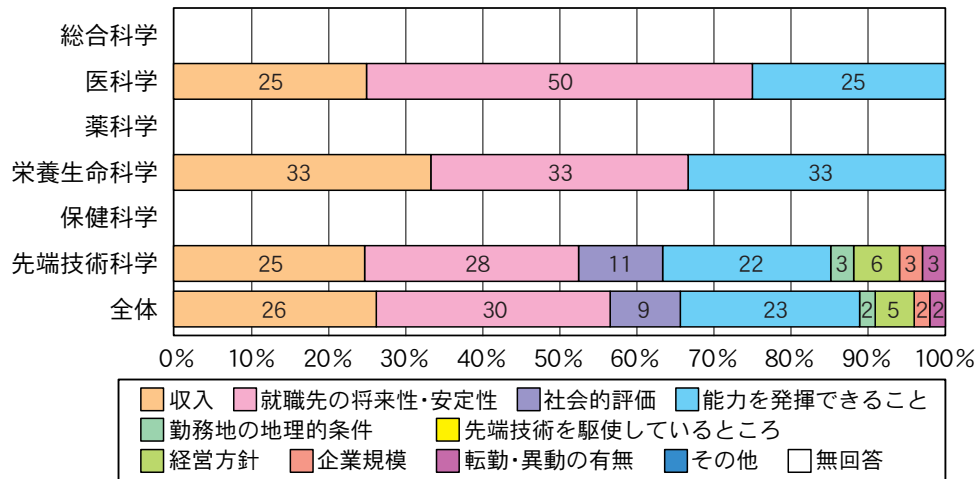


図 7-4-3 留学生の進路選択の要件

後期課程

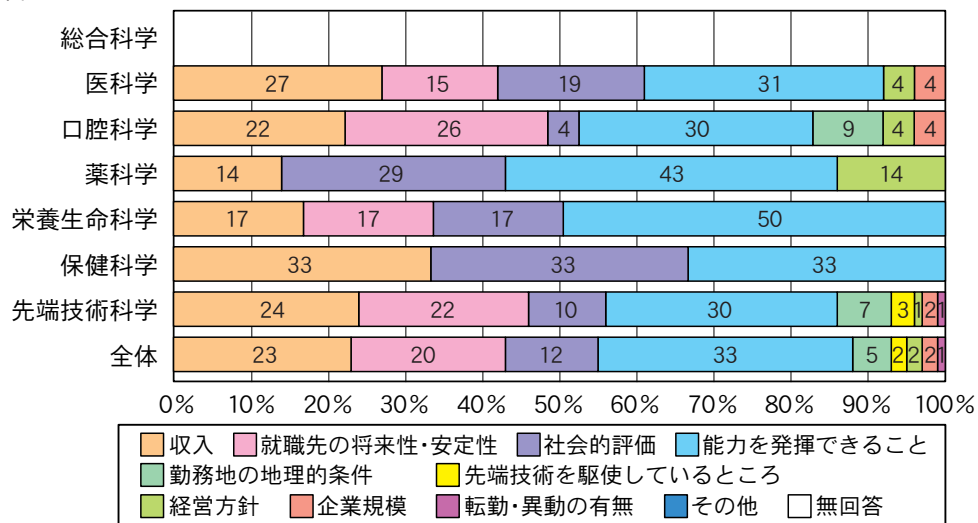
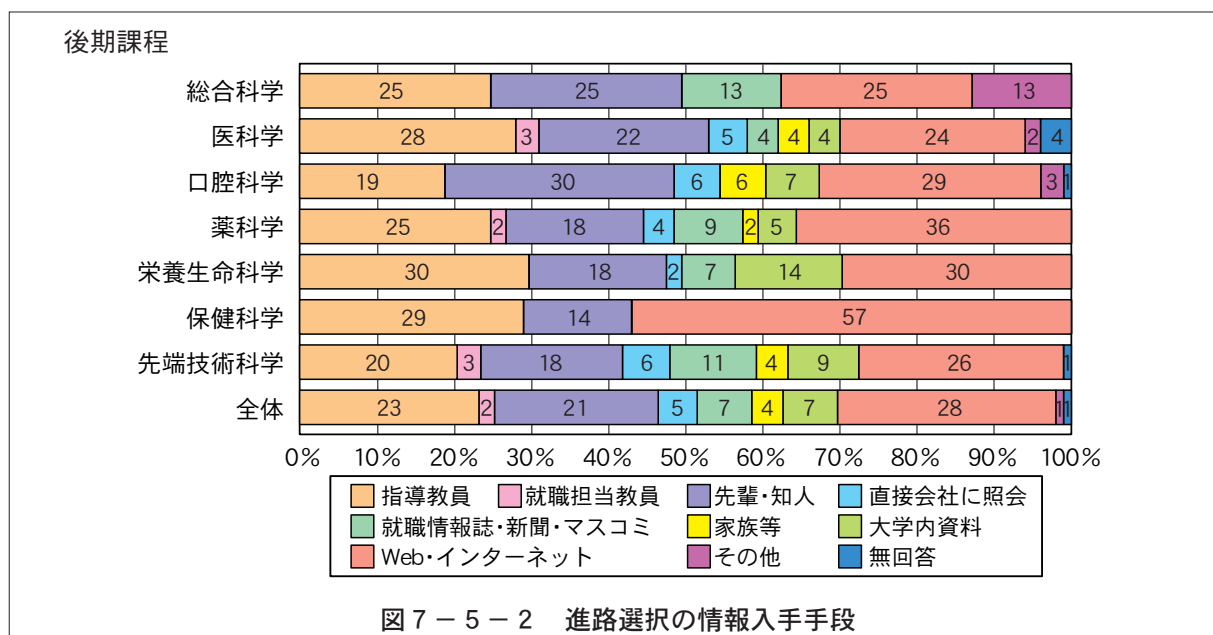
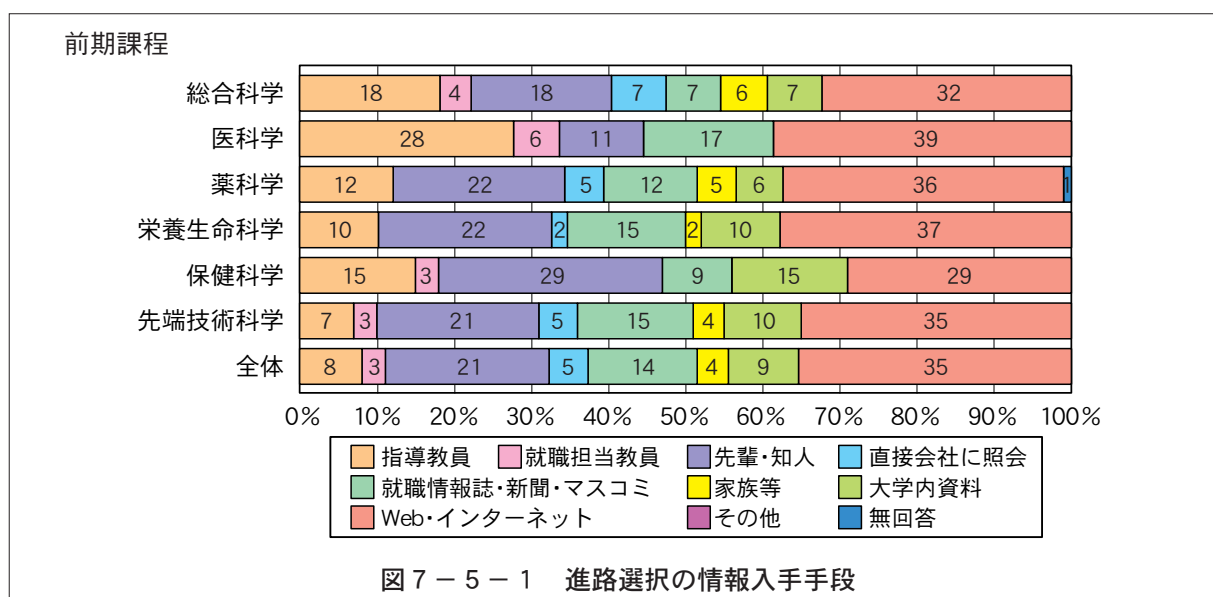


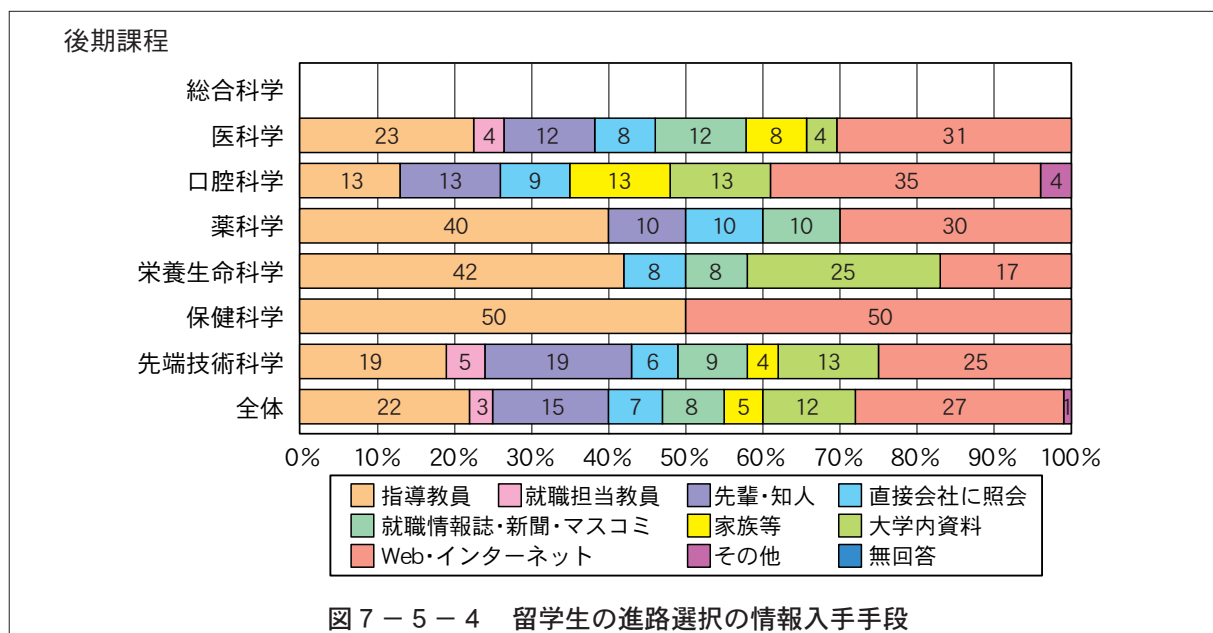
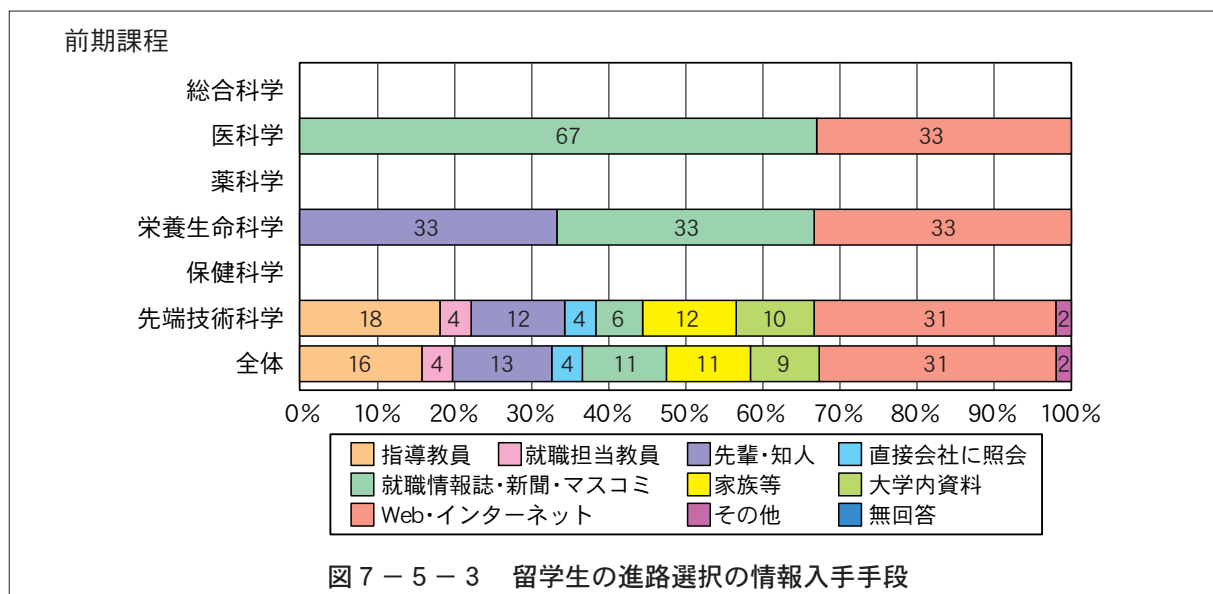
図 7-4-4 留学生の進路選択の要件

7-5 進路選択の情報入手手段 (図7-5-1~図7-5-4)

進路情報の入手手段で目立つのは Web・インターネットである。前期課程、後期課程ともに高比率を占めている。就職情報誌・新聞・マスコミを加えると、約半数の院生がオープンな情報源を活用している様子がうかがえる。Web・インターネットでは、就職情報のほかに他大学院の進学情報の入手が容易であることも比率の上昇に寄与しているかもしれない。

大学院修了者の場合、専門性の高さから指導教員の役割が高いと想像される。アンケート結果からも、後期課程者は前期課程者に比べ指導教員からの情報入手の割合が高い。ただし、この調査は複数回答であり、Web・インターネット、指導教員、就職担当教員並びに先輩・知人等も含めて、総合的に情報入手していると思われる。留学生においても全体としては同様の傾向が見られた。

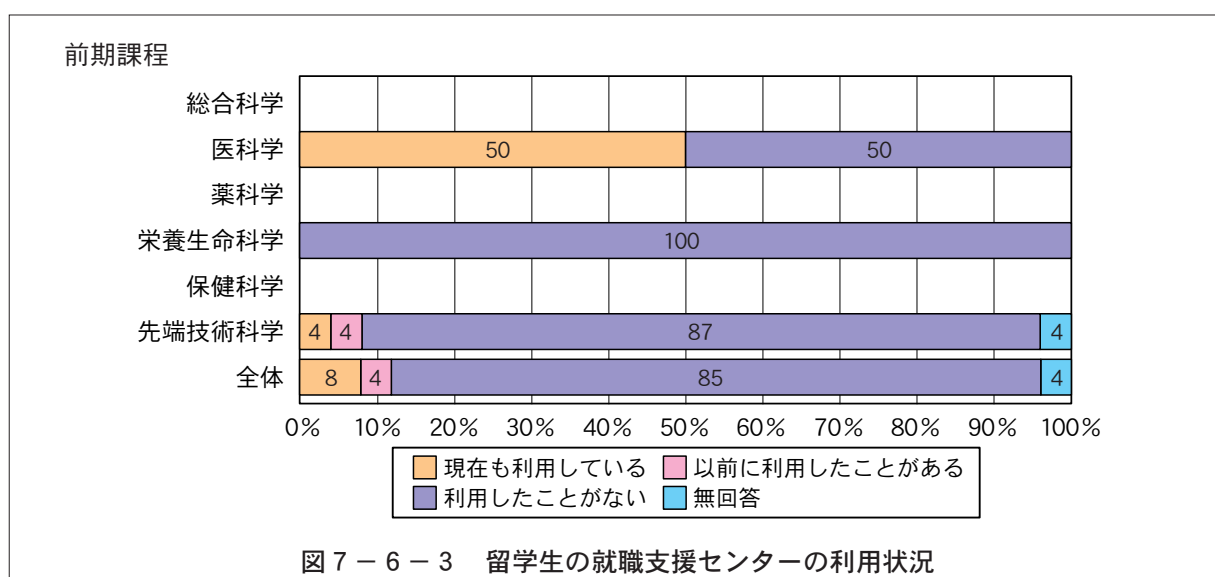
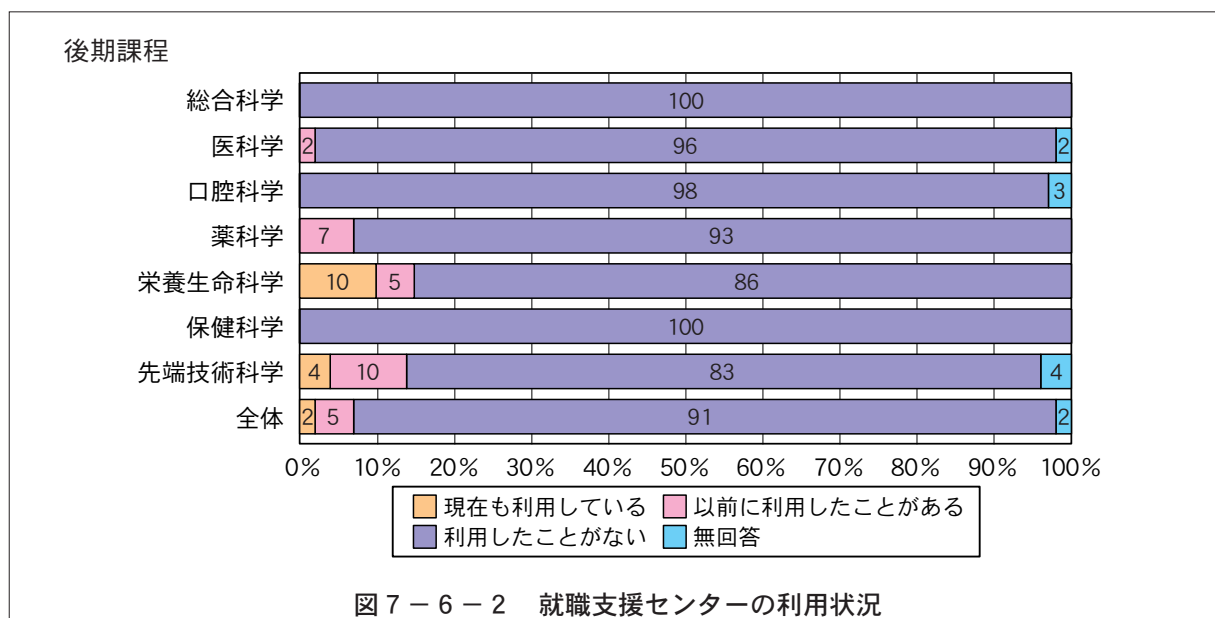
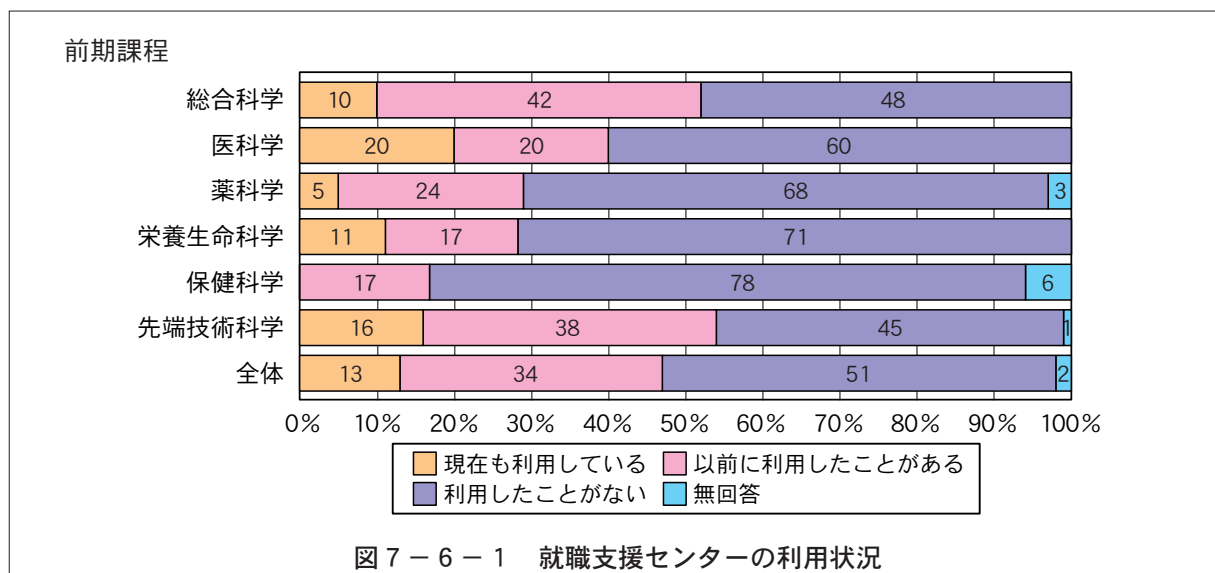




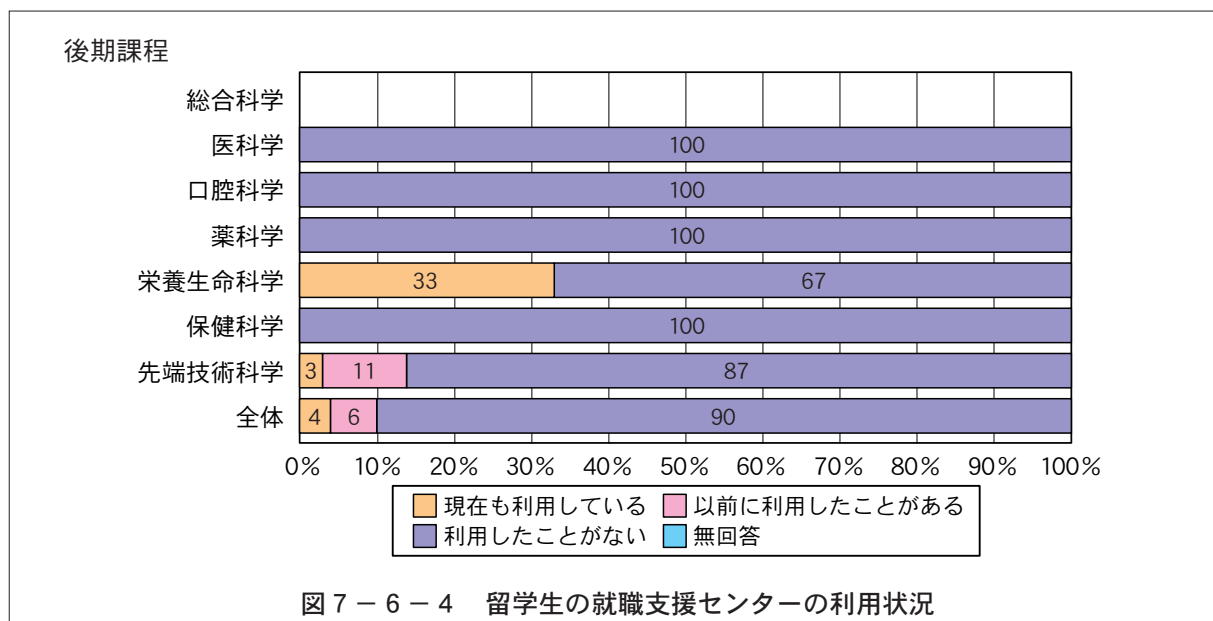
7-6 就職支援室の利用状況 (図 7-6-1~図 7-6-4)

就職支援室は平成 22 年 11 月に就職支援センターとなった。アンケートは就職支援室で行われたが、以後就職支援センターとして記載する。本学大学院生は、多くが就職支援センターを利用していないと回答している(図 7-6-1, 7-6-2)。前回調査結果と同様に低い利用率であるが、前期課程全体では前回調査と比較して、利用者(現在も利用している、以前に利用したことがある)は 5% 増であった。低い利用率の原因として、就職支援センターは主に一般企業情報を扱ってきたことが考えられる。本学大学院の学生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が多い。この傾向は蔵本地区の教育部では顕著であると思われる。しかし、総合科学及び先端技術科学の院生は、就職支援センターの提供する就職ガイダンスや企業説明会にかなり参加(工学部学生に匹敵する人数が参加)しており、意識してなくとも実質の利用率は、より高いと思われる。

就職支援センターの利用方法がわからないという意見を聞くことがあるが、来室や HP の閲覧などの



直接利用がないことからこのような調査結果になったと思われる。前項目で Web・インターネットなどの利用率が高いことを考えると、就職支援センターの利用ガイダンスを充実すれば、利用率は向上する



と考えられる。

留学生では、部局によって違いが大きく、医科学の前期課程では50%の利用率であり、栄養生命科学の後期課程では33%の利用率であったが、他の部局では極めて低い利用率であった。これまでの就職支援センターは蔵本地区の院生にはなじみのない存在であり、前回の調査ではほとんど利用されていなかったが、2010年度は蔵本地区での合同企業説明会を開催するなどにより、蔵本地区での留学生の利用率は上がっていると思われる。

7-7 就職に関する大学への要望 (図7-7-1~図7-7-4)

全体として、すべての回答項目について要望していると考えられる。また、前期課程と後期課程の要望においても目立った差は認められない。

前項目7-6の結果から、就職支援センターの利用状況が低いことを考えれば、就職支援センターのサービスがほとんど知られていないと思われる。就職支援センターの観点では、今回の回答項目はすべて就職支援センターが力を入れているサービスで、学生・院生の参加を呼びかけているものである。回答1は利用者が少ないので部数は少ないが多種そろえている。回答2は支援室の主要業務の1つで就職相談や就職ガイダンスで繰り返し提供している。熱心に参加する学生が増加している一方、まったく無関心な学生も多い。回答3,4は他大学に比べ充実していると自負するのだが、参加学生は固定化されてきていると感じられる。回答6は各教育部でも、また就職支援センターでも努力し成果をもっているものと思われる。なお回答3は、生協の協力で公務員講座があり受講学生の合格率は高い。

以上を考慮すると、大学の就職支援活動が学生に知られていないことが今回の調査結果に表されたのではないと思われる。就職支援センターの業務内容をより広く周知することが必要である。なお、自由記述欄に、後期課程修了後のキャリアプランの提示を希望している院生もいることから、専門に特化した就職支援を教育部に求めていることも考えられる。

留学生においては、部局により要望内容に偏りが見られた。前期課程の医科学では面接対策等の実践的指導を要望する院生数が4割あり、先端技術科学では就職関連書籍の充実を要望する院生が約4割となった。留学生については部局の特性を検討して対応する必要があると考えられる。なお、全体としては、留学生もすべての回答項目について要望していると考えられる。

前期課程

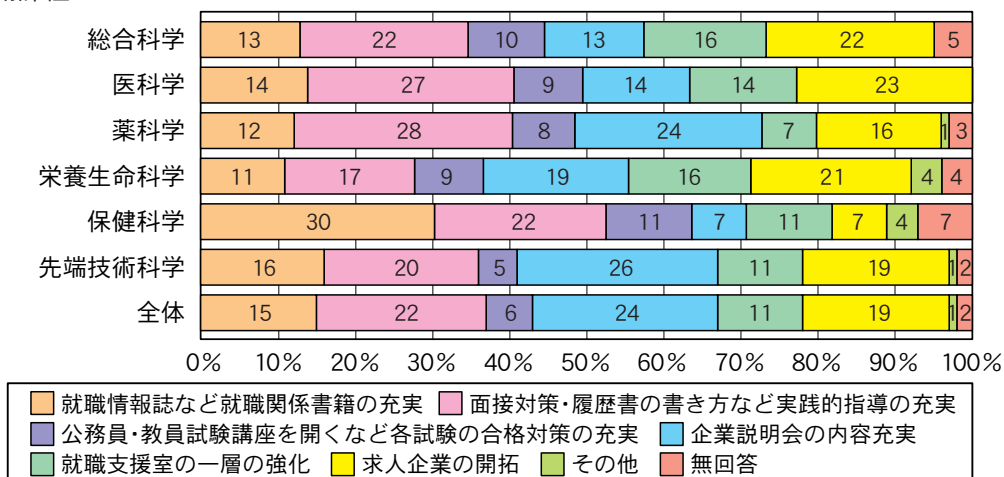


図 7-7-1 就職に関する大学への要望

後期課程

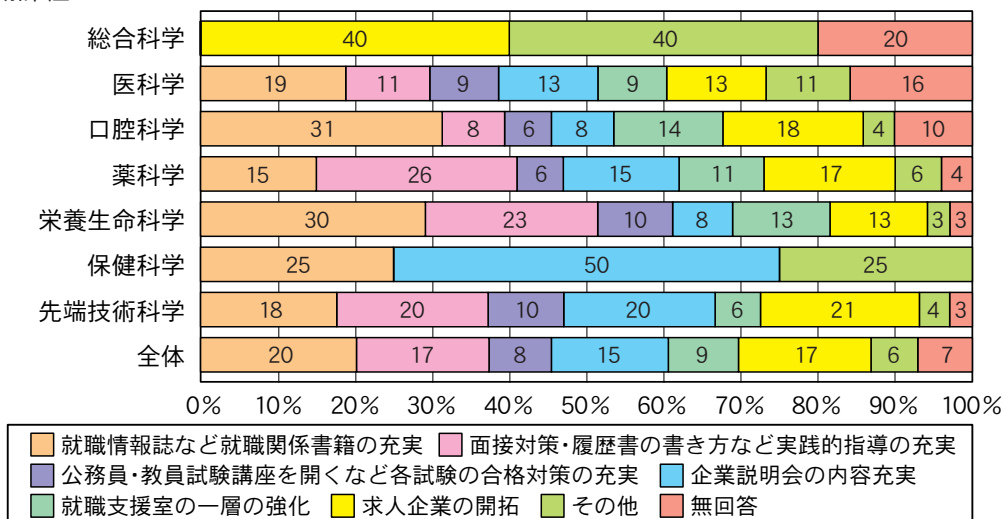


図 7-7-2 就職に関する大学への要望

前期課程

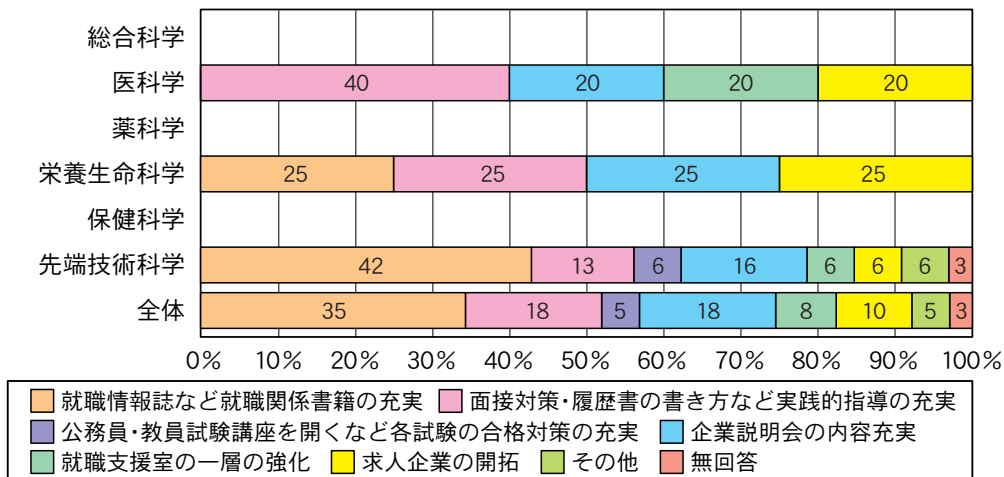
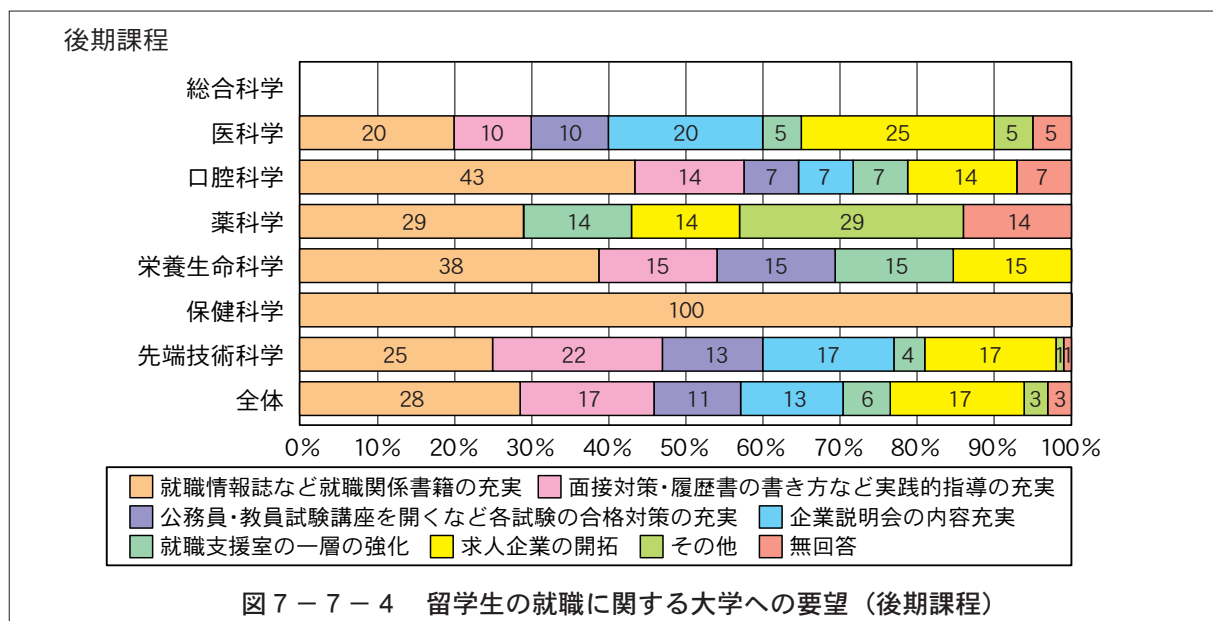


図 7-7-3 留学生の就職に関する大学への要望



以上をまとめると、前期課程から後期課程への進学意志については、比較的高い教育部（医科学、保健科学、栄養生命科学）と、多くが「進学しない」と答える教育部（先端技術科学、薬科学、総合科学）に二極化している。進学しないと答えた先端技術科学の院生は希望職種を技術職や専門職と答えており、就職のために前期課程に在籍していると思われる。進学希望者の多くは、本学を希望して研究の継続意志があるものと想像される。また留学生は進学意欲が高い傾向を示した。後期課程への進学先は、本学大学院が全体で66%におよび、留学生の場合はさらに高い比率で本学後期課程を希望していた。

就職希望職種は、全体として約70%の院生が技術職、企業等の研究職を希望している。先端技術科学では、この傾向が特に強く見られた。前期課程のその他の教育部では比較的幅広い職種に分散していたが、後期課程の学生は無回答が多い。この傾向は留学生の場合も同様であった。進路選択で重視するものについては、どの教育部においても収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることの3点が主要件になっており、前期課程では就職先の将来性・安定性、後期課程では能力を発揮できることが、最も大きな要件となっている。留学生の場合も同様の傾向が見られた。

就職情報の入手法で目立つのはWeb・インターネットである。前期課程、後期課程ともに高比率を占めている。しかし、この調査は複数回答であるため、指導教員や就職担当教員並びに先輩・知人等も含めて、総合的に情報入手していると思われる。

就職支援センターの利用では、全体として非常に低い利用率であった。後期課程の場合や専門性の高い教育部・専攻の場合は就職が高度な専門職となるが、就職支援センターは高度に専門的な求人情報に関するサービスをしていないため、利用が極端に少ないと思われる。

就職に関する大学への要望は幅広い項目にわたっているが、就職支援センターの利用状況の低さを考えると、大学が提供している就職支援を十分に知らずに要望していると感じられる。例えば、求人の案内や情報を学内・学外問わず見れるようにしてほしいという要望があるが、携帯電話で就職支援センターから求人情報を受け取るシステムが知られていない。近年の就職難から、就職支援センターの業務内容について学生の関心は高まっていると思われるが、より一層の周知が必要である。また、常三島だけでなく蔵本での説明会を増やすことやe-learningの利用を求める声があり、対応が必要と思われる。なお「東京に徳大生が利用できる勉強施設とそこで履歴書の購入等ができればいい」という要望に対し、平成23年2-4月に東京就活サポートセンターを活用できることとなった。

第8章 教育部（研究科）の現状と課題

8-1 総合科学教育部（人間・自然環境研究科）

2009（平成21）年4月より総合科学教育部が発足した。前回2008（平成20）年度の調査では人間・自然環境研究科として実施したが、今回の調査は総合科学教育部の博士前期課程の2学年および博士後期課程に在籍する2年生までを対象とする。またすでに募集を停止した人間・自然環境研究科の修士課程には3名が在籍するが、これらも総合科学教育部の内数とした。教育組織と教育内容が変わったため、教育理念や教育方針を問う問42や博士後期課程への進学を問う問74など、前回と単純に比較できない項目もあるが、多くの項目では前回2008（平成20）と前々回2005（平成17）年の傾向と比較しつつ述べる。

総合科学教育部では博士前期課程在籍者94名中31名（回収率33%）、博士後期課程在籍者15人中4名（回収率26.7%）の回答を得た。留学生が博士前期課程に14名、博士後期課程に1名在籍するが、回答は得られず、総合科学教育部の回答はすべて日本人学生のものである。人間・自然環境研究科の在籍生からは回答はなかった。前回2008（平成20）年の調査における回収率52.3%よりも20ポイント近くも落ち込んでいる。本教育部の回収率は今回の調査における全教育部の中で最低である。在籍者の3分の1の回答から全体の傾向をはかることになり、調査結果の信頼性に瑕疵をつけることになりかねない。調査担当者としては忸怩たる思いがある。なお博士後期課程は回答数が少ないため個別の分析の対象とはしない。

基本事項について、最終学歴としては徳島大学の出身者が前回調査60%から今回の74%へ上昇している。他の教育部でも本学出身者の割合は増加しており、経済状態の悪化などによる地元志向の増加などの要因もあるだろうが、本教育部に博士後期課程が設置されたことで、本学から大学院へ進学するインセンティブが上がったのかもしれない。

「家族・住居・通学」について、住居区分を問う問9では家族との同居の割合が前回の31%から26%に低下している。問11で13%は配偶者や子どもがいるとの回答であるので、半数は配偶者や子どもとの同居で、残りの半数が親等と同居している単身者だと想像される。単身者の多くはアパート・マンション暮らしである。問9の同居家族が親等なのか配偶者や子どものいずれであるかによって問15以下の収入や支出の意味が違ってくると想像される。家庭の年間収入を問う問8や住居費を問う問10などでは、前回調査に比べていずれも低めにシフトしており、現今の不況およびデフレ傾向は学生生活にも影響していると思われる。

「収入・支出」について、親等からの援助を除いた収入3万円未満が前回の44%から55%と半数を越えた。収入が減った分は親等からの援助や奨学金で補填されている。問16では親等からの援助が「まったくくない」とする割合が、前回の38%から19%に下がり、逆に3～5万円と回答する割合は7%から26%に増えている。奨学金も受給者の割合が55%、さらに希望するものまで入れると65%が奨学金にも依存または期待している。1か月の平均支出額は3万円未満とする層は前回調査と同じで16%程度だが、5万円未満とする層から7万円未満とする層にやや移行している。アルバイト従事者の割合は3割弱でそれほど多くはないが、従事者は週平均10時間や15時間という時間を費やしている。アルバイトの目的は、半数以上が学費や学会参加費など大学院生としての生活費を捻出するためである。トラブルがあったとするものは多くはないが、「雇用条件が直接雇用から派遣契約に一方的に変更された」というようなトラブルを経験している例もある。

「健康状態」について、睡眠時間は6割が6～8時間を確保し、また55%は気になる症状はなく、全

一般的に健康状態は良好であるといえる。これらの数字は前回調査より改善している。ただ4割程度が6時間未満の睡眠時間で、「時々」または「常に」気になるなんらかの症状を抱えており、注意が必要であるだろう。「現在の精神状態」については55%が「充実している」「普通」を選んでいるが、「なんとなく不安」などの精神状態を訴えているものも4割程度いる。健康状態以外に「就職や進路」「勉学」に悩みや不安を感じているとするものが多い。これらの傾向は前回調査よりやや改善が見られるが、それほど大きく変化してはいない。

「学生生活上の問題点」について、迷惑行為は「受けたことはない」とする回答が8割以上で問題は少ないようである。9%が「カルトへの勧誘」を受けたと答えている。また「アカハラ」との回答は前回より少ないとは言え、まだ指摘されている。学生相談室の周知度は、「利用したことがある」も含め、認知度は高い。盗難等の犯罪被害の経験があるものは13%である。交通事故については被害者になった経験者が23%、加害者が6%、双方の経験者が16%と、何らかの経験を有するものの割合は全学平均より高く、交通事故への注意を喚起する必要がある。

「修学状況」について、「教育理念や教育方針」の認知度「知っている」とするものは71%で全学の平均よりも高い。「教育部・研究科の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか」の問いに対して82%は肯定的に回答している。「教育課程の満足度」に関する問いでは、68%と概ね満足していると考えられるが、32%は不満を感じている。具体的には「必修科目が多すぎ、授業も研究も両方を満足に理解するのは時間的、精神的に苦痛」「無駄と思える授業が研究時間等を圧迫」「専門以外の科目（必修）が多すぎて、本当に大学院なのか」「専門外の研究をするのは良いが、負担が大きすぎる」などの指摘がある。「幅広い知識と深い専門性を兼ね備える」とする理念は認知され満足を得ているとしても、専門性が圧迫されていると感じているものが少なからずいることには留意する必要があるだろう。「授業が前期に集中しすぎていたので、研究に割く時間がとれない」という不満には時間割を前後期に平均化するように努力する必要があるだろう。

「本学を選んだ理由と目的」に関する質問では、「希望する研究分野があるから」が25%と最も多いが、それ以外の理由は10%台が多く理由は多様である。また希望の順番では徳島大学出身者については「第一希望」とするものが65%である。この選択が最多数ではあるが、前回調査では96%で本学の中で最高だったのが今回は最低である。

受講している授業の進め方や内容を問う問49では「満足」「どちらかといえば満足」とする回答が相対多数だが、「不満足」「どちらかといえば不満足」があわせて26%ある。具体的には「必修科目が多すぎ、授業も研究も両方を満足に理解するのは時間的、精神的に苦痛である。特に文系の授業は多くの知識を授業につめこみすぎて要点が分かりにくい」「普通の授業ならまだしも余計な負担とを感じるものもあった」「専門以外の科目（必修）が多すぎて、本当に大学院なのかと感じる」「レポートや試験の時期が集中するので負担が大きい」「社会人の場合、睡眠を削ってでもしなければ時間が取れなかった」「専門外である上に負担が大きい」など、教育課程への満足度についての問いへの自由記述で見られたものと同様の指摘があった。

「研究活動と研究指導」について、問50の「授業以外の研究活動に費やす1週間平均時間」については、「20～40時間未満」が29%と最大である。前回調査で指摘された自己学習に費やす時間の大きなばらつきは減少し、研究時間が90分未満と短いものはいない。問53「研究指導の内容や進め方の満足度」や問54の「修士論文の研究テーマに満足していますか」などの問いでは満足度は高い。「指導教員とのコミュニケーション」については、84%がとれていると回答しており概ね良好に保たれているが、「あまり」あるいは「まったくとれていない」とするものがあわせて16%いる。研究環境については35パーセントが不満を訴えており、この割合は全学で最も高い。不満の53%は「施設・設備」について、次いで29%は研究費についてである。

問59でたずねた教育部全体への満足度は16%が不満と回答している。84%と多くが満足としているのだが、「どちらかといえば」と消極的な満足の割合が多い。不満を汲み上げて解消する努力が必要であるだろう。

「図書館の利用状況」については、毎日あるいは週2～3回利用するという高頻度のものがある一方、月1回程度とするものの割合が最も高い。このばらつきは文系から理系まで網羅する本教育部の性格によるものだろう。

前期課程では「海外渡航」の経験はないものが多く、渡航の目的を研究とするものはいない。後期課程では学会参加のための海外渡航の割合が増える。英語（外国語）による情報収集発信能力は研究者の条件だが、「英会話」の能力については、「あまりできない」が39%、「できない」が26%と、多数を占める。能力を高めようと努力するものもいるが、49%は「何もしていない」。

問72では、本学の教育に望むことを尋ねた。「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」が22%で最上位だが回答は分散し、「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」「企業等での長期間の実践的なインターンシップ」「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」など、ほかの選択肢も10%台で選ばれている。学生の希望は多様である。

「進路選択・就職」について、後期課程への進学意思を持つものの割合は3%と、後期課程設置前の前々回調査の6%、前回調査の11%よりも減っている。本教育部の博士後期課程が在学生に支持されていないとすると深刻な問題である。もっとも他教育部でも後期課程への進学希望者の割合が減る傾向は見られ、経済情勢など他の要因の影響もあると考えられる。進学しない学生の就職希望職種は、本教育部の性格上、他の教育部に比べて多様である。希望する職種は、研究職や公務員、教育職、マスコミなど多様だが、大学に対する就職支援の要望も、「求人企業の開拓」や「面接対策などの実践的指導の充実」まで多様である。

以上、総合科学教育部の学生の生活状況に関する調査の概要を述べた。以下の3点を特に挙げて、本章のまとめとする。

1. 学生の経済状態は悪化していると想像される。親等の援助や奨学金に頼る割合が増えている。大学独自の奨学金制度を博士前期課程にも充実するような方策を期待したい。
2. 健康状態は前回調査よりやや改善されているようだが、進路や進学に不安をいだき、不安な精神状態を訴えるものも少なくないので、メンタルヘルスの維持・管理には、さらなる努力が求められる。また交通事故の被害または加害の経験者が多く、交通事故への注意を喚起する必要がある。
3. 総合科学教育部の理念や教育には多くが満足としているのだが、専門外の授業を負担と感ずる不満も指摘されている。「幅広い知識と深い専門性を兼ね備える」とする教育部の理念自体と表裏をなしていると思われる。総合と専門の関連性を意識させる教育内容の充実と、理念を粘り強く説く努力が求められるだろう。

3-2 医科学教育部（医学研究科）

医科学教育部において、前期課程では、在籍している学生が19名で10名から回答が得られ回答率は52.6%であった。留学生は2名が在籍し、回答率は100%であった。後期課程に在籍している学生は213名で56名から回答が得られ回答率は26.3%であった。留学生は25名が在籍し、回答率は44%であった。全学平均の回答率と比較しても低く、紙ベースでの回収だけでなくWeb上で回答できるようにするなどもっと簡単に回答しやすくする工夫が必要と思われる。

「本調査の対象者について」の前期課程では、徳島県出身者の割合が増加し40%であった。後期課程も

同じ徳島県出身者が一番多く27%、徳島以外の四国と近畿が同率の18%であった。前期課程では本学出身者の割合が60%、後期課程は48%が本学出身者であった。

社会人学生の割合は、前期課程60%、後期課程59%で本学内でも高く、国家試験資格取得後の進学者が多い。家庭の年収に関しては、第2回調査が行われた平成20年度と本年度では目立った変化はない。

「家族・住居・通学について」の設問における「住居区分」では、前期課程では、アパート・マンションが70%、次いで自宅・家族と同居が30%となっていた。この2つで100%になっている。後期課程では、アパート・マンションが61%が一番多く、次いで自宅・家族と同居が34%となっていた。この2つで95%になっている。

その「住居費用」は前期課程では、5万～6万円未満が43%と一番多く、次いで4万～5万円未満29%、3万～4万円未満と6万～7万円未満が同率で14%であった。これら合計で100%であった。後期課程では、7万～8万円未満、6万～7万円未満、3万未満が15%と同率で、これら合計で45%となっている。後期課程では全学平均と比較して高額となっている。

「配偶者・子供の有無」では、前期課程で90%が「配偶者・子供ともなし」が最も多く、「配偶者・子供ともあり」が10%である。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が46%である。32%が「配偶者と子供ともあり」で、21%は「配偶者あり・子供なし」となっている。配偶者の存在は全学で一番多い。

「通学」に関しては、前期課程では、自転車通学が40%と一番多く、次いで自動車30%、徒歩20%、バイク10%となっている。後期課程では、自転車通学が46%と一番多く、次いで、自動車43%、徒歩7%となっている。前期課程と比較すると自動車による通学方法の比率が高い。

「収入」に関して前期課程では、親等からの援助を除く平均収入額で、一番多いのは10万円～15万円未満で、50%であった。次いで多いのが3万円未満で、20%である。社会人大学院生が多いため、80%が10万円以上の収入を得ている。後期課程では、全体の48%が30万円以上の収入である。しかし、収入額に個人差があり、5%は3万円未満の収入であるのに対し、約60%は25万円以上の収入を得ている。

前期課程では、60%が親等からの援助がなく、後期課程では、前期課程と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が高く、収入面での独立傾向がうかがえる。82%が親等からの援助がゼロで、親等からの援助額が5万円未満である大学院生が約90%を占めている。さらに、前期課程で20%を占めていた援助額10万円以上の大学院生の割合は4%に減少している。

「奨学金」に関しては、前期課程では、60%が奨学金を希望しており、一方で40%が将来的にも奨学金の受給を希望していない。後期課程では、現在奨学金を受けている割合が32%、将来的に奨学金を希望するものを含めて約50%を占めるが、残りの約50%は将来的にも奨学金の受給を希望していない。

「アルバイト」については、前期課程では、30%がアルバイトをしており、残りの70%がアルバイトを行っていない。後期課程では、43%がアルバイトを行っており、15万円以上が63%と高収入を得ている。前期課程では、60%は生活費や学費のためのアルバイトであり生活費捻出のためにアルバイトを行っている。社会体験のためのアルバイトと回答した割合はとくに20%で高かったものの、自由記入欄への記載もなく、具体的にどのようなものをイメージして回答しているのかはわからない。後期課程では、59%が生活費や学費のためのアルバイトであり、前期課程と比較しても割合に変化はない。

「アルバイトでのトラブル」に関しては、前期課程ではトラブル経験はない。後期課程では、79%はアルバイトでのトラブルの経験はなく、無回答を除くとトラブルの内容としては客とのトラブルと解雇が4%であった。自由回答として常勤医師からのいじめがあった。

「健康状態について」の設問の睡眠時間は前期課程「4～6時間未満」が60%、「6～8時間未満」40%の順であった。後期課程では「6～8時間未満」48%、「4～6時間未満」が45%、「8～10時間

未満) 5%、「4時間未満」は2%とバラツキが大きくなっている。最も健康的な睡眠時間は7～8時間といわれているため、半数の学生の睡眠は良好に保たれていると思われる。しかし6時間未満が50%弱となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。睡眠不足は社会人学生にとっては仕事にも影響を与えることになり、健康安全管理のために、睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。

「気になる症状」が「ある」と答えた学生は、前期課程は70%であったが、後期課程では51%であった。前回調査と比較して特に増加は見られなかった。前期課程は頭痛、めまい・立ちくらみ、不整脈で、後期課程は頭痛、下痢・便秘であった。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「身体的不調」「勉強」「就職や進路」が同率で多かった。後期課程は、「勉強」「経済状態」であった。

「悩み事は誰に相談するか」では、6割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。教員に相談するものが前期課程では11%で、後期課程は15%であった。また悩みを誰にも相談しないという学生がそれぞれ6%、12%であった。

「精神的な健康状態」では、前期課程約6割・後期課程は約7割弱の学生が「充実している」「気分は普通」を選び、健康を保っていると考えられるが、4割弱は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」も多いが、「やる気がでない」も約1割みられた。

「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生が前期10%、後期27%であり、前回調査同様後期課程の学生の認識率が低かった。また、利用率も、後期課程および蔵本地区の学生で低かった。蔵本には蔵本保健室を設置しているが、今後も蔵本地区での周知や利便性の向上を図っていく必要があるが、社会人が多く利用しづらいか職場で利用していることも考えられる。

「学生生活上の問題点」に関する設問では、迷惑行為を前期課程では受けたことがないと全員が答えた。後期課程ではストーカーにあった、いたずら電話を受けた。アカハラ・セクハラを受けたが後期課程で2%であった。アカハラ・セクハラを受けた時の相談相手は学務であった。

「学生相談室」は、前期課程で30%、後期課程で36%の学生が知らなかった。利用したことがある後期課程の学生は「満足である」と「どちらかといえば満足である」をあわせて100%だったので、利用したことのない学生にも、学生相談室を気軽に利用できるように周知に努める必要がある。

「大学事務室の対応への満足度」をみると、「どちらかといえば満足」と「満足」をあわせた回答は前期課程は70%で、後期課程は72%であった。

「教育理念・方針と教育に対する理解度」は、前期課程において、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は「だいたい知っている」が60%であり、20%が「あまり知らない」、20%が「知らない」と回答している。後期課程では、「良く知っている」と「だいたい知っている」をあわせて37%であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では100%、後期課程では86%が「思う」と答えている。逆に、「思わない」と答えたのは前期課程では0%で、後期課程では14%であった。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は30%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生(60%)と合わせて90%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」は10%となっている。後期課程では全体で75%がほぼ満足しており(満足している:14%、どちらかといえば満足している:61%)、「どちらかといえば不満足である」が16%、「不満足である」が7%となっている。

大学院に相応しいレベルの授業が前期課程では「充分に行われている:50%」または「ある程度行わ

れている :50%」 と回答した。後期課程（充分に行われている :34%、ある程度行われている :54%）ともに 88%以上と高くなっている。「あまり行われていない」は、後期課程 11%である。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」30%、「どちらかといえば満足している」70%であわせて100%であった。後期課程では、「満足している」18%、「どちらかといえば満足している」66%とあわせて84%であった。「どちらかといえば不満足である」11%、「不満足である」は、5%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「希望する研究分野があるから」が58%、「就職等将来を考慮して」が25%となっている。後期課程の学生は、「指導教員に勧められたから」22%、「出身大学だから」18%、「先輩や友人に勧められて」16%、「希望する研究分野があるから」14%の順になっている。

「大学院で勉学することにより目指すもの」では、前期課程では「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」50%、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」と「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」を目指す学生（20%）が同率であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程の「90分～5時間未満」が最も多く30%、次いで「20～40時間未満」20%、「40～60時間未満」が20%の順になっている。週平均の研究時間は個人差が大きいといえる。後期課程の平均時間は、「40～60時間未満」23%が最も多く、次いで「60時間以上」と「90分～5時間未満」21%で同率の順になっている。

研究指導としては、前期課程において、半数は教授から指導を受けていた。後期課程は教授の割合が39%に減少し、准教授および講師の割合が増えていた。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程は「90分～5時間未満」が40%と最も多く、「30～90分未満」が30%、「30分未満」が10%の順となっている。後期課程も同様の傾向で、1週間の平均時間は、「90分～5時間未満」が38%と最も多く、「30分未満」が23%、「30～90分未満」が21%となっている。

「研究指導の内容や進め方」についての設問に対する前期課程の回答は、「満足している」が最も多く50%、「どちらかといえば満足している」30%、「どちらかといえば不満足である」が20%となっている。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は80%である。後期課程の回答は、「どちらかといえば満足している」との回答が最も多く54%、以下、「満足している」30%、「どちらかといえば不満足である」が9%となっている。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、80%を上回っている。

「指導教員とのコミュニケーション」に関する設問では、前期課程の学生は、「充分とれている」が最も多く（50%）、以下、「ある程度とれている」30%、「あまりとれていない」が10%、「まったくとれていない」が10%となっている。同じ設問に対して、後期課程では48%の学生が「ある程度とれている」と回答しており、以下、「充分とれている」が38%であった。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、研究環境に「満足している」が70%、「どちらかといえば満足している」20%、「どちらかといえば不満足である」が10%となっている。後期課程では、研究環境に「満足している」36%、「どちらかといえば満足している」36%で、前期課程に比較して満足度が低くなっている。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問では、前期課程の回答のすべてが「研究時間」であった。後期課程学生においては、「研究時間」が48%、「施設・設備」、「研究費用」、「その他」とともに17%となっており、前期課程に比較して「研究時間」の割合が低くなっている。

「所属教育部に対する満足度」の設問では、前期課程学生は、「満足している」60%、「どちらかといえば満足している」40%と回答した。後期課程学生は、「どちらかといえば満足している」と答えた割

合が最も高く（57%）、以下、「満足している」が23%、「どちらかといえば不満足である」が13%、「不満足である」が4%となっていた。

図書館ウェブサイトに対する利用頻度は、前期課程で「1年に1回程度かそれ以下である」が最も多く40%だった。後期課程では、「1週間に2～3回」18%、「ほぼ毎日」14%と、「1年に1回程度かそれ以下である」38%と極端である。この満足度は前期課程で「満足している」10%、「どちらかといえば満足している」70%であった。後期課程では「満足している」と「どちらかといえば満足している」が84%となっていた。

「国際学会への参加」について、前期課程では国際会議での発表経験は一度もなかった。後期課程では「国際学会への参加」32%であった。

「語学についての学習状況」は前期・後期課程学生とも「何もしていない」という学生がそれぞれ63%、60%であり、半数近くの学生は語学修得に努力をしていないことがわかる。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは30%である。全学では4%であり、一番高い割合である。「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種は、「企業等の研究職」「技術職」が25%と同率で、次いで「大学、官公庁の教育・研究職」17%である。後期課程の就職希望職種は「専門職（医師等）」16%、「大学、官公庁の教育・研究職」11%で、無回答が半数以上であることから、まだ決めかねている人も多いのかも知れない。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「就職先の将来性・安定性」が一番高く40%で、「能力を発揮できること」と「収入」が同率20%の3項目が主要件になっていた。後期課程では、「能力を発揮できること」31%、「収入」24%「就職先の将来性・安定性」16%で、前・後期課程では同様の傾向がみられた。

「進路選択の情報の入手手段」で前期課程では、「Web・インターネット」39%、「指導教員」28%、「就職情報誌・新聞・マスコミ」17%、「先輩・知人」11%の順だった。後期課程では、一番多いのは「指導教員」28%、次いで「Web・インターネット」の24%、「先輩・知人」22%の順だった。

「就職支援センターの利用状況」については、前期課程で40%にとどまり6割は利用していなかった。後期課程も96%は利用がなかった。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いため就職支援センターを利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、アンケート回収率を上げることが一番の課題であり、他の課題は前回の調査と変わりが無いが

1. 健康面や精神面支援の充実
 2. 国際学会への参加の促進
- 等が挙げられた。

8-3 口腔科学教育部（歯学研究科）

今回の調査では、口腔科学院生74名中40名（54.1%）の回答を得た。このうち、留学生は17名中11名（64.7%）であった。

徳島大学では平成16年度から医療系学部・学科の壁を取り除いた生命科学の研究部局として、蔵本キャンパスに大学院ヘルスバイオサイエンス（HBS）研究部を設置した。医療系大学院には、質の高い研究者の育成のみならず、医療現場で指導力を発揮できる専門医療人の育成も社会に求められている。このような状況を踏まえ、中央教育審議会答申でも、研究者養成と優れた研究能力などを備えた医師、歯科医師、薬剤師などの養成のそれぞれの目的に応じて、大学院研究科として2つの教育課程を設けて、

大学院生に選択履修させることが適当であると提案した。また、医療の高度先進化に伴い、各種医療職が連携協力するチーム医療の重要性が強調されるとともに、医療人育成教育における他職種が参加する教育（Inter-Professional Education: IPE）の必要性も提案された。このような背景のもと、前者の提案に対応するように、口腔科学では平成22年度より、従来のコースに加えて、新たに臨床歯学（専門医）コースを新設した。本コースの特色として、専門歯科臨床教育に適した指導体制とカリキュラムの充実、ヒトを対象とした歯科の臨床研究・臨床試験に関する教育研究の実践、国際的な臨床歯学教育プログラムの導入が挙げられる。また、後者の提案に対しては、平成22年度よりHBS研究部に専門分野の異なる複数の医療系大学院教員からなる教育クラスターを形成した。これまでのIPEは、5教育部の教員による共通講義に限られていたが、この教育クラスターにおいては研究演習、実験実習、臨床研究実習などでも主指導者以外の副指導者からも指導が受けられ、結果、大学院生は指導に責任を持つ所属分野以外の教員の研究室を柔軟に移動して、複数の教員から指導を受けられるようになった。

さらに、平成23年度には口腔科学教育部口腔保健学専攻の修士課程が設置され、5名の修士大学院生が入学する。これは、従来の専門学校教育において不足していた、チーム医療・福祉、摂食・嚥下リハビリテーションなど新しい教育課題を含む将来の歯科衛生士教育を国内外で担える人材の養成を目的としている。したがって、今回の調査では口腔科学は博士課程のみであったが、今後は修士課程が加わることになる。

第1章の「出身地・最終学歴」では、徳島を含む四国出身者が40%、続いて近畿出身者が15%であり、関東や北海道出身者も数名いる。最終学歴は徳島大学が45%、徳島大学以外の国内の大学出身者が25%、外国の大学または大学院出身の留学生が28%となっている。留学生の割合は他の教育部とほぼ同じであるが、社会人大大学院生の割合は33%で、総合科学（50%）や医科学（59%）、保健科学（75%）と比較して少ない。第2章の「家族・住居・通学」では、医科学と並び年間所得が1000万円以上の者（28%）が多い一方、250万円未満が占める割合（38%）も高い。これは経済的・時間的余裕の出来た社会人大大学院生が一定数存在しているのと対照的に、歯科医師免許を取得したばかりで臨床経験の乏しい大学院生には条件の良いアルバイトがほとんどない状況を反映している。住居としては58%が家族と別居して生活しており、そのほとんどは住居費が6万円未満のアパートなどに住んでいる。半数以上（65%）の院生は徒歩・自転車で通える、大学に近い場所に住んでおり、通学時間は15分未満が最も多い（63%）。第3章の「収入・支出」では1か月の収入が30万円以上が23%である一方で、10万円未満も41%を占め、二極化が生じている。ほとんどの院生は親からの援助がないことから、できる限り支出を抑え、奨学金を生活費にまわしている。約半数（45%）がアルバイトを行っており、1週間に20時間以上のアルバイトを行っているもの（23%）も少なくない。アルバイトにおけるトラブルは少ないものの、存在し、そのほとんどは雇用者との意見の不一致であった。第4章の「健康状態」については、約半数の院生（53%）が時々あるいは常に気になる症状を持っており、その内容としては頭痛、腹痛・嘔気、めまい・立ちくらみ、動悸・不整脈、咳・痰、生理痛・生理不順がそれぞれ1名ずつにみられた。また、経済状態や勉強、修了後の就職や進路について不安を抱いているものが多く、その悩みは教員ではなく、友人や家族に相談している傾向が強い。現在の精神状態として、半数の院生は問題ないものの、何となく不安を感じたり、落ち込みやすかったり、やる気がしないなどの回答も少なくなかった。第5章の「学生生活上の問題点」については、1名がアカハラを受けた経験があり、1名が飲酒を強要された経験がある。学生相談室の存在は周知されていて、有効に利用しているようである。大学事務室の対応にはほとんどの院生が満足しているようであるが、不満足と回答した中には英語での対応ができないことなどが含まれており、今後は事務職員の英語能力の向上訓練を検討しなくてはならないかもしれない。第6章の「修学状況」については、約半数の院生が本大学院の教育理念や教育方針を理解していないものの、教育課程にはほぼ満足しており、大学院に相応しい教育が実践されていると感じている。大学院

での勉学で目指すものとしては、高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人と回答したものが半数であり、上記の新しい口腔科学教育部の臨床歯学コースの特色に合致している。研究の直接指導教員については医科学と口腔科学では他の教育部と比較して教授が直接指導する割合が低い、研究指導内容、テーマなどの満足度については他の教育部と同様に満足している割合が高い。その一方で、研究環境についてはどちらかと言えば不満足とする割合が26%と比較的高く、その理由として施設・設備、研究費用、研究時間が挙げられている。図書館の利用について、1週間に1回以上利用しているのは4分の1に過ぎないのに対し、図書館ウェブサイトの利用は1週間に1回以上が2分の1以上を占めた。したがって、研究活動においてウェブサイトによる文献検索が必要不可欠なツールとなっていると思われる。大学院入学後の渡航経験については、65%がなく、全体的にみても少ない。その渡航経験のなさを反映するように、60%以上の院生が英会話があまりできないと回答している。一方、留学生の日本語会話については60%以上でなんとか日常会話ができると回答している。したがって、日本人大学院生が英会話ができるようになるためには、大学院の間に短期留学をするなど、渡航機会を増やすなどの方策が必要と思われる。第7章の「進路選択・就職」については、大学院修了後、15%が大学などでの教育・研究職、18%が歯科医師としての臨床医になることを希望している。留学生については無回答が多いが、半数は母国に帰国してからも引き続き、大学・官公庁で教育・研究に携わりたいと考えている。今回の調査結果では就職支援センターの利用はなく、口腔科学全体として就職支援に関して関心が低く、積極的には行っていないのが現状である。しかし、前述の通り、来年度からは口腔科学教育部口腔保健学専攻の修士課程が開設されることから、具体的な問題が提起されると考えられる。

以上を総括すると、以下の諸課題が挙げられる。

1. 研究指導體制での留意点としてアカハラなどが生じないように、FD活動を通して、徹底した予防策を講じる。
2. 大学院生が安心して研究を実施できる研究環境の整備が必要である。
3. 国際的に通用する有能な人材を育成するため、国際学会での発表を義務化するなど教育カリキュラムからの環境整備も重要である。
4. 来年度からの口腔科学教育部口腔保健学専攻の修士課程の開設に伴う、就職支援体制の構築が急務となる。

8-4 薬科学教育部

薬科学教育部には創薬科学と医療生命薬学の2専攻があり、それぞれに博士前期課程と博士後期課程が設置されていた。しかしながら、薬学部において薬剤師養成のための専門教育を行うことを目的とする6年制の「薬学科」と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を行うことを目的とする4年制の「創製薬科学科」が設置（平成18年4月）されたのに伴い、博士前期課程が改組された。その結果、平成22年度入学の博士前期課程1年次学生より、新課程の創薬科学専攻がスタートした。したがって、今回のアンケート調査対象者は創薬科学専攻前期課程72名（新課程1年次35名、旧課程2年次37名、留学生0名）、同専攻後期課程21名（留学生4名）、医療生命薬学専攻前期課程38名（旧課程2年次38名、留学生0名）、同専攻後期課程17名（留学生2名）の合計148名となり、回答者は創薬科学専攻前期課程63名、同専攻後期課程16名、医療生命薬学専攻前期課程33名、同専攻後期課程11名であった。全体でのアンケート回収率は83%であり、前回調査の40%を大きく上回る結果となった。今回の調査にあたっては、本アンケートの周知徹底をはかり、各研究室単位で回答用紙回収を実施したことなどが、回収率の向上に結びついたと考えられる。回答者の出身地については、前期課程で40%（徳島県：19%）、後期課程で37%（徳島県：11%）が四国4県の出身者であった。また、全回答

者の中で留学生の占める割合は、前期課程で0%、後期課程で19%となっている。

第2章「家族・住居、通学」について、家庭の年間所得を見ると、前期課程では「1000万円以上」が18%であり、前回調査を6ポイント下回った。住居費については、前期課程では「3万円～4万円未満」と「4万円～5万円未満」がいずれも40%で最も多く、後期課程でも「3万円～4万円未満」が41%、「4万円～5万円未満」が36%となり、ほぼ同様の結果であった。通学方法としては「自転車」という回答が両課程とも最も多く（前期課程：73%、後期課程：56%）、通学時間としては「15分未満」が前期課程で78%、後期課程で67%であった。本年度は学部、大学院を含めて通学途中での交通事故が多発したため、交通安全についての意識喚起等も積極的に進めていかなければならない。

第3章「収入・支出」について、親等からの援助額は前期課程で24%、後期課程で78%の学生が「全くない」と答えており、前期課程で46%、後期課程で67%の学生が奨学金を「現在受給中であるが、更に希望する」と答えている。アルバイトをしている前期課程の学生は61%であり、前回調査を16ポイント下回った。前期課程1年次の学生は薬剤師免許を所持しておらず、このことが一つの要因として考えられる。後期課程では37%の学生がアルバイトをしていると答えているが、前期課程よりも24ポイント少なくなっており、研究活動時間との相関が窺われる。アルバイト従事時間数（前期課程10時間未満：71%、後期課程10時間未満：30%）とアルバイト収入（前期課程5万円以上：54%、後期課程5万円以上：70%）の関係からは、時間あたりの収入が比較的高額であり、前回調査と同様の傾向が見られる。次年度からは前期課程のすべての学生が薬剤師免許を所持しなくなることから、アルバイト収入等に少なからず影響が出るものと予想される。なお、アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した学生は、前期課程で39%、後期課程で77%であったことから、後期課程学生への経済的支援は今後とも大学全体として取り組むべき重要課題の一つである。

第4章「健康状態」について、前期課程で「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えた学生は41%であり、前回調査より15ポイント減少した。症状の内容としては「頭痛（21%）」と「腹痛・嘔気（21%）」が最も多くなっている。後期課程では56%の学生が「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えているが、症状の内容は「その他」が40%であり、詳細は不明である。なお、後期課程の学生については、研究室で過ごす時間がかなりの割合を占めることから、生活リズムの乱れや運動不足等についてきめ細かい指導の必要性が感じられる。また、精神状態について、「充実している」あるいは「気分は普通」と答えたのは前期課程が58%、後期課程が40%となっており、前回の調査結果を前期課程では7ポイント、後期課程では24ポイント下回っている。悩みごとの相談相手としては、「友人」あるいは「家族」との答えが最も多く、前期課程で76%、後期課程で59%となっている。一方、「誰にも相談しない」という回答も前期課程で11%、後期課程で22%だったことから、学生相談室ならびに保健管理センターの存在やサービス内容を周知徹底し、精神面を含めた健康の維持管理のためのこれら施設の有効利用を多くの学生へ呼びかける必要がある。

第5章「学生生活上の問題点」について、前期課程で12%、後期課程で15%の学生が何らかの迷惑行為を受けたと答えている。内訳を見ると、両課程とも「大学内でアカハラを受けた」との回答（前期課程：5%、後期課程：7%）が最も多く、教員ならびに学生への一層の注意喚起と意識の向上が求められる。また、「学生相談室を知らない」と答えたのは、前期課程で17%、後期課程で0%となっており、前回調査（前期課程：26%、後期課程：36%）より認識度は大きく向上したことが窺われる。今後、学生相談室と緊密に連携しながら薬科学教育部としての啓蒙・啓発活動を継続的に進める必要がある。

第6章「修学状況」について、教育理念や教育方針について「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と答えたのは、前期課程で51%、後期課程で59%となっており、いずれも全体での認知度（前期課程：44%、後期課程：51%）を上回っている。教育課程に対する満足度は、「満足している」

あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生が前期課程で81%、後期課程で89%であり、授業の内容・進め方の満足度に対する設問では前期課程で79%、後期課程で81%が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えている。教員には学生の満足度が100%となるよう不断の努力が求められる。また、授業以外の研究活動に費やす1週間平均時間は、前期課程で85%、後期課程で85%の学生が20時間以上とする選択肢（「20～40時間未満」、「40～60時間未満」、「60時間以上」）を選んでおり、全体での研究活動時間（前期課程：60%、後期課程：63%）を大きく上回っている。内訳を見ると、「60時間以上」との回答が前期課程で44%、後期課程で52%を占めており、他の教育部に比べると格段に多くなっている。研究を直接指導している教員についての設問では、前期課程で46%、後期課程で63%が「教授」と答えている。研究指導の内容や進め方については、前期課程で91%、後期課程で85%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、満足度は高いといえる。薬科学教育部に全体として満足していますかとの設問については、前期課程で83%、後期課程で88%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えている。研究環境について「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生は、前期課程で81%と前回調査を11ポイント上回ったのに対し、後期課程では85%と前回調査を15ポイント下回る結果となった。後期課程で研究環境に不満足な理由としては「施設・設備」が50%を占めており、研究環境についての点検および改善に常に取り組む必要がある。図書館については、前期課程で30%、後期課程で52%の学生がウェブサイトによる文献検索を「ほぼ毎日利用している」と答えており、他の教育部と比べて際立って利用頻度が高い。また、図書館ウェブサイトに対して、前期課程で91%、後期課程で92%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、満足度は高い。なお、ウェブ上で閲覧可能な雑誌の質ならびに量の維持や拡充、利用価値の高い検索ツールの導入などは、大学全体として取り組むべき最も重要な課題の一つであり、一層の取り組み強化が望まれる。前回調査と同様、海外渡航の回数は前期課程学生よりも後期課程学生の方が多く、その目的を見ると、「留学」あるいは「学会参加」との回答が前期課程で30%であるのに対し、後期課程では56%となっており、後期課程学生の国際的研究活動への関与が窺われる。また、語学力を高めるために何をしていますか（日本人）との設問に対しては、前期課程で52%、後期課程で30%の学生が「何もしていない」と答えている。これらの回答はいずれも前回調査（前期課程：56%、後期課程40%）を下回ってはいるものの、より積極的な語学力強化への取り組みが期待される。なお、薬科学教育部では平成22年度より創薬科学専攻前期課程の新課程において、薬学英语特論を必修科目として開設した。なお、本学の国際化への対応についての設問に対して、前回調査では前期課程で46%、後期課程で43%の学生が「積極的とは思わない」あるいは「どちらかといえば積極的であるとは思わない」と回答していたが、今回の調査結果では、前期課程で43%、後期課程で18%となっており、後期課程では大きく減少している。

第7章「進路選択・就職」について、前期課程学生の後期課程への進学希望者は5%であり前回調査（7%）よりも少なくなっている。しかしながら「奨学金等の経済的支援があれば進学したい」と回答した学生は7%で前回調査（2%）より増えていることから、大学としての経済的支援のさらなる拡充が望まれる。進学を希望していない学生の希望職種としては「企業等の研究職」が31%で最も多く、次いで「専門職」の24%となっている。この傾向は前回の調査結果（企業の研究職：38%、専門職：29%）とほぼ同様である。進路選択の情報入手手段としては両課程とも「Web・インターネット」との回答（前期課程：36%、後期課程：36%）が最も多く、その重要性が窺われる。一方、本学の就職支援室を利用したことがありますかとの設問に対しては、前期課程で68%、後期課程で93%の学生が「利用したことがない」と答えている。今後は就職支援室における模擬面接やエントリーシートの添削といったサービス内容を周知徹底するとともに、就職支援室とも連携した薬科学教育部独自の組織的な就職支援を積

極的に進める必要がある。

最後に、本調査より明らかとなった薬科学教育部の現状と課題を総括する。今後は、課題の克服に向けて鋭意努力しなければならない。

1. 後期課程学生への経済的支援体制は必ずしも十分でなく、経済的問題が後期課程への進学を断念する大きな要因の一つと考えられる。平成21年度より「ゆめ奨学金」が新設され一定の効果をあげていると思われるが、進学希望者全員が経済的支援を受けられるような新たな体制づくりが必要であろう。
2. 精神面を含めた健康の維持管理のための支援体制は必ずしも十分ではなく、保健管理センターならびに学生相談室との一層の連携強化が望まれる。
3. 薬学部において6年制の「薬学科」が設置されたことに伴い、前期課程はすでに新課程へと移行したが、今後設置される新たな後期課程においても、国際化への取組強化とともに、学生のニーズという視点からの新しい教育システムの構築が望まれる。
4. 薬剤師免許を取得しない創薬科学専攻前期課程の新設に伴い、就職支援室とも連携した薬科学教育部独自の組織的な就職支援体制の確立が急務である。

8-5 栄養生命科学教育部

栄養生命科学教育部において、前期課程在籍者51人のうち回答者35人で回答率は68.6%であった。留学生は1名で1名から回答を得ている。後期課程在籍者34人のうち回答者21人で回答率は61.8%、留学生は8名で6名から回答を得ている。全学の平均と同率程度の回答率であるが、前回調査の前期課程回答率81%よりやや低下している。

「本調査の対象者」について、前期課程では、徳島県出身者の割合が増加し、31%で最も多かった。次いで近畿地区の26%となっていた。後期課程では徳島県出身者が29%、次いで、徳島以外の四国と近畿が同率の14%であった。出身大学別に見ると、前期課程では、86%と徳島大学出身者が多かった。後期課程では、全学の中で栄養生命科学が、徳島大学大学院の出身者が一番多く62%であった。「社会人か留学生か」は後期課程では、全学で、社会人は一番少ない10%で、留学生は29%であった。

「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」では、前期課程では、全体でアパート・マンションが69%、次いで自宅・家族と同居が23%となっていた。この2つで92%になっている。後期課程では、アパート・マンションが48%で一番多く、次いで自宅・家族と同居が38%となっていた。この2つで86%になっている。

「住居費」では、前期課程では、3万～4万円未満が44%で一番多く、次いで4～5万円未満が24%、5万～6万円未満と3万円未満が、同率16%となっている。後期課程では、3万～4万円未満が36%で一番多く、次いで4～5万円未満、5万～6万円未満が同率18%となっている。7万～8万円未満は9%であった。

「配偶者・子供の有無」では、前期課程では100%が「配偶者・子供ともなし」となっている。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が67%である。29%が「配偶者・子供ともあり」、5%は「配偶者あり・子供なし」となっている。

「通学方法」では、前期課程では、自転車通学が74%と一番多く、次いでバイク11%、自動車9%、徒歩6%となっている。後期課程では、自転車通学が38%と一番多く、次いで自動車33%、徒歩24%、バス・JR5%となっている。前期課程と比較すると自動車による通学方法の比率は高い。「通学時間」に関しては、前期課程では、15分未満80%、後期課程では、15分未満が67%であった。

「収入・支出」について、前期課程では、全体の43%が親等からの援助を除く平均収入額は3万円未

満で、37%が3万円～5万円未満である。92%の学生が10万円未満の収入となっている。後期課程では、収入額3万円未満の割合が24%と最も高く、半数以上（63%）が収入10万円未満である。

「親等からの援助」では、前期課程では、約23%が親等からの援助が全くなく、68%が10万円未満の援助を受けている。後期課程では、前期課程と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が高く、収入面での独立傾向がうかがえる。90%が親等からの援助がゼロで、親等からの援助額が5万円未満である大学院生が95%を占めている。さらに、前期課程の9%を占めていた援助額10万円以上の大学院生の割合は0に減少している。

「奨学金の希望」においては、前期課程では、51%が奨学金を受給しているが更に希望しており、将来的な受給希望を含めると74%と全学の中で最も奨学金を希望する割合が高い。後期課程では、前期課程と同様、奨学金を希望する割合が86%と最も高い。

「アルバイト」については、前期課程では、63%の大学院生がアルバイトを行っている。後期課程では、24%がアルバイトを行っており、前期課程に比較して割合が減少している。これは前期課程と異なり、後期課程では研究に関わる割合が増え、アルバイトをしている時間が減ったことが予想される。前期課程では、36%が生活費や学費のためのアルバイトであり、全学の中では生活のための比率は低い。後期課程では生活費や学費のためが40%と比較的低く、レジャー・旅行などの交遊費にあてる割合が30%と高い。「アルバイトに関するトラブル」は、前期課程では、全体の3分の2にはトラブルは見られない。もっとも多いトラブルは「客とのトラブル」、「雇用者との意見の不一致」、「事故・怪我」で同率8%であった。後期課程では、全体の60%はアルバイトでのトラブルの経験はなく、無回答が40%であった。これはやや気にかかる。

「健康状態について」に関する設問の、「睡眠時間」は前期課程「4～6時間未満」が49%、「6～8時間未満」43%であった。前期課程の学生は6時間未満が5割強となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。後期課程では、「6～8時間未満」71%、「4～6時間未満」が29%で後期課程の方が睡眠時間が取れていた。これは調査時期の学生の状況に影響を受けているのかもしれない。

「気になる症状」において、「ある」と答えた学生は、前期課程は43%であったが、後期課程では76%であった。後期課程では前回調査（58%）と比較して増加している。その症状は、前期課程は頭痛、咳・痰、後期課程は腹痛・嘔気、頭痛であった。前期課程で、気になる症状が「常にある」とした学生が5人に1人と多く、保健管理センターなどを活用した健康相談、生活の見直しなどが望まれる。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「就職や進路」24%、「勉強」16%の順であった。後期課程は、「経済状態」24%、「就職や進路」22%、「勉強」18%の順であった。悩み事は、7割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが「勉強や就職・進路」であるため、「教員」が相談相手となりやすいとも考えられるが、前回調査同様、後期課程の学生は教員に相談するものが19%と多いが、前期課程では7%と少なかった。また「悩みを誰にも相談しない」という学生がそれぞれ13%、10%であった。相談相手としての「学生相談室や保健管理センターの利用」はなく、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望ましい。

「現在の精神状態」として、前期・後期課程ともに約5割の学生が「充実している」「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられるが、5割は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」が最も多いが、「やる気がでない」も約1割みられた。

「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生が前期5%、後期5%であり、全学の中では社会人が少ないから健康診断に行った所は、保健管理センターと認識している学生は多かった。

「学生生活上の問題点」の設問では、前期課程では、「カルトのような集団への勧誘を受けた」のが2名で、「悪徳商法にかかった」が1名、「アカハラを受けた」が1名であった。後期課程では、アカハラ

を受けたのが10%で、前期課程では相談相手は友人・家族であった。後期課程では「誰にもしない」もあり、今までの調査結果が対応に活かされていないと言え、今後も適切な予防策を講じる必要がある。

「学生相談室」は、前期課程で11%、後期課程で24%の学生が「知らない」と回答している。「利用したことがある」後期課程の学生は「満足である」と「どちらかといえば満足である」あわせて100%であった。

「大学事務室の対応への満足度」に関して、「どちらかといえば不満足」と「不満足」をあわせた回答は前期課程54%で、後期課程は43%であった。不満足の原因について自由記述を求めたところ、8件の記載があり、対応に関することが多かった。この意見を謙虚に受け止め、研修等を実施する必要があるだろう。

「修学状況について」に関する設問の「教育理念・方針と教育に対する満足度」は、前期課程において、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は「知っている」11%、「だいたい知っている」が40%であり、34%が「あまり知らない」、14%が「知らない」と回答している。後期課程では、「知っている」と「だいたい知っている」をあわせて62%であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では89%、後期課程では77%が「思う」と答えている。逆に、「思わない」と答えたのは前期課程では11%で、後期課程では15%であった。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は17%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（57%）と合わせて74%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」は17%となっている。後期課程では全体で86%がほぼ満足しており（満足している：29%、どちらかといえば満足している：57%）、「どちらかといえば不満足である」が10%、「不満足である」が5%となっている。

大学院に相応しいレベルの授業については、前期課程では「充分に行われている」34%、または「ある程度行われている」63%となっている。後期課程（充分に行われている：48%、ある程度行われている：43%）ともに91%以上と高くなっている。「あまり行われていない」は、前期課程3%、後期課程10%であり、「全く行われていない」は、両課程ともに「なし」であった。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」9%、「どちらかといえば満足している」69%をあわせて78%であった。後期課程では、「満足している」14%、「どちらかといえば満足している」71%をあわせて85%であった。「どちらかといえば不満足である」14%、「不満足である」は0%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」27%、「希望する研究分野があるから」が24%、「継続して修学するため」が21%となっている。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」31%、「継続して修学するため」25%、「出身大学だから」13%の順になっている。

「大学院での勉学で目指すもの」では、前期課程では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」51%、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」20%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」17%の順であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程の「20～40時間未満」31%、次いで、「40～60時間未満」29%、「60時間以上」20%の順になっている。後期課程の平均時間は、「60時間以上」33%、「40～60時間未満」と「20～40時間未満」が24%で同率であった。

研究指導としては、前期課程において、大学の中で教授から指導を受ける院生の割合が一番少なかった。後期課程は教授の割合が43%に増加していた。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程は「90分～5時間未満」

が43%と最も多く、「30～90分未満」が31%、「30分未満」が17%の順となっている。後期課程も同様の傾向で、「90分～5時間未満」が43%と最も多く、「30～90分未満」が33%、「30分未満」が19%となっている。

「研究指導の内容や進め方」についての設問に対する前期課程の回答は、「満足している」が最も多く31%、「どちらかといえば満足している」との回答(51%)、以下、「どちらかといえば不満足である」が14%となっている。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、80%を上回っている。後期課程の回答は、「どちらかといえば満足している」との回答が最も多く67%、以下、「満足している」19%、「どちらかといえば不満足である」が10%となっている。「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は、80%を上回っている。

「指導教員とのコミュニケーション」に関する設問では、前期課程の学生は、「充分とれている」が最も多く(26%)、以下、「ある程度とれている」57%、「あまりとれていない」が17%となっている。同じ設問に対して、後期課程では57%の学生が「ある程度とれている」と回答しており、以下、「充分とれている」が29%であった。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、「研究環境にどちらかといえば満足している」割合が最も高く(49%)、「満足している」が37%、「どちらかといえば不満足である」が9%となっている。後期課程では、研究環境に、「満足している」38%、「どちらかといえば満足している」57%で、前期課程に比較して満足度がやや高くなっている。

「研究環境に満足していないその理由」を尋ねた設問では、前期課程では「研究費用」40%、「施設・設備」30%、「研究時間」が20%であった。後期課程学生においては、回答はなかった。

「所属教育部に対する満足度」の設問では、前期課程学生は、「満足している」31%、「どちらかといえば満足している」63%と回答した。後期課程学生は、「満足している」が57%と答えた割合が最も高く、以下、「どちらかといえば満足している」(29%)、「どちらかといえば不満足である」が14%となっていた。

「図書館ウェブサイトに対する利用頻度」は、前期課程で「1年に1回程度かそれ以下」の43%が最も多く、次に「1ヶ月に1回程度」26%だった。後期課程では、「1年に1回程度かそれ以下である」が最も多く29%、「一週間に2～3回利用する」24%であり、「1ヶ月に1回程度」と「ほぼ毎日」は同率19%である。この満足度は前期・後期課程ともに「満足している」と「どちらかといえば満足している」で95%となっていた。

「国際学会への参加」に関して、前期課程では24%であり、後期課程では「国際学会への参加」47%である。

「語学についての学習状況」は前期課程では「TOEIC, TOEFLの受験が中心」が23%であった。後期課程学生は「外国人とのコミュニケーション」、「ラジオ・テレビの英会話番組」、が同率16%であり、半数以上の学生は語学修得に努力していた。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは9%で「奨学金等の援助があれば進学したい」とあわせて26%である。「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種は、「企業等の研究職」が27%、次いで「大学、官公庁の教育・研究職以外の公務員」20%であった。後期課程の就職希望職種は「大学、官公庁の教育・研究職」25%で「専門職(医師等)」8%、無回答が半数以上であることから、まだ決めかねている人も多いのかもしれない。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「就職先の将来性・安定性」が一番高く20%で、「能力を発揮できること」と「収入」が同率17%の3項目が主要件になっていた。後期課程では、「能力を発揮できること」41%、「就職先の将来性・安定性」18%、「収入」

14%と回答は同じであったが、順位が異なった。

「進路選択の情報の入手手段」で前期課程では、「Web・インターネット」の37%「先輩・知人」22%、「就職情報誌・新聞・マスコミ」15%の順だった。後期課程では、一番多いのは「指導教員」と「Web・インターネット」の同率30%だった。

「就職支援センターの利用状況」については、前期課程は過去の利用も含めて就職支援センターの利用は28%にとどまり7割は利用していなかった。後期課程も86%は利用がなかった。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いため就職支援センターを利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、明らかになった問題点と課題は、前回の調査とほとんど変わりがないが

1. 健康面や精神面支援の充実
 2. 国際学会への参加の促進
 3. 就職支援の充実
- 等が挙げられた。

8-6 保健科学教育部

保健科学では前期課程在籍者50人で回答者18人の回答率は36.0%であった。後期課程在籍者16人のうち回答者4人で回答率は25.0%、留学生は1名で1名から回答を得ている。保健科学は社会人学生が多くを占め、特に、後期課程は留学生を除いて全員が社会人であり、年収等答えにくい部分があったかも知れない。また調査は、指導教員経由で回答を依頼したため返却しづらく、紙ベースでの回収だけでなくWeb上で回答できるようにするなどもっと簡単に回答しやすくする工夫が必要と思われる。後期課程は4人からのみ回答を得、1人は留学生であるため、個人が特定される状況にあるので留学生については言及しない。

第1章「本調査の対象者について」では、回答者の出身地は、前期課程では、徳島県出身者61%で、前回調査より徳島県出身者の割合が増加している。後期課程では、徳島県が2人で、その他が2人である。回答者の出身地大学（大学院）は、前期課程では、「徳島大学」が67%で前回調査とは大きくは変化していない。社会人が占める割合は、回答した人の中でも前期課程56%、後期課程75%であり社会人学生の割合が高い。

第2章「家族・住居・通学について」の設問での「住居区分」では、前期課程では、全体でアパート・マンション（家族と別居）が56%、次いで自宅（家族と同居）が39%で、この2つで95%を占めた。保健科学教育部が、徳島大学全体において自宅（家族と同居）が多かった。これは社会人学生が多いためと思われる。後期課程では、家族と同居が3名で、1名のみが家族と別居であった。

婚姻状況では、前期課程では配偶者・子供ありが11%で、全教育部の中で最も多かった。後期課程でも、配偶者・子供ありが2人で、全教育部の中で割合は最も多かった。

「通学方法」に関しては、前期課程では、自動車通学が67%と一番多く、次いで自転車が17%であった。後期課程でも、自動車3人、自転車通学1人で、他教育部に比較して自動車通学が圧倒的に多く、これも社会人学生が多くいることと関連している。

通学時間に関しては、前期課程では、15分～30分未満39%、15分未満が33%、30分～1時間未満17%となっている。後期課程では、通学時間15分未満が3人で、30分～1時間未満が1名であった。

第3章「収入・支出について」では、前期課程では45%の学生が10万円未満の収入だが、残りの55%は10万円以上の収入があり、中でも6%は30万円以上の収入を得ている。後期課程では、保健科学はすべての大学院生に20万円以上の収入があり、内75%は30万円以上の収入を有している一方、

保健科学では78%が親等からの援助がなく、あっても親等からの援助が10万円未満である。後期課程の大学院生すべてが援助ゼロとなっている。社会人学生であるためと思われる。

「奨学金」に関しては、前期課程では、現在奨学金を受けている22%と将来的に奨学金を希望する11%をあわせても全体の3分の1であり、残りの3分の2は奨学金を希望していない。後期課程では現在奨学金を受けているのが1人、将来的に奨学金を希望するものを含めて2人であり、残りの2人は将来的にも奨学金の受給を希望していない。現2年生以下は「ゆめ奨学金」を受給しているが回答率が低かったため現れていない。

「1か月の平均支出額（授業料支出は除く）」に関して、1か月10万円未満に支出を抑えている院生の割合は67%と他の教育部と比較しやや低いものの、他と概ね同じような支出額である。後期課程では、無回答の1人を除く残りの3人は15～20万円未満の支出額である。1人を除いては社会人学生であるためと考えられる。実際は配偶者や子供との同居もあり個人の支出金額はわかりにくいと思われる。

「現在アルバイトをしているか」では、前期課程では、アルバイトをしている割合は44%で、50%はアルバイトをしていなかった。後期課程では、アルバイトをするものは、皆無であった。アルバイトの収入額は、7～10万円が一番多く38%占め、10万以上も26%で、その他の教育部の院生よりもかなりの高額なアルバイト収入である。「アルバイトのトラブル」で、トラブル経験なしと回答した割合は44%で、残りの56%は何らかのトラブルを経験しており、その内容としては「給料が契約より低かったこと」と「雇用者との意見の不一致」の22%が最も多く、ついで「事故・怪我」11%であり、その他の教育部の院生のトラブルとはその種類を異にしている。医療関係のアルバイトをし、実際は臨床経験がないため即戦力とはならなかった可能性もある。

第4章「健康状態について」では、「睡眠時間」は前期課程で「6～8時間未満」が56%、「4～6時間未満」が33%であった。後期課程では比率が逆転し「6～8時間未満」が1人、「4～6時間未満」が3人であった。

気になる症状が「ある」と答えた学生は、前期課程は「ない」44%、「時々ある」が39%であり、後期課程では、気になる症状が「時々ある」学生が2人で、「ない」は、2人であった。

現在の精神状態は、前期課程で「気分は普通」39%、「やる気がでない」28%であり、「何となく不安」17%であった。主な悩みと不安では、「勉強」23%、「経済状態」18%、「就職や進路」14%の順であった。

「保健管理センターがあることを知らなかった」と回答した学生が前期課程で12人いた。前回よりは大幅に改善したが、100%周知には至らなかった。また、利用率は、前期課程で1人あり、社会人学生は夜間や土日のみしか登校しないので利用しにくいのか、職場を利用していると思われる。

第5章「学生生活上の問題点」で、迷惑行為を受けたことがあるかでは、前期課程では80%が受けたことはなく、後期課程では、受けたことがあるは皆無だった。迷惑行為の内容は、[いたずら電話][ストーカー][アカハラ]が各1名ずつであった。

「学生相談室の利用」については、「利用したことがある」のは前・後期課程ともに皆無であった。「知らない」は、前期課程では17%、後期課程では50%だった。

「大学事務室の対応満足度」は前・後期課程ともに大学全体が一番低い。事務室が離れている点や社会人学生が多く夜間の対応はないため休暇を取って事務手続きに来なければならないことも一因であると思われる。

第6章「修学状況について」の「教育理念・方針と教育に対する満足度」では、前期課程において、教育理念や教育方針を知っている割合は、「だいたい知っている」のは50%であり、「あまり知らない」が22%、「知らない」が28%であった。しかし、教育理念や教育方針に沿った教育の実践度では、前・後期課程ともに100%の回答であった。

前期課程では、教育課程の満足度において、「満足している」が22%、「どちらかといえば満足している」72%、「どちらかといえば不満足である」は6%であった。後期課程は、「どちらかといえば満足している」3人、「どちらかといえば不満足である」は1人であった。

大学院に相応しい教育の実践度では、前期課程において、「行われている」が17%、「ある程度行われている」が83%であった。後期課程では、4人とも「ある程度行われている」であった。

「大学院での勉学により目指すもの」については、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が50%、次いで「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」の2つが22%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が6%であった。後期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す2人、次いで「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」各1人であった。保健科学は、看護学、医用検査学、医用情報科学の3領域から成っている。修了後は、各領域で医療人として活躍することが多いため、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」の回答頻度が高いと思われる。

「授業以外の研究活動に費やす時間」については、前期課程では研究活動に費やす1週間の平均時間は、「90分～5時間未満」が39%、「10～20時間未満」が28%、「30分～90分未満」が11%と、30分から60時間以上と大学院生による差が大きい。週20時間以上研究活動を行っている割合が18%と他教育部より低くなっているのは、社会人学生が多いためと思われる。後期課程では、「90分～5時間未満」が50%であった。

「研究を直接指導している教員」は、前期課程で「教授」が89%と他の教育部よりも特に多くなっている。後期課程では、「教授」が100%直接指導している。大学院が設置され間がないため、文部科学省の審査をパスした教員が実施しているためである。

前期課程の学生が「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」は、「30～90分未満」が50%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が28%、「30分未満」と「10時間以上」が11%となっている。研究指導時間は、アンケートを取った時期とも大いに関係している。修士論文に早めに取りかかっているところは多くの指導を受けていると推測するが、データ収集中であるものは、それほどの指導を受けていないと推測される。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」の設問に対する前期課程の学生の回答は、「満足している」22%、「どちらかといえば満足している」61%であった。後期課程では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が100%となっている。

「修士論文の研究テーマに関する満足度」は、「どちらかといえば満足している」が最も多く56%、以下、「満足している」が39%、「どちらかといえば不満足である」が6%となっている。「博士論文の研究テーマに関する満足度」は、「どちらかといえば満足している」が3人、「満足している」が1人となっている。

「指導教員とのコミュニケーション」に関する設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」が最も多く67%、以下、「充分とれている」が11%、「あまりとれていない」が22%となっている。

「研究環境」について、前期課程では、研究環境に「満足している」が22%、「どちらかといえば満足している」が44%で、他教育部より研究環境に関する満足度が若干低くなっている。研究環境に満足していない前期課程学生にその理由尋ねた設問では、その理由として「施設・設備」とする回答が44%程度を占めていた。次いで、研究費用22%、研究時間22%であった。

「所属大学院についての満足度」については、前期課程学生は、61%が「どちらかといえば満足している」と回答しており、以下、「満足している」が28%、「どちらかといえば不満足である」が11%であった。後期課程学生は、「満足している」1人、「どちらかといえば満足している」3人であった。

「図書館の利用頻度」についての設問に関して、図書館を「1週間に1回以上利用する」学生は前期課程で11%である。保健科学の利用頻度はやや低い傾向が伺える。

図書館ウェブサイトに対する利用頻度は、前期課程で「1週間に1回程度」が最も多く33%だった。満足度は、前期課程で「どちらかといえば満足している」が67%、次いで「どちらかといえば不満足である」が17%だった。

「国際学会への参加」について、国内外での国際会議での発表経験を尋ねた質問では、前期課程では74%が「国際学会で研究発表をしたことがない」と回答している。これも社会人学生が多いためと思われる。

「学習への取り組み」では、前期課程では「よく学習している」と「かなりしている」とで50%であった。後期課程では「かなりしている」が1人、「あまりしていない」が3人であった。

第7章「進路選択・就職について」では、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは17%である。全学では4%であり、それに比較すると高い割合である。「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種は、「専門職」が40%で、次いで「既に就職している」が20%で、社会人入学が多いことと関連している。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「能力を発揮できること」33%、「就職先の将来性・安定性」と「収入」が23%の3項目が主要件になっていた。後期課程では、「能力を発揮できること」と「収入」が30%、「社会的評価」が20%、「就職先の将来性・安定性」10%で、前・後期課程では若干傾向が異なった。

「進路選択の情報の入手手段」で前期課程では、「先輩・知人」「Web・インターネット」が多く、29%だった。後期課程では、一番多いのは「Web・インターネット」で57%であった。次いで「指導教員」は29%で、後期課程者は前期課程者に比べ指導教員からの情報入手の割合が高かった。

「就職支援センターの利用状況」については、前期課程の多くが就職支援センターを利用していないと回答し、後期課程では皆無である。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いため就職支援センターを利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、アンケート回収率を上げることが一番の課題であり、他の課題は前回の調査と変わりが無いが

1. 社会人学生の研究時間の確保
2. 教育研究設備の充実
3. 学内の事務、保健管理センター、まだ就職していない院生に対しては就職支援センターの活用等が挙げられる。

8-7 先端技術科学教育部（工学研究科）

先端技術科学と工学研究科における学生数は、前期課程が745人、後期課程が162人であり、今回の調査における学生の回答割合は、前期課程が72.1%、後期課程が49.4%である。

第1章「本調査の対象者について」より、前期課程の出身地は、徳島県34%、近畿29%、徳島以外の四国14%、中国14%と徳島県と近隣府県の占める割合が極めて高くなっている。後期課程では徳島23%、近畿13%、徳島以外の四国6%で、前回の調査でトップであった関東は13%から5%へ急減している。また、本学出身者の割合は、前期課程で87%と高い割合となっているが、後期課程では、本学出身者が41%で、22%が国内他大学・大学院、36%が外国の大学・大学院出身となっている。社会人と留学生の割合は、前期課程でそれぞれ2%、4%と極めて少数である傾向は変わらないが、後期課程で

は、それぞれ、28%、48%で特に留学生の割合が37%から11ポイント増加している。

第2章「家族・住居・通学方法」より、住居は、アパート・マンションが、前期課程で70%、後期課程で36%、自宅が前期課程で26%、後期課程で33%となっている。通学方法は、自転車が前期課程63%、後期課程51%と最も多く、前期課程では、次いで徒歩、バイク、自動車の順である。後期課程では、自転車の次は自動車、徒歩、バイクまたはバス・JRとなっている。15分未満の通学時間の割合は、前期課程で73%、後期課程では43%である。後期課程において相対的に通学時間が長くなり、2時間以上の割合も4%となっている。

第3章「収入・支出について」より、平均収入月額、前期課程では、3万円未満が58%と最も多く、収入額の増加とともに割合が減少する傾向があるが、後期課程では、3万円未満から30万円以上まで、収入額に偏りが見られず広く分布しており、これも前回調査とほぼ同じである。また、親等からの援助について前期課程でみると、全くないと3万円未満の援助がともに22%で前回調査（全くないか、3万円未満の合計が49%）に比べると改善している。後期課程では、前回と同じ76%の学生が全く援助を受けていないと回答している。奨学金については、「受給中であるが、更に希望する」割合が、前期課程で44%、後期課程で61%と高くなっている。また、「現在受給していないが希望する」ものの割合は前期課程で8%から10%に増加しているのに対して、後期課程で15%から13%に減少している。両課程において、奨学金をより充実させる必要があるが、後期課程で始まった徳島大学ゆめ奨学金制度の影響が表れているものと考えられる。

アルバイトは、前期課程で49%、後期課程で29%の学生が従事している。前回調査時には、前期課程で48%、後期課程で32%であり、あまり変わらない。アルバイト従事時間数は10時間未満の学生は前期課程で47%、後期課程で52%である。これは前回調査と比較すると前期課程では8%減、後期課程で12%減となっており、1週間に10時間以上アルバイトをしている長時間従事者数が増加している。しかしながら、アルバイト収入額は、前回調査とほとんど変わっていない。また、アルバイトの目的も生活費や学費のためが最も多く、前期課程では41%で前回とほぼ同じ、後期課程では61%と40%から大幅に増加している。また、アルバイトにおいて、前期課程の34%、後期課程の12%の学生はトラブルに遭遇している。

第4章「健康状態について」より、気になる症状が、「時々ある」と「常にある」の割合が前期課程で33%、後期課程で66%であり、前期課程では、前回調査より13%減少している。主な悩みや不安やその相談相手は、前期課程においては前回調査と類似した結果であり、就職や進路と勉学が多くなり、友人や家族に相談する割合が高くなっている。しかし、誰にも相談しないものも15%存在しており、自己解決できる場合には問題ないと思われるが、ストレスを抱え込むと問題となる可能性がある。後期課程においても勉学と就職や進路が多くなり、家族や友人に相談する割合が高い。前期課程と同様に、14%が誰にも相談しないと回答しており、学生相談室や教員等に容易に相談できることを周知する必要がある。

現在の精神状態については、普通または充実していると回答した割合が、前期課程で62%、後期課程で72%に留まっており、残りの37%と27%の学生が、なんとなく不安、やる気が出ない、いらいらする、落ち込みやすい等精神状態に問題を抱えている。前回調査とほぼ同じような傾向でほとんど改善が見られず対策が必要であると考えられる。

第5章「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為は前期課程で85%、後期課程で88%が迷惑行為を受けていないと回答しており、前回調査とほぼ同じような結果となっている。今年の調査からカルト集団からの勧誘が項目に加わっているが、問題となっている迷惑行為の中では前期課程で5%、後期課程で4%の学生が被害を受けたと挙げており、大きな問題となりつつある。また、前回調査でも問題となったアカハラがカルトに次いで多いものとして挙げられており、被害実態の詳細な調査や対策等

を検討する必要がある。

盗難等犯罪の被害については、前期課程では前回調査とほぼ同じく24%が何らかの被害を受けており、後期課程でも6%が被害を受けている。事件の中では盗難が最も多く、前期課程で22%、後期課程で6%と事件の大半を占めている。「現金・貴重品の常時携行」、「自転車の施錠」等盗難予防の周知徹底に努める必要がある。

大学事務室の対応は、どちらかといえば不満足と不満足を合わせた割合が前期課程では15%、後期課程では9%で前回調査とほとんど変わっていないが、10%前後の学生が満足していないことを考えると満足度の更なる向上に努める必要がある。

第6章「修学状況について」より、教育部の教育理念や教育方針は、前期課程でだいたい知っているものを含めて41%、後期課程では56%の割合でしか知られておらず、今後の更なる周知に努める必要がある。教育課程、教育レベル、授業の内容や進め方に対しては後期課程の満足度がやや高い傾向が見られるが、両課程において、90%前後の満足度が得られている。一定の評価が得られていると考えられる。学生自身の学習への取り組みについては、かなり学習しているものの割合が前期課程で62%、後期課程で71%である。前期課程の学習量が少ないこと、後期課程でのこの割合が低下していることが挙げられ、学生に対して教育理念に基づいた授業の充実が必要であると考えられる。

本学への進学理由は、前期課程では前回調査と類似しており、「出身大学（33%）」が最も多く、「継続して修学（17%）」、「希望する研究分野（14%）」、「就職等将来を考慮（13%）」と続いている。後期課程では、「希望する研究分野（26%）」が最も多く、「継続して修学（20%）」、「指導教員の勧め（14%）」、「出身大学（11%）」となっており、研究分野を重要視していると考えられる。また、本学出身者は、本学の大学院を第1志望とする割合は前回調査とほぼ同じで前期課程で88%、後期課程で81%と高い。一方、他大学卒業生では、前期課程で57%、後期課程で70%が第1志望となっている。特に後期課程では59%から70%と改善しており、こうした結果が広報活動や徳島大学ゆめ奨学金制度の開設などの影響について調査する必要がある。

研究活動の1週間平均時間として、10時間以上と回答した割合は前期課程では72%、後期課程では75%である。前期課程は前回調査と同じであるが、後期課程では9%低下している。また、1週間の研究活動が週90分以下の学生が前期課程で6%、後期課程で9%に達しており、研究活動が生活の中心になっておかしくない大学院生として大丈夫なのかと残念に感じる。また、直接的に研究指導を受けている教員の比率は、前後期ともに、前回と類似した傾向となっている。後期課程では、65%が教授、24%が准教授、講師が6%で、前期課程（教授45%）より、教授が指導する学生の割合が多い。研究指導を受ける時間は、前期課程では前回調査とほとんど変化していない。週30分未満の割合が25%、30～90分未満が39%、それ以上は36%である。後期課程でも、30分未満の割合は21%と前回より若干多くなっているが、全体的な傾向はほぼ変わらない。研究指導、研究論文のテーマ及び指導教員とのコミュニケーション、研究環境、大学院に対する満足度は、前期課程、後期課程、留学生の順に高くなり、78%から95%程度の比較的高い満足度となっている。しかし、指導教員が多忙、研究以外の用件の依頼、指導教員のコミュニケーション不足等の理由で、指導に不満を持っている学生も存在しており、指導時間の確保やコミュニケーションを深める等の改善に取り組む必要がある。研究環境の満足度は、前期課程で78%、後期課程で86%と比較的高くなっているが、施設・設備、研究費を不満足の原因としてあげる学生が多く、研究環境の充実も今後の課題である。

海外渡航経験は、1回以上経験した学生が、前期課程では前回調査より3%少ない22%、後期課程では、4%少ない54%となっている。渡航目的は、前期課程では観光が最も多く、47%で、次いで学会参加が27%である。後期課程では学会参加が52%と半数以上となっている。前回調査では前期課程でも学会参加が最も多かったが、観光による渡航の割合が大幅に増えている。国際会議での発表は、前期課

程で24%、後期課程で43%が経験しているが、前回調査よりそれぞれ1%、17%減少している。学会参加への資金援助をより充実し、より多くの学生が参加できるように支援する体制の充実が引き続き必要である。

英会話については、前期課程において、何とか日常会話ができるレベル以上と回答した割合は25%で、後期課程でも39%である。TOEIC、TOEFL等の受験等語学力の向上に努めている割合は前期課程で57%、後期課程で50%であり、残りの4～5割の学生は何もしておらず、英語による外国人とのコミュニケーションを日常的に行える環境の整備等の語学力向上に向けた支援策を検討する必要があると考えられる。

第7章「進路・就職について」より、就職希望職種としては、前期課程で技術職、企業等の研究職が前回と同じ59%、19%となっている。後期課程では、47%が無回答を選択しており、博士後期課程を対象にした求人動向が不透明であり、大多数が就職先を検討中であるためと考えられる。次いで、大学等の教育・研究職、技術職が多くなっている。進路選択で重要視しているのは、両課程とも就職先の将来性・安定性、収入、能力を發揮できることを挙げている。進路の情報入手先は、Web・インターネットが前期課程で35%、後期課程で26%と最も多くなっている。前期課程では先輩・知人(21%)や就職情報誌等(15%)より、指導教員(7%)や就職担当教員(3%)の割合は、低くなっている。一方、後期課程では、指導教員も20%と先輩・知人(18%)と同程度重要となっている。就職支援室の認知度は前回調査時よりわずかに増加しているが、前期課程は45%が、後期課程では83%が利用したことがないと回答している。就職支援室が提供している模擬面接や就職ガイダンス等の利用を促進するための取組がさらに必要であろう。

最後に、その他の要望等として、教育部名やコース名が分かりにくく、研究分野を理解してもらえない、学会出張の旅費支援を充実してほしいなどの意見があった。

本調査から明らかにされた問題点と課題を列挙すると以下のとおりである。

1. 教育部の教育理念や教育方針の周知徹底
2. 学生の学習意欲を高めるための大学院教育カリキュラムの充実
3. 研究環境のさらなる充実
4. 奨学金制度や学会出張費用の支援などの経済的支援制度の充実
5. 国際化を図るための語学教育システムの充実

(特記) 留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。留学生とする回答者数は前期課程後期課程あわせて98名である。本学大学院在籍の留学生は190名であるので、留学生の回答率は52%であった。

留学生の住宅区分では約8割がアパート・マンションおよび国際交流会館であった。住宅費用は3万円未満が43%、3～4万円未満が29%であった。住宅費用が4万円以上の場合は、住宅手当付きの外国政府派遣留学生が多いと思われる。また、通学方法は76%が自転車通学が一番多く、徒歩9%、バイク4%であった。通学時間は、15分未満が63%が一番多く、次いで30分～1時間未満19%、15分～30分未満16%となっている。家庭の年収については、250万未満の割合が86%であり、78%が親等からの援助はなく、あってもごくわずかである。留学生の経済状況がよいとは言えない。奨学金については、ほぼ全員(保健科学の一名を除き)が奨学金を受けたいと回答している。アルバイトに関しては、前期課程では全体と同じく半数がアルバイトをしているが、後期課程では全体の35%に対して、留学生は21%であった。後期課程では研究に従事する時間が増えるため、アルバイトには行く時間はないようで

ある。また、生活費や学費のためのアルバイトである割合が高く、93%を占めている。アルバイトの収入に関しては、3万円未満、3～5万円未満、5～10万円未満がそれぞれ約3分の1を占めている。

留学生の健康状況については、前期・後期課程ともに「常にある」とした学生は4～6%と少ないが、「時々ある」とした学生はそれぞれ85%、82%に上っており、健康面の問題や不安に対する支援のニーズがあると思われる。また、主な悩みは、全体と同様であったが、「勉学」「経済状態」の悩みがより多くなっていた。悩み事をほとんどの学生が友人、家族、教員などの誰かに相談していることが分かる。学生相談室を知っている留学生比率は低いことから、大学院生への存在の周知が、学生相談室の緊急の課題であり、国際センターと連携しながら対応していく必要があると思われる。

所属する教育部の教育理念や教育方針について、「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が、前期課程で61%、後期課程68%であった。教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程で93%、後期課程94%であった。大学院に相応しいレベルの授業が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程で93%、後期課程95%であった。本学を選んだ理由については、前期課程では「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が23%で最も多く、後期課程では「先輩や友人に勧められて」が25%で最も多く、次いで、「希望する研究分野があるから」が24%、「継続して修学するため」が21%となっている。指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間については、前期課程では「30～90分未満」と回答した学生の割合が38%で最も多く、後期課程では「90分～5時間未満」が40%で最も多くなっている。研究指導の内容や進め方については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で93%、後期課程90%であった。論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、両課程とも96%であった。指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程で92%、後期課程93%であった。研究環境に「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で93%、後期課程90%であった。所属教育部に対して、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で88%、後期課程96%であった。

前期課程では77%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対して、後期課程では59%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている。前期課程では89%、後期課程では80%の留学生が日本語コースを「受講している」あるいは「以前受講したことがある」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる。また、日本語コースの満足度については前期課程で83%、後期課程で93%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

大学院での学習への取組み状況についての質問に対して、留学生は先端技術科学の前期課程で22%、後期課程で18%の学生が「あまりしていない」と回答しているものの、前期課程全体で77%、後期課程全体で89%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、学生全体の数値に比べて大きく上回っている。

本学の国際化への対応については、前期課程の89%、後期課程の94%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えており、学生全体をさらに上回る結果となっている。こうした結果は、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられるが、さらなる改善が必要である。

進路情報の入手手段については、留学生は日本人学生と同様、目立つのは Web・インターネットである。「先輩・知人」が少し減り、就職情報誌等が増えている。留学生は、教育・研究職志望が高く、収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることが進路選択の主要件である。また、就職支援室の利用状況については、利用率がまだ低いと思われるが、蔵本地区での留学生の利用率は上がっていると見られる。

「留学生 30 万人計画」を踏まえ、留学生に対する住宅、奨学金や授業料免除制度の拡充、TA、RA 制度の活用、就職支援などの支援策を考える必要がある。

第9章 総括と提言

本学の大学院生は、平成22年5月1日時点で総計1,777人、うち一般学生が1,212人(68%)、社会人365人(21%)、留学生200人(11%)という構成になっている。第2回の調査を踏まえて、第3回の大学院生生活実態調査は、平成22年11月4日から17日の間を調査期間とし、博士前期課程(修士課程を含む)と後期課程(4年生博士課程を含む)に在籍する大学院生のうち休学者を除いた1,621名を対象に実施し、959名から回答を得た。回収率は前回同様59%であった。回収率を上げるべく、実施期間を前回より5日間長くしたが、それに見合うだけの効果をあげることができなかった。また、回収率が昨年と同じになったのは薬科学教育部の回収率が高かったためで、総じて他の教育部は前回に比べて回収率が低くなっている。より正確な実態の把握のためにはできるだけ多くの回答を得る必要があり、次回に向けて、どのようにすべきか対応策を十分考えておく必要がある。

平成17年9月に出された中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」を受けて策定された「大学院教育振興施策要項」(平成18年3月)において、大学院における教育のあり方、その方向性が示された。その要点を一言で表すなら「国際的に通用する質の高い教育と研究」となるであろう。本学もこの方針に基づいて大学院教育に力を注いできた。この学生生活実態調査は、大学院生がその本分を十分に果たすことができる状況にあるかどうかを把握し、大学として支援できる事項を見いだすために行っているものである。この観点に基づいて、学生生活支援室では以下のような総括と提言を取りまとめた。

1. 経済状態について

1ヶ月の平均支出額が3万円未満というのは相当切り詰めた状況であると推測される。このような大学院生が前期課程で19%、後期課程で5%いる。これは前回の結果とほぼ同じである。回答者について実数にしてみると、前期課程約140名、後期課程約10名となる。支出額5万円以下にすると当然ながらもっと増える。この事情を裏付けるように、奨学金の貸与あるいは増額を希望する者がかなりいる。

今回質問項目から外したが、TAは全学で676名(総額56,465,302円)、RAは78名(総額17,997,444円)採用されている。ゆめ奨学金なども創設されて、後期課程学生への支援はある程度充実してきたと言えるが、前期課程学生への支援についても考える必要がある。

2. 健康状態について

常に気になる症状がある、と回答した学生が前期課程で約50名、後期課程で約25名いるが、数値そのものは前回よりやや少なくなっている。健康上の不安を抱えていても、誰にも相談しない学生が前期課程、後期課程とも14%いて、前回とあまり変わっていない。健康上の問題に関しては保健管理センターと学生相談室にお願いするほうが良いと思われるので、指導教員にとっては負担が増えるが、学生の健康状態に気を配り、これらの施設を活用するように指導することが求められる。一方、大学としても常三島、蔵本両キャンパスの支援態勢をさらに充実させていく必要がある。

3. 生活状態について

迷惑行為については前回調査同様の結果である。これらの中で、セクハラ、アカハラについては大学として正面から取り組むべき問題である。教職員に対してはFD等によって何が該当するか、よく教育しなくてはならないし、学生には対処法、相談する場所をきちんと周知しなくてはならない。学生相談室の果たす役割がもっと求められる。

今回初めて調査した違法薬物について、経験者が少数ながら存在したことは重大である。学生への教育を徹底する必要がある。

大学事務室の対応に満足していないという学生は前回とほとんど変わっていない。事務の職員にし

てみれば、学生について同じような回答が返ってきそうな気がする。これは%だけ出すより、何がどう不満なのか、具体的な意見を聞くほうが改善につながるのではないだろうか。

4. 修学面

所属する教育部の教育理念や教育方針についての理解度は前回とほぼ同じで、半数がだいたい知っているという程度であるが、それにも関わらず自分が受けている教育はその方針に沿ったものだと感じており、さらには80%以上の学生が教育に満足している。各教育部においてそれぞれの教育理念と方針についての理解度の向上が図られることを希望する。

研究テーマについての満足度も前回同様高く、指導教員とのコミュニケーションについてはわずかながら改善している。この2年間の努力がさらに継続されることを望む。研究環境については施設・設備より研究費について不満足という回答が前回より増えている。大学としてどのように支援することができるか検討する必要があるだろう。

入学後の海外渡航経験者は前回とほぼ同じであるが、後期課程学生の、海外の国際学会での発表経験者が減少している。これに対応するように若干ではあるが、英会話ができるという回答した学生も減少している。学内では英語での講義も増えているし、外国人講師による特別講義を聞く機会も多くなっている。学生を励まして積極的に参加させ、英会話に馴染ませるようにするとともに、意欲のある学生には、旅費や参加費への支援をするなどして、海外での発表を励行する必要がある。

5. 進路・就職について

前期課程から後期課程への進学を希望しない者が前回同様多い。教育部によって事情は異なるが、さまざまな対策を考える必要があるだろう。

就職支援については、平成22年に支援室が支援センターに昇格し、その体制の充実がはかられた。しかし、その利用率は前回同様に高くないという結果になっている。利用ガイダンスを開くなどしてその存在意義を学生に周知し、センターに相談することでよい就職先を見つけられるということをアピールして、本学出身者の就職に一層資することができるよう工夫が求められる。

6. 留学生について

経済面について、ほぼ全員が奨学金を希望するなど、厳しい状況がうかがえるが、個別に見ると出身国によってその支援のされ方が異なっているようで、一概に言えないところがある。指導教員によって個別に状況を見極めてもらい、大学としては本当に支援を必要としている留学生に手をさしのべるようにしなくてはならない。

健康面について、「気になる症状が常にある」と回答した留学生は少ないが、「時々ある」まで広げると90%近くになる。保健管理センターや学生相談室があることを周知し、気軽に利用できるような体制作りが求められる。また、国際センターとの連携も必要である。その意味で、国際センターの現在の所在地が適切かどうか検討する必要があるだろう。

教育・研究について、留学生のほとんどが満足していることは評価されるべきである。指導教員の努力に負うところが大きい。

日本語コースの受講率は高く、なんとか日常会話ができる、と回答した学生が多いが、折角日本に来ているのであるから、日本語にもっと熟達してもらい、母国と日本との架け橋になってもらえるよう希望する。

あ と が き

この大学院生生活実態調査は平成17年11月に第1回を実施して始まったものです。この時は博士前期課程（修士課程を含む）のみが対象でした。第2回の調査はその3年後の平成20年に実施され、対象も博士後期課程（4年生博士課程を含む）まで拡充されて全大学院生の実態を把握する態勢が整いました。今回の第3回実態調査は間隔を2年に短縮して実施されたものです。質問項目の変更は、調査の連続性を保つために最小限にとどめました。調査結果を見ると、本学の大学院で学ぶ学生達の息づかいまで聞こえてきそうな気がします。しかし、この調査は実態を知るためだけに行ったものではありません。大学院生諸君がより良い学習環境の中で勉学あるいは研究に打ち込めるように、大学として、あるいは個々の教員、職員としてどのような支援ができるか、この調査結果をもとに全員が考えなくてはなりません。前回の結果と比べてみますと、良くなっている部分もあれば、まだまだ改善しなければならない部分もあることがわかります。この結果をもとにして、さらに学生支援が充実していくことを望んでやみません。

今回の調査における反省点は、回収率を十分あげることができなかったこと、外注とは言うものの最初のデータ入力に時間をとられ、肝心の委員による解析にかかる時間が少なくなってしまったことです。委員が互いに意見を交換できる十分な時間をとることができず、やや踏み込みが欠ける部分が出てしまったのではないかと感じています。また質問項目も、何が支援できるかをもっと考えたものにしていく必要があります。次回の調査に際しては、こういうことを踏まえて改善していただければと思います。

最後になりましたが、今回の調査に協力いただいた大学院生諸君はもちろん、調査・解析、報告書の作成にあたってくださった委員の方々、事務職員の方々に深く感謝申し上げます。

平成23年3月

学生生活支援室長

石 村 和 敬



UNIVERSITY
ACCREDITED
Since 2007

徳島大学は、学校教育法第69条の3

第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

(平成19年3月28日)

・認定評価機関: 独立行政法人大学評価・学位授与機構

・認証期間: 7年間 (平成19年4月1日～平成26年3月31日)

第3回 大学院生生活実態調査報告書 キャンパスライフ



平成23年3月

徳島大学